

上幌内モイ遺跡 (3)

—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3—

[第1分冊]

2009.2

厚真町教育委員会

上幌内モイ遺跡 (3)

—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3—

〔第 1 分冊〕

2009.2

厚真町教育委員会

カラー図版1



1. III GP-03 擦文文化期土壌墓検出状態(SE→)



2. 封土断面(S→)[Ta-c主体の褐色土が封土 写真左側の封土下の斑状白色土はB-Tm]



3. 長軸セクション北側層境(SE→)

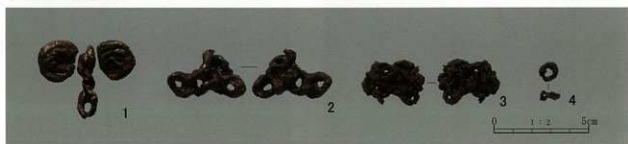


4. 短軸セクション東側層境(S→)

カラー図版2



1. III GP-03副葬品



2. 上幌内モイ遺跡出土北方系遺物(1-2: 濠文文化期 3-4: アイヌ文化期〔3-4は同一個体〕)

カラー図版3



1. 上幌内モイ遺跡出土鉄器生産関連遺物(1-2: アイヌ文化期[集中区20] 3~5: 縄文文化期[集中区44])



2. 上幌内モイ遺跡出土須恵器・土師器

カラー図版4



1. ⅢBB-51シカ送り場跡検出状態(NW→・アイヌ文化期)



2. ⅢSB-56石器製作址検出状態(N→・集中区52・縄文時代)



3. 平成18年度T₁斜面裾T₁ピット完掘状態(NE→・縄文時代)

序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する農業の町であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物へ恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成7年度に本格着工されました。

さて、本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて、沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査された上幌内モイ遺跡の報告書であります。平成16年より始まった本遺跡の調査は数々の新しい発見が続きましたが、本書の刊行をもって調査は完全に終了することとなります。本書は平成18・19年度の調査成果を記載するもので、約350年前のアイヌ文化期では大木に祀られたシカ送り場跡や約500年前の国内最北で道内最古の金鉗、約1,000年前の擦文文化期では北方系の遺物とされるコイル状鉄製品の一部や道内数例の擦文人骨を伴うお墓、道内最古の火打石の使用痕跡、鍛冶職人がこの山間部まで訪れていた証の廃滓場跡などが見つかり、約1,800年前の縄文文化期では鶴川・沙流川流域を主な産地とする片岩の石鏃加工場跡が道内で初めて見つかるなど極めて多彩な成果が所収されています。厚真町山間部の上幌内モイ遺跡から北海道の歴史を考えるうえでも数々の重要な成果を得ることができました。

厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、今後も数カ年にわたり継続される予定でございますが、このような貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として普及活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また、本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く、感謝申し上げます。

厚真町教育委員会
教育長 兵頭利彦

例言

1. 本書は、平成 18・19 年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査された上幌内モイ遺跡(登録番号: J-13-79)の発掘調査報告書で、縄文時代(V層)から近世アイヌ文化期(Ⅲ層)までについて掲載するものである。
2. 調査は、北海道の委託を厚真町教育委員会が受託し、発掘調査を行った。
3. 調査・整理は以下の体制で行った。

平成 18 年度 調査担当者: 乾 哲也・小野哲也・奈良智法
測量技能作業員・写真工: 赤井文人・海津孝之・宮崎美奈子
整備技能作業員: 小林輝男

平成 19 年度 調査担当者: 小野哲也・乾 哲也
調 査 員: 天方博章
測量技能作業員・写真工: 宮崎美奈子 渡辺博道
整備技能作業員: 小林輝男

小野: 擦文土器実測・拓影図作成・撮影、金属器・集石構成礫・骨角器・土製品の实測・撮影、遺構図・各種属性表作成・編集(一部天方)、写真図版作成・編集(一部天方)

天方: 統縄文土器・縄文土器実測・拓影図作成、礫石器・剥片石器の実測・撮影、

乾: 統括、渉外、縄文・統縄文土器撮影、第 I 章挿図作成

調査協力: 奈良智法 (平成 19 年度以降)

熊谷 誠 (平成 19 年度 厚真町教育委員会嘱託職員)

4. 本書の編集は乾の協力を得て小野が行い、各節の主筆および担当は以下に記す。
I 章: 乾 II・III・VI 章、写真図版: 小野 IV・V 章: 天方 VII 章: 小野・乾
5. 関連諸科学については、以下の機関および個人に依頼し、玉稿を賜った。

AMS 法 ^{14}C 年代測定: 株式会社 パレオ・ラボ
株式会社 加速器分析研究所

古地磁気年代測定: 富山大学理学部 酒井英男

古人骨取上げ・同定: 札幌医科大学 松村博文・中村宅雄

動物遺存体同定: 千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理

炭化種子同定: 札幌国際大学博物館 客員研究員 椿坂恭代

土坑土壌分析: 北海道開拓記念館 山田悟郎

須恵器胎土分析: 大阪大谷大学 三辻利一

擦文土器胎土分析: 株式会社 第四紀地質研究所 井上 巖

縄文土器胎土分析: 斜里町教育委員会 合地信生

金属製品保存処理分析: 岩手県立博物館 赤沼英男・佐々木 整

6. 調査・報告にあたり下記の方々より特段の御指導を賜った。
土器の整理・分類: 大沼忠春 (北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課)
赤石慎三 (苫小牧市博物館)
金属製品の整理・保管方法: 田口 尚 (財団法人 北海道埋蔵文化財センター)

7. 地形測量の一部、遺物出土状態平面図及び包含層堆積図の作成、復元土器実測の一部、剥片石器の実測は、株式会社 シン技術コンサルに委託した。
8. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
9. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂いた、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課、北海道胆振支庁、北海道室蘭土木実業所 厚幌ダム建設事務所・苫小牧道路事務所、財団法人 北海道埋蔵文化財センター、社団法人 北海道ウタリ協会・胆振地区支部連合会、財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構、道立 アイヌ文化研究センター、札幌医科大学、北海道開拓記念館、千歳サケのふるさと館、苫小牧駒澤大学国際化学部、札幌学院大学人文学部、札幌国際大学、東京大学常呂実習施設、苫小牧市博物館、千歳市埋蔵文化財センター、平取町沙流川歴史館、日高町教育委員会、新ひだか町教育委員会、松前町教育委員会、伊達市教育委員会、富良野市教育委員会、星の降る里百年記念館、深川市教育委員会、名寄市北国博物館、小平町教育委員会、苫前町教育委員会、下川町教育委員会、北見市教育委員会、標津町教育委員会、陸別町教育委員会、浦幌町教育委員会、青森県埋蔵文化財センター、岩手県立博物館、釜石市教育委員会、陸前高田市立博物館、東通町教育委員会、富山大学 酒井研究室、厚真町幌内自治会、(有)講神組

青野友哉、秋野茂樹、阿部義明、天野哲也、石川 朗、出徳雅実、乾 芳宏、井上典子、今井真司、臼杵 勲、右代啓啓、大塚和義、大島居仁、岡田路明、長田佳宏、小野昌子、小野裕子、葛西智義、加藤博文、川内谷修、川上 淳、神原雄一郎、菊池俊彦、工藤研治、久保 泰、熊谷仁志、熊木俊朗、柴原真宜、講神喜助、越田賢一郎、越田雅司、後藤秀彦、古原敏弘、小林幸二、小針大志、小山卓臣、近藤 修、斉藤大朗、佐藤一夫、佐藤 剛、佐藤智生、澤田健、澤本幸雄、芝田直人、白崎圭介、梶田光明、鈴木邦暉、鈴木琢也、鈴木宏行、鈴木 信、鈴木清民、瀬川拓郎、関根達人、仙庭伸久、高橋和樹、高橋 健、武田 修、田才雅彦、田中哲朗、種市幸生、田村俊之、鶴久俊明、土肥研品、豊田宏良、豊原照司、直井雅尚、長澤政之、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、西 幸隆、西田 茂、西脇聡名夫、野月寿彦、長谷山隆博、畑 宏明、林田拓一、平川善洋、広田良成、福井淳一、福田裕二、藤沢隆史、藤田 巧、藤原秀樹、藤原弘明、布施和洋、前田正憲、丸山浩治、丸山直美、松崎水穂、松田淳子、松田浩介、松田 猛、松田 功、松木建速、松谷純一、三浦正人、養島栄紀、宮夫靖夫、宗像公司、森 靖裕、森岡健治、藪中 剛司、山浦 清、山田 央、山田悟郎、山田 哲、山田雄正、山原敏朗、渡邊惟平、王 培新

凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕 住居址：H 住居内のピット：HP 住居内の焼土：HF 墓壙：GP 土坑：P 焼土：F

灰集中：AS 杭穴：KP SP：小ピット RM：赤色顔料塊 性格不明遺構：X

〔遺物〕 土器：P 擦土土器：SP 縄縄土器：ZP 縄土器：JP 土製品：CP 剥片石器：FT

礫石器：ST フレイク・チップ：FC 礫：S 石製品：STP 鉄製品：IP 鉄器生産関連遺物(土製品)：ICP

鉄器生産関連遺物(残滓)：SL 銅製品：BP ガラス製品：GP 骨角器：BHP 炭化種子：SD 獣骨：B

〔遺物等集中〕 土器片集中：PB 剥片石器集中：FTB フレイク・チップ集中：FCB 礫集中：SB 鉄器生産関連遺物集中：IPB 獣骨集中：BB 炭化物集中：CB

2. 調査区を含めた周辺の河岸段丘面に以下の記号を用いた。

標高約 56.2-56.8m(氾濫原)：T₀ 標高約 58m：T₁ 標高約 62m：T₂ 標高約 68m：T₃

標高約 72.5-75m：T₄ 標高約 80-100m：T₅

3. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕 樽前 a 砂質降下火山灰: Ta-a 駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰: Ko-c2 樽前 b 降下軽石: Ta-b
白頭山苫小牧火山灰: B-Tm 樽前 c 砂質降下軽石: Ta-c 樽前 d1 細礫質降下スコリア: Ta-d1
樽前 d2 中礫質降下軽石: Ta-d2.p 恵庭 a 降下軽石層: En-a 粘土質黄褐色シルト(いわゆる
ローム): L 攪乱: KR

〔色調〕 小山・竹原編著(1994)『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については()内に粒径(単位: mm)、状態を記載した。

混入土の比率

A + B: A と B が同量比混じる A-B: A を主体に B が多量に混じる

A = B: A を主体に B が少量 A≡B: A を主体に B が微量

φ: 粒径(単位: mm) ↓: 以下 (状態): 斑状に混じる・均一に混じる

〔層位〕 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木攪乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また各層の上・中・下位について下記の略号を用いている。

U: 上位 M: 中位 L: 下位

4. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

遺構周辺図: 1/100, 1/80, 1/60, 1/40 住居跡: 1/50 住居跡に付属する柱穴その他の土坑: 1/20


土坑: 1/40 焼土: 1/20 集中遺物出土状態: 1/10 または 1/20

土器実測図: 1/3, 1/4 土器拓影図: 1/3 剥片石器実測図: 1/2 礫石器実測図: 1/3, 1/6

5. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

〔線種〕 : オーバーハング - - - - - : 推定線

〔柱穴〕 平地式住居址柱穴の確認面からの深さ 20cm 以上のものは、平面図中にトーンを用いた。また断面図において、しまりの強い壁面に斜線を用い、土層注記に下記アルファベットによる記号を使用している。

〔平面〕  : 確認面からの深さが20cm以上の柱穴

〔断面〕  : 柱穴の壁面周辺が強くしまる部分

〔注記〕 A: IIIb 層主体土 B: IIIc 層主体土 C: IV層主体土 D: V層主体土 E: VI~VII層主体土

〔焼土〕 被熱による土壌赤色化の度合いの表現に以下のトーンを用いた。



〔Tビット〕 第V章第2節ではTビット堆積図に下記トーンを用いている。

T₂ 検出Tビット



T₁ 検出Tビット



6. 写真図版中の「●」は実測図掲載遺物である。

7. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

[断面]  : たたき痕 |  : 剥片石器 微細剥離 / 礫石器 擦り痕・滑沢面

[平面]  : 滑沢面範囲  : 被熱による赤色化/付着物範囲

8. 一覧表中の材質については、天方・乾・小野が肉眼観察で分類し、下記の略号を用いた。緑泥片岩は緑色泥岩に含めている。また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察のによるものである。

Aga. : メノウ Aga-Sh. : メノウ質頁岩 Amp. : 角閃岩 And. : 安山岩 Bl-Sch. : 青色片岩
 Che. : チャート Con. : 礫岩 Dio. : 閃緑岩 Gra. : 花崗岩 Gr-Mud. : 緑色泥岩 Mud. : 泥岩
 Obs. : 黒曜石 Qu. : 石英 Qua. : 珪岩 Qu-Sch. : 石英片岩 Sch. : 片岩 Sa. : 砂岩
 Ser. : 蛇紋岩 Sh. : 頁岩 Tu. : 凝灰岩 Tu-Sa. : 凝灰質砂岩
 Cray : 粘土 Irn. : 鉄 Cu. : 銅 Sn. : 錫 B. : 骨 Jp. : 漆

第VI章 フローテーション回収遺物

第1節 作業の流れ	431
第2節 回収微細遺物	431

引用・参考文献	435
報告書抄録	437
奥付	

挿 図 目 次

第 I 章	
図 I-1	厚幌ダム建設事業関連 埋蔵文化財包蔵地調査地点
図 I-2	調査区内地形図
図 I-3	調査区年度区分 及びグリッド設定図
図 I-4	調査方法区分 及び試掘トレンチ位置図
図 I-5	グリッド区分図
図 I-6	町内遺跡分布図
図 I-7	遺跡周辺の地形面区分図
図 I-8	厚真川上中流域と むかわ町穂別地区遺跡分布図
図 I-9	厚真村村道計画図
図 I-10	厚真～穂別ルート図
図 I-11	調査区内地形区分図 及び包含層堆積図実測ライン
図 I-12	段丘面 T ₂ 基本土層柱状図
図 I-13	X ライン土層断面図
図 I-14	21 ライン土層断面図
図 I-15	33 ライン土層断面図
図 I-16	平成 18 年度調査区 段丘面 T ₁ 土層断面図
図 I-17	平成 19 年度調査区 段丘面 T ₁ 土層断面図 (1)
図 I-18	平成 19 年度調査区 段丘面 T ₁ 土層断面図 (2)
第 II 章	
図 II-1	T ₂ アイヌ文化期遺構配置図
図 II-2	T ₁ アイヌ文化期遺構配置図
図 II-3	8 号平地式住居址周辺平面図
図 II-4	8 号平地式住居址平面図 及び付属施設
図 II-5	8 号平地式住居址出土遺物
図 II-6	建物跡 6・灰集中 13・杭跡平面図 及び断面図
図 II-7	建物跡 7 平面図
図 II-8	IIIH-08 関連遺構出土遺物
図 II-9	9 号平地式住居址周辺平面図
図 II-10	9 号平地式住居址平面図 及び付属風炉跡
図 II-11	9 号平地式住居址柱穴断面図
図 II-12	9 号平地式住居址出土遺物 (1)
図 II-13	9 号平地式住居址出土遺物 (2)
図 II-14	9 号平地式住居址出土遺物 (3)
図 II-15	灰集中 11・12
図 II-16	獣骨集中 52 平面図
図 II-17	III BB-52 出土遺物
図 II-18	10 号平地式住居址周辺平面図
図 II-19	10 号平地式住居址平面図
図 II-20	10 号平地式住居址付属遺構
図 II-21	10 号平地式住居址出土遺物
図 II-22	灰集中 14
図 II-23	集中区 20 平面図 及び遺物出土状態
図 II-24	集中区 20 関連遺構 及び出土遺物 (1)
図 II-25	集中区 20 出土遺物 (2)
図 II-26	建物跡 8 平面図及び出土遺物
図 II-27	杭跡
図 II-28	4 号土壇墓検出時平面図 及び断面図
図 II-29	4 号土壇墓平面図及び出土遺物
図 II-30	集中区 21 平面図
図 II-31	集中区 21 出土遺物
図 II-32	集中区 22 平面図
図 II-33	集中区 22 関連遺構

図Ⅱ-34	集中区 22 出土遺物	101	図Ⅲ-25	集中区 31 出土遺物	162
図Ⅱ-35	集中区 23 平面図 及び関連遺構断面図	102	図Ⅲ-26	集中区 32 平面図 及び関連遺構断面図	166
図Ⅱ-36	集中区 23 出土遺物	103	図Ⅲ-27	集中区 32 関連遺構及び出土遺物	167
図Ⅱ-37	集中区 24 平面図	105	図Ⅲ-28	集中区 33 平面図	168
図Ⅱ-38	集中区 24 関連遺構	106	図Ⅲ-29	集中区 33 関連遺構及び出土遺物	169
図Ⅱ-39	灰集中 9	107	図Ⅲ-30	集中区 34 平面図	172
図Ⅱ-40	アイヌ文化期焼土(1)	109	図Ⅲ-31	集中区 34 関連遺構	173
図Ⅱ-41	アイヌ文化期焼土(2)	110	図Ⅲ-32	集中区 34 出土遺物	174
図Ⅱ-42	獣骨集中 34 平面図	114	図Ⅲ-33	集中区 35 平面図	177
図Ⅱ-43	獣骨集中 51 平面図	116	図Ⅲ-34	集中区 35 関連遺構(1)	179
図Ⅱ-44	獣骨集中 51 拡大図	117	図Ⅲ-35	集中区 35 関連遺構(2)	180
図Ⅱ-45	焼骨片集中	119	図Ⅲ-36	集中区 35 関連遺構(3)	181
図Ⅱ-46	アイヌ文化期包含層出土遺物	120	図Ⅲ-37	獣骨集中 41	182
第三章					
図Ⅲ-1	T ₂ 採文文化期遺構配置図	123	図Ⅲ-38	集中区 35 出土遺物(1)	183
図Ⅲ-2	T ₁ 採文文化期遺構配置図	125	図Ⅲ-39	集中区 35 出土遺物(2)	184
図Ⅲ-3	3号土壌墓	127	図Ⅲ-40	集中区 35 出土遺物(3)	185
図Ⅲ-4	ⅢGP-03 墓室内平面図	129	図Ⅲ-41	集中区 36 平面図	189
図Ⅲ-5	3号土壌墓出土遺物(1)	131	図Ⅲ-42	集中区 36 出土遺物	190
図Ⅲ-6	3号土壌墓出土遺物(2)	132	図Ⅲ-43	集中区 37 平面図	193
図Ⅲ-7	3号土壌墓出土遺物(3)	133	図Ⅲ-44	集中区 37 関連遺構	194
図Ⅲ-8	溝状遺構	134	図Ⅲ-45	集中区 37 出土遺物	195
図Ⅲ-9	ⅢX-05 出土遺物	135	図Ⅲ-46	集中区 38 平面図	198
図Ⅲ-10	集中区 25 平面図 及び関連遺構断面(1)	137	図Ⅲ-47	集中区 38 関連遺構 及び出土遺物(1)	199
図Ⅲ-11	集中区 25 関連遺構断面図(2) 及び出土遺物	138	図Ⅲ-48	集中区出土遺物(2)	200
図Ⅲ-12	集中区 26 平面図	139	図Ⅲ-49	集中区 39 平面図	203
図Ⅲ-13	集中区 26 関連遺構	142	図Ⅲ-50	集中区 39 関連遺構	204
図Ⅲ-14	集中区 26 出土遺物	143	図Ⅲ-51	集中区 39 出土遺物	205
図Ⅲ-15	集中区 27 平面図及び関連断面図	146	図Ⅲ-52	集中区 40 平面図	208
図Ⅲ-16	集中区 27 出土遺物	147	図Ⅲ-53	集中区 40 関連遺構	209
図Ⅲ-17	集中区 28 平面図及び関連遺構	149	図Ⅲ-54	集中区 40 出土遺物	210
図Ⅲ-18	集中区 28 関連遺構及び出土遺物	150	図Ⅲ-55	集中区 41 平面図	212
図Ⅲ-19	集中区 29 平面図	152	図Ⅲ-56	集中区 41 関連遺構	213
図Ⅲ-20	集中区 29 関連遺構断面図	153	図Ⅲ-57	集中区 41 出土遺物(1)	214
図Ⅲ-21	集中区 30 平面図	155	図Ⅲ-58	集中区 41 出土遺物(2)	215
図Ⅲ-22	集中区 30 関連遺構	157	図Ⅲ-59	集中区 42 平面図	219
図Ⅲ-23	集中区 30 出土遺物	158	図Ⅲ-60	集中区 42 出土遺物	220
図Ⅲ-24	集中区 31 平面図及び関連遺構	161	図Ⅲ-61	集中区 43 平面図	222
			図Ⅲ-62	集中区 43 関連遺構断面図	223
			図Ⅲ-63	集中区 43 出土遺物	224
			図Ⅲ-64	集中区 44 平面図	228

図Ⅲ-65	鉄器生産関連遺物集中	229	図Ⅳ-26	集中区 54 平面図及び出土遺物	288
図Ⅲ-66	集中区 44 出土遺物(1)	230	図Ⅳ-27	統縄文時代焼土	291
図Ⅲ-67	集中区 44 出土遺物(2)	231	図Ⅳ-28	統縄文時代土器集中	293
図Ⅲ-68	集中区 44 出土遺物(3)	232	図Ⅳ-29	統縄文時代剥片石器集中	295
図Ⅲ-69	ⅢIPB-02 種別毎重量分布図	233	図Ⅳ-30	統縄文時代包含層出土遺物(1)	297
図Ⅲ-70	集中区 44 出土遺物(4)	235	図Ⅳ-31	統縄文時代包含層出土遺物(2)	299
図Ⅲ-71	擦文文化期土杭	237	図Ⅳ-32	統縄文時代包含層出土遺物(3)	301
図Ⅲ-72	擦文文化期焼土(1)	239			
図Ⅲ-73	擦文文化期焼土(2)	240			
図Ⅲ-74	擦文文化期焼土(3)	241			
図Ⅲ-75	集中遺物平面図及び出土遺物	243			
図Ⅲ-76	擦文文化期焼骨片集中	245			
図Ⅲ-77	擦文文化期包含層出土遺物(1)	247			
図Ⅲ-78	擦文文化期包含層出土遺物(2)	248			
第四章					
図Ⅳ-1	統縄文時代遺構配置図	251	図Ⅳ-7	T ₁ 縄文時代遺構配置図	307
図Ⅳ-2	堅穴様遺構	253	図Ⅳ-8	T ₁ 縄文時代遺構配置図	309
図Ⅳ-3	土器集中 21 出土状態 及び出土遺物	254	図Ⅳ-9	6号堅穴住居跡及び出土遺物	311
図Ⅳ-4	集中区 45 平面図	256	図Ⅳ-10	7号堅穴住居跡平面図及び断面図	313
図Ⅳ-5	集中区 45 関連遺構	257	図Ⅳ-11	7号堅穴住居跡及び付属遺構	315
図Ⅳ-6	集中区 45 出土遺物(1)	258	図Ⅳ-12	7号堅穴住居跡柱穴断面図 及び出土遺物	316
図Ⅳ-7	集中区 45 出土遺物(2)	259	図Ⅳ-13	Tピット分類別配置図	321
図Ⅳ-8	集中区 46 平面図	261	図Ⅳ-14	TP-42-43	325
図Ⅳ-9	集中区 46 出土遺物	262	図Ⅳ-15	TP-44-45	326
図Ⅳ-10	集中区 47 平面図	263	図Ⅳ-16	TP-48-49	327
図Ⅳ-11	集中区 47 出土遺物	264	図Ⅳ-17	TP-50-51	328
図Ⅳ-12	集中区 48 平面図	267	図Ⅳ-18	TP-52-53	329
図Ⅳ-13	集中区 48 関連遺構断面図	268	図Ⅳ-19	TP-54-55	330
図Ⅳ-14	集中区 48 出土遺物	269	図Ⅳ-20	TP-56-57	331
図Ⅳ-15	集中区 49 平面図	272	図Ⅳ-21	TP-58~60	332
図Ⅳ-16	集中区 49 関連遺構	273	図Ⅳ-22	TP-61~63	333
図Ⅳ-17	集中区 49 出土遺物(1)	274	図Ⅳ-23	TP-65-66	334
図Ⅳ-18	集中区 49 出土遺物(2)	275	図Ⅳ-24	TP-67~69	335
図Ⅳ-19	集中区 50 平面図及び出土遺物	278	図Ⅳ-25	TP-70~72	336
図Ⅳ-20	集中区 51 平面図	280	図Ⅳ-26	TP-73~75	337
図Ⅳ-21	集中区 51 関連遺構及び出土遺物	281	図Ⅳ-27	TP-77~79	338
図Ⅳ-22	集中区 52 平面図及び関連遺構	283	図Ⅳ-28	TP-80~82	339
図Ⅳ-23	集中区 52 出土遺物	284	図Ⅳ-29	TP-83~85	340
図Ⅳ-24	集中区 53 平面図及び関連遺構	285	図Ⅳ-30	TP-86~89	341
図Ⅳ-25	集中区 53 出土遺物	286	図Ⅳ-31	TP-90-91	342
			図Ⅳ-32	TP-92~94	343
				TP-95-96	344
				TP-97-98	345
				TP-99-100	346
				TP-101~103	347
				TP-104~106	348
				TP-107-108	349

第五章

図Ⅴ-1	T ₁ 縄文時代遺構配置図	307
図Ⅴ-2	T ₁ 縄文時代遺構配置図	309
図Ⅴ-3	6号堅穴住居跡及び出土遺物	311
図Ⅴ-4	7号堅穴住居跡平面図及び断面図	313
図Ⅴ-5	7号堅穴住居跡及び付属遺構	315
図Ⅴ-6	7号堅穴住居跡柱穴断面図 及び出土遺物	316
図Ⅴ-7	Tピット分類別配置図	321
図Ⅴ-8	TP-42-43	325
図Ⅴ-9	TP-44-45	326
図Ⅴ-10	TP-48-49	327
図Ⅴ-11	TP-50-51	328
図Ⅴ-12	TP-52-53	329
図Ⅴ-13	TP-54-55	330
図Ⅴ-14	TP-56-57	331
図Ⅴ-15	TP-58~60	332
図Ⅴ-16	TP-61~63	333
図Ⅴ-17	TP-65-66	334
図Ⅴ-18	TP-67~69	335
図Ⅴ-19	TP-70~72	336
図Ⅴ-20	TP-73~75	337
図Ⅴ-21	TP-77~79	338
図Ⅴ-22	TP-80~82	339
図Ⅴ-23	TP-83~85	340
図Ⅴ-24	TP-86~89	341
図Ⅴ-25	TP-90-91	342
図Ⅴ-26	TP-92~94	343
図Ⅴ-27	TP-95-96	344
図Ⅴ-28	TP-97-98	345
図Ⅴ-29	TP-99-100	346
図Ⅴ-30	TP-101~103	347
図Ⅴ-31	TP-104~106	348
図Ⅴ-32	TP-107-108	349

図 V-33	TP-109~111	350
図 V-34	TP-112・113	351
図 V-35	TP-114・115	352
図 V-36	TP-116~118	353
図 V-37	TP-119~121	354
図 V-38	TP-122~124	355
図 V-39	TP-125~127	356
図 V-40	TP-128~130	357
図 V-41	TP-131~133	358
図 V-42	TP-134~136	359
図 V-43	TP-137~139	360
図 V-44	TP-140~142	361
図 V-45	TP-143・144	362
図 V-46	TP-145~147	363
図 V-47	TP-148~150	364
図 V-48	TP-151~153	365
図 V-49	TP-154・155	366
図 V-50	TP-156~158	367
図 V-51	TP-159・160	368
図 V-52	TP-161~163	369
図 V-53	TP-164~166	370
図 V-54	TP-167・168	371
図 V-55	TP-169~171	372
図 V-56	TP-172・173	373
図 V-57	TP-174・175	374
図 V-58	縄文時代土坑	380

図 V-59	縄文時代焼土(1)	383
図 V-60	縄文時代焼土(2)	385
図 V-61	土器集中平面図(1)	387
図 V-62	土器集中平面図(2)	388
図 V-63	土器集中平面図(3)	389
図 V-64	土器集中平面図(4)	392
図 V-65	土器集中出土遺物(1)	393
図 V-66	土器集中出土遺物(2)	394
図 V-67	土器集中出土遺物(3)	395
図 V-68	フレイク・チップ集中出土遺物	399
図 V-69	縄文時代包含層出土土器(1)	404
図 V-70	縄文時代包含層出土土器(2)	405
図 V-71	縄文時代包含層出土土器(3)	406
図 V-72	縄文時代包含層出土土器(4)	407
図 V-73	縄文時代包含層出土土器(5)	408
図 V-74	縄文時代包含層出土剥片石器(1)	416
図 V-75	縄文時代包含層出土剥片石器(2)	417
図 V-76	縄文時代包含層出土礫石器(1)	421
図 V-77	縄文時代包含層出土礫石器(2)	422
図 V-78	縄文時代包含層出土礫石器(3)	423
図 V-79	縄文時代包含層出土礫石器(4)	424
図 V-80	縄文土器数量分布図(1)	426
図 V-81	縄文土器数量分布図(2)	427
図 V-82	縄文土器数量分布図(3)	428
図 V-83	縄文土器数量分布図(4)	429
図 V-84	フレイク・チップ、礫重量分布図	430

表 目 次

第 I 章

表 I-1	上幌内モイ遺跡 年度別概要一覧表	16
表 I-2	Ⅲ層出土遺物一覧表	17
表 I-3	V層出土遺物一覧表	17
表 I-4	18・19年度上幌内モイ遺跡Ⅲ層 遺構群一覧表	18
表 I-5	厚真町内遺跡一覧表	24

第 II 章

表 II-1	アイヌ文化期 遺構群一覧表	45
表 II-2	ⅢH-08 属性表	46

表 II-3	ⅢH-08 付属炉属性表	46
表 II-4	ⅢH-08 柱穴属性表	46
表 II-5	ⅢH-08 出土遺物属性表	54
表 II-6	ⅢSB-26 属性表	55
表 II-7	建物跡 6 柱穴属性表	57
表 II-8	建物跡 7 柱穴属性表	57
表 II-9	杭跡属性表	57
表 II-10	ⅢAS-13 属性表	57
表 II-11	ⅢH-08 関連遺構出土遺物属性表	58
表 II-12	ⅢH-09 属性表	64
表 II-13	ⅢH-09 付属炉属性表	64
表 II-14	ⅢBB-56 属性表	64

表 II-15	IIIH-09 柱穴属性表	64	表 II-55	アイヌ文化期包含層出土遺物属性表	120
表 II-16	IIIH-09 出土遺物属性表	66			
表 II-17	IIISB-27 属性表	68			
表 II-18	IIISB-32 属性表	69			
表 II-19	IIISB-63 属性表	69			
表 II-20	IIIAS-11・12 属性表	71			
表 II-21	IIIBB-52 属性表	72			
表 II-22	IIIBB-52 出土遺物属性表	73			
表 II-23	IIIH-10 属性表	78			
表 II-24	IIIH-10 付属炉属性表	78			
表 II-25	IIIH-10 柱穴属性表	78			
表 II-26	IIIH-10 出土遺物属性表	80			
表 II-27	IIISB-31 属性表	80			
表 II-28	IIIAS-14 属性表	81			
表 II-29	集中区 20 焼土属性表	82			
表 II-30	集中区 20 出土遺物属性表	85			
表 II-31	IIISB-28 属性表	86			
表 II-32	建物跡 8 柱穴属性表	89			
表 II-33	建物跡 8 出土遺物属性表	89			
表 II-34	杭跡属性表	89			
表 II-35	IIIGP-04 属性表	92			
表 II-36	IIIGP-04 墓標穴・杭跡属性表	92			
表 II-37	IIIGP-04 出土遺物属性表	92			
表 II-38	IIIAS-10 属性表	96			
表 II-39	集中区 21 出土遺物属性表	96			
表 II-40	集中区 22 焼土・灰集中属性表	100			
表 II-41	集中区 22 出土遺物属性表	101			
表 II-42	集中区 23 焼土属性表	102			
表 II-43	集中区 23 炭化物集中属性表	102			
表 II-44	集中区 23 出土遺物属性表	103			
表 II-45	IIISB-25 属性表	103			
表 II-46	集中区 24 焼土属性表	106			
表 II-47	集中区 24 炭化物集中属性表	106			
表 II-48	集中区 24 出土遺物属性表	107			
表 II-49	アイヌ文化期焼土属性表	110			
表 II-50	IIISB-29 属性表	112			
表 II-51	IIISB-30 属性表	112			
表 II-52	IIIBB-34 属性表	113			
表 II-53	IIIBB-51 属性表	115			
表 II-54	アイヌ文化期焼骨片集中属性表	119			
			表 III-1	橛文文化期 遺構群一覽表	121
			表 III-2	IIIGP-03 属性表	129
			表 III-3	IIIGP-03 出土土器属性表	132
			表 III-4	IIIGP-03 出土遺物属性表	133
			表 III-5	IIIX-05 属性表	135
			表 III-6	IIIX-05 出土土器属性表	135
			表 III-7	IIIX-05 出土遺物属性表	135
			表 III-8	集中区 25 焼土属性表	136
			表 III-9	集中区 25 炭化物集中属性表	136
			表 III-10	集中区 25 出土土器属性表	138
			表 III-11	集中区 25 出土遺物属性表	138
			表 III-12	IIISB-36 属性表	138
			表 III-13	集中区 26 土坑属性表	143
			表 III-14	集中区 26 焼土属性表	143
			表 III-15	集中区 26 炭化物集中属性表	143
			表 III-16	集中区 26 出土土器属性表	143
			表 III-17	集中区 26 出土遺物属性表	143
			表 III-18	IIISB-35 属性表	144
			表 III-19	集中区 27 焼土属性表	147
			表 III-20	集中区 27 出土土器属性表	147
			表 III-21	集中区 27 出土遺物属性表	148
			表 III-22	集中区 28 焼土属性表	148
			表 III-23	集中区 28 出土土器属性表	151
			表 III-24	集中区 28 出土遺物属性表	151
			表 III-25	集中区 29 焼土属性表	153
			表 III-26	IIISB-37 属性表	153
			表 III-27	集中区 30 焼土属性表	154
			表 III-28	集中区 30 出土土器属性表	159
			表 III-29	集中区 30 出土遺物属性表	159
			表 III-30	IIISB-41 属性表	159
			表 III-31	IIISB-42 属性表	160
			表 III-32	集中区 31 土坑属性表	163
			表 III-33	集中区 31 焼土属性表	163
			表 III-34	集中区 31 出土土器属性表	163
			表 III-35	集中区 31 出土遺物属性表	163
			表 III-36	IIISB-43 属性表	164
			表 III-37	集中区 32 土坑属性表	165

表IV-10	集中区 46 出土遺物属性表	262	表IV-44	縄文時代包含層出土剥片石器属性表	304
表IV-11	集中区 47 出土土器属性表	265	表IV-45	縄文時代包含層出土土器属性表	304
表IV-12	集中区 47 出土遺物属性表	265			
表IV-13	集中区 48 焼土属性表	268			
表IV-14	集中区 48 焼骨片集中属性表	268			
表IV-15	集中区 48 出土土器属性表	269			
表IV-16	集中区 48 出土遺物属性表	270	表V-1	平成 18・19 年度V層段丘面別検出遺構・遺物一覧表	305
表IV-17	集中区 49 焼土属性表	272	表V-2	VH-06 属性表	306
表IV-18	集中区 49 焼骨片集中属性表	272	表V-3	VH-06 出土土器属性表	306
表IV-19	集中区 49 出土土器属性表	274	表V-4	VH-07 属性表	316
表IV-20	集中区 49 出土遺物属性表	276	表V-5	VH-07 付属土坑属性表	317
表IV-21	III SB-48 属性表	277	表V-6	VH-07 付属が、赤色顔料塊属性表	317
表IV-22	集中区 50 焼土属性表	279	表V-7	VH-07 柱穴属性表	317
表IV-23	集中区 50 焼骨片集中属性表	279	表V-8	VH-07 出土遺物属性表	317
表IV-24	集中区 50 炭化物集中属性表	279	表V-9	Tビットグループ別傾向対応表	320
表IV-25	集中区 50 出土土器属性表	279	表V-10	Tビット属性表	375
表IV-26	集中区 50 出土遺物属性表	279	表V-11	縄文時代土坑属性表	381
表IV-27	集中区 51 焼土属性表	281	表V-12	縄文時代焼土属性表	386
表IV-28	集中区 51 焼骨片集中属性表	281	表V-13	土器集中出土土器属性表	396
表IV-29	集中区 51 炭化物集中属性表	281	表V-14	フレイク・チップ集中出土遺物属性表	400
表IV-30	集中区 51 出土遺物属性表	282	表V-15	フレイク・チップ集中層位別出土点数一覧表	400
表IV-31	集中区 52 出土遺物属性表	284	表V-16	縄文土器層位・分類別出土点数一覧表	408
表IV-32	集中区 53 焼土属性表	286	表V-17	縄文時代包含層出土土器属性表	409
表IV-33	集中区 53 焼骨片集中属性表	286	表V-18	縄文時代包含層出土剥片石器属性表	418
表IV-34	集中区 53 出土土器属性表	286	表V-19	縄文時代包含層出土礫石器・石製品属性表	425
表IV-35	集中区 53 出土遺物属性表	287			
表IV-36	集中区 54 炭化物集中属性表	289			
表IV-37	III FCB-13 出土遺物属性表	289			
表IV-38	III SB-54 属性表	289			
表IV-39	III SB-58 属性表	290			
表IV-40	縄文時代焼土属性表	291			
表IV-41	縄文時代土器集中出土土器属性表	292			
表IV-42	III FTB-01 出土遺物属性表	294	表VI-1	フローテーション回収微細遺物属性表	432
表IV-43	縄文時代包含層出土土器属性表	302			

第V章

第VI章

第I章 調査の概要

第1節 調査要項と体制

1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道室蘭土木現業所 受託者：厚真町教育委員会

遺跡名：上幌内モイ遺跡（J-13-79） 所在地：勇払郡厚真町字幌内395-1

調査面積：平成16年度 3,942㎡ 平成17年度 4,518㎡
平成18年度 8,000㎡ 平成19年度 5,565㎡ 合計 22,025㎡

受託期間：平成16年4月1日～平成17年3月31日

平成17年4月1日～平成18年3月31日

平成18年4月1日～平成19年3月31日

平成19年4月2日～平成20年3月31日

調査期間：(発掘) 平成16年5月11日～平成16年10月31日

(整理) 平成16年11月1日～平成17年3月18日

(発掘) 平成17年5月10日～平成18年10月31日

(整理) 平成17年11月1日～平成18年3月17日

(発掘) 平成18年5月9日～平成18年11月10日

(整理) 平成18年11月1日～平成19年3月20日

(発掘) 平成19年5月8日～平成19年10月31日

(整理) 平成19年11月1日～平成20年3月14日

2. 調査体制

厚真町教育委員会 教育長 福田 敏夫

生涯学習課 参事 當田 昭則 主幹 中田 守 主査 森田 正樹

学芸員 乾 哲也(調査担当者)

嘱託職員 小野 哲也(調査担当者：平成18・19年度、調査員：平成16・17年度)

” 奈良 智法(調査担当者：平成18年度、調査員：平成16・17年度)

” 天方 博章(調査員：平成19年度)

” 佐々木 都(事務員)

臨時職員 赤井 文人(平成18年度)・海津 孝之・宮崎 美奈子・渡辺 博道
(測量技能作業員)

小林 輝男(整備技能作業員)

平成16年度 発掘作業員 44名 整理作業員 18名

平成17年度 発掘作業員 45名 整理作業員 21名

平成18年度 発掘作業員 55名 整理作業員 26名

平成19年度 発掘作業員 40名 整理作業員 24名

第2節 調査に至る経緯

1. 厚幌ダム建設事業(図 I-1)

町内を縦貫する厚真川中下流域には約3,000haもの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和45(1970)年に現河口より38km地点に、農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和45年には洪水と濁水、昭和48・50・56年にも洪水が発生し、近年においても、平成12年春の融雪期と平成13年秋に、家屋や農地に被害をおよぼす洪水、平成18年にも一部がオーバーフローする事態が発生している。また、昭和59・60・63年には深刻な水不足にも見舞われており、平成19年は、幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年でもあった。特に田植え時期における農業用水の確保は農業者にとっては勿論、厚真町民にとっても関心事であり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設が陳情されていた。また、市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港への水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況の抜本的な治水等の改善策として、昭和52年に北海道土木現業所により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手されている。その後、昭和61年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まり、平成7(1995)年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして、現厚真ダム下流に「厚幌ダム」の建設工事が決定された。また、同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所が開設され、その後、沿岸漁業団体への説明会や環境アセスメントも実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業(厚幌導水路建設)が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成14年度からの水没地域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで延長開通の計画である。厚幌ダムの規模は、堤体長480m、高さ47.2m、下流に面した垂直の重力式コンクリートダムで、上幌内モイ遺跡より約700m下流に堤体を建設する計画である。貯水は常時湛水面標高85.4m、最深湛水面標高88.1mであり、総貯水量は47,400千 m^3 、現在の厚真ダムのおおよそ4.7倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な波及効果が想定され、早期完成が望まれている。

2. 発掘調査までの経緯(図 I-1)

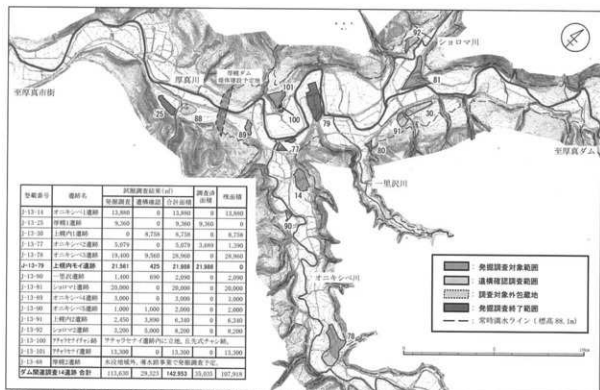
厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて、平成12年7月6日に北海道室蘭土木現業所厚幌ダム建設事務所(以下、ダム事務所)より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書(室土厚幌第158号)が厚真町教育委員会(以下、町教委)を経て北海道教育委員会(以下、道教委)へ提出された。協議区域は最深湛水面標高88.1m以下の区域と道道切替路線幅の合計約235,500 m^2 におよぶ。まず、平成13年6月に道教委より道道切替路線の試掘調査が行われた。結果、約8,250 m^2 の「要発掘調査」面積が回答され、厚幌1遺跡(J-13-25)として新規登録された(平成13年7月18日付教文第4265号)。これを受け、厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した

結果、ダム関連の試掘調査までは道教委が行い、厚幌ダム建設に係わる受益者が厚真町1町であることから、発掘調査は町教委と北海道室蘭土木現業所で委託契約を結び、町教委が行うこととなった。翌平成14・15年度の2カ年で厚幌1遺跡の発掘調査を行っている(厚真町教育委員会2004)。

ダム本体の水没地域内については、平成13年10月に踏査(A調査)が行われ、周知の遺跡(オニキンベ1遺跡・旧幌内2遺跡、上幌内1遺跡・旧幌内3遺跡)を含め16カ所、面積235,500㎡の「要試掘調査」の回答がなされた(平成13年11月16日付 教文第4532号)。追加箇所もあるが、以後、平成19年度までに8回、18地点の試掘調査が行われ、現在までに14遺跡、約143,000㎡の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されている(図I-1)。

上幌内モイ遺跡については、道教委によって平成14年11月に高位河岸段丘面 T_1 、平成15年10月に中位段丘面 T_2 の試掘調査が行われ、15,650㎡の発掘面積(うち遺構確認調査面積670㎡)が回答された(平成15年11月14日付 教文第6492号)。なお平成16年度の発掘調査期間中に T_1 - T_2 段丘崖において遺物を採集したことから、道教委と協議し10月に町教委による低位河岸段丘面 T_1 の試掘調査を行った。結果、擦文・アイヌ文化期を中心とする遺物包含層を確認し、6,514㎡が追加され調査対象の総面積は22,164㎡となった(平成16年11月22日付 教文第4617号・図I-3)。

また、平成16年度の調査中に、段丘面 T_3 においてTピットの坑底面杭穴を調査中に後期旧石器時代の遺物が出土した。調査終了後、 T_3 と T_4 全域のIX層を対象に試掘調査を行い、295㎡の再調査面積を追加した。



図I-1 厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地調査地点

第3節 調査の方法

1. 発掘区の設定と調査区分(図 I-3・4)

上幌内モイ遺跡の発掘調査範囲は、ダム水没地域内であることから、遺跡の全面が調査対象となっており、道教委の試掘調査によって回答された「要発掘範囲」に基づいている。平成 16 年度は、半島状に突出する高位段丘面 T_1 および段丘崖、 T_3 の北東側の一部で、3,942 m^2 (旧石器包含層 6 m 含む) の調査を行い、平成 17 年度は中位段丘面 T_2 の北半部分の 4,518 m^2 と後期旧石器時代の包含層、289 m^2 (平成 16 年度調査面積) の調査を行った。 T_1 の調査区は、北東側が厚真川によって浸食されており、崖面崩落の危険性があったことから 1.5m の安全帯を設けた。 T_2 では河川浸食が停滞していることなどから、段丘面縁辺部までの調査区とした。

このうち高位段丘面 T_1 から南側山体に続く尾根状部分の T_1 - T_2 段丘崖は最大仰角が約 40° あり、遺物の流出が想定されたことから、人力調査は尾根基部の狭小な平坦面と段丘崖裾に留め、バックホーを用いた遺構確認調査に切り替えている。V層については一部 25% 調査を実施のうえ遺物出土密度を考慮し、道教委と協議した上で重機掘削による遺構確認調査区とした範囲もある。また T_1 の V層については、試掘調査の結果、出土遺物がほとんど無かったことから、南東側の T_1B を重機による遺構確認調査とした。なお北西側の T_1A は段丘面形成時期が樽前 c テフラ降下以降で、樽前 c テフラも水成再堆積層であったことから、V層の調査対象範囲も縮小している (図 I-4)。

2. グリッド設定 (図 I-3・5)

調査区内のグリッドは公共座標 (日本測地系) に従い、遺物包含層が想定される段丘面全てを含む 260m×240m の広域に設定し、5m 四方のメッシュで区分した。グリッド網の起点 (A-1 区: $X = -136680.000$ $Y = -20120.000$) は北東コーナーとし、南北の X 軸を A・B・C・・・・のアルファベット列で、東西の Y 軸ラインを 1・2・3・・・・のアラビア数字列とした。各グリッドの呼称も北東コーナーの杭とし、A-1 区、A-2 区・・・・とし記した。しかし、平成 16 年度の調査途中に発掘区が西北側へ拡張したことから、A ラインより北側のものをアルファベット+アラビア数字 (A+1 区、A+2 区・・・・) とし、グリッド網も拡張した。なお、集中区 1・2 や集中区 44 は 1m ないしは 25cm メッシュの細グリッドを設定し、微細遺物の回収を目的とする土壌サンプリングを行っている。前者の中グリッドは 5m 四方グリッドを 1m メッシュの 25 分割したもので、呼称は全てアラビア数字とした。配列としては、東西の Y 軸方向は基点より 1~5 とし、南北の X 軸方向へ折り返し、6~10、11~15・・・・としている。集中区 44 は中グリッドをさらに 16 分割したもので、鍛冶関連遺物である鍛造剥片や残滓を土壌ごと回収した (図 I-5 右)。

現地での設定方法は、初年度にグリッド設定基準杭 20 点の設置を御シン技術コンサルに委託し、測量技能作業員が光波式トータルステーションを用いて調査区全面のグリッド杭を設置した。

絶対高は、道道上幌内早来停車場線沿いに南西方向へ約 1,100m に所在する「厚真川 2000 仮 BMNo.22 H=50.437m 北海道室蘭土木現業所」に準拠し、平成 14・15 年度調査の厚幌 1 遺跡との整合性を確保している。

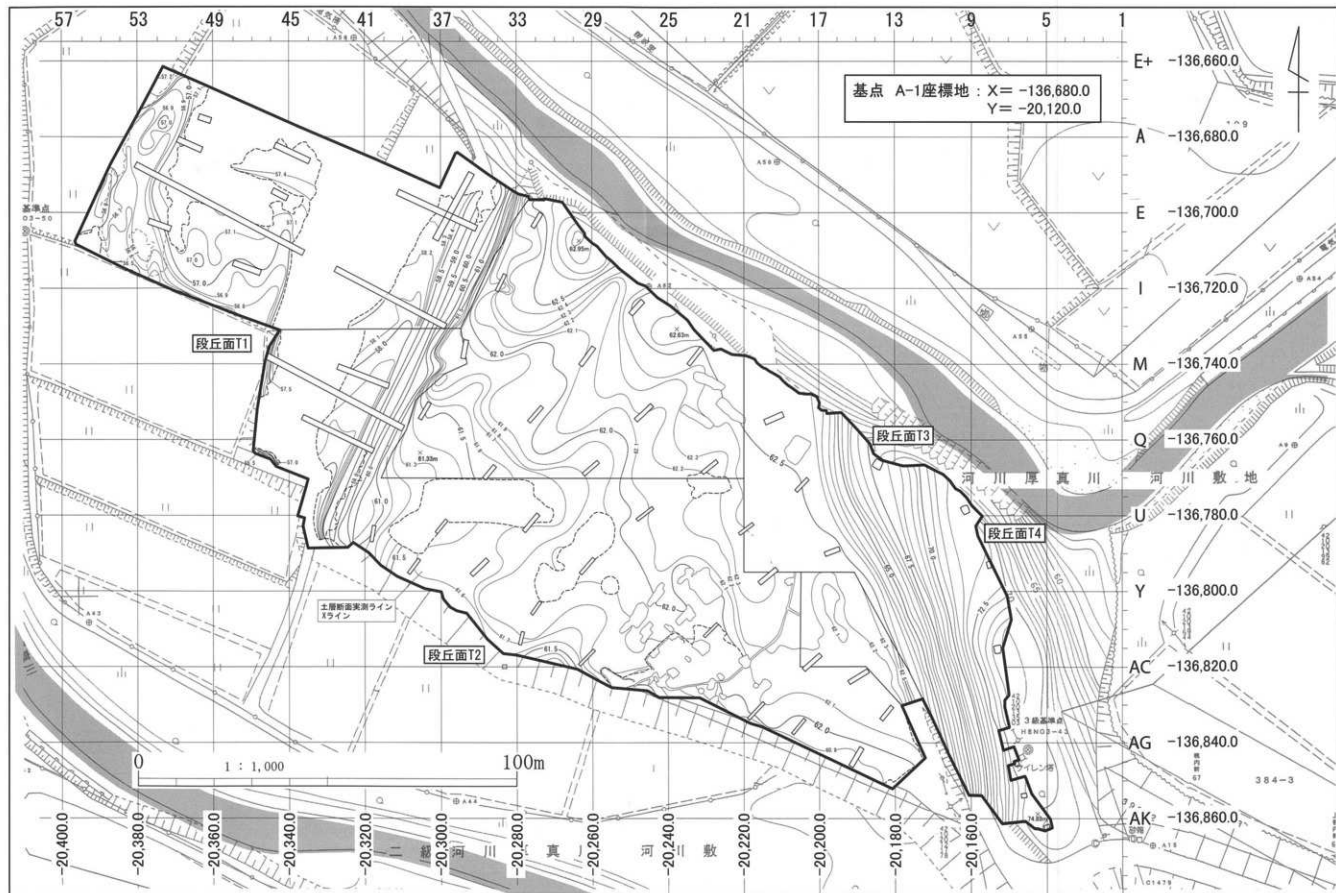


図 I-2 調査区内地形図

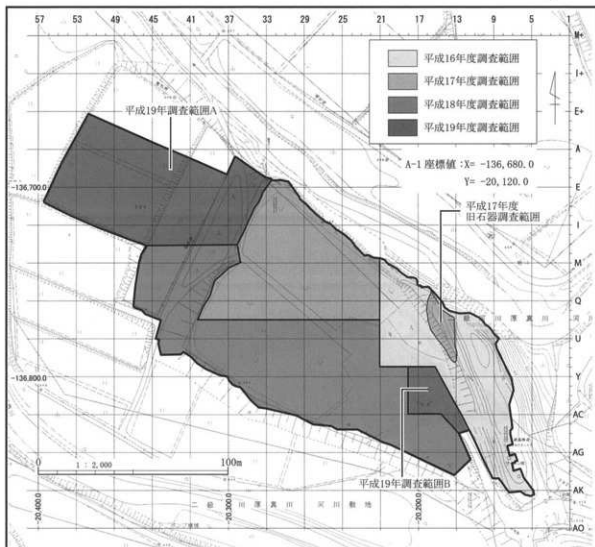


図 I-3 調査区年度区分およびグリッド設定図

3. 包含層および遺構調査の方法(図 I-4・5)

調査の準備段階として、調査員立会のもとバックホーにより樹根を残しながら表土と Ta-b 火山灰の除去を行った。Ⅲ層上面でアイヌ文化期の遺構、遺物が検出されることから火山灰は 3cm 前後残し、Ⅲ層上面まではジョレンを用いて人力による清掃作業を行った。平成 18 年度は発掘区全面の火山灰除去が終了した時点でラジヘリを用いた地形測量を㈱シン技術コンサルに委託し、並行して調査区内のグリッド杭設置も行っている。平成 19 年度については、調査日程上の期間が確保できたことから、測量技能作業員による地形測量を行っている。

18 年度の中位段丘面 T_2 の調査については、まず包含層堆積状態の実測ラインを 21 ラインと 33 ラインに設定し、厚真川下流に面した段丘縁部南東部から開始した。Ⅲa 層は調査区全面の調査を完了させ、Ⅲb 層以下は、包含層実測ラインにあわせた 3 分割の区域で層位毎・時期毎の面的な調査を行った。19 年度は発掘現場への進入路切替と電柱の移設を調査終了の範囲に行い現道下の 620 m^2 の調査を行った。

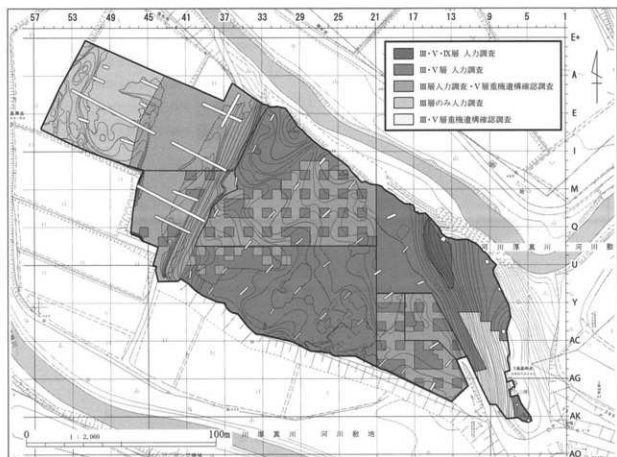


図 I-4 調査方法区分および試掘トレンチ位置図

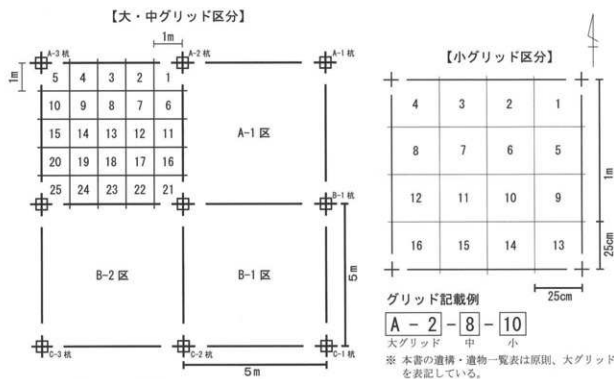


図 I-5 グリッド区分図

調査方法に関しては、これまでの調査結果からⅢ層は、基本的にⅢa層からⅢb層下位にかけては移植ゴテを用いて1~2cm程度ずつ掘り下げた。面的な遺物出土状態などから時期を把握し、新しい時期のアイヌ文化期(Ⅲb層上位・Ⅲbu)、古い時期のアイヌ文化期(Ⅲb層中位・Ⅲbm)、擦文文化期(Ⅲb層下位・Ⅲbl)の3面を考慮したうえでの調査を開始した。遺物の出土状態として、平坦な段丘面に焼土を伴ってブロック的なまとまりで出土する傾向がある。これらは、共伴する擦文土器の有無と焼土の灰層の有無が検出層位とほぼ合致し、アイヌ文化期と擦文文化期の遺物ブロック「集中区」の認定を行った。つまり、Ⅲb層上位のアイヌ文化期では灰層を伴い、周囲からは棒状礫や金属製品が出土するのに対し、擦文文化期の集中区は、焼土や集中出土遺物にⅢb層を3cm前後と厚く被覆し、焼土は燃焼面における灰層の土壌化が進むため焼骨片のみの検出状態である。

平成18年度は調査段階において須恵器の出土層位と後北C₁式土器の重複地点を検出したことから、縄文時代の層位(Ⅲc層上位・Ⅲcu)の確認もできた。この層位の認識のもと調査担当者間で討議し、時間幅があり時期決定遺物の少ないアイヌ文化期や擦文文化期について、調査段階から上記の4ステージを押さえることができた。調査手順としては、焼土燃焼面に被覆する包含層の厚さを観察するため、Ⅲ層上面で窪地となっている範囲に土層観察用のベルトを設定し、焼土等の平面的な遺構の形成時期の把握に努めた。土坑や柱穴等のⅢb層の落ち込みによって検出される遺構は、Ⅲc層上位から中位にて遺構確認の精査を行っている。なお、平地式住居址に伴う柱穴の確認は困難なものが多く、散水による乾燥状態の差異や土層の垂直スライスなどを行い、数回にわたって精査を行っている。柱穴の認定にあたっては、すべてを半載し、断面状態の観察の結果、判断している。おおよそ半数は、根穴などの自然営力による落ち込みのものであった。

無遺物層のⅣ層(Ta-c)はバックホーとジョレンで除去した。Ⅴ層は25%調査を行いⅥ層までの遺物出土頻度を確認し、一部ジョレンを用いての調査とした。平成18年度の調査の結果、中位段丘面T₂の縄文期(Ⅴ・Ⅵ層)の遺物点数が少ないことから、一部バックホーでⅥ層中までを掘削する遺構確認調査に切り替えた範囲もある(図I-4)。

低位段丘面T₁については、平成18年度はⅣ(Ta-c)層とⅤ層上位に堆積する灰黄褐色の洪水堆積物を1回で除去した。この結果、Ⅴ層中位において洪水堆積層が楕円形に落ち込む状態でTビット群を検出することができた。T₁におけるTビット調査はこの面で行った。包含層については25%調査の結果、出土遺物が極端に少なかったことから、残るⅤ層をバックホーで除去し遺構確認調査とした。平成19年度はⅢ層調査終了後、Ⅳ層とⅤ層をバックホーによる除去を行い、Ⅵ層下位ないしはⅦ層上面を遺構確認面として調査を行っている。

遺構は、住居址など包含層上面から上位で窪みとして確認できたものは、先行トレンチや土層観察ベルトを設定し、できるだけ遺構構築面の把握や構築面での調査を考慮した。焼土や遺物集中区、炭化物集中区等については、燃焼面や形成面のほぼ全量をフローテーションサンプルとして採取し、平成16~19年度の土壌サンプル量は合計6,000g以上に及ぶ。処理は作業用の井戸を掘削し、調査期間中にフローテーション処理を行った。記録図化については光波式トータルステーションを用いて平面形およびエレベーションを記録し、堆積状態については調査担当者が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積図作成の実測を行った。各調査経過は35mm一眼レフカメラでデジタル・モノクロ・リバーサル・ネガカラーフィルムで写真記録し、一部は6×7中盤カメラでも撮影を行った。

なお、焼土については、土層の断面実測と焼面サンプルを採取後、富山大学理学部教授 酒井 英男 研究室の協力を受け古地磁気年代測定のプロックサンプルを、各焼土につき約 10 点を採取している。結果については、第 VII 章 2 節に玉稿を賜っている。

遺物については、全点に遺物番号を付した。取り上げについては調査員による層位確認と段丘堆積物中の自然礫とを認定区分したうえで、光波式トータルステーションによる XYZ 座標 (XY は旧公共座標日本測地系) をデジタル記録し、取り上げた。この時、手簿 (日付・グリッド・層位・遺物名等) の記載も行い、データ入力ミスの補完を行っている。

4. 整理作業

一次整理は、一部現場段階から水洗、注記作業を行い、整理業務に入ってから各担当の調査員が調査区遺構名や層位、種別、細分類、分類等の台帳確認作業を行った。また並行して、フローテーション作業と処理後の選別作業も行っている。

二次整理は、各種遺物の接合・復元・実測・拓本等の作業を行い、遺構図等の第二原図の作成やトレース作業・編集については、パソコン (Os Windows Adobe IllustratorCS) で行った。なお、金属製品などの脆弱遺物については、パソコン上での写真実測を行っている。写真撮影は 35mm 一眼レフデジタルカメラで行い、パソコン (Os Windows Adobe PhotoshopCS) でのコントラスト補正等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトで行い、本文の Word 文書と合わせて印刷所へデジタル入稿している。

遺物の保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは、分類および調査区毎にコンテナに収納し町内の廃校舎に収蔵している。

第4節 遺物の分類

1. 土器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字に群別し、アルファベットで時期細分した。

第 I 群土器 縄文時代早期に属する土器。

- A 類 貝殻文・条痕土器。
- B 類 早期後半の東創路式土器群。絡糸体圧痕文、組紐圧痕文などを施すもの。
- B1 類 東創路 II 式に相当するもの。
- B2 類 東創路 III 式、コッタロ式に相当するもの。
- B3 類 中茶路式に相当するもの。
- B4 類 東創路 IV 式に相当するもの。

第 II 群土器 縄文時代前期に属する土器。

- A 類 縄文丸底・尖底土器群。
- A1 類 美沢 3 式、綱文式土器に相当するもの。

A2 類 トビノ式、静内中野式に相当するもの。

- B 類 円筒下層式系土器群。
- B1 類 円筒下層 a 式ないしは b 式、虎杖浜 2 遺跡 2 群土器に相当するもの。
- B2 類 円筒下層 c 式ないしは d 式、植苗式、大麻 V 式に相当するもの。

第 III 群土器 縄文時代中期に属する土器。

- A 類 中期前半の円筒上層式系土器群。
- A1 類 円筒上層 a 式または b 式に相当するもの。
- A2 類 円筒上層 c 式または d 式、厚真 1 式に相当するもの。

- B類 中期後半から末葉の土器群。
 B1類 萩ヶ岡1・2式、天神山式に相当するもの。
 B2類 柏木川式に相当するもの。
 B3類 a 北筒式に相当するもの。
 B3類 b 雄瓦台式に相当するもの。

第IV群土器 縄文時代後期に属する土器。

- A類 後期初頭の土器群。
 A1類 a 古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多数の羽状構成の土器。
 A1類 b IV群 A1類 a 土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。
 A1類 c 天祐寺式に相当するもの。IV群 A1類 a 土器に併存する。非在地系。
 A2類 新しい段階の余市式。タブコブ式の古手。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。
 B類 後期前葉の土器群。
 B1類 新手のタブコブ式。縦位の棒状貼付帯縄線文または地文縄文のみが施されているもの。
 B2類 手稲砂山式に相当するもの。
 B3類 入江式、大津7群、白坂3式土器。
 C類 後期中葉の土器群。
 C1類 ウサクマイ C式に相当するもの。
 C2類 手稲式に相当するもの。
 C3類 鯉淵式に相当するもの。
 D類 後期後葉の土器群。
 D1類 堂林式、御殿山式に相当するもの。

第VII群土器 撤文化期に属する土器群。

- A 北大Ⅲ式相当
 B 甕形

第V群 縄文時代晩期に属する土器群。

- A類 晩期前葉の土器群。
 A1類 爪形文や刺突文を施すもの。
 A2類 大洞 B・BC 式土器に相当するもの。
 B類 晩期中葉の土器群。
 B1類 縄線文や円弧文を施すもの。美々3式、ママチ I・II 群に相当するもの。
 B2類 大洞 C1・C2 式土器に相当するもの。
 C類 晩期後葉の土器群。
 C1類 ママチⅢ・Ⅳ・Ⅴ群に相当するもの。
 C2類 大洞 A・A' 式土器に相当するもの。

第VI群土器 続縄文時代に属する土器群。

- A1類 砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。
 a: 札幌市 H37 遺跡 丘珠空港地点相当のもの。
 b: いわゆる沙見式相当。縄線文が施され、地文に帯縄文発達以前の土器。
 A2類 砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。
 a: 砂沢式土器。 b: 二枚橋式土器。
 B1類 アヨロ 2 類土器並行の土器。
 a: アヨロ 2 類 a 相当の土器。
 b: アヨロ 2 類 b 相当の土器。
 B2類 アヨロ 3 類相当の土器。
 C1類 江別太 1~3 式土器。
 C2類 後北 B 式土器。
 C3類 後北 C₁ 式土器。
 C4類 後北 C₂-D 式土器。
 D1類 宇津内 II a 式土器。
 D2類 宇津内 II b 式土器。
 E1類 北大 I 式土器。
 E2類 北大 II 式土器。

(天方)

- B1: 撤文「前期」に相当するもの
 主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群
 B1a: 軽い段により頸部を形成した無文も

しくは数条の横走沈線を廻らすもの

B1b: 多条の横走沈線を施すものもの

B2: 擦文「中期」に相当するもの

主として口縁部文様帯が未形成もしくは
単調な刻みのみの一群

B2a: 横走沈線を地文とし、刻文を重ねる
もの

B2b: 刻文のみのもの

B2c: 無文のもの

B3: 擦文「後期」に相当するもの

主として口縁部文様帯を形成した一群

B3a: 横走沈線を地文とするもの

B3b: 綾杉文主体のもの

B3c: 斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状
文、「X」字状文等を施すもの

B3d: 胴部文様帯を3段以上に区画した上
でⅧB3a~cの文様要素のもの

B3e: 無文のもの

B3f: 口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせ
たもの

C 坏形

C1: 台部を有さないもの

C2: 平底の低い台部を有するもの

C3: 平底の高台部を有するもの

C4: 上げ底の高台部を有するもの

C4a: 口縁部に沈線を有するもの

C4b: 体部に刻文を施すもの

D 鉢形・壺形

E ロクロ成形土器

E1: 甕形

E2: 壺形

E3: 鉢形

E4: 坏形

E4a: 軟質で内面黒色処理を施さないもの

E4b: 軟質で内面黒色処理を施すもの

E4c: 硬質で酸化炭焼成のもの

E4d: 硬質で還元炭焼成のもの

(小野)

2. 剥片石器

ポイント類

長軸4cmを境に石鏃と石槍・石銚とを区分した。

A 「石鏃」

- 1 細身に薄手のもの。
- 2 無茎のもの。
- 3 明瞭な茎部をもつもの。
- 4 不明瞭な茎部を持つもの。
- 5 片岩製で周縁のみに調整加工を施すもの。
縄文時代に特徴的なもの。

B 「石槍」・「石銚」

- 1 明瞭な茎部をもつもの。
a 茎部端が平ら。 b 茎部端が尖る
- 2 不明瞭な茎部をもつもの。

C 欠損品・未製品

石 鏃

- A 剥片の一部に機能部を作出したもの。
- B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。
- C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広いもの。

- D 柄と機能部の区別が不明瞭で棒状のもの。
- E 他石器からの転用品と思われるもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺
に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているも
の。

A 「つまみ付きナイフ」

- 1 素材の周縁のみ加工を施したものの。
- 2 素材の片面全体に加工を施したものの。
- 3 素材の両面全体に加工を施したものの。

B 素材端部に刃部が形成されているもの。

- 1 「ラウンド・スクレイパー」
- 2 「エンド・スクレイパー」
- C 素材端部に刃部が形成されていないもの。

1 「サイド・スクレイパー」

- a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

2 「コンケイブ・スクレイパー」

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

3 「挟入石器」

D 続縄文時代に伴う「ナイフ状石器」

E 欠損品

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

RF・UF

縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の
I 辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものを RF、

使用によると思われる微細剥離のあるものを UF と
して扱っている。

ビエス・エスキーユ

石核

火打石

メノウ、チャート、石英（水晶）を石材とし
縁辺部等に微細剥離が観察できるもの。

3. 礫石器

石斧

A 磨製石斧

B 未製品 1：剥離敲打により完成品に近い大きさ
まで整形されているもの。

C 未製品 2：礫皮を残すが、擦り切り・剥離・敲
打調整で素材礫形状が不明瞭なもの。

D 未製品 3：剥離・敲打調整が部分的に施され、
素材礫の形状を大きく残すもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の
形状で細分類を行った。

I 平面形が縦長のもの。

A 扁平のもの。

1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3 1・2を並存するもの。

B 棒状または角柱状のもの。

1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。

A 扁平のもの。

1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕

を有するもの。

3 1・2を並存するもの。

B 棒状または角柱状のもの

1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

III 平面形が円～楕円形のもの。

A 扁平のもの。

B 球状または棒状のもの。

IV 破片のため上記に分類不可のもの。

擦石

A 断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。

B 断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。

C 扁平礫の側縁にすり面があるもの。

D 北海道式石冠

E その他

砥石

素材礫の形状が変形する研磨面を有するもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。
線条度はほとんど観察できない。(III層のみ)

線条痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

石皿・台石

便宜的に素材量の重量が900g以上で、素材量の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

滑沢面と敲打痕のある大型礫

- I 表裏面にそれぞれが単独で認められるもの。
- II 一面に両方の痕跡が認められるもの。

加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧(打点)部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

自然礫

加工痕や明瞭な使用痕が認められないもの。

- I 平面形が縦長のもの。
 - A: 扁平のもの。
 - B: 棒状または角柱状のもの。
- II 平面形が方形～不整形で幅広いのもの。
 - A: 扁平のもの。
 - B: 棒状または角柱状のもの。
- III 平面形が円～楕円形のもの。
 - A: 扁平のもの。
 - B: 球形または棒状のもの。

4. 鉄器・鉄器生産関連遺物

平成18年度のⅢ層の調査で、鉄器生産関連の遺物が多数出土した。これらがどのような作業の下で残されたかについては、研究者間で意見が分かれているため、今回の報告では遺物の形状を基にした分類を行い、その解釈については本資料を扱う個々の研究者に委ねることとした。以下では鉄器も含めた上での分類を示す。

鉄器

- I 鉄製品
 - 道具として成形されたと判断できるもの。
- II 半製品
 - 道具としての形態には至らないが、それに近い形態のもの。
- III 鉄片
 - 道具としての形態を成さず、またその素材としての利用も困難と考えられる小片。形状により棒状と板状に2分できる。

鉄器生産関連用具(鉄製以外)

- 羽口
 - 粘土を素材とする筒形の土製品、もしくはその破片と考えられるもの。

粘土状物質

主として粘土で構成される固体。部分溶融が観察できる資料が多い。形状や比重からさらに以下の4つに細分できる。

碗状滓

全体形状が碗のように凹面、凸面で形成された粘土状物質。凹面には軸のかかった状態に近い黒色の光沢がみられるものや、金属質の固体が付着するものも認められる。凸面には砂粒が付着し、凹面に比し均整の取れた曲面を形成している。

塊状滓

不定形の塊で、構成する物質が粘土主体のため比重が小さいもの。磁着しない。

鉄滓

不定形の塊で、構成する物質中に金属質を含むため、比重が大きいもの。磁着するものが多い。

粒状滓

5mm以下の大ききで球形のもの。

剥片状物質

薄い板状で、磁着するもの。厚さの違いにより2つに細分できる。

剥片状鉄塊 厚さ1mm以上のもの

剥片状鉄滓 厚さ1mm未満のもの。鍛造剥片に相当する。

(小野)

第5節 平成18・19年度の調査結果の概要(表I-1-2)

平成16年度からの過去4年間の調査では、後期旧石器時代～中近世アイヌ期までの遺構・遺物が検出された。調査面積は、22,025㎡である。平成16・17年度調査の後期旧石器時代と縄文時代の一部については平成17年度、同一調査区の縄文文化の一部と統縄文時代、擦文文化期、アイヌ文化期については平成18年度に本報告書を刊行している(乾他2006・2007)。ここでは、本書所収の平成18年度と平成19年度の調査結果について記す。

河岸段丘面 T_2 および T_1 の南側を調査区とした範囲から縄文時代早期から中近世アイヌ文化期の遺構遺物を検出した。なお、Ⅲ層の統縄文時代、擦文文化期、中近世アイヌ文化期については、焼土や土器集中、礫集中などが同一面でまとまって検出する範囲を集中区として報告する。以下に段丘面毎の調査結果の概略を記す。

1. T_2 の調査概要

[縄文時代]

中位段丘面 T_2 においては竪穴住居跡2軒、Tピット36基、土坑5基、焼土16カ所等を検出した。主要時期は縄文時代早期後葉の中茶路式期と後期初頭余市式期であり、TピットとV層上面で検出した縄文晩期前葉のVF-10を除く遺構の多くはこの時期に帰属するものと思われる。層的には早期後葉の遺物がVI層、後期初頭の遺物がVb層中位から上位にかけて出土している。

住居跡は平成17年度調査区にかかるVII-06(中茶路式期)と段丘面縁辺部のVII-07(余市式期)の2軒を検出した。VII-06は方形プランで、平成16年度に調査したVII-04と同様に浅い竪穴住居跡であった。当該期の住居跡は4年間の調査で2軒目となる。VII-07は楕円ないしは卵形のプランで、壁面近くの床面直上からは炭化材が出土しており、焼失住居跡と思われる。竪穴の周辺にはTa-dが混じる掘り揚げ土を伴っている。床面からの時期決定可能な資料はないものの、掘り揚げ土基底面層位等より余市式期のものと判断した。当該期の住居跡は3軒目の検出となる。

Tピットは直線状ないしは弓状の配列で検出されている。いわゆる「苦東分類」(大泉1997)を基本とした「厚幌分類」(乾・小野2004)のA2・B1・B2型が主体を占めている。数基による配列を組むものはいずれも、概ね南北ないしは北東-南西方向の列である。土坑は長楕円形を主体とし、単独で構築されている。出土遺物もないことから時期や性格などは不明である。

焼土は16カ所のうち1カ所が石組炉である(VF-12)。時期はVF-10のみがVa層下位で検出されており、縄文時代晩期前葉の土器集中の検出層位と同一レベルであることから、当該期の焼土と思われる。分布状況はVII-07周辺でややまとまって検出されている。

その他、特筆すべきものとしては、土器集中(VPB-05)がある。余市式土器が風倒木痕のくぼ地を中心にした約6.1×5.9mの範囲から最小個体数15個体が出土している。当該期における廃棄場と考えられ、良好な一括資料である。また、平成18・19年度においても胎土に石英結晶粒を多量に含む「仮称富良野盆地系土器」も比較的多く出土している。

[統縄文時代]

統縄文時代では中位段丘面 T_2 の南側、段丘縁辺部に竪穴様遺構1カ所(ⅢX-04)と焼土や土器集中などの集中区9カ所、石蔵集中(ⅢFTB-01)を検出した。主体時期は後北A～C₁にかけてである。平成16・17年度の調査では当該期の遺物はほとんど出土せず、極めて限定された分布状況を示している。これらの焼土や焼骨片集中はシカと思われる陸棲哺乳綱の焼骨片で構成され、サケ科などの

表 I - 1 上幌内モイ遺跡 年度別概要一覽表

項目	III 前期					V 中期					IX 後期				
	近世・中世アラスカ文化期、縄文文化期、縄文時代晩期					縄文時代早・中・後・晩期					後期旧石器時代				
	平成19年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
4年合計 (のべ数含む)	22,023	3,942	4,518	8,000	5,565	22,023	2,293	3,517	2,809	2,384	11,003	6	289	295	
調査者手面数(m)	32,898	425	4,518	8,000	5,565	425	2,225	2,194	3,021	8,662	0	0	0	0	
発掘調査面積(m ²)	9,087	3,942	4,518	8,000	5,565	22,023	3,942	4,518	5,800	5,485	19,665	6	289	295	
調査面積合計(m ²)	7	0	0	0	0	0	4	1	1	7	0	0	0	0	
野穴住居跡	10	1	6	2	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	
平地式住居址	8	2	3	2	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	
建物跡	3	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
柱列跡	4	0	2	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
土層階	169	0	0	0	0	0	21	19	69	60	169	0	0	0	
TCット	68	0	21	23	0	44	8	7	4	5	24	0	0	0	
土坑	244	20	108	79	13	220	4	3	6	10	23	0	1	1	
焼土	2	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
聖穴様遺構	14	0	6	5	3	14	0	0	0	0	0	0	0	0	
灰集巾	68	31	22	10	0	63	3	2	0	0	5	0	0	0	
炭化物敷中	54	6	9	28	0	43	3	0	3	5	11	0	0	0	
土器集巾	63	6	18	34	4	62	1	0	0	0	1	0	0	0	
縄集巾	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
鉄器集巾	26	0	1	16	0	17	0	2	3	4	9	0	0	0	
銅片集巾	53	2	13	24	14	53	0	0	0	0	0	0	0	0	
銅管集巾	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	114,114	5,794	18,255	36,951	2,221	63,221	13,652	15,795	11,674	8,360	49,481	285	1,027	1,412	
遺物点数	105														
若採遺物点数	114,279														

表 I-2 III層出土遺物一覧表

遺物種別	土器	剥片石器	礫石器	金属製品	鉄生産関連遺物	剥片類	礫	骨角器類	その他
小計	8,209	335	400	116	971	14,144	14,976	9	12
合計									39,172

表 I-3 V層出土遺物一覧表

遺物種別	土器	剥片石器	礫石器	土製品	石製品	剥片類	礫	その他
小計	6,644	636	412	0	0	6,002	6,340	0
合計								20,034

魚網は微量に限られる(第VII章4節)。また、周囲からは黒曜石や片岩の破片も多量に出土している。特に集中区52では台石、たたき石と共に多量の片岩破片が出土し、「粗製石畿」(松田 2007)の製作址と考えられる。出土遺物としては、宇津内IIb式土器が出土しており、土器胎土に砂粒を多く含む異質な土器片であることからの搬入品と思われる。その他、集中区49の続縄文文化期の層位であるIIIc層より刀子片1点が出土している。

〔 擦文文化期 〕

擦文文化期はB-Tm降下後の後半期を主体とし、中段段丘面T₂では焼土や土坑、礫集中などで構成される18ヵ所の集中区と人骨を伴う土壇墓1基を検出した。これらの出土層位はIIIb層下位である。4ヵ年に及ぶ調査で擦文文化期の遺物が約35,000点出土しているが、竪穴式住居跡は1軒も検出していない。おそらくこれらの集中区のうちの幾つかが平地式住居址となる可能性があるが、柱穴の配列等は確認できなかった。特に集中区35のIII F-216・224、III SB-47・53の構成は中世アイヌ文化期の平地式住居址と類似した属性を示していることから、一定の居住空間であった可能性がある。なお、III F-224からは炭化したキビが38粒出土している(第VII章5節)。

土壇墓(III GP-03)はほぼ全身の骨格を残す人骨が伴っていたが、保存状態が悪く、取り上げの結果同定に耐える資料とはならなかった(第VII章3節)。しかし、頭位方向などの埋葬形態と副葬品の出土位置関係が確認でき、当該期における葬送儀礼に関わる重要な資料を得ることができた。また、墓壇内の堆積状態から木棺構造物が推定できた。

土坑はこれまでの調査で検出されていた平面形が円形で開口部が「ろうと」状に開く形態の特徴のものが11基検出されており、今年度報告では花粉分析も行った(第VII章6節)。その他、集中区35からは風倒木痕揚げ土上を中心にシカの上顎歯列や鹿角で構成される6個体以上の頭蓋骨集中を検出し、風倒木痕の窪地内からは坏の破片が2個体出土している。道央部擦文文化期のシカの頭蓋骨集中は類例がなく今回の遺構が初例となる。また、集中区41、III F-183からはフローテーションの結果、165粒のキビ(第VII章5節)とチャートのチップが得られた。平成18年度に報告した火打石と同一石材であり、火花式発火法がこの焼土にて行われていた可能性が高い。この様な検出例は道内において最も古いものである。その他、特筆すべき遺物としては集中区26から、北方系資料の可能性が想定されるコイル鉄製製品の渦巻頭部(図III-14-5)が出土している(三浦 2001)。これらその他、包含層からは刀子類を中心とした金属製品や土師器、須恵器などの搬入系遺物が多量に出土している。本遺跡は厚真川上流域の山間部に位置しているが、これらが恒常的に流通する経路が開かれていたものと思われる。

〔 アイヌ文化期 〕

段丘面T₂では平地式住居址3軒、建物跡2軒、集中区4ヵ所などを検出している。当該期の遺構遺物群は検出層位より大きく新旧2期に細分することが可能である。

表 I-4 平成18・19年度上幌内モイ遺跡 III層遺構群一覧表

遺構名	所属時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
IIIH-08	アイヌ文化期	405	365	S・T-21・22	IIIbU	III F-144, III SB-26-34	新アイヌ期
IIIH-09	アイヌ文化期	615	510	Y・Z-16~18	IIIbM	III F-243・244, III SB-27・32・63, III BB-56	古アイヌ期
IIIH-10	アイヌ文化期	830	-	AD・AE-14~16	IIIbM	III F-160・161, III SB-31, III BB-16	最も古い住居址
集中区20	アイヌ文化期	950	850	AF・AG-16~18	IIIbM	III F-157~159, III SB-28	金鉋出土
集中区21	アイヌ文化期	1,900	1,450	E~H-34~36	IIIbM	III AS-10	III H-02と関連
集中区22	アイヌ文化期	2,350	1,250	S・T-27~31	IIIbM	III F-191, III AS-08	III H-06と関連
集中区23	アイヌ文化期	1,000	500	Z・AA-30・31	IIIbM	III F-154, III SB-25, III CB-87	
集中区24	アイヌ文化期	1,200	1,150	V・W-21・22	IIIbU	III F-145・148, III AS-07・09	III H-01と関連
集中区25	縄文文化期	825	575	S・T-21	IIIbL	III F-146・167・180, III CB-83, III PB-23, III SB-36	
集中区26	縄文文化期	1,300	1,050	T~V-22・25	IIIbL	III F-162・166, III CB-84, III SB-35	
集中区27	縄文文化期	900	850	S・T-25・26	IIIbL	III F-172・173, III PB-26	
集中区28	縄文文化期	850	700	U・V-26・27	IIIbL	III F-170・171, III PB-27・28・29	
集中区29	縄文文化期	900	700	S・T-27・28	IIIbL	III F-176・179, III SB-37	
集中区30	縄文文化期	1,200	1,150	S~U-29~31	IIIbL	III F-193・194・195・196, III PB-40, III SB-41・42	
集中区31	縄文文化期	800	600	U・V-30・31	IIIbL	III F-189, III PB-39, III SB-43	
集中区32	縄文文化期	950	750	W・X-30・31	IIIbL	III F-186・188, III PB-33・34	
集中区33	縄文文化期	1,350	1,000	U~W-31~34	IIIbL	III F-190, III CB-88, III SB-44	
集中区34	縄文文化期	1,300	700	W~Y-32~34	IIIbL	III F-185, III BB-25, III PB-35, III SB-40	
集中区35	縄文文化期	1,500	1,300	T~W-34~36	IIIbL	III F-192・216・218・219・224, III BB-37・41, III PB-42・52・54, III SB-47・53	縄文平地式住居址? シカ頭骸骨集中
集中区36	縄文文化期	650	500	Y-34・35	IIIbL	III F-214, III SB-52	
集中区37	縄文文化期	750	700	W・X-35・36	IIIbL	III F-217, III SB-51	
集中区38	縄文文化期	700	500	V~X-37・38	IIIbL	III F-210・212・227, III SB-49	
集中区39	縄文文化期	975	950	V・W-38~40	IIIbL	III F-209・211・213・215・220・222, III SB-50・57	
集中区40	縄文文化期	1,050	800	AA~AC-26~28	IIIbL	III F-168, III PB-24・25	
集中区41	縄文文化期	1,350	650	AB・AC-28~30	IIIbL	III F-183・198・202, III BB-23, III CB-86, III PB-31・32・45, III SB-38・39	火花式発火法 チップ出土
集中区42	縄文文化期	850	800	S・T-38・39	IIIbL		
集中区43	縄文文化期	900	750	F・G-47・48	IIIbL	III F-236・237, III SB-61・62	
集中区44	縄文文化期	900	600	O・P-41・42	IIIbL	III IPB-02, III PB-48	廃滓場跡

表I-4 平成18・19年度上幌内モイ遺跡 III層遺構群一覧表(続き)

遺構名	所属 時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
集中区45	統縄文 時代	1,000	745	W・X-33・34	ⅢcM	ⅢBB-26・27・28・29・30,ⅢPB-36・44, ⅢSB-46,ⅢFCB-06	
集中区46	統縄文 時代	1,025	765	W・X-35・36	ⅢcM	ⅢBB-38・43・44,ⅢPB-55,ⅢFCB-14	
集中区47	統縄文 時代	1,200	765	Z-AA-31・32	ⅢcM	ⅢPB-37・43,ⅢFCB-05・07	
集中区48	統縄文 時代	990	640	Y-Z-34・35	ⅢcM	ⅢF-203・204・205・229,ⅢBB-24, ⅢFCB-08・17・18	
集中区49	統縄文 時代	865	790	W~Y-36・37	ⅢcM	ⅢF-230,ⅢBB-42,ⅢPB-53, ⅢSB-48,ⅢFCB-10	
集中区50	統縄文 時代	815	700	W・X-37・38	ⅢcM	ⅢF-225・226,ⅢBB-36,ⅢCB-36, ⅢFCB-15・16	
集中区51	統縄文 時代	950	745	V・W-39・40	ⅢcM	ⅢF-221・223,ⅢBB-33・35・39, ⅢCB-90,ⅢFCB-09・11・12	
集中区52	統縄文 時代	640	530	U-40	ⅢcM	ⅢSB-56	片岩製石織製作址
集中区53	統縄文 時代	1,035	950	AC~AE-21・22	ⅢcM	ⅢF-178,ⅢBB-35,ⅢPB-18, ⅢFCB-02	
集中区54	統縄文 時代	975	565	P・Q-41・42	ⅢcM	ⅢCB-92,ⅢFCB-13,ⅢSB-54・58	

新しい時期の遺構としては、ⅢH-08、建物跡6・7、集中区24がある。これらは検出層位や住居址の長軸方向、炉の形態から平成16年度の調査したⅢH-01と同一時期の遺構群で分布状況も40×25mの範囲にまとまりを見せている良好なユニットと考えられる。

上記以外は古い時期のアイヌ文化期に帰属するものと思われ、楕円形の炉址2カ所が長軸上に配列されている。長軸方向は概ね南西-北東軸で、平成17年度に調査した平地式住居址群と同一方向であり矛盾しない。ⅢH-09・10は約30mの距離で位置し、ⅢH-09は周辺の遺構群とセット関係にあるものと思われる。またⅢH-10に関しても、層位などから集中区20や灰集中14(ⅢAS-14)と同一時期の遺構群と考えられる。なお、集中区20からは道内最古の出土例となる金針と銅素材(ⅡN-25-1・2)が出土している。また、ⅢF-158からはムギ類、キビ、ヒエの栽培種の炭化種子が出土している(第VII章5節)。

2. T₁の調査概要

〔縄文時代〕

この段丘面からはTピット93基と土坑4基が検出されている。TP-161を除く全てが東側のT₁Bの範囲である。包含層については平成18年度に25%調査を行ったが、出土遺物は土器片16点など計50点に留まっている。試掘調査の結果からもV層の遺物は極少数に限られていたことから、平成19年度は重機掘削による遺構確認調査とした。

Tピット群はほとんどが縄文時代中期末葉から後期初頭の洪水堆積層を被覆している。タイプ別構成はA1型37基、A2型40基、B1型24基、B2型5基、C1型7基、C2型16基である。これらのうち38基はT₂-T₁段丘座の等高線に直交する長軸方向で、段丘崖裾に配列されている。主体はA2・B1型で構成されている。この様なTピットの立地条件は道内において初例と思われる。杭跡を有するB2・C2型は調査区の北側に検出し、配列を構成するものもあった。また、坑底面に工具痕を確認できたもの(TP-154・164)もある。

〔統縄文時代〕

T₂-T₁段丘崖裾に礫集中(ⅢSB-54・58)やフレイク・チップ集中(ⅢFCB-13)などで構成される集中区

54 を検出したのみである。Ⅲ層の調査は T₁ 全面を移植ゴテによるものだが、これ以外の遺物は皆無に近い。当該期において、河川沿いの低地利用は極めて低いものと思われる。

〔 擦文文化期 〕

T₂-T₁ 段丘崖裾に集中区 44 と溝状遺構(ⅢX-05)、西側の T₁A において集中区 43 を検出した。

集中区 44 のⅢIPB-02 は廃洋場跡で、土製の羽口 10 個体と椀状滓 1 個を主体とする粘土状物質(スラグ)、鍛造剥片、炉壁に使用したと思われる板状礫が風倒木痕に関連して出土している。羽口は未焼成で、鍛冶作業にて被熱する先端部のみが出土している。胎土にはいわゆるスサと呼ばれる繊維を含んでいない。スラグ類は合計約 1,300g が出土している。この北側に約 60cm には擦文土器集中(ⅢPB-48)が出土しており、検出層位からも当該期のものと判断した。これより北西側へ約 10m には長さ 10m、幅 0.5m の溝状遺構(ⅢX-05)も検出されている。構築目的などの性格は不明であるが、構築面層位から擦文土器の小型甕 1 個体が出土している。集中区 43 は自然の窪地を利用したもので焼土(ⅢF-236・237)と礫集中(ⅢSB-61・62)で構成されている。この集中区からは、北方系資料と思われる鎖(図Ⅲ-63-9)が出土している。

〔 アイヌ文化期 〕

T₂-T₁ 段丘崖に集中区 21、土壇墓 1 基、建物跡 1 軒、獣骨集中 2 ヲ所を検出した。

集中区 21 は平成 17 年度に調査したⅢH-02 に伴う廃棄遺物群と思われる段丘崖斜面の中腹から裾にかけて散在した状態で遺物が出土している。層位もⅢb 層中位であることからⅢH-02 との同時期性において矛盾しない。

土壇墓は構築面が水田造成時に削平されており、上部構造は不明である。墓域内には人骨は遺存していなかったが、土壇墓形態や長軸・墓標穴方向、副葬品等から当該期のものと判断した。副葬品は小柄刀身、漆碗塗膜、針であることから被葬者は女性の可能性がある。他に墓標穴と思われる杭穴が 2 基検出されており、T₁ に墓域が形成されていた可能性もある。

獣骨集中はⅢBB-34 がエゾシカの頭蓋骨および下顎骨で構成(第Ⅶ章 4 節)され、Ⅲb 層上位の新しい時期のものである。調査区の北東コーナーで検出したⅢBB-51 は大木の樹根に伴って出土したもので、シカのほぼ全身部位が出土している(第Ⅶ章 4 節)。時期は Ta-b を直接被覆するもので、本遺跡において最も新しい時期の遺構となる。厚幌 1 遺跡の出土例(乾・小野 2004・ⅢAS-01)と同一時期であり、根跡の東側から出土している状態も共通している。本遺跡でもこの時期の遺構遺物が検出されていないことから、ヒグマという狩猟地での「オブニレ」の一種に相当する可能性もある。なお、同時期の遺跡としては厚真川中流域の富里地区のニタツナイ遺跡(奈良・熊谷他 2009)が調査されている。

上記のように、上幌内モイ遺跡は小中河川である厚真川の上流域に形成された遺跡ではあるものの、平成 16 年度からの 4 ヲ年の調査で予想を超えて後期旧石器時代からアイヌ文化期に至るまで多種多様な遺構・遺物が多数検出されている。

第6節 遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振支庁の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川水系に水田地帯が広がる、人口4,935人(平成20年10月31日現在)の農業の町である。町域の総面積は404.56k㎡で、流路52.3kmの二級河川厚真川流域に広がり南北32.5km、東西17.3kmと細長く、南部は約6.5kmにわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。全国においても、源流部から河口までの1河川流域で行政区域を有する自治体は数少ない。北部は、夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端部の標高200～600mの山地が続き、総面積の約70%を山林が占めている。東には、夕張山地から続く低い山地を挟んで、むかわ町と接し、北西には標高100m前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯(以下、苫東)内で苫小牧市と接している。厚真の語源は3説ほどあるが、最も有力な説として「アットマム」(at-to-mam「向こうの湿地帯」)で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという(厚真町1956)。

町内は、大きく4つの地区に分かれ、厚真川沿いに下流域の浜厚真・上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の幌内地区で、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。ここでは厚真川流域を中心に概略を述べる。

南部は砂浜が続き、明治期より地引網での鱈漁が盛んであったが、現在では、苫小牧沿岸にかけてホッキ貝の全国一の漁場となっている。かつては標高10m前後の砂丘列が発達し、背後には勇払原野の湿地帯が広がっていたが、現在は苫東地区の一部で、苫小牧東港や道内最大の火力発電所、石油備蓄タンク群等の工業用地となっている。また国道や高規格道路、鉄道があり、札幌圏から日高方面への主要幹線路ともなっている。地形的には、苫東地区の静川・源武台地と同じ様相を示し、樹枝状に開折された標高10～20m前後の支笏火山・樽前山の火山灰で構成される低平な台地と湿地、湖沼群が見られる。特に厚真川左岸から入鹿別川右岸にかけての厚和地区は静川台地と全く同じ地形・地質様相を呈している(仮称厚和台地・鯉沼台地)。中部には厚真町の中心市街があり、鶴川、平取・徳別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展していた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追山地南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中部以北では、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。北部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部で、本流とシュルク川、幌内川の3河川の合流点でもある。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、昭和5年から24年まで早来駅と結ぶガソリン機関車軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。標高400m以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との1市2町の境界線付近、標高500m付近の夕張山地南縁に源流部がある。

B 歴史的環境

(1) 先史時代

厚真町内には現在109ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、平成17年度に本遺跡で報告した後旧石器時代から近世アイヌ文化期にいたるまでである(図I-6、表I-6・7)。遺跡の分布傾

向は開発行為の多寡に左右され、南部の苫東地区や厚真川下流域から入鹿別川にかけての仮称厚和台地と仮称鯉沼台地や夕張山地から続く丘陵縁辺部、厚真川中流域の支流沿い、北部の高丘地区および幌内地区にまとまる傾向がある。遺跡の立地は、南部において湿地と隣接する台地縁辺部や湧水地付近、中部では厚真川沿いや小河川との合流点付近の河岸段丘縁辺部に多い。北部の山間部では、頗美宇川流域の高丘地区や厚幌ダム水没地域内に多く分布する。これらは安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町徳別・稲里地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と思われる。

時的には、縄文時代の最も古いもので、豊沢4遺跡の試掘調査で早期前半の物見台系貝殻土器片1点が出土している。やや時期が下って、浜厚真3遺跡で東銅路Ⅱ式土器がややまとまって出土している(北海道埋蔵文化財センター2003)。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の静内中野式期で、ショロマ2遺跡(J-13-92)、厚幌2遺跡(J-13-88)、ショロマ1遺跡(J-13-81)、ニタツナイ遺跡(J-13-104)、豊丘1遺跡(J-13-69)などでは多量の被熱礫や哺乳綱の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認されている。この時期の遺跡は湧水地点に隣接する特徴的な立地で、鹿沼7遺跡(J-13-99)やオコッコ1遺跡(J-13-107)では路頭や試掘調査で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期の遺跡数でピークを迎える。縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺跡数が激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。統縄文文化期からアイヌ文化期にかけての遺跡数も少ない。この様な各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市における傾向と一致している。

(2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究は、大きく3期に別けることが可能である。

a. 厚真村郷土史研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究(昭和20年代後半から40年代中頃)

最初の記録として、大正5年、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を、教材として学校に保管する許可書が発行されたことである(厚真村郷土研究会1956)。遺物の多くは縄文晩期初頭の土器片と思われ、数点の土偶片も出土している(厚真村郷土研究会1956、亀井1956、北海道大学附属図書館HP北方資料データベース)。その後、元厚真村長 亀井喜久太郎氏の熱心な働きかけで昭和27年に八幡一郎氏、30年に大場利夫氏等が来村し、町内の遺跡・遺物を実見している。また、亀井氏は昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報『郷土研究』で遺物の紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を刊行している(厚真村郷土研究会1956)。現在、埋蔵文化財保護の基礎資料である埋蔵文化財蔵地カードの「調査・文献」には「昭和31年7月 厚真村郷土研究会『厚真村古代史』や「昭和47年12月 厚真町郷土史研究会 踏査」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残し、礎となっている。町内で初めての組織的な発掘調査は、昭和37年に厚真村郷土史研究会によって朝日遺跡と共和遺跡で行われた。調査に関する詳細は不明だが、縄文時代晩期初頭の土器片を中心とした出土遺物がコンテナにして5箱分、厚真町教育委員会に保管されている。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模な行政発掘「苫東調査」(昭和48年から昭和54年)
昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、昭和59年までの12年間で厚真町域にかかるもので新規登載14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～撤文文化期までの資料が得られている。調査成果として、昭和51年調査の厚真1遺跡(佐藤他1986)では、この地域で初めてのTピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真1式土器」(赤

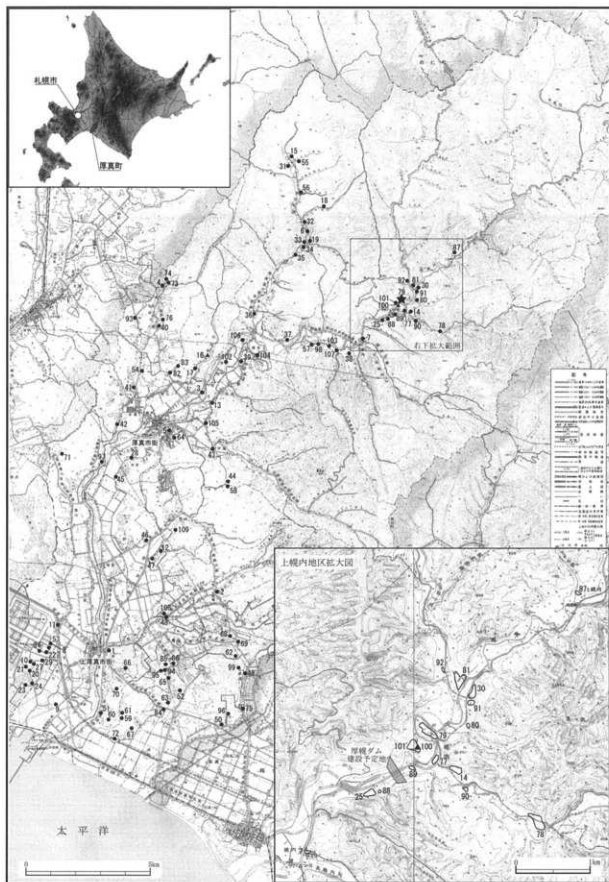


図 I-6 町内遺跡分布図

表 I-5 厚真町内遺跡一覧表

登録番号	種別	名称	時代等	文献等
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中～後期・統縄文・擦文	1
2	遺物包含地	軽舞遺跡	縄文中期・統縄文	1, 魚形石器出土?
3	遺物包含地	朝日遺跡	縄文後～晩期・統縄文・擦文、(文献1:振老～近悦府近部)・晩期土偶	1・2・3, 土偶出土
4	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中～晩期・統縄文(文献1:仁達幌)	1
5	遺物包含地	新町遺跡	縄文中期・統縄文・擦文・アイヌ(文献1:上振内)	1
6	遺物包含地	高丘1遺跡	縄文中期・統縄文	
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中期・統縄文(文献1:幌内)	1
8	遺物包含地	共和遺跡	縄文晩期・擦文	1・4
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	縄文?	
10	遺物包含地	厚真10遺跡	縄文中～晩期	5
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文晩期	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	擦文(文献1:当麻内)	1
13	遺物包含地	東和遺跡	縄文中期・統縄文(文献1:東老軽舞)	1
14	集落跡	オニキンベ1遺跡	縄文中～後期・アイヌ期?(旧幌内2遺跡)	1, ダム要発掘
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	1
16	チャン跡	桜丘チャン跡	近世アイヌ期、丘先式	6・7
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	縄文?	
19	遺物包含地	高丘10遺跡	縄文?	
20	遺物包含地	厚真1遺跡	縄文中期	5
21	遺物包含地	厚真2遺跡	縄文中期?	5
22	遺物包含地	厚真3遺跡	縄文早・中～晩期・統縄文	8
23	遺物包含地	厚真4遺跡	縄文	
24	遺物包含地	厚真5遺跡	縄文前～晩期・統縄文・擦文	9
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～後期・中世アイヌ期	10, 導水路要発掘
26	遺物包含地	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期・統縄文・擦文	4
27	遺物包含地	厚真8遺跡	縄文中～晩期	5
28	遺物包含地	美里2遺跡	縄文早・中期・アイヌ期?	
29	遺物包含地	厚真12遺跡	縄文中～晩期・擦文	8
30	遺物包含地	上幌内1遺跡	縄文中期(旧幌内3遺跡)	ダム要発掘
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文?	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文?	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文?	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文?	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	統縄文	
37	遺物包含地	富里1遺跡	縄文中～晩期(文献1:栖山)	1, 導水路要発掘
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文?	導水路要立会
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中～晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇降1遺跡	縄文・擦文・中世アイヌ期	中世陶器出土
44	遺物包含地	宇降2遺跡	統縄文	
45	遺物包含地	美里1遺跡	縄文中期(文献1:振内)	1
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	擦文	
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	統縄文	
48	遺物包含地	鯉沼1遺跡	縄文	1
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡	縄文中期	11
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡	縄文	11
51	遺物包含地	厚和1遺跡	縄文中期・近世アイヌ期(文献1:周文)	1・2・7
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中～晩期	
53	遺物包含地	厚真13遺跡	縄文早～中・晩期・統縄文・擦文	12
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文?	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前期・近世アイヌ期	近世アイヌ墓
58	遺物包含地	豊沢4遺跡	縄文早・中～後期	

表 I-5 厚真町内遺跡一覧表(続き)

登録番号	種別	名称	時代	文献等
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文中期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	溝穴遺構	鯉沼2遺跡	縄文中期	
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文中期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文前・後～晩期	14
72	遺物包含地	浜厚真3遺跡	縄文早・後期、極めて多量のTビット群	15
73	遺物包含地	ニタツポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文早・後期	
75	溝穴遺構	人鹿別沼遺跡	縄文中期?	
76	溝穴遺構	幌里3遺跡	縄文	
77	遺物包含地	オニキシベ2遺跡	縄文中～晩期・統縄文・檜文・中世アイヌ期	ダム要発掘
78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	ダム要発掘
79	遺物包含地	上幌内モイ遺跡	旧石器・縄文早・中～後期・統縄文・檜文・中近世アイヌ期	16・17・18, 本報告
80	遺物包含地	一里沢遺跡	縄文前～中期・アイヌ期	ダム要発掘
81	集落跡	シロコマ1遺跡	縄文前・後期	ダム要発掘
82	遺物包含地	東ニタツポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタツポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	溝穴遺構	鯉沼3遺跡	縄文前～後期	20・21
86	溝穴遺構	鯉沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物包含地	イクバンドユクチセ遺跡	縄文後期、厚真川最上流域の遺跡	
88	遺物包含地	厚幌2遺跡	縄文前期	導水路要発掘
89	遺物包含地	オニキシベ4遺跡	縄文	ダム要発掘
90	遺物包含地	オニキシベ5遺跡	縄文中期	ダム要発掘
91	溝穴遺構	上幌内2遺跡	縄文・アイヌ期	ダム要発掘
92	遺物包含地	シロコマ2遺跡	縄文中期	ダム要発掘
93	溝穴遺構	幌里4遺跡	縄文	
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中～後期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	統縄文・檜文	
98	遺物包含地	幌内6遺跡	縄文後期	
99	溝穴遺構	鹿沼7遺跡	縄文早～晩期、前期盛土遺構	導水路要発掘
100	チャシ跡	マチャラセナイイチャシ跡	中世アイヌ期・丘先式	ダム要発掘
101	遺物包含地	マチャラセナイイ遺跡	縄文早～後期・統縄文・中世アイヌ期	ダム要発掘
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	遺物包含地	幌内7遺跡	縄文晩期・檜文	導水路要発掘
104	遺物包含地	ニタツポロイ遺跡	縄文前・晩期	H19導水路要発掘
105	遺物包含地	宇降3遺跡	縄文中期	
106	遺物包含地	富里2遺跡	縄文後・晩期・近世アイヌ期	導水路要発掘
107	遺物包含地	オッコロ1遺跡	縄文前～後期・檜文、前期盛土遺構	導水路要発掘
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期・統縄文	
109	遺物包含地	豊沢5遺跡	縄文後期	導水路要発掘

1:厚真村郷土研究会 1956『厚真村古代史』2:亀井喜久太郎 1957『厚真出土の土偶』『先史時代』3:北海道大学付風園書館甲 北方資料データベース 4:苫小牧市教育委員会 1987『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』5:苫小牧市教育委員会 1986『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』6:亀井喜久太郎・池田実 1976『厚真の旧地名を尋ねて』7:亀井喜久太郎・池田実 1978『統縄文の旧地名を尋ねて』8:苫小牧市教育委員会 1990『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』9:苫小牧市教育委員会 1974『苫小牧東部工業地帯内埋蔵文化財分布調査報告書』10:厚真町教育委員会 2004『厚幌1遺跡』11:鶴川町教育委員会 1977『鶴川町遺跡分布調査報告』12:苫小牧市教育委員会 1992『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』IV 13:厚真町教育委員会 2001『鯉沼遺跡』14:厚真町教育委員会 2001『豊川1遺跡』15:(財)北海道埋蔵文化財センター 2003『厚真町 浜厚真3遺跡』16:厚真町教育委員会 2006a『上幌内モイ遺跡(1)』17:厚真町教育委員会 2007『上幌内モイ遺跡(2)』18:養島栄紀『松浦武四郎の旅程からみた根振東部・日高西部の古交通路』『前近代アイヌ民族における交通路の研究(図版・日高1)』19:松浦武四郎(高倉新一郎校訂・秋葉実解説) 1985『戊午東西蝦夷山田地理取調日誌』中 20:厚真町教育委員会 2005『鯉沼3遺跡』21:厚真町教育委員会 2006b『鯉沼3遺跡(2)』

石 1999)の標識遺跡でもある。厚真7遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居址8軒の検出と、石狩川中流域で数多く出土する「丸のみ形石斧」も出土している(佐藤他 1987)。また、共和遺跡では苫東地区区内で唯一の擦文文化前期の竪穴式住居址2軒が調査されている(佐藤他 1987)。これらの成果は苫小牧市教育委員会により『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』として報告書が刊行されている(佐藤他 1986・1987・1990・1992)。整理・報告後の出土遺物等は平成13年度に町教委へ返却・保管されている。

なお、厚真町域における町教委による「埋蔵文化財包蔵地資料整備の一般分布調査」は、昭和54年9月行われ、52遺跡の包蔵地カードが作成されている。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始(平成10年以降)

近年は火山灰採取などの開発に伴う試掘調査や工事立会調査が増加し、町教委による豊川1遺跡(田才他 2001)、鯉沼2遺跡(西脇他 2001)、鯉沼3遺跡(藤原他 2005・2006b、乾 2008)などの調査が行われた。高規格道路日高自動車道の建設に伴う(財)北海道埋蔵文化財センターによる浜厚真3遺跡の調査では、187基のTピットが検出されている(鎌田他 2003)。これらの調査結果では、縄文時代中期後葉以前にTピットが数多く構築されていることが分かり、周囲には比較的規模の大きい集落跡の存在が想定できる。

平成12年には北海道室蘭土木現業所より厚幌ダム建設事業に係る埋蔵文化財保護の事前協議書が提出され所在踏査や試掘調査が開始された。発掘調査は平成14年から町教委により継続的に行われ、厚幌1遺跡(乾他 2004)、上幌内モイ遺跡(乾他 2006a・2007)、オニキシベ2遺跡が調査されている。平成19年度までの6年間の調査面積は約35,000㎡に及んでいる。

平成15年には総延長24.5kmに及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、所在確認踏査や試掘調査が行われている。試掘調査等は未了の箇所があるものの、現在11遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認され、平成19年度には厚真川中流域富里地区のニタツナイ遺跡で発掘調査を行った。これらの大規模開発に伴う発掘調査は、今後数年にわたり継続して行われる予定である。

(2) 歴史時代

厚真町に係わる最初の記述は、1692(元禄5)年に書かれた「蝦夷記」でシャクシャインの戦いにおいて「於多久具印住處阿津摩ニテ討取ル」というものである(野澤 1692)。厚真中部に位置する桜丘チャシ跡は、壕の上幅11.8m、深さ3mで、Ta-b 降下後に構築・使用された可能性がある。その後、寛政年間(18世紀末)に八王子千人同心等数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鶴川間の厚真川河口周辺の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したのは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』(松浦・吉田 1962、松浦・高倉 1985)で、1858年(安政5年)6月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ(現富里)にて2泊している。この時、町内にはアツマ(厚真川口)、キムンコタン(現厚和・厚和1遺跡)、シナイ(現新町・新町遺跡)もしくはチケツヘ(現本郷)、トンニカ(現富里)、ニタツナイ(現富里・ニタツナイ遺跡周辺)、ヲフムセナイ(現幌内)の6カ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、アワ、ヒエ、インゲンなどの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、その裕福さに驚いている。しかし、直前に襲った厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記され、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。この他、猟犬としての北海道犬厚真系の活躍も記述している。上流部に関しては聞き取り



図 I-7 遺跡周辺の地形面区分図

による記述で、3穴の吊耳鉄鍋の残置伝承があるカニシユウ(現幌内・一里沢遺跡)も記述されている。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム水没地域内の試掘・発掘調査で確認された厚幌1遺跡(乾他 2004)、上幌内2遺跡、一里沢遺跡や平成16~19年度に調査された上幌内モイ遺跡(乾他 2006・2007・本書)、平成19年調査のオニキシベ2遺跡、平成17年に新規発見されたヲチャラセナイチャシ跡、平成18年に厚幌導水路建設事業関連の試掘調査で発見された富里2遺跡、平成19年調査のニタツプナイ遺跡、町公共事業の試掘調査で確認された新町遺跡のほか、厚和1遺跡、幌内5遺跡では耕作により近世アイヌ墓塚が単独で発見されている。

2. 遺跡の位置と周辺的环境

A 地理的環境

上幌内モイ遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲とした。この範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、以後、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区の中で比較的大きな支流であるオニキシベ川、ショロマ川がある。分水嶺を介してオニキシベ川は東方の鶴川水系むかわ町豊田地区へ、ショロマ川は北方の石狩川水系タ張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、上幌内モイ遺跡より約4.3km上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鶴川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区は標高約150~250mの山地に囲まれ、厚真川が浸食開折した谷状の地形で、“線状”の地域となっており、遺跡群はこれらの流域に形成された河岸段丘上に立地している。

本遺跡は厚真川の河口から約30kmの左岸に所在し、オニキシベ川とショロマ川の合流点の間に位置する。遺跡は南側にある標高約150mの無名峰から半島状に突出した段丘面 T_1 (標高約72.5-75m)と T_3 (標高69m)、段丘面 T_2 (標高約62m)を中心に形成され、標高約58mの T_1 には縄文時代のTビツ

ト群と擦文文化期の包含層が確認されている。遺跡の周辺における厚真川は北東方向からの流路が第三紀の砂岩泥岩を基盤とする半島状に突出した T_1 に阻まれ北西方向へ 90 度に流路を変え、さらに大きく膨らみをもって東方向へ折り返し、S 字状に大きく蛇行している。このため遺跡の立地する河岸段丘は周囲三方向が厚真川に囲まれた舌状に張り出す地形をなしている。このような地形は、アイヌ語で“モイ”と呼ばれていることから遺跡名を付けた。明治 29 年製版の「ライカルマイ」(図 I-9) にも明瞭に記載されており、特徴的な地形と言える。遺物包含層は T_4 (後期更新世) ~ T_1 (完新世) の段丘面に形成され、旧石器包含層は T_3 とされた標高約 69m の段丘面に存在し、対岸のヲチャラセナイ遺跡や上流の一里沢遺跡もこの面にあたる(出穂 2006)。

遺跡の立地環境として、周囲三方向が厚真川により開析されていることから、日照条件も良好で、南の無名峰から地下水が供給され遺跡の南西部の T_2 - T_3 段丘崖には湧水地点も存在している。

なお、本遺跡の北東側対岸にはやや規模の大きい地すべり地形が存在している。遺跡の低位段丘面 T_1 の洪水堆積物から間接的に推定して樽前 c テフラ降下以前に発生したのものと思われる。

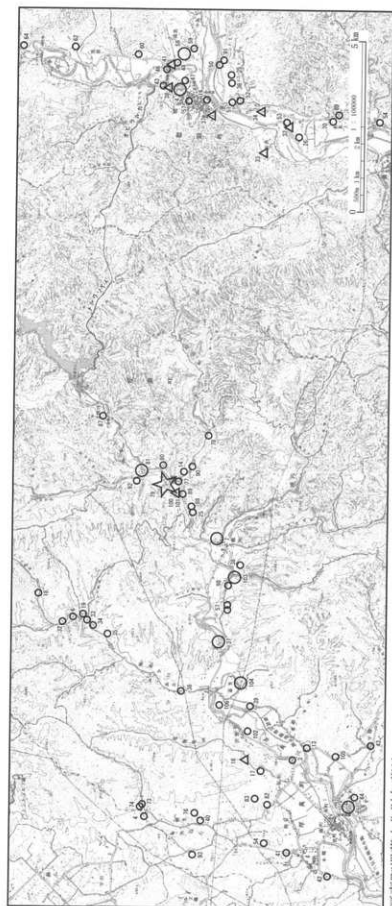
B 歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 15 遺跡が所在する(図 I-6 右下)。最上流のイクバンドユクテセ遺跡(J-13-87)は河口より約 37km の地点にあるが、地域住民の聞き取り調査から現在の厚真ダム堤体付近にも埋蔵文化財包蔵地が所在していたことがわかっている。遺跡群の時的的な特徴として、縄文時代後期初頭の余市式土器群が各遺跡から出土しており、時期の偏りも見受けられる。比較的規模の大きい遺跡は上幌内モイ・ヲチャラセナイ・シヨロマ 1・オニキシベ 1 遺跡で、試掘調査において住居址などが検出されている。いずれも厚真川本流と規模の大きい支流との合流点に面し、河岸段丘面も比較的広域である。土器型式単位で上幌内モイ遺跡と同時期と考えられる遺跡は、早期の中茶路式で厚幌 1 遺跡のみ、東釧路 IV 式で厚幌 1 遺跡とヲチャラセナイ遺跡の 2 遺跡。中期天神山式期で厚幌 1 遺跡、オニキシベ 2・5 遺跡、シヨロマ 2 遺跡、ヲチャラセナイ遺跡の 5 遺跡。柏木川式で厚幌 1 遺跡、オニキシベ 1 遺跡、シヨロマ 2 遺跡の 3 遺跡。後期初頭余市式期でオニキシベ 1・2・3 遺跡、シヨロマ 1 遺跡、ヲチャラセナイ遺跡、厚幌 1 遺跡、イクバンドユクテセ遺跡の 6 遺跡。続縄文後北 B・C₁ 式期はオニキシベ 2 遺跡とヲチャラセナイ遺跡。擦文文化期後期はオニキシベ 2 遺跡。中近世アイヌ文化期は厚幌 1 遺跡とヲチャラセナイチャシ跡、一里沢遺跡である。発掘調査が行われた遺跡は厚幌 1 遺跡(乾他 2004) と上幌内モイ遺跡(乾他 2006・2007)、オニキシベ 2 遺跡(整理中)のため、厚幌地区における先史時代については未だ不明な点が多く、今後の発掘調査に期待される。

C 松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、江戸時代末期の 1858 年(安政 5 年)に厚真を訪れた松浦武四郎の『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』(松浦他 1962、松浦他 1985)が最も古い記録である。ヲチャラセナイやカニシユウ(現一里沢遺跡)、ヲニケレベ(現オニキシベ)、シヨウロマ(現シヨロマ)などが記載されている。このうちカニシユウ(カニ・ヌ=金属の・鍋、現一里沢遺跡)では、鉄鍋の残地伝承と「其処に木幣を立てて祭り有る也。」とイナウを祀っていたことが聞き取りにより記され、3 穴の吊耳鉄鍋のスケッチも書き残されている(松浦他 1985)。

オニキシベの語源として「入口で・木を・削り・つけている・もの」とあり、「シナの木(オヒョウニレ)より樹皮を剥き採る場所」を意味するという(厚真村 1956)。ヲチャラセナイチャシ跡の



厚真町埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡名
3	朝日遺跡
4	幌川1遺跡
5	新町遺跡
6	高丘1遺跡
7	高丘2遺跡
13	東和遺跡
14	オニキンベ1遺跡
16	桜丘チャレン跡
17	桜丘1遺跡
18	高丘2遺跡
19	高丘10遺跡
25	厚幌1遺跡
32	高丘5遺跡
33	高丘6遺跡
34	高丘7遺跡
35	高丘8遺跡
36	高丘9遺跡
37	高丘11遺跡
38	幌内4遺跡
39	オニキンベ1遺跡
40	幌川2遺跡
41	本郷1遺跡
42	本郷2遺跡
43	高丘10遺跡
44	高丘11遺跡
51	本郷3遺跡
53	高丘5遺跡
54	高丘6遺跡
57	幌内5遺跡
64	新町2遺跡
73	ニタツボロ沢遺跡
74	幌里神社遺跡
76	幌里3遺跡
77	オニキンベ2遺跡
78	オニキンベ3遺跡
79	上幌内モイ遺跡
80	一里沢遺跡
81	シロヤマ1遺跡
82	東ニタツボロ1遺跡
83	東ニタツボロ2遺跡
87	イカベンニクチ七遺跡
88	厚幌2遺跡
89	オニキンベ4遺跡
90	オニキンベ5遺跡
92	シロヤマ2遺跡
93	幌里4遺跡
98	幌里6遺跡
100	ワキヤウセライチャレン跡
101	ワキヤウセライ遺跡
102	吉野1遺跡
103	幌内7遺跡
104	ニタツボロ1遺跡
105	宇保3遺跡
106	吉野2遺跡

むかわ町埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡名
4	穂別D遺跡
16	穂別H遺跡
26	和泉4遺跡
32	トロスコブチャレン跡
33	チヤップチャレン跡
34	オウレンチャレン跡
35	東玉チャレン跡
36	ニナナイチャレン跡
37	ベップチャレン跡
38	オヒワルカチャレン跡
41	陸奥チャレン跡
43	穂別S5遺跡
46	穂別A遺跡
47	穂別B遺跡
48	穂別C遺跡
50	穂別F遺跡
51	穂別F遺跡
52	穂別G遺跡
53	穂別H遺跡
54	和泉2遺跡
57	穂別2遺跡
58	陸奥1遺跡
59	陸奥3遺跡
60	空別遺跡
62	日柏台遺跡
64	キワヌ2遺跡
70	和泉3遺跡
89	和泉5遺跡
91	穂別I遺跡

図1-8 厚真川上中流域とむかわ町穂別地区遺跡分布図

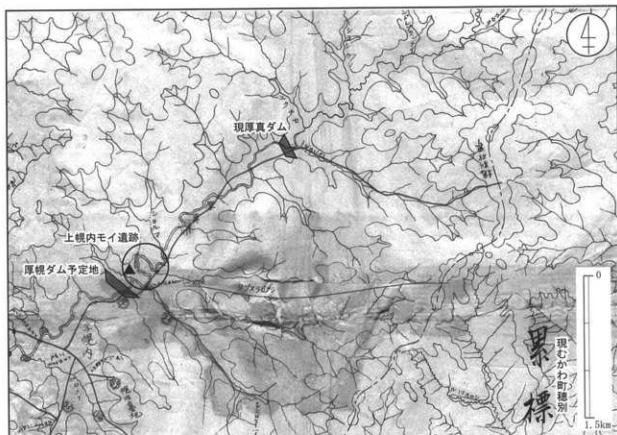


図 I-9 厚真村村道計画図 (大正9年頃作成。厚真町役場建設課土木グループ所蔵)
(明治29年製版 5万分の1「ライカルマイ」・「累標」を合成・加筆したものを125%拡大。)

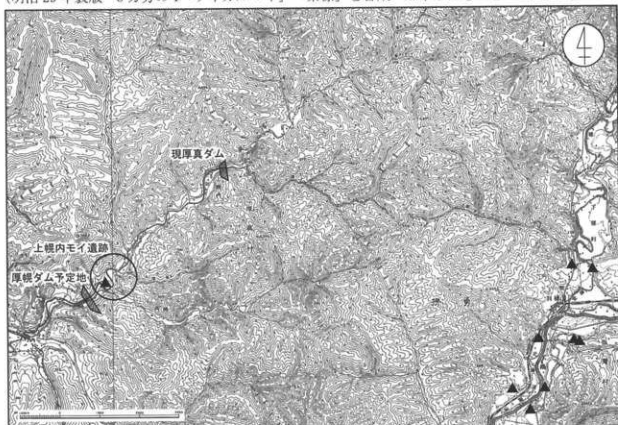


図 I-10 厚真～穂別ルート図 (昭和5年発行 5万分の1「早来」・「穂別」を合成50%縮小)

存在から、一里沢遺跡の伝承や本遺跡の調査成果と合わせイナウのことを指す可能性もあり、古来より聖地的な場所であった可能性も指摘されている(養島 2005)。

この他、大正年間に作成された「厚真村道計画路線図」(図 I-9)には厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川よりむかわ町穂別市街の北側へ続く計画路線が記されている。大正5年測図の地形図にはこのルートに幅1m以下の道も記載されている(図 I-10)。厚真側のメルクンナイの語源は「水路をもつ沢」(厚真村 1956)とされ、筆者の踏査では沢水の流れの中を歩いていくルートであったことから名づけられた地名と思われる。また、分水嶺を越えて鶴川水系穂別地区はパンケオピラルカ沢で、パンケオピラルカは「川尻が・崖・路の上」と解されている(扇谷 2003)。分水嶺は地形図から読み取っても周辺地域で最も低平な部分でもあり、厚真川水系、鶴川水系に「ル」(路)の付く地名がセットとなっていることから、古来より利用されている山越えのルートと思われる。現在は室蘭開発建設部苫小牧道路事務所により早来-平取間を結ぶ「道道北進平取線」の敷設工事が進められ、分水嶺には「オピラルカトンネル」(未開通)が建設されている。なお、パンケオピラルカは穂別川のさらに上流に位置するむかわ町穂別稲里地区に所在し、厚真ダムから稲里へ抜ける「炭鉱厚真川林道」と「中穂別林道」で結ばれている。さらに、厚幌地区内のショロマ(現ショロマ川)も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ(滝)・ル(路)・マ(泳ぎ渡る)とも読み取れる。明治29年発行の地形図には「ショルマ」と記載されており、かつては滝の中を道として馬車で木材や木炭を運び出したこと、明治・大正期の夕張山地向への熊狩の記録(厚真村史 1956)から、夕張川水系滝ノ上地区於兔牛(おそうし)へのルートが想定される。現在は「厚真川林道」で通り抜ける事が可能である。

これらのルートは厚真川本流とオニキシベ川との合流点付近で1本となり、対岸に位置するヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と穂別方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点でもある。先述のオニキシベの語源「入口で」とはこれらの山越えのルートを指し、ヒトやモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定される。

3. 調査区内の地形と地質

平成16~19年度に発掘調査が終了した標高約70~75mの T_4 、標高約68mの T_3 、標高約62mの T_2 、平成18・19年度の調査区域に標高約58mの T_1 がある(図 I-2・11)。これらの段丘面全面にはTa-b(1667年降下)が堆積しており、近世以前に離水形成された河岸段丘面である。発掘調査範囲である T_1 - T_4 の微地形については、Ta-b火山灰除去後に作成したⅢ層上面の地形測量図(図 I-11)を参考に高位段丘面 T_4 から解説する。

T_4 : 調査区の東側に位置している。遺跡内で最も高位にあり、南北に細長い尾根状となっている。南端が標高約75mと一番高く北側へ緩やかに傾斜している。西側の段丘崖は最大仰角が約40°ある。段丘北側の標高約71~73mは等高線幅も広く、平坦面が形成されている。調査区東側は河川までの比高差が約19mある浸食崖であるが、遺物の出土状態などから本来は東に広がっていたと思われる。遺跡周辺の基盤層は地質図幅説明書「早来」(松野・石田 1960)によると「振老層」と称される新第三紀の砂岩泥岩の互層堆積物である。 T_1 の基盤層は泥岩層の層理が発達し、東側の浸食崖で観察することができる。上層には第四紀堆積物である、河岸段丘堆積物、更新世末から現代までの火山活動によって降下した恵庭岳・樽前山などの火山噴出物、黒色腐植土層が堆積している。En-aテフラ(層厚未計測)は T_4 の一部に確認されているが上部を水成堆積物によって切られている(早田 2006)。

Ta-dは河岸段丘堆積物を被覆し、約1m堆積している。黒色腐植土層はTa-bとTa-dテフラの間に2層が堆積するが、T₂に比べて発達していない。

T₃: T₄の段丘面北西側に形成されている。調査区内でもっとも狭い段丘面である。標高68m付近で等高線の幅が広がり、僅かに平坦面を形成している。南側はT₄T₂と一連の段丘崖によって急な傾斜が続く。Ta-dテフラの下層には厚真町内で唯一の後期旧石器遺物包含層(IXc層)が確認されている。IXc層より上面はIII層上面に比べ標高65.3m~65.7mと、ほぼ水平な地形であった。IXc下層にはEn-a軽石を含む氾濫原堆積物があり、上層には斜面堆積物が被覆していた。Ta-dテフラは斜面堆積物を水平に被覆しており、西側段丘崖に向って層厚が減少している。黒色腐植土はT₄の斜面からT₃の平坦面にかけて発達している。

T₂: 調査区の中で面積が最も広いT₂は本遺跡の主体となる面で、縄文時代・続縄文時代・擦文文化期・アイヌ文化期の遺構・遺物が多数出土している。標高が約62mで等高線の幅が広く北東-南西方向に緩やかな傾斜をもつ地形である。微地形は21ライン付近から東西でやや様相が異なり、東側をT₂A、西側をT₂Bとする。

T₂AはT₄の半島状の地形により上流側からの厚真川の影響が弱く、上流側から下流側へ僅かに傾斜する安定的な等高線を示している。これに対しT₂Bは北東-南西方向の沢状地形が発達している。特にT₂の北西の段丘先端部側のH-23区からO-36区にかけてはより顕著に形成されており、縄文時代の土地利用においても意識され、北筒式期の遺物分布状態において明瞭に区別できる(乾他2006)。沢状地形は上流側から下流側へいくにつれ不明瞭となる特徴があり、段丘形成時の厚真川の離水状況を示した地形である。沢状地形内はVb層が約40cmと厚く堆積しており、IIIc層上位はやや明るい色調で粘性を有する。

また、T₂の全域にわたり、沖積世河岸段丘堆積物であるTa-d主体の再堆積層が発達し、その下層にフォールユニットのTa-dテフラが堆積している。再堆積層はT₂Aで50~70cm、T₂BではTビット壁面においても約1m以上の厚さである。Ta-d主体の再堆積層は河川活動による流路、流速の影響で礫、砂、Ta-d1・2Lを含む量に相違がみられ、沢状地形の発達するT₂Bでは砂層との互層堆積も発達している。T₂の微地形と堆積状態の詳細な分析は紙数および時間上の都合から割愛するが、約8,000年前のTa-d降下直後の段丘面形成過程やこの地域における当時の気候変動、火山噴火に関わる河川も含めた災害史を検討するうえで、良好な資料といえる。

上層にはTa-cを挟む黒色腐植土、V層(平均層厚40cm)とIII層(平均層厚20cm)の2層が堆積し、縄文時代以降の遺構・遺物が出土している。V層黒色土の堆積開始とともに段丘面の安定化が進み、人的活動が始まったものと思われる。より上層には耕作等の攪乱を免れた範囲で近世の火山噴出物であるTa-b、Ko-c₂、Ta-aテフラが堆積している。

T₂-T₁: 比高差約4mの段丘崖で、堆積状況は段丘崖裾においてV層黒色腐植土が厚く堆積し、基盤浸食崖を被覆し、仰角約27°からV層上面の仰角約20°への緩い斜面を形成している。段丘崖堆積の特徴として、厚真川の浸食離水状況および崩落状況を示すと思われる階段状の堆積が認められる(図I-16上段左側)。

T₁: 調査区の西側に位置し、標高は約58mで遺跡内において最も低位の段丘面にあたる。基盤層にTa-dテフラが堆積していないことから、Ta-d降下後に形成された段丘面である。現代の水田造成により削平されているが、現河川下流方向に緩やかな傾斜をもちT₂と同様な段丘面要素をもつ。

この面も上流側 A-44 区付近から下流側 I-46 区付近を結ぶ東西で大きく 2 面に分けることができ、縄文時代晩期中葉に降下した Ta-c の堆積で差異が認められる。東側の T₁B ではフォールユニットの Ta-c が堆積し、西側の T₁A では Ta-c が水成二次堆積層であった。また、この面の特徴として、V 層上位にイベント的に発生した洪水堆積物が認められる。この堆積物は遺跡対岸の地すべり地形に起因するものと考えられ、厚真川を堰き止める「土砂ダム」ないしは、一時的に流路が変化した時のものと思われる。層位より縄文時代中期末葉から後期にかけての可能性があり、厚幌 1 遺跡の地すべり堆積物と同時期の所産と思われる。厚幌 1 遺跡では年代測定の結果、約 4,000 年前と想定され、「地すべりの発生時期と馬追断層の最新活動期が重なることは注目される。」(田近他 2004)

T₁B では V 層 T₂-T₁ 段丘崖裾の地形面変換部分は段丘崖に並行する帯状の低地となっており、小規模な旧河道跡とこれに並行する自然堤防の安定した微高地で構成されている。微高地は水田造成時の削平により本来の地形を留めていない。旧河道跡からは T ビット 39 基が等高線に直行する長軸方向で密集して検出されている(図 V-2)。堆積状態は、V 層上位に厚真川対岸の地すべりに起因する灰黄褐色の砂質～粘土質シルトの洪水堆積物が認められる。平成 19 年度のトレンチでは堆積過程は不明だが、T₂-T₁ 段丘崖の中位まで堆積している。なお、T ビット群はこの堆積物を被覆している。

T₁A では標高 57m で平坦面形成し、沢状地形が発達し段丘形成時の離水状況を顕著に表す地形となっている。完全な離水時期は Ta-c 降灰直後と思われる、Ⅲ層から安定的な堆積が開始される。Ta-c は全て二次堆積層で、V 層の堆積も薄く、極短期間の安定した時期に限られる。堆積状態から、T₁A-T₁B の小規模な段丘崖裾より 7m 以西の V 層は調査対象外とした(図 I-4)。

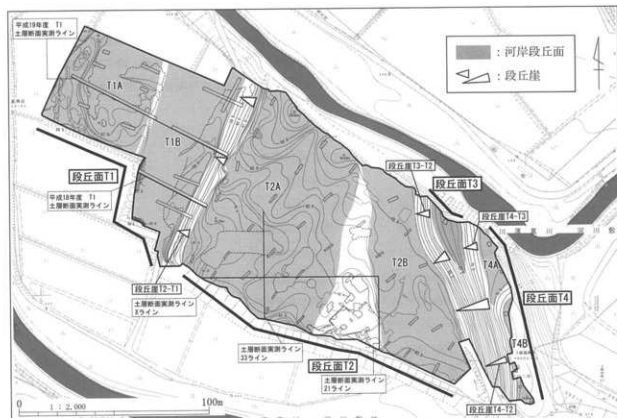
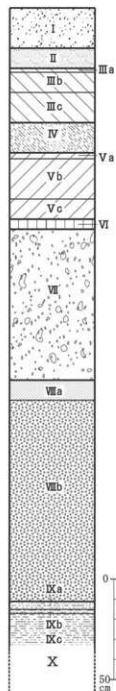


図 I-11 調査区内地形区分図および包含層堆積図実測ライン

〔基本土層〕



O層：攪乱・耕作土

I層：表土 7.5YR2/1 黒色

II層：近世火山噴出物

a；樽前aテフラ(Ta-a) 10YR6/4 にぶい黄橙色 1739年降下。

耕作により部分的に堆積。

b；駒ヶ岳c₂テフラ(Ko-c₂) 10YR8/3 浅黄橙色 1694年降下。部分的に堆積。

c；樽前bテフラ(Ta-b) 2.5Y7/3 浅黄色 1667年降下。層厚15cm前後。

III層：黒色腐植土

a；砂質シルト 7.5YR2/1 黒色 IIc層を斑状に含む。層厚1cm前後。やや赤み有り。近世初頭遺物包含層。

b；シルト 7.5YR1.7/1 黒色 やや粘性あり。層厚5cm前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期遺物包含層。下位が樞文文化期包含層。IIIb層とIIIc層との層境に白頭山苫小牧火山灰(10c前半～中頃)が部分的に堆積する。

c；砂質シルト 10YR2/2 黒褐色 層厚10cm前後。続縄文～縄文晩期後葉の包含層。

IV層：樽前cテフラ(Ta-c) 10YR6/6 明黄褐色 BP2,500～3,000年降下。層厚10cm前後。

V層：黒色腐植土

a；シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚3cm前後。縄文晩期遺物包含層。

b；シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚0～30cm。段丘崖裾では約80cm、沢状地形では約40cm堆積。T₃、T₄では未発達。縄文中・後期遺物包含層。

c；シルト 10YR2/2 黒褐色 層厚10cm前後。縄文前・中期遺物包含層。

VI層：漸移層 2.5Y4/6 褐色 暗褐色シルト。層厚5cm前後。縄文早期遺物包含層。

VII層：沖積世河岸段丘堆積物。T₂に発達。Ta-d主体の再堆積層。亜角礫を部分的に多量に含む。

a；Ta-d ローム主体 10YR5/6 黄褐色

b；Ta-d1 主体 2.5Y5/2 暗灰黄色

c；Ta-d2 主体 5Y4/8 赤褐色

d；段丘堆積砂主体 10Y6/1 灰色

e；亜角礫主体 2.5Y6/4 にぶい橙色

VIII層：樽前dテフラ(BPS, 000～9,000年降下)。T₀、T₁には堆積していない。

a；樽前d1テフラ(Ta-d1) 5G4/1 暗緑灰色 層厚10cm前後。

b；樽前d2テフラ(Ta-d2) 5YR4/8 赤褐色 層厚100cm前後。

IX層：ローム 10YR7/3 にぶい黄橙色 T₃に堆積。後期旧石器時代遺物包含層。3層に細分。

X層：礫・砂～シルト 2.5Y5/2 暗灰黄色 En-a 軽石を含む氾濫堆積物。

T₃、T₄に堆積。

XI層：恵庭aテフラ 黄白色 T₁の一部に確認される。

図 I-12 段丘面 T₂ 基本土層柱状図

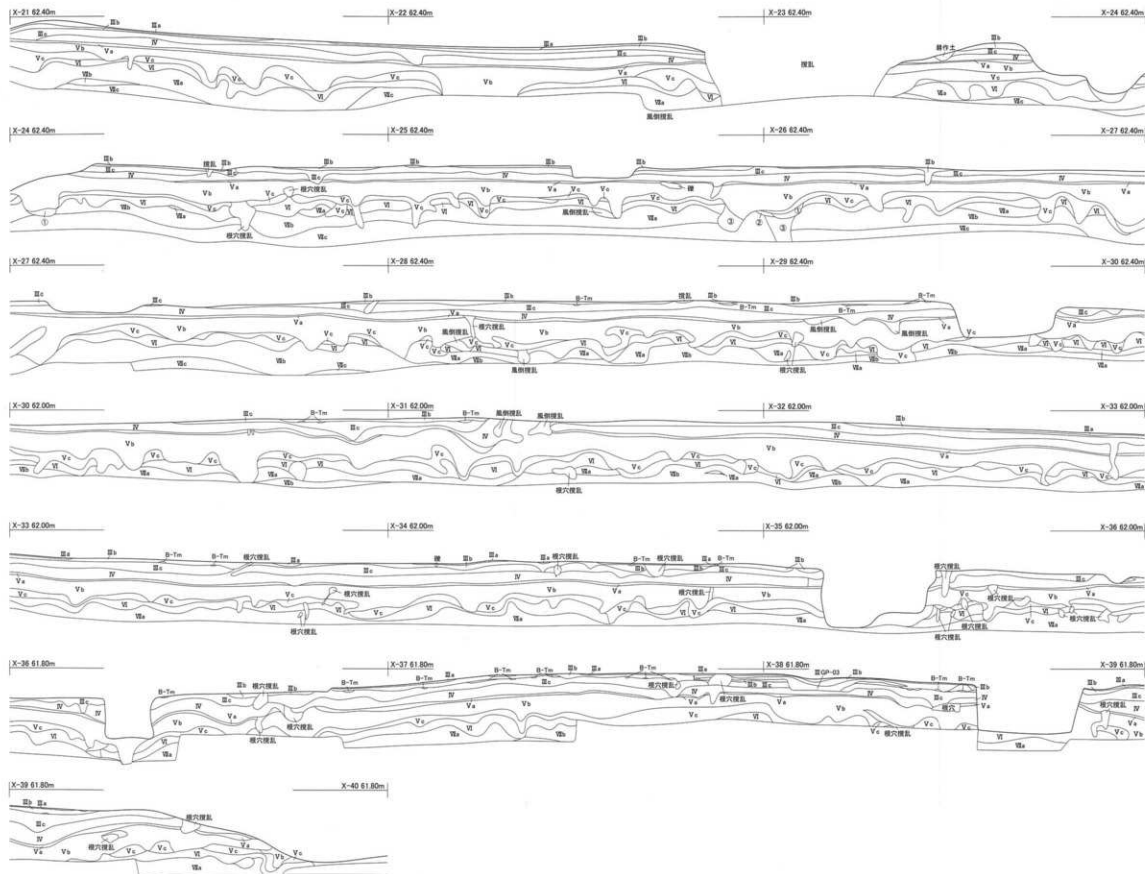


図 I-13 Xライン土層断面図

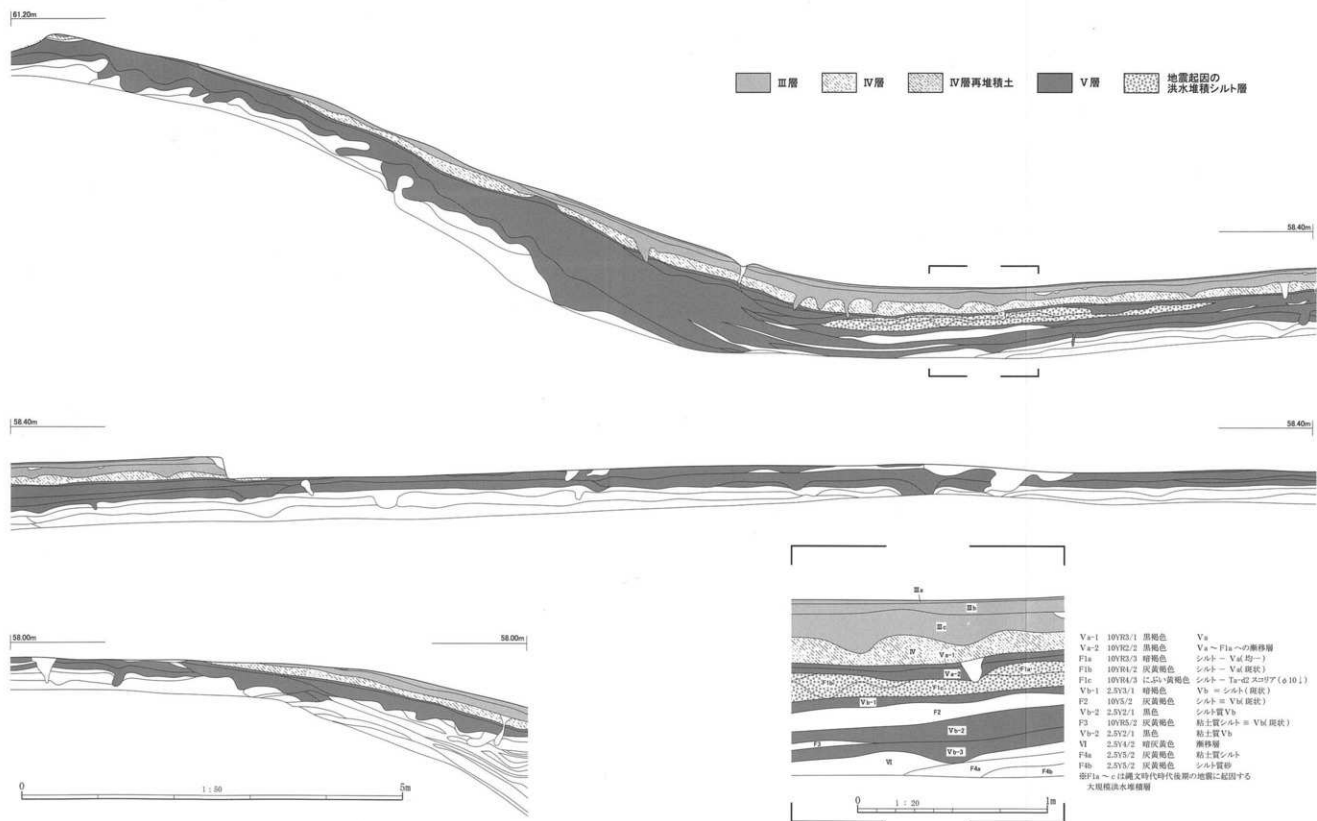


図 I-16 平成 18 年度調査区 段丘面T₁土層断面図

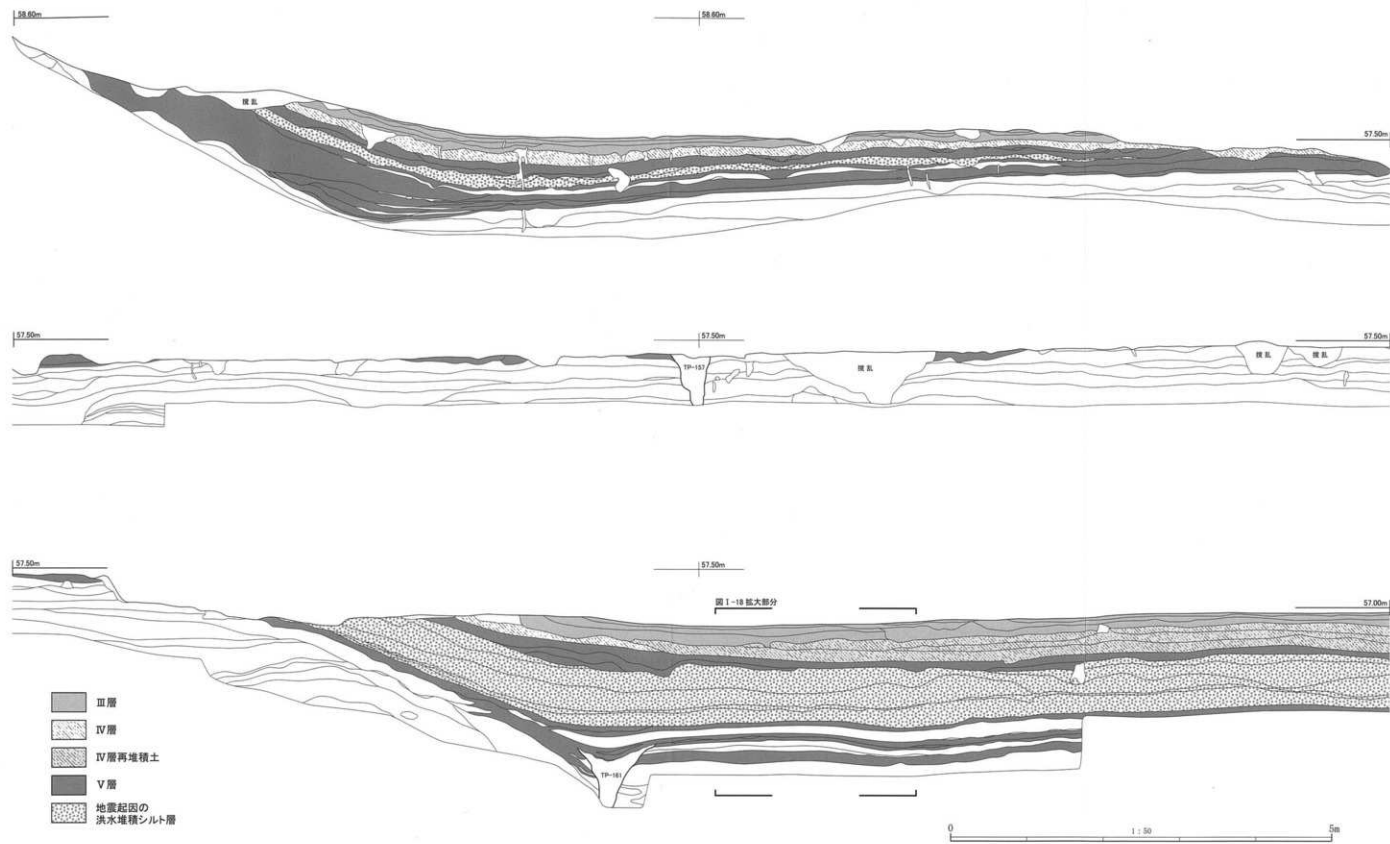


図 I-17 平成 19 年度調査区 段丘面T₁土層断面図(1)

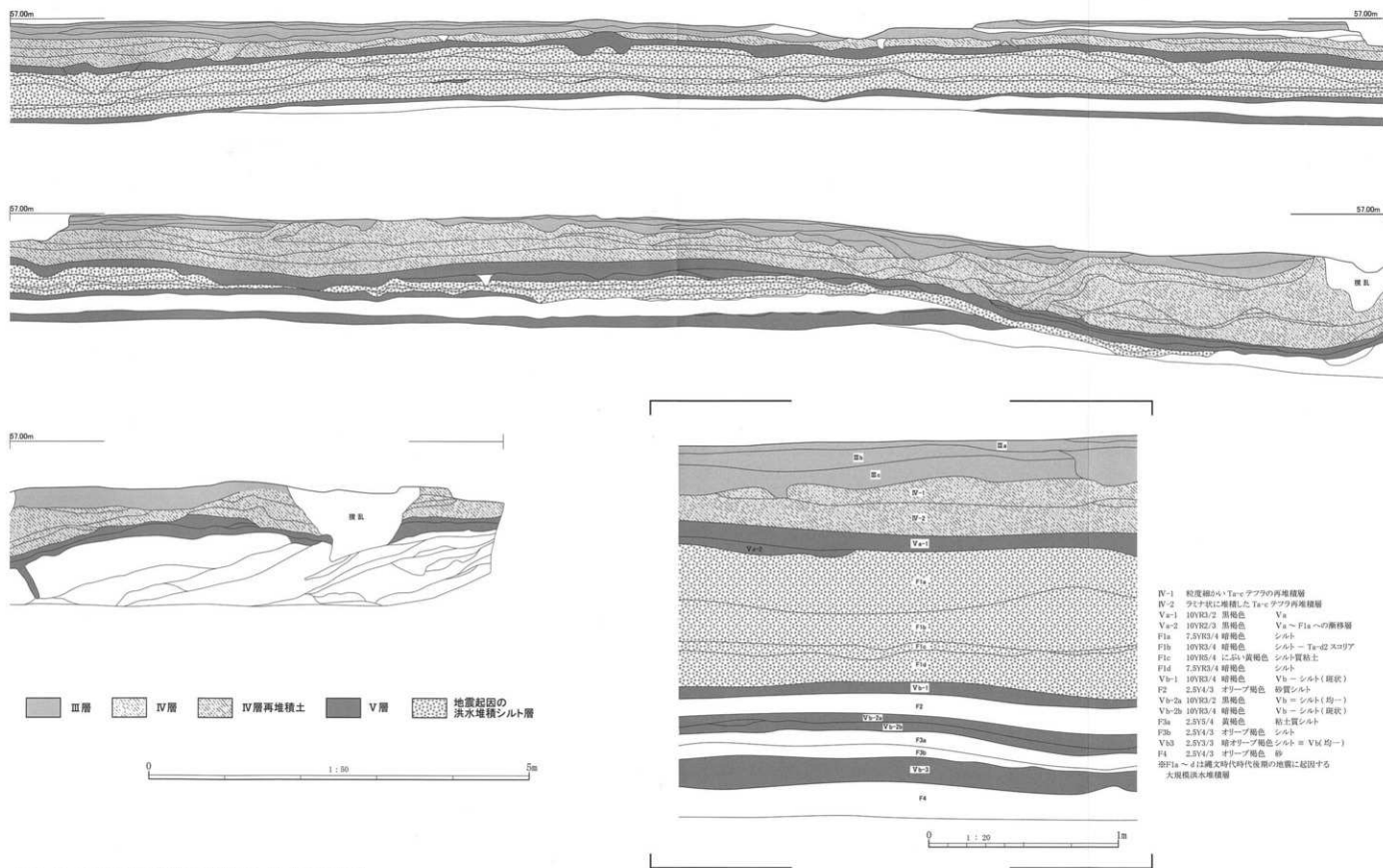


図 I-18 平成 19 年度調査区 段丘面T₁土層断面図(2)

第II章 アイヌ文化期の調査

上幌内モイ遺跡の平成18・19年度におけるアイヌ文化期の調査では、主な遺構として平地式住居址3軒、土墳墓1基、集中区4カ所、シカの獣骨集中2カ所等を検出している。これらは、平成16・17年度調査分と同様、擦文文化期終焉後から樽前bテフラ降下以前の年代幅をもつ遺構群である。ただし過年度と比べ遺構・遺物の密度は相対的に低くなっている。調査にあたっては遺構・遺物の検出層位確認を重視し、アイヌ文化期における時期差の把握に努めた。

表II-1 アイヌ文化期 遺構群一覧表

遺構名	規模 (cm)	主体部 付属施設	グリッド	層位	長軸 方向	付属遺構			関連遺構	備考
						焼土等	礫集中	獣骨集中		
ⅢH-08	405	365	S・T-21・22	ⅢbU	N-95° E	ⅢF-144	ⅢSB- 26・34	-	建物跡6・7 ⅢAS-13	掲載のⅢH中、最も 新しい
	-	-								
ⅢH-09	615	510	Y・Z-16~18	ⅢbM	N-57° E	ⅢF-243・244	ⅢSB- 27・32・63	ⅢBB-56	ⅢAS-11・12 ⅢBB-52	古い段階の住居址
	-	-								
ⅢH-10	830	-	AD・AE- 14~16	ⅢbM	N-47° E	ⅢF-160・161	ⅢSB-31	ⅢBB-16	ⅢAS-14	最も古い住居址
	-	-								
集中区20	950	850	AF・AG- 16~18	ⅢbM	-	ⅢF- 157~159	ⅢSB-28	-	-	金銀出土
集中区21	1,900	1,450	E~H- 34~36	ⅢbM	-	ⅢAS-10	-	-	ⅢH-02	
集中区22	2,350	1,250	S・T-27~31	ⅢbM	-	ⅢF-191 ⅢAS-08	-	-	ⅢH-06	骨髄出土
集中区23	1,000	500	Z・AA-30~31	ⅢbM	-	ⅢF-154	ⅢSB-25	-	-	
集中区24	1,200	1,150	V・W-21・22	ⅢbU	-	ⅢF-145・148 ⅢAS-07・09	-	-	-	

第1節 平地式住居址と関連遺構

8号平地式住居址周辺の概況

8号平地式住居址はT₂の東側、平成16年度に調査した1号平地式住居址の北西に位置する。1号と同様、住居址長軸が東西を向き、付属炉の検出もⅢbUであることから、同時期の住居址と考えられる。このことは第七章1節の年代測定結果からも追認できる。住居址西側では灰集中(ⅢAS-13)の他、建物跡6・7の2基を検出している。灰集中はⅢbUで形成されていることや、検出位置を考慮すると、8号平地式住居址と関連する遺構である可能性が高いため、ここで合わせて記載する。

8号平地式住居址 [ⅢH-08] (図II-4~5 図版5-1~9)

位置：S・T-21・22区

規模：405×365cm

長軸方向：N-95°E

付属遺構：炉跡 ⅢF-144 礫集中 ⅢSB-26, 34

確認・調査(図II-4)：重機による火山灰除去の際、T-22区のⅢa層中に斑状に分布する灰を確認した。下位に灰集中が形成されていることを想定し、土層堆積状態観察のためのベルトを灰の広がりに合わせて設定した。Ⅲa層の掘削を進めたところ、東西に長い灰集中を検出したことからⅢF-144として設定した。土壌サンプルを採取しながら灰層を半載した結果、下位に焼土が形成されていることを確認した。また周囲で棒状礫の集中(ⅢSB-26・34)も検出したことから、平地式住居址に伴う炉跡の可能性が高いと判断し、住居址としての調査に切り替えた。床面と想定される付属炉と同一

面の遺物出土状態について実測・撮影を行い、取り上げを行った後、付属炉周辺のみ台状に残し、周囲をⅢcⅡからⅣ層まで掘削し、柱穴確認作業を進めた。主体部を構成する柱穴列は確認が難しかったが、北西、南東隅を除き検出することができた。柱穴断面の記録後、完掘状態の撮影を行い調査を終了した。

付属炉(図Ⅱ-4)：住居址主体部中央にⅢF-144を検出した。厚さ6cmの灰層はⅢa層を被覆し、灰層下位にⅢb層上面から僅かに窪む焼土面が形成されていた。灰層と焼土面との層境が明瞭であったことから、灰の掻き出しが行われていた可能性が高い。

柱穴(図Ⅱ-4)：検出した柱穴は、10本で、内9本が主体部を構成している。いずれも打込みによってほぼ垂直に立てられている。「前小屋(セム)」の柱穴列は確認できなかったが、主体部より西側に外れた位置で柱穴を1本検出している(ⅢKP-127)。

遺物出土状態(図Ⅱ-4)：ⅢSB-26を含む床面遺物の分布は、入り口側と思われる西側に偏っている。東側では付属炉に隣接して小規模な礫集中であるⅢSB-34を検出した。ⅢSB-26では礫の合間から針(3)が、ⅢSB-26と付属炉の間では棒状鉄片(4~6)、板状鉄片(7~8)が出土している。付属炉の灰層中からは半分に欠損した土玉片(1)が出土した他、灰の土壌サンプルをフローテーションにかけてところ、被熱した中柄片(10)や、剥片状鉄滓(図版97-1-11)を数点回収できた。

出土遺物(図Ⅱ-5)：1は付属炉灰層中より出土した土玉片で、欠損しており半分のみが出土した。穿孔部の径は約2mmである。2はたたき石で、縦長の扁平礫を素材とし、表裏両面に敲打痕が認められる。表面には刀子状の刃物で入れられたかに見える溝状の刻みも認められ、敲打痕形成以前に複数の刻みが一定方向に入れられている。また鉄錆の付着と円形の被熱範囲も確認できた。鉄製の遺物は3の針のみが製品で、他は棒状、板状の小鉄片である。炉の灰層中から剥片状鉄滓を回収したことや、鉄錆が付着したたたき石の出土を考慮すると、この小鉄片は鉄器生産に関わる遺物である可能性が高い。9は厚さ3mmある板状の銅製品で、穴が2ヵ所並列に開けられている。10はシカの中手・中足骨を素材とした中柄片である。被熱により劣化しているが、加工時の面取りが観察でき

表Ⅱ-2 ⅢH-08属性表

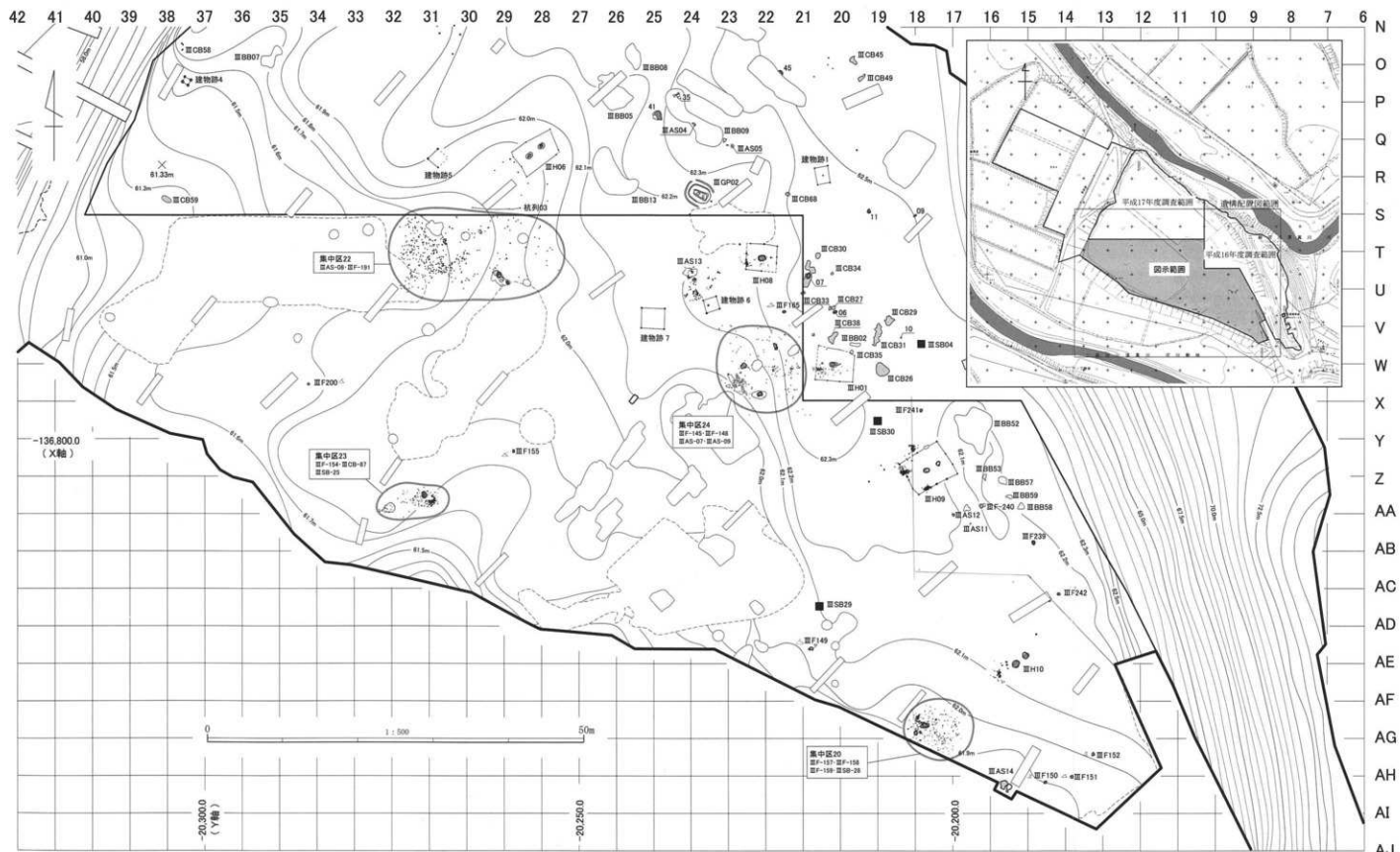
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴		付属遺構	
						主体部		付属部		本数			
						長軸	短軸	長軸	短軸	主体	付属		他
Ⅱ-4	5-1	ⅢH-08	S-T-21-22	ⅢbⅡ	N-95°E	405	365	-	-	9	-	1	ⅢF-144, ⅢSB-26-34

表Ⅱ-3 ⅢH-08付属炉属性表

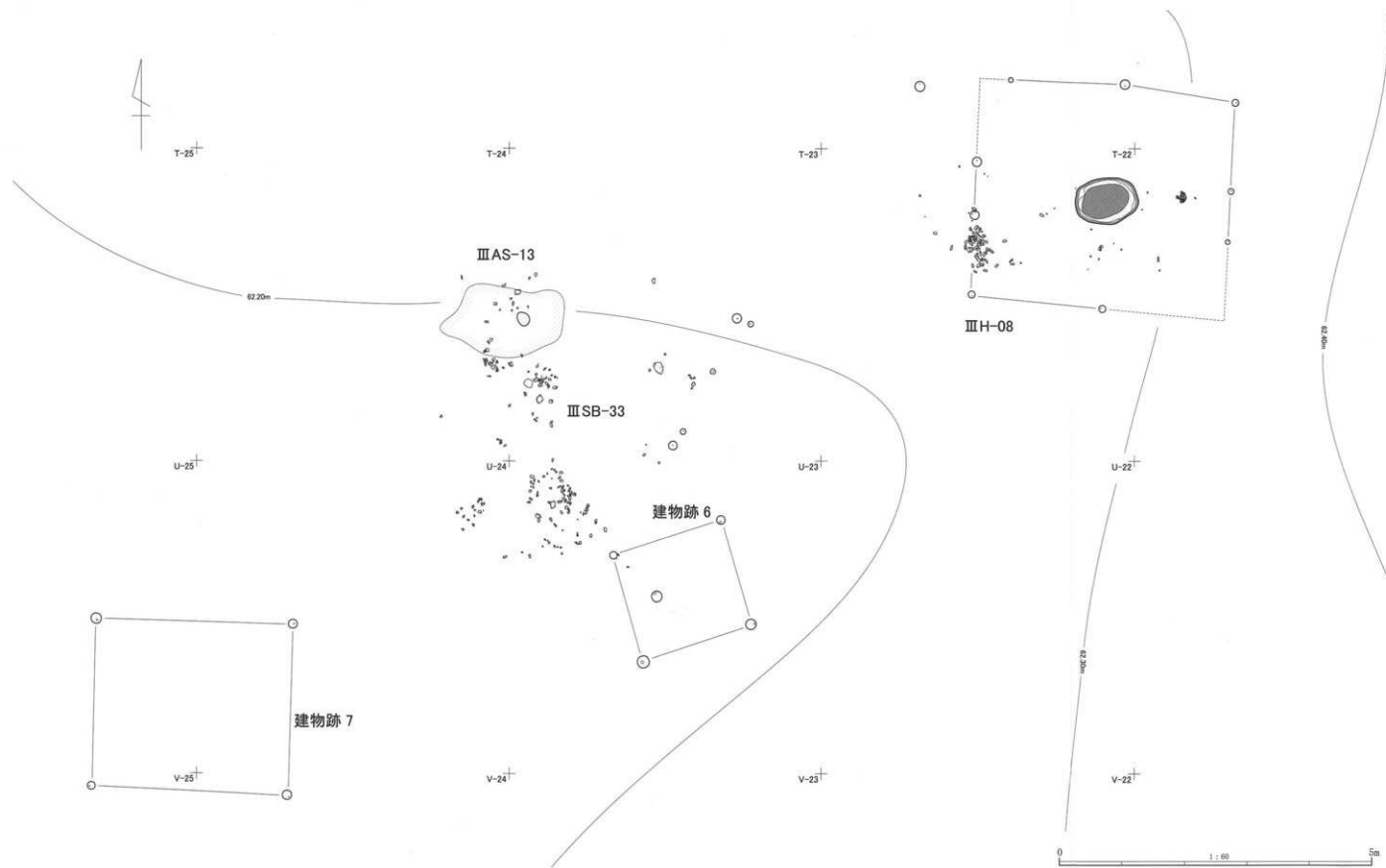
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-4	5-2-3	ⅢF-144	T-21-22	ⅢbⅡ	楕円形	102	74	20	灰・骨	

表Ⅱ-4 ⅢH-08柱穴属性表

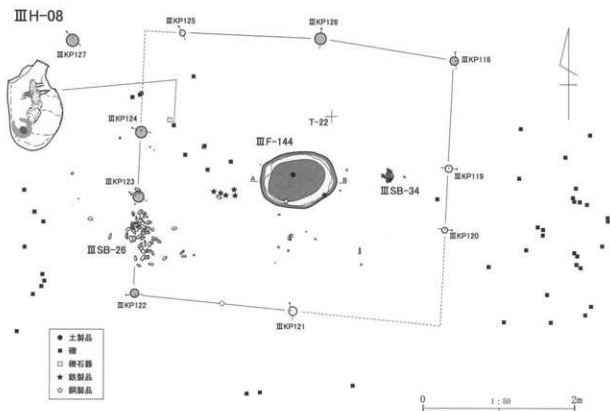
挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-4	5-6	ⅢKP-118	10	3	22	1°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-119	8	2	17	2°	打込み	
Ⅱ-4	5-7	ⅢKP-120	7	2	13	1.5°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-121	10	2	15	3°	打込み	
Ⅱ-4	5-8	ⅢKP-122	10	2	32	1°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-123	13	2	24	9°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-124	13	2	21	3°	打込み	
Ⅱ-4	5-9	ⅢKP-125	8	2	18	3°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-126	16	30	20	7°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-127	14	2	26	5.5°	打込み	



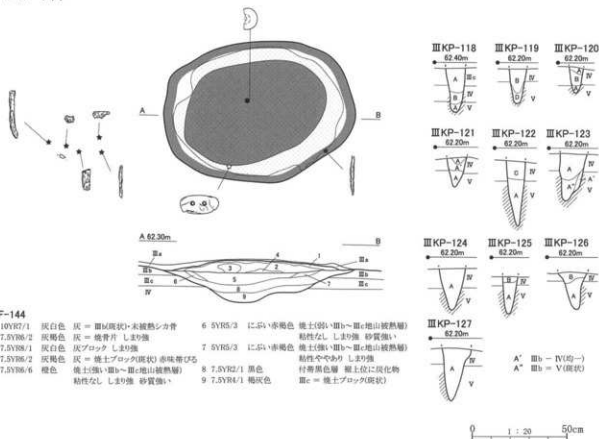
図Ⅱ-1 T₂アイヌ文化期遺構配置図



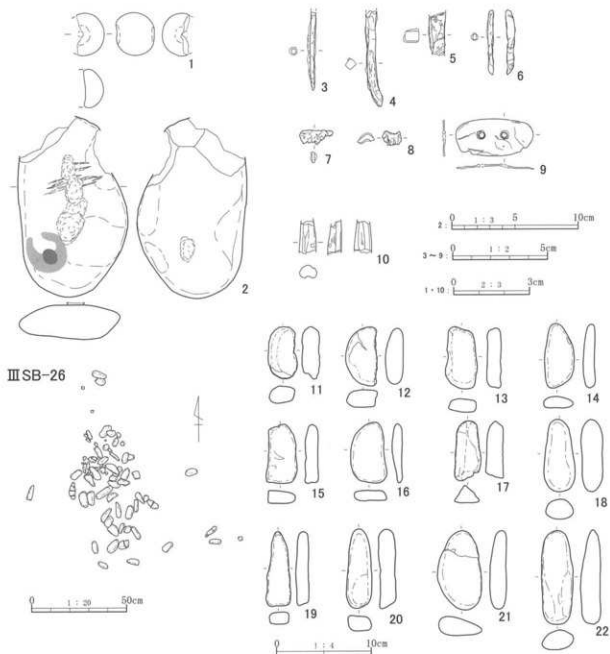
図II-3 8号平地式住居址周辺平面図



III F-144



図II-4 8号平地式住居址(III H-08)平面図及び付属施設



図Ⅱ-5 8号平地式住居址出土遺物

表Ⅱ-5 ⅢH-08出土遺物属性表

押図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-5-1	97-1	-	58464	土玉	-	2	ⅢF-144	T-22	15.0	17.0	11.0	2.5	Cray	
Ⅱ-5-2	97-2	-	55510	たたき石	I a1	ⅢbU	-	T-22	142.0	87.0	27.0	390.0	Sa.	
Ⅱ-5-3	97-3	-	55234	針	-	1	ⅢF-144	T-22	(41.5)	5.0	4.0	1.4	Irn.	
Ⅱ-5-4	97-4	-	55235	棒状鉄片	-	ⅢbU	ⅢF-144	T-22	(5.5)	10.0	6.0	4.6	Irn.	
Ⅱ-5-5	97-5	-	58385	棒状鉄片	-	ⅢbM	-	T-22	(22.5)	9.0	7.0	5.7	Irn.	
Ⅱ-5-6	97-6	-	58463	棒状鉄片	-	ⅢbM	ⅢSB-26	T-22	34.5	4.0	4.0	1.1	Irn.	
Ⅱ-5-7	97-7	-	58462	板状鉄片	-	ⅢbM	ⅢSB-26	T-22	18.0	8.0	3.5	0.5	Irn.	
Ⅱ-5-8	97-8	-	58386	板状鉄片	-	ⅢbM	ⅢSB-26	T-22	10.0	8.0	5.0	0.5	Irn.	
Ⅱ-5-9	97-9	-	55236	筋金具	-	1	ⅢF-144	T-22	4.0	19.0	3.0	2.3	Cu.	
Ⅱ-5-10	97-10	-	98671	中柄	-	2	ⅢF-144	T-22	7.0	13.0	7.0	0.4	B.	
-	97-11	-	-	剥片状鉄滓	-	2	ⅢF-144	T-22	-	-	-	<0.1	Irn.	
-	-	ⅢST0061	61046	たたき石	I a2	ⅢbM	-	T-21	152.3	(70.0)	24.1	320.0	Sa.	

表Ⅱ-6 ⅢSB-26属性表

種目 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差
-	-	-	58387	ⅢbU	完形	43.5	-27.3	36.7	5.2	23.6	6.7	1.19	-1.11	47.9	-	Con.
Ⅱ-5-11	-	-	58437	ⅢbU	完形	54.6	-16.2	26.5	-5.0	16.4	-0.5	2.06	-0.24	44.0	-	Con.
-	-	-	58434	ⅢbU	完形	56.5	-14.3	34.0	2.5	13.0	-3.9	1.66	-0.64	47.6	-	Sa.
-	-	-	58411	ⅢbU	完形	61.6	-9.2	29.0	-2.5	17.3	0.4	2.12	-0.18	31.1	-	Sa.
Ⅱ-5-12	-	-	58433	ⅢbU	完形	61.9	-8.9	33.4	1.9	18.7	1.8	1.85	-0.45	50.3	-	Sa.
-	-	-	58455	ⅢbU	磨完形	63.5	-7.3	32.5	1.0	8.7	-8.2	1.95	-0.35	23.2	-	Mud. 他1点
-	-	-	58431	ⅢbU	磨完形	63.5	-7.3	34.3	2.8	14.6	-2.3	1.85	-0.45	36.5	-	Sa. 他1点
Ⅱ-5-13	-	-	58421	ⅢbU	完形	62.0	-8.8	28.7	-2.8	14.5	-2.4	2.16	-0.14	46.6	-	Sa.
-	-	-	58458	ⅢbU	完形	63.3	-7.5	34.4	2.9	18.5	1.6	1.84	-0.46	57.9	-	Sa.
Ⅱ-5-14	-	-	58427	ⅢbU	完形	68.1	-2.7	31.3	-0.2	11.3	-5.6	2.18	-0.12	28.2	-	Sa.
Ⅱ-5-15	-	-	58457	ⅢbU	完形	62.6	-8.2	29.2	-2.3	12.9	-4.0	2.14	-0.16	44.5	-	Sa.
Ⅱ-5-16	-	-	58389	ⅢbU	完形	63.7	-7.1	35.0	3.5	10.5	-6.4	1.82	-0.48	34.2	-	Sa.
Ⅱ-5-17	-	-	58420	ⅢbU	完形	63.2	-7.6	25.1	-6.4	19.7	2.8	2.52	0.22	33.2	-	Sa.
Ⅱ-5-18	-	-	58391	ⅢbU	完形	74.7	3.9	30.0	-1.5	22.0	5.1	2.49	0.19	71.2	-	Sa.
Ⅱ-5-19	-	-	58390	ⅢbU	完形	78.3	7.5	23.0	-8.5	13.3	-3.6	3.40	1.10	39.1	-	Sa.
Ⅱ-5-20	-	-	58450	ⅢbU	完形	82.9	12.1	24.2	-7.3	16.0	-0.9	3.43	1.13	58.7	-	Sa.
Ⅱ-5-21	-	-	58441	ⅢbU	完形	83.3	12.5	45.5	14.0	17.1	0.2	1.83	-0.47	77.5	-	Sa.
Ⅱ-5-22	-	-	58425	ⅢbU	完形	99.3	28.5	33.9	2.4	20.8	3.9	3.92	0.63	78.0	-	Sa.
-	97-1-12	-	58459	ⅢbU	完形	65.5	-5.3	23.8	-7.7	11.2	-5.7	2.75	0.45	28.9	-	Sa.
-	-	-	58432	ⅢbU	完形	66.6	-4.2	34.2	2.7	13.3	-3.6	1.95	-0.35	37.0	-	Sa.
-	-	-	58442	ⅢbU	完形	66.2	-4.6	28.6	-2.9	22.2	5.3	2.31	0.01	56.5	-	Sa.
-	-	-	58447	ⅢbU	完形	65.9	-4.9	25.1	-6.4	17.4	0.5	2.63	0.33	41.8	-	Sa.
-	-	-	58452	ⅢbU	完形	69.0	-1.8	31.8	0.3	21.2	4.3	2.17	-0.13	60.7	-	Sa.
-	-	-	58424	ⅢbU	完形	71.9	1.1	36.4	4.9	14.8	-2.1	1.98	-0.32	55.6	-	Sa.
-	-	-	58460	ⅢbU	磨完形	71.5	0.7	19.5	-12.0	14.4	-2.5	3.67	1.37	30.0	-	Sa.
-	-	-	58406	ⅢbU	完形	74.0	3.2	24.1	-7.4	15.9	-1.0	3.07	0.77	41.2	-	Sa.
-	-	-	58384	ⅢbU	完形	72.4	1.6	39.5	8.0	19.7	2.8	1.83	-0.47	67.5	-	Sa.
-	-	-	58451	ⅢbU	完形	74.3	3.5	34.9	3.4	21.8	4.9	2.13	-0.17	73.6	-	Sa.
-	-	-	58435	ⅢbU	完形	75.1	4.3	34.9	3.4	18.6	1.7	2.15	-0.15	78.6	-	Sa.
-	-	-	58395	ⅢbU	完形	77.1	6.3	40.8	9.3	13.6	-3.3	1.89	-0.41	46.1	-	Sa.
-	-	-	58453	ⅢbU	磨完形	75.1	4.3	27.0	-4.5	15.4	-1.5	2.78	0.48	27.0	-	Mud.
-	-	-	58446	ⅢbU	完形	79.4	8.6	45.4	13.9	22.1	5.2	1.75	-0.55	99.5	-	Sa. 他2点
-	-	-	58423	ⅢbU	完形	79.6	8.8	41.5	10.0	19.7	2.8	1.92	-0.38	96.5	-	Sa.
-	-	-	58415	ⅢbU	完形	80.2	9.4	33.6	2.1	19.1	2.2	2.39	0.09	66.6	-	Sa.
-	-	-	58438	ⅢbU	完形	80.4	9.6	19.8	-11.7	21.3	4.4	4.06	1.76	49.4	-	Sa.
-	-	-	58439	ⅢbU	完形	84.4	13.6	27.5	-4.0	20.1	3.2	3.07	0.77	61.4	-	Sa.
-	-	-	58412	ⅢbU	磨完形	85.7	14.9	31.8	0.3	14.7	-2.2	2.69	0.39	57.8	-	Sa.
平均						70.8		31.5		16.9		2.3		52.0		
													総点数 88点		磨完形 37点	

る。11～22はⅢSB-26構成礫の一部で、長軸長の平均値約71mmのやや小ぶりの礫が主体となっている。また図示していないが付属炉東側で検出したⅢSB-34は泥岩の欠損礫のみで構成されていた。

灰集中13〔ⅢAS-13〕 (図Ⅱ-6 図版6-11・12)

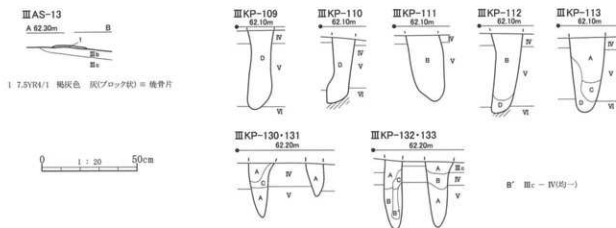
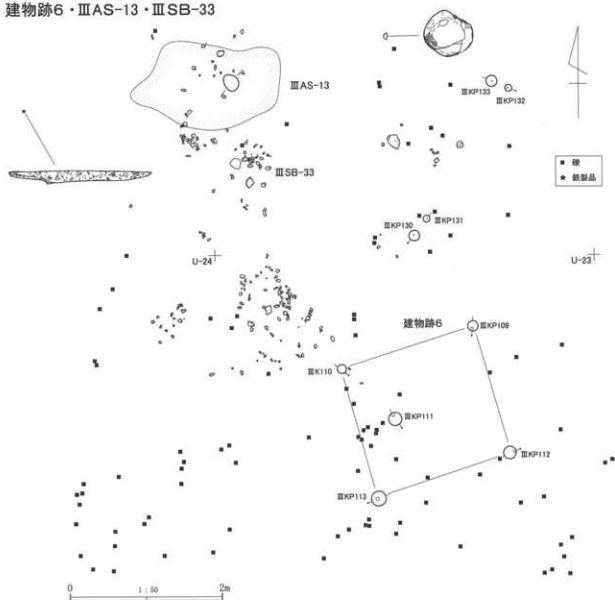
位置：T-23・24区 規模：24×18×2cm

確認・調査：T-23・24区のⅢa層を掘削した際、小規模な灰集中を検出した。当初焼土に伴う灰と想定したことから、ⅢF-145の遺構名を付け調査を進めた。しかし半截した結果下位に焼土を確認できなかったため、投棄された灰集中と判断した。ⅢAS-13の遺構名は調査終了後、報告書作成段階で改名したものである。灰の周囲では多数の棒状礫がやや散逸した状態で出土したためⅢSB-33と設定し、出土状態の記録を作成し取り上げを行った。

堆積状態(図Ⅱ-6)：ⅢAS-13の主要部分では2cm程の厚さで均質な灰が堆積し、その周囲では焼骨片のみが斑状の灰と共に分布していた。灰の下底面はほぼ水平である。

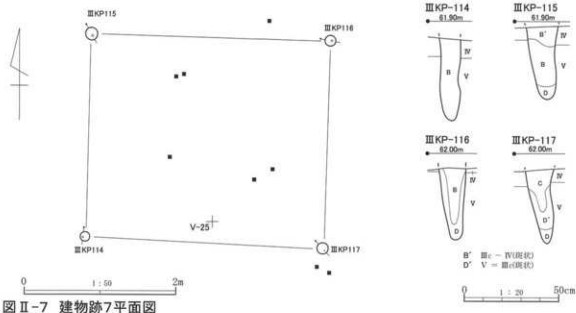
出土遺物(図Ⅱ-8)：1は楕円形礫の縁辺が使用されたたき石。2は長さ31mmのやや大型の刀子である。莖は刃縁付近から肥厚し、整形の粗雑さが目立つ。刀剣類の再加工品の可能性が高い。

建物跡6・ⅢAS-13・ⅢSB-33



図Ⅱ-6 建物跡6・灰集中13(ⅢAS-13)・杭跡平面図及び断面図

建物跡7



図II-7 建物跡7平面図

表II-7 建物跡6柱穴属性表

棟号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-6	6-1	IIIKP-109	13	5	39	4°	掘立	
II-6	6-2	IIIKP-110	11	10	33	4.5°	掘立	
II-6	6-3	IIIKP-111	16	4	33	1°	掘立	
II-6	6-4	IIIKP-112	15	8	39	3°	掘立	
II-6	6-5	IIIKP-113	18	6	36	3°	掘立	

表II-8 建物跡7柱穴属性表

棟号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-7	6-6	IIIKP-114	11	3	41	0°	打込み	
II-7	6-7	IIIKP-115	16	5	41	5°	打込み	
II-7	6-8	IIIKP-116	13	5	35	3°	打込み	
II-7	-	IIIKP-117	14	2	37	5°	打込み	

表II-9 杭跡属性表

棟号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-6	6-9	IIIKP-130	13	2	27	1°	打込み	
II-6	6-9	IIIKP-131	9	2	22	4.5°	打込み	
II-6	6-10	IIIKP-132	8	2	34	1°	打込み	
II-6	6-10	IIIKP-133	14	2	32	4°	打込み	

表II-10 IIIAS-13属性表

棟号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-6	6-11・12	IIIAS-13	T-23・24	IIIb	不整形	24	18	2	灰・骨	

建物跡6 (図II-6 図版6-1~5)

位置: U-23区 規模: 185×175cm

構成: 5本柱(IIIKP-109~113)

確認・調査: IIIH-08 南西側のIIIcM~IV層を精査中、円形のIIIb~IIIc層の落ち込みを複数検出した。半載した結果、いずれも確認面からの深さが30cm以上ある杭跡であることが解り、サイコロの5の目状に配列されていたことから建物跡6として設定した。

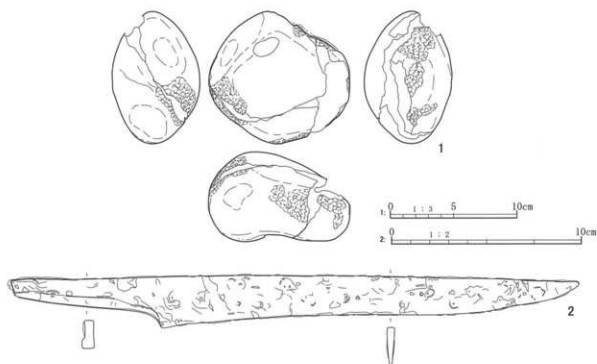


図 II-8 IIIH-08 関連遺構出土遺物

表 II-11 IIIH-08関連遺構出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-8-1	97-2-1	-	59241	たたき石	-	IIIbM	IIISB-33	-	111.0	1104.0	71.0	785.0	Sa.	
II-8-2	97-2-2	-	55812	刀子	-	IIIbU	-	T-24	31.0	29.0	6.5	121.2	Irn.	
-	-	-	59248	たたき石	IV	IIIbM	IIISB-33	-	(92.5)	74.0	75.9	840.0	Sa.	

柱 穴：IIIKP-109～113 は底面が丸味を帯びているが、底面のみがやや強くしまりをもつ例が認められたことから、掘立柱による建物跡と判断した。

建物跡 7 (図 II-7 図版 6-6～8)

位 置：U・V-24・25 区 規 模：315×270cm

構 成：4 本柱 (IIIKP-114～117)

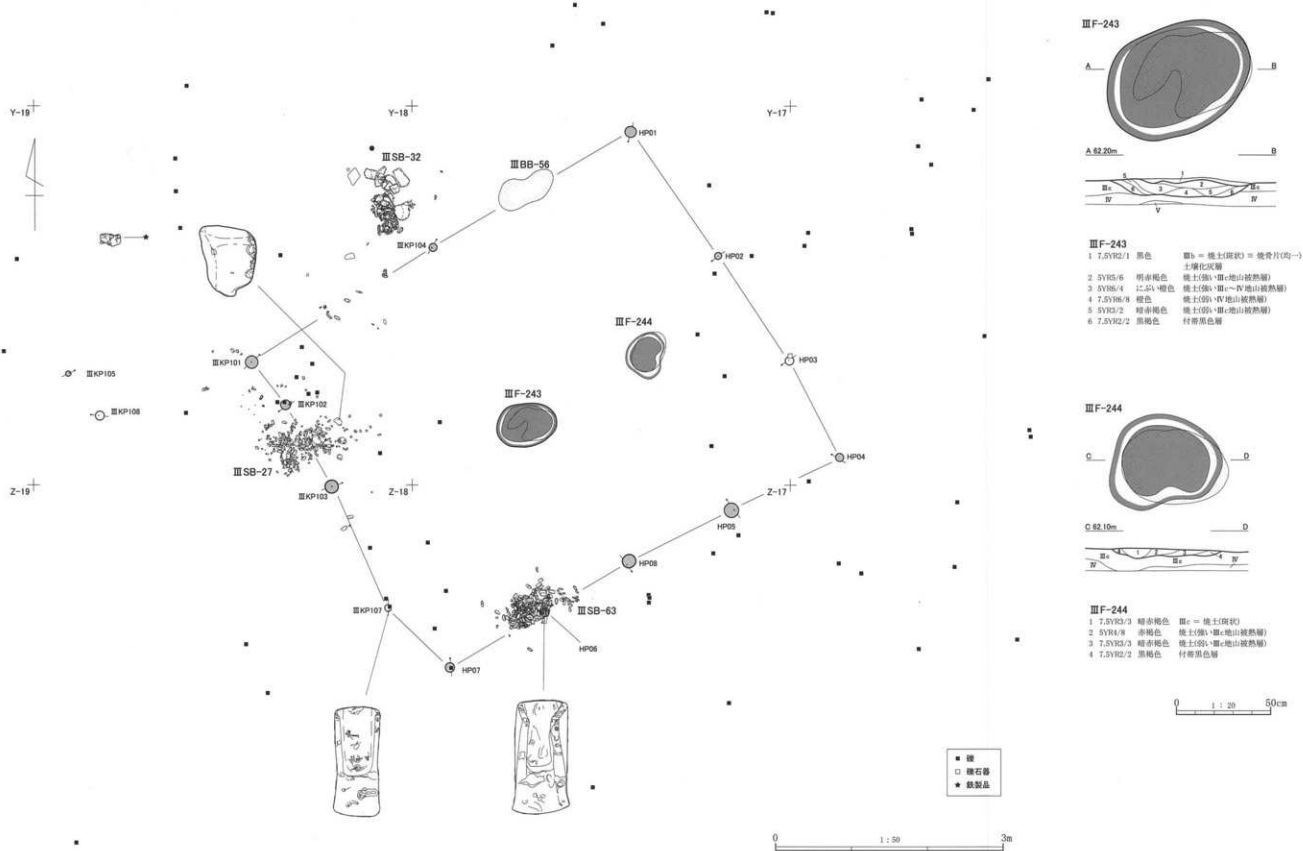
確認・調査：IIIcM～IV層上面を柱穴検出のため精査中、建物跡 6 の西側 5.4m の位置で円形のIIIc～IV層の落込みを 4 ヲ所検出した。半載した結果、いずれも深さ 30cm 以上の杭跡であることが解り、方形に配列されていたことから建物跡 7 として設定した。

柱 穴：IIIKP-114～117 は底面が尖る点で建物跡 6 の柱穴とは異なる。壁面のしまりは確認できなかったが、打ち込みによる柱穴と考えられる。

杭 跡 (図 II-6 図版 6-9・10)

柱穴検出のため T-23 区のIIIc～IV層上面を精査中、IIIKP-130～133 の 4 本の杭跡を検出した。確認面からの深さはIIIKP-131 が 22cm で最も浅く、他も 30cm 前後であり、建物跡 6・7 の柱穴と比べ全体的に浅い。配置はIIIKP-130 と 131、IIIKP-132 と 133 がそれぞれ 2 個一対で並んでいるが、規格的な配列を形成していないため、建物跡、杭列とは分け、杭跡として捉えた。

IIIH-09



図II-10 9号平地式住居址(IIIH-09)平面図及び付属炉跡

9号平地式住居周辺の概況 (図II-9)

9号平地式住居址はT₂の南東に位置する。2ヵ所の付属炉を伴い長軸が南西-北東方向を向く。付属炉の検出がⅢbMであることや、第VII章1節のAMS年代測定結果から、アイヌ文化期の中でも古い段階に位置付けられる住居址である。周囲では、北東側でシカの獣骨集中が、また南東側では灰集中を検出しており、9号平地式住居址と関連する遺構と考え、ここで合わせて記載することとした。

9号平地式住居址〔ⅢH-09〕 (図II-10~14 図版7・8)

位置：Y・Z-16~18区

規模：615×510cm 長軸方向：N-57° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-243・244 集石 ⅢSB-27・32・63 焼骨片集中 ⅢBB-56

関連遺構：獣骨集中 ⅢBB-52 灰集中 ⅢAS-11・12

確認・調査(図II-10)：本住居址は、平成18・19年度の両調査区にまたがる配置で検出した。平成18年度は集石(ⅢSB-27・32)と住居址西側柱穴の一部を検出し、この段階では建物跡の可能性は想定していたが、住居址としての認識はまだなかった。平成19年度の調査において、Y・Z-16~18区のⅢb層調査中に2ヵ所並列した焼土と、棒状礫の集中(ⅢSB-63)を検出したことから住居址の可能性を想定し調査を進めた。炉跡と集石の記録後、周囲を精査したところ、炉を囲む配置で円形のⅢb~Ⅲcの落込みを検出した。半截した結果、いずれも打ち込みによる杭跡であることが判明した。これらは平成18年度検出分と合せ、長方形プランの配列を呈していたことから住居址の柱穴と判断し、9号平地式住居址として設定した。

付属炉(図II-10)：2ヵ所の付属炉は長軸方向がやや異なり、ⅢF-243は住居址主体部と同一方向を、ⅢF-244は主体部よりも北よりに長軸方向を向けて形成されている。いずれの炉も明瞭な灰は残されておらず、焼骨片を少量含む土壌が検出面で確認できた。被熱層はⅢF-243で特に良好に形成されており、厚さ8cmを測る。ⅢF-244ではやや未発達であり、Ⅲc主体土が被熱層中に落ち込んでいた。灰の掻き出し行為により被熱層が攪乱された可能性がある。

柱穴(図II-11)：主体部を構成する柱穴として13本、また主体部の南西側に外れた位置で3本の柱穴を検出した。主体部を構成する柱穴は、HP01~08、ⅢKP-101~104・107で、そのほとんどが確認面から20cm以上の深さで打ち込まれている。大きく傾いて打ち込まれた柱穴としてHP01・04・07、ⅢKP-102・104があるが、ⅢKP-102を除きいずれも「外ふんばり」の状態で傾いている。ⅢKP-102は南西側に傾いていることから、ⅢKP-105・106・108といった主体部から外れた柱穴とともに、「前小屋(セム)」との関連が想定される。検出した柱穴の中で、HP06はⅢSB-63の礫を取りあげた後、その下位で検出しており、柱穴覆土中にも棒状礫が混入していた。

遺物出土状態(図II-10)：床面遺物として、ⅢSB-27・63の2ヵ所の集石がある。共に主体部の柱穴列上で出土しており、特にⅢSB-63は前述のようにHP06の直上で検出したことから、住居使用時の位置から動いていることが把握できる。しかし礫のまとまり方は極めて良好であったため、ほぼ同位置に高く積み上げられていたものが崩れたか、袋状のものに入れられて壁に掛けられていた可能性もある。なおⅢSB-63では礫の合間で鉄斧が出土している。住居址プランの外側では、板状の大型礫を含むⅢSB-32を検出した。構成している礫の内容から、通常住居址に伴うものとは性格の異なる集石と考えられる。

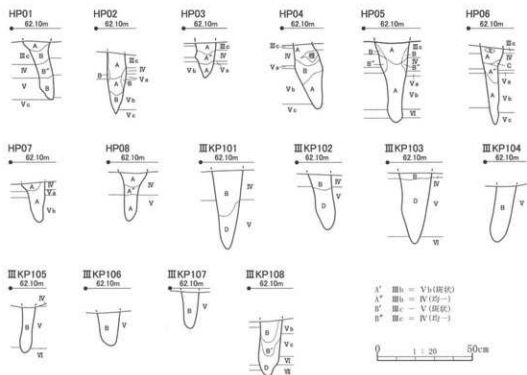


図 II-11 9号平地式住居址柱穴断面図

表 II-12 IIIH-09属性表

棟号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模 (cm)				柱穴		付風遺構	
						主体部	付風部	長軸	短軸	主体	付風		本数
II-10	7-1	IIIH-09	Y-2-16-18	IIIbM	N-57° E	615	510	-	-	13	-	3	III F-243, 244, III SB-27-63

表 II-13 IIIH-09付属炉属性表

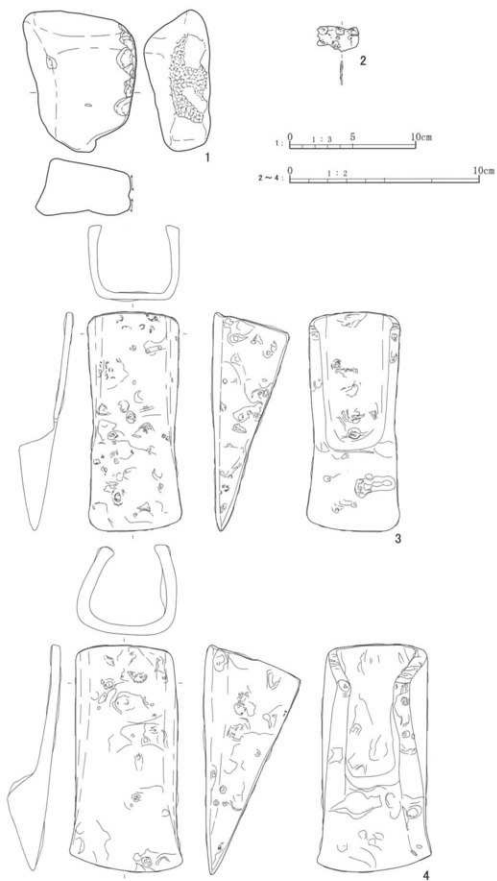
棟号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-10	7-3	III F-243	Y-17	IIIbM	楕円形	80	58	8	骨	
II-10	7-5	III F-244	Y-17	IIIbM	楕円形	60	51	5	骨	

表 II-14 IIIBB-56属性表

棟号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
II-10	-	III BB-56	Y-17	IIIbM	長楕円形	80	39	-	被熱	III H-09	

表 II-15 IIIH-09柱穴属性表

棟号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-11	-	HP01	15	3	30	15°	打込み	
II-11	-	HP02	9	12	33	0°	打込み	
II-11	8-9	HP03	10	1	17	2°	打込み	
II-11	-	HP04	10	2	34	14°	打込み	
II-11	8-10	HP05	17	5	40	4°	打込み	
II-11	-	HP06	12	2	40	5°	打込み	
II-11	8-11	HP07	11	2	20	11°	打込み	
II-11	-	HP08	14	2	24	5°	打込み	
II-11	8-5	III KP-101	15	2	39	2°	打込み	
II-11	8-6	III KP-102	11	2	27	7°	打込み	
II-11	8-7	III KP-103	16	2	35	2°	打込み	
II-11	8-8	III KP-104	10	2	28	11.5°	打込み	
II-11	-	III KP-105	7	2	23	5°	打込み	
II-11	-	III KP-106	12	6	17	2.5°	打込み	
II-11	-	III KP-107	8	2	18	1°	打込み	
II-11	-	III KP-108	11	2	28	45°	打込み	



図II-12 9号平地式住居址出土遺物(1)

表 II-16 IIIH-09出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-12-1	98-1	-	58128	たたき石	II b2	IIIbU	III SB-27	Y-18	111.0	90.0	44.0	620.0	Sa.	
II-12-2	98-3	-	57058	板状製品	-	IIIbM	-	Y-18	23.0	13.5	1.5	0.5	lrn.	
II-12-3	98-4	-	56615	鉄斧	-	IIIa	-	Z-18	115.0	51.0	40.5	330.0	lrn.	
II-12-4	98-5	-	123704	鉄斧	-	IIIbM	III SB-63	Z-17	119.0	59.0	47.5	565.0	lrn.	
-	98-2	-	58116	たたき石	IV	IIIbU	III SB-27	Y-18	(73.3)	77.9	46.8	280.0	Sa.	
-	-	-	55381	たたき石	II b2	IIIbU	-	Z-18	140.0	87.8	55.6	790.0	Sa.	
-	-	III ST002	55372	たたき石	II a1	IIIbU	-	Z-19	135.0	83.0	36.0	500.0	Sa.	

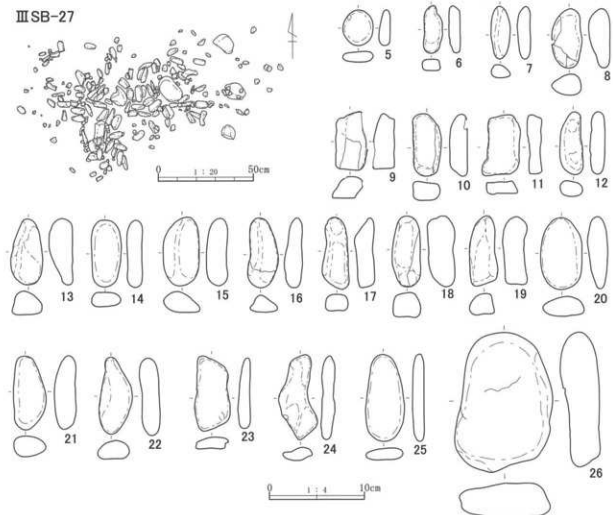
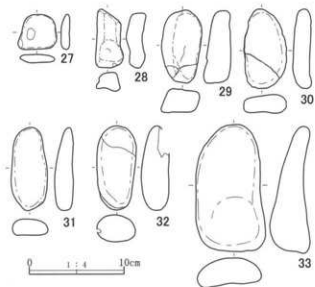
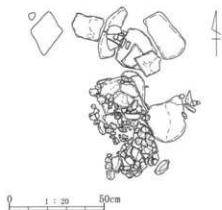


図 II-13 9号平地式住居址出土遺物(2)

出土遺物(図 II-12~14) : 1 は III SB-27 で出土したたたき石で、礫の側縁を使用している。2 は板状鉄片、3・4 は断面「コ」字形の基部をもつ袋状鉄斧である。3 は基部と刃部の境付近に、着柄時に柄を固定するための楔を通したと考えられる穿孔が認められる。4 は 3 よりも厚味があり、重量が 100 g 以上重い。共に刃部の使い減りに偏りがある。5~26 は III SB-27 を構成する礫で、被熱礫の比率がやや高い傾向がある。27~33 は III SB-32 の構成礫で、小型のもののみを図示したが、主体は大型の板状礫である。III SB-27 と同様被熱礫の比率が高い。34~59 は III SB-63 の構成礫で、被熱礫は認められなかった。

III SB-32



III SB-63

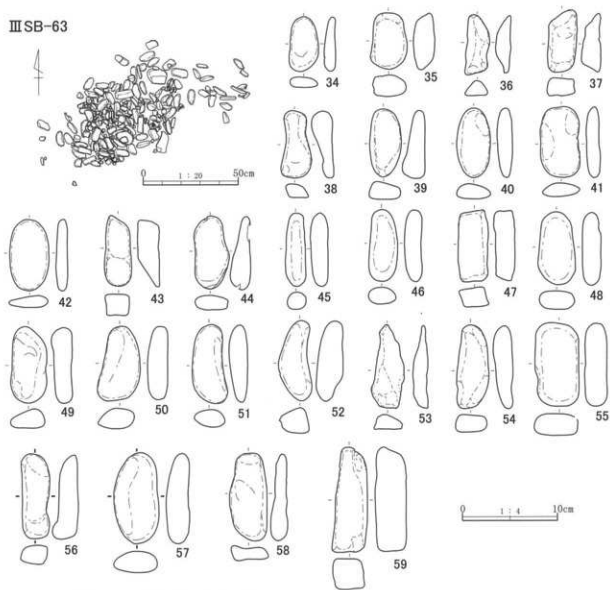


図 II-14 9号平地式住居址出土遺物(3)

表Ⅱ-17 ⅢSB-27属性表

採洞 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差							厚さ	標準 偏差
Ⅱ-13-5			58474	ⅡbM	完形	37.3	-35.0	31.7	0.4	11.6	-6.2	1.2	-1.3	18.0	-	Sa	
			58278	ⅡbM	完形	47.2	-25.1	22.0	-9.3	16.3	-1.5	2.1	-0.4	23.3	-	Sa	植1点
Ⅱ-13-6			58265	ⅡbM	完形	49.4	-22.9	18.8	-12.5	12.2	-5.6	2.6	0.1	17.3	○	Sa	
			58297	ⅡbM	完形	47.7	-24.6	14.1	-17.2	11.7	-6.1	3.4	0.9	15.7	○	Sa	
			58157	ⅡbM	完形	50.3	-22.0	22.8	-8.5	10.1	-7.7	2.2	-0.3	17.3	○	Sa	
			58480	ⅡbM	完形	50.1	-22.2	34.3	3.0	16.6	-1.2	1.5	-1.0	37.6	-	Sa	
			58277	ⅡbM	完形	52.3	-20.0	18.7	-12.6	11.6	-6.2	2.8	0.3	15.5	○	Sa	
			58194	ⅡbM	完形	52.6	-19.7	28.5	-2.8	14.8	-3.0	1.8	-0.7	38.7	-	Sa	
			58257	ⅡbM	完形	52.3	-20.0	30.2	-1.1	21.2	3.4	1.7	-0.8	44.9	○	Sa	
			58276	ⅡbM	完形	50.9	-21.4	23.8	-7.5	21.9	4.1	2.1	-0.4	48.6	-	Sa	
Ⅱ-13-7			58261	ⅡbM	完形	55.3	-17.0	20.2	-11.1	14.5	-3.3	2.7	0.2	19.8	-	Sa	
			58182	ⅡbM	完形	56.4	-15.9	33.8	2.5	10.6	-7.2	1.7	-0.8	31.2	○	Sa	
			58139	ⅡbM	完形	60.0	-12.3	29.0	-2.3	12.4	-5.4	2.1	-0.4	30.6	○	Sa	
			58485	ⅡbM	完形	61.3	-11.0	30.9	-0.4	13.7	-4.1	2.0	-0.5	46.7	-	Sa	
Ⅱ-13-8			58295	ⅡbM	完形	62.3	-10.0	31.4	0.1	21.4	3.6	2.0	-0.5	50.2	-	Sa	
Ⅱ-13-9			58145	ⅡbM	完形	61.1	-11.2	25.8	-5.5	17.6	-0.2	2.4	-0.1	49.1	○	Sa	
			58214	ⅡbM	完形	60.6	-11.7	24.6	-6.7	21.5	3.7	2.5	0.0	49.4	-	Mud.	
			58270	ⅡbM	完形	63.9	-8.4	20.5	-10.8	10.0	-7.8	3.1	0.6	18.2	-	Sa	
			58266	ⅡbM	完形	63.3	-9.0	28.0	-3.3	17.1	-0.7	2.3	-0.2	33.7	-	Sa	植2点
			58208	ⅡbM	完形	65.3	-7.0	33.7	2.4	17.3	-0.5	1.9	-0.6	56.8	-	Sa	
Ⅱ-13-10			58158	ⅡbM	略完形	65.4	-6.9	29.2	-2.1	18.9	1.1	2.2	-0.3	55.5	○	Sa	
			58258	ⅡbM	完形	64.5	-7.8	29.9	-1.4	19.5	1.7	2.2	-0.3	52.7	-	Sa	
Ⅱ-13-11			58202	ⅡbM	完形	62.1	-10.2	31.6	0.3	13.3	-4.5	2.0	-0.5	57.7	-	Sa	
			58242	ⅡbM	完形	65.4	-6.9	24.1	-7.2	14.4	-3.4	2.7	0.2	39.5	○	Sa	
			58176	ⅡbM	完形	66.9	-5.4	36.7	5.4	24.7	6.9	1.8	-0.7	86.5	-	Sa	
			58508	ⅡbM	略完形	67.3	-5.0	24.4	-6.9	19.0	1.2	2.8	0.3	41.3	○	Sa	植2点
			58141	ⅡbM	略完形	66.5	-5.8	23.6	-7.7	(15.3)	-33.1	2.8	0.3	45.7	○	Sa	
Ⅱ-13-12			58206	ⅡbM	完形	65.4	-6.9	23.0	-8.3	16.1	-1.7	2.8	0.3	37.8	-	Sa	
			58132	ⅡbM	完形	68.9	-3.4	39.2	7.9	14.3	-3.5	1.8	-0.7	63.0	○	Sa	
			58286	ⅡbM	完形	68.4	-3.9	30.1	-1.2	16.9	-0.9	2.3	-0.2	54.4	-	Sa	
Ⅱ-13-13			58195	ⅡbM	完形	69.7	-2.6	32.0	0.7	28.0	10.2	2.2	-0.3	65.0	-	Sa	
			58234	ⅡbM	略完形	71.4	-0.9	24.5	-6.8	18.4	0.6	2.9	0.4	45.3	○	Sa	
Ⅱ-13-14	98-6		58155	ⅡbM	完形	70.4	-1.9	31.0	-0.3	15.0	-2.8	2.3	-0.2	58.8	○	Sa	
			58193	ⅡbM	完形	72.2	-0.1	29.4	-1.9	20.8	3.0	2.5	0.0	55.4	-	Sa	
			58177	ⅡbM	完形	71.2	-1.1	38.2	6.9	24.1	6.3	1.9	-0.6	82.9	○	Sa	
Ⅱ-13-15			58286	ⅡbM	完形	73.1	0.8	38.5	7.2	22.0	4.2	1.9	-0.6	46.6	○	Sa	
			58191	ⅡbM	完形	73.1	0.8	34.8	3.5	13.2	-4.6	2.1	-0.4	77.8	○	Sa	
Ⅱ-13-16			58253	ⅡbM	完形	73.6	1.3	29.2	-2.1	18.3	0.5	2.5	0.0	43.5	○	Sa	植1点
Ⅱ-13-17			58135	ⅡbM	完形	75.6	3.3	24.8	-6.5	17.6	-0.2	3.0	0.5	55.1	○	Sa	
			58246	ⅡbM	完形	73.5	1.2	30.1	-1.2	20.5	2.7	2.4	-0.1	43.1	○	Sa	植1点
			58222	ⅡbM	完形	75.0	2.7	32.8	1.5	14.4	-3.4	2.3	-0.2	50.0	○	Sa	
Ⅱ-13-18			58252	ⅡbM	完形	73.7	1.4	29.8	-1.5	26.4	8.6	2.5	0.0	87.8	○	Sa	植1点
Ⅱ-13-19			58268	ⅡbM	完形	73.2	0.9	25.9	-5.4	21.0	3.2	2.8	0.3	68.7	-	Sa	
			58224	ⅡbM	完形	74.4	2.1	45.7	14.4	13.7	-4.1	1.6	-0.9	73.5	○	Sa	
			58175	ⅡbM	完形	75.6	3.3	27.0	-4.3	17.1	-0.7	2.8	0.3	43.3	○	Sa	
Ⅱ-13-20			58233	ⅡbM	完形	76.0	3.7	43.3	12.0	20.2	2.4	1.8	-0.7	79.1	○	Sa	
			58146	ⅡbM	完形	77.6	5.3	29.6	-1.7	24.9	7.1	2.6	0.1	68.9	○	Sa	植1点
Ⅱ-13-21			58200	ⅡbM	完形	77.3	5.0	34.3	3.0	22.4	4.6	2.3	-0.2	77.2	-	Sa	
			58131	ⅡbM	完形	76.6	4.3	13.1	-18.2	22.7	4.9	5.8	3.3	58.5	○	Mud.	
			58227	ⅡbM	完形	79.2	6.9	22.9	-8.4	14.3	-3.5	3.5	1.0	31.2	○	Sa	
			58176	ⅡbM	略完形	79.6	7.3	21.8	-9.5	16.6	-1.2	3.7	1.2	29.4	○	Mud.	植2点
			58275	ⅡbM	完形	78.8	6.5	27.4	-3.9	9.5	-8.3	2.9	0.4	33.6	-	Sa	植1点
Ⅱ-13-22			58220	ⅡbM	完形	81.1	8.8	33.5	2.2	18.6	0.8	2.4	-0.1	70.3	○	Sa	
			58205	ⅡbM	完形	81.5	9.2	25.1	-6.2	16.4	-1.4	3.2	0.7	41.1	-	Sa	
			58271	ⅡbM	完形	86.0	13.7	30.4	-0.9	14.0	-3.8	2.8	0.3	54.2	-	Sa	植3点
Ⅱ-13-23			58156	ⅡbM	完形	79.1	6.8	35.3	4.0	13.0	-4.8	2.2	-0.3	52.9	○	Sa	
			58188	ⅡbM	完形	81.0	8.7	34.1	2.8	23.2	5.4	2.4	-0.1	85.3	○	Sa	
			58192	ⅡbM	完形	81.9	9.6	31.0	-0.3	28.2	10.4	2.6	0.1	122.6	○	Sa	
			58197	ⅡbM	完形	85.2	12.9	35.7	4.4	20.2	2.4	2.4	-0.1	97.9	-	Sa	
			58305	ⅡbM	完形	84.5	12.2	38.0	6.7	24.6	6.8	2.2	-0.3	111.0	-	Sa	
			58201	ⅡbM	完形	86.5	14.2	35.4	4.1	22.7	4.9	2.4	-0.1	106.3	-	Sa	
Ⅱ-13-24			58147	ⅡbM	完形	89.4	17.1	30.9	-0.4	13.6	-4.2	2.9	0.4	45.8	○	Sa	
			58304	ⅡbM	完形	88.1	15.8	38.7	7.4	23.4	5.6	2.3	-0.2	84.7	-	Sa	
			58307	ⅡbM	完形	90.2	17.9	45.2	13.9	16.7	-1.1	2.0	-0.5	110.0	-	Sa	
			58219	ⅡbM	完形	91.1	18.8	37.6	6.3	30.4	12.6	2.4	-0.1	121.2	-	Sa	

表 II-17 III SB-27属性表(続き)

種図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						
—	98-6	—	58187	IIIbM	完形	88.9	16.6	33.6	2.3	25.9	8.1	2.6	0.1	85.8	○	Sa.
—		—	58484	IIIbM	完形	91.3	19.0	39.3	8.0	12.1	-5.7	2.3	-0.2	61.0	-	Sa.
—		—	58137	IIIbM	完形	92.2	19.9	25.2	-6.1	20.5	2.7	3.7	1.2	66.7	○	Sa.
—		—	58218	IIIbM	欠損	73.6	1.3	47.0	15.7	9.0	-8.8	1.6	-0.9	340.0	○	Sa.
—		—	58223	IIIbM	完形	89.8	17.5	49.9	18.6	11.4	-6.4	1.8	-0.7	390.0	○	Mud.
—		—	58165	IIIbM	完形	121.3	49.0	66.4	35.1	35.9	18.1	1.8	-0.7	760.0	○	Sa.
平均						72.3		31.3		17.8		2.5	75.4			
						総点数 248点						※完形 70点				

表 II-18 III SB-32属性表

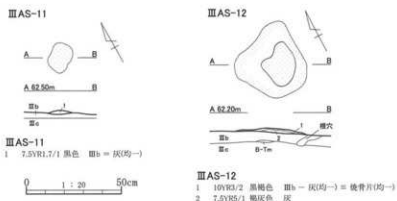
種図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
II-14-27	—	—	57243	IIIbM	完形	36.7	-92.7	37.6	-31.2	8.6	-19.3	1.0	-1.0	18.4	-	Mud.	
II-14-28	—	—	57246	IIIbM	完形	61.3	-68.1	23.9	-44.9	18.2	-9.7	2.6	0.6	38.2	○	Mud.	
II-14-29	—	III S1292	57247	IIIbM	完形	76.9	-52.5	34.2	-34.6	23.9	-4.0	2.2	0.2	112.1	○	Sa.	
II-14-30	—	—	57242	IIIbM	完形	84.1	-45.3	43.6	-25.2	18.1	-9.8	1.9	-0.1	100.0	○	Sa.	
II-14-31	—	—	57239	IIIbM	完形	87.4	-42.0	38.1	-30.7	19.3	-8.6	2.3	0.3	87.6	○	Sa.	
II-14-32	—	—	III S1293	57248	IIIbM	略完形	88.3	-41.1	39.9	-28.9	28.7	0.8	2.2	0.2	114.9	○	Sa.
II-14-33	—	—	57234	IIIbM	完形	132.5	3.1	67.4	-1.4	32.8	4.9	2.0	0.0	435.0	○	Sa.	
—	99-1	—	57259	IIIbM	完形	196.0	66.6	118.6	49.8	27.1	-0.8	1.7	-0.3	1070.0	○	Sa.	
—		—	57266	IIIbM	完形	215.0	85.6	210.0	141.2	35.7	7.8	1.0	-1.0	2820.0	○	Sa.	
—		—	51270	IIIbM	完形	234.0	104.6	194.0	125.2	46.5	18.6	1.2	-0.8	3180.0	-	Sa.	
—		—	57849	IIIbM	完形	275.0	145.6	131.5	62.7	36.8	8.9	2.1	0.1	2400.0	-	Sa.	
—		—	57265	IIIbM	完形	300.0	170.6	80.3	11.5	39.4	11.5	3.7	1.7	1880.0	-	Sa.	
平均						148.9		84.9		27.9		2.0	1021.3				
						総点数 96点						※完形 12点					

表 II-19 III SB-63属性表

種図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
II-14-34	—	—	123732	IIIbM	完形	58.1	-20.4	30.6	-4.2	11.7	-8.9	1.9	-0.5	30.2	-	Sa.	
—	—	—	123883	IIIbM	完形	59.3	-19.2	29.8	-5.0	22.5	1.9	2.0	-0.4	61.7	-	Sa.	
II-14-35	—	—	123731	IIIbM	完形	59.9	-18.6	35.6	0.8	23.6	3.0	1.7	-0.7	65.9	-	Sa.	
—	—	—	123860	IIIbM	完形	62.9	-15.6	37.8	3.0	18.6	-2.0	1.7	-0.7	48.0	-	Sa.	
—	—	—	123836	IIIbM	完形	65.0	-13.5	35.1	0.3	17.3	-3.3	1.9	-0.5	54.1	-	Sa.	
—	—	—	123851	IIIbM	完形	63.6	-14.9	25.1	-9.7	21.4	0.8	2.5	0.1	56.0	-	Sa.	
II-14-36	—	—	123711	IIIbM	完形	61.4	-17.1	23.2	-11.6	16.5	-4.1	2.6	0.2	25.8	-	Sa.	
—	—	—	123840	IIIbM	完形	67.0	-11.5	25.6	-9.2	17.9	-2.7	2.6	0.2	50.8	-	Sa.	
—	—	—	123801	IIIbM	完形	65.2	-13.3	39.2	4.4	15.0	-5.6	1.7	-0.7	58.5	-	Sa.	
II-14-37	—	—	123719	IIIbM	完形	63.9	-14.6	28.9	-5.9	21.1	0.5	2.2	-0.2	58.5	-	Sa.	
—	—	—	123824	IIIbM	完形	64.5	-14.0	37.2	2.4	18.0	-2.6	1.7	-0.7	69.5	-	Sa.	
—	—	—	123843	IIIbM	完形	61.4	-17.1	32.9	-1.9	24.2	3.6	1.9	-0.5	75.5	-	Sa.	
—	—	—	123833	IIIbM	略完形	67.2	-11.3	33.9	-0.9	10.1	-10.5	2.0	-0.4	40.7	-	Sa.	
—	—	—	123886	IIIbM	略完形	68.5	-10.0	38.1	3.3	17.4	-3.2	1.8	-0.6	59.0	-	Sa.	
—	—	—	123890	IIIbM	完形	66.8	-11.7	32.5	-2.3	16.8	-3.8	2.1	-0.3	58.5	-	Sa.	
—	—	—	123749	IIIbM	完形	68.9	-9.6	33.2	-1.6	23.0	2.4	2.1	-0.3	67.0	-	Sa.	
II-14-38	—	—	123887	IIIbM	完形	70.5	-8.0	27.9	-6.9	12.7	-7.9	2.5	0.1	41.6	-	Sa.	
—	—	—	123699	IIIbM	完形	70.2	-8.3	32.9	-1.9	19.6	-1.0	2.1	-0.3	61.7	-	Sa.	
—	—	—	123786	IIIbM	完形	71.4	-7.1	24.7	10.1	16.1	-4.5	2.9	0.5	41.4	-	Sa.	
—	—	—	123798	IIIbM	完形	71.3	-7.2	28.7	-6.1	22.3	1.7	2.5	0.1	46.4	-	Sa.	
—	—	—	123842	IIIbM	完形	71.7	-6.8	35.4	0.6	21.3	0.7	2.0	-0.4	75.1	-	Sa.	
II-14-39	—	—	123698	IIIbM	完形	70.8	-7.7	32.3	-2.5	17.0	-3.6	2.2	-0.2	62.8	-	Sa.	
—	—	—	123882	IIIbM	完形	70.9	-7.6	27.8	-7.0	22.6	2.0	2.6	0.2	70.0	-	Sa.	
—	—	—	123863	IIIbM	完形	71.2	-7.3	35.4	0.6	17.7	-2.9	2.0	-0.4	59.0	-	Sa.	
II-14-40	—	—	123751	IIIbM	完形	72.2	-6.3	36.0	1.2	16.6	-4.0	2.0	-0.4	53.5	-	Sa.	
—	—	—	123820	IIIbM	完形	73.0	-5.5	35.9	1.1	24.1	3.5	2.0	-0.4	70.8	-	Sa.	
—	—	—	123888	IIIbM	完形	72.0	-6.5	32.2	-2.6	21.1	3.5	2.2	-0.2	77.6	-	Sa.	
—	—	—	III S1280	123727	IIIbM	完形	74.0	-4.5	35.0	0.2	27.1	6.5	2.1	-0.3	75.3	-	Sa.
II-14-41	—	—	123791	IIIbM	完形	74.5	-4.0	39.1	4.3	13.9	-6.7	1.9	-0.5	64.0	-	Sa.	
II-14-42	—	—	123838	IIIbM	完形	74.9	-3.6	40.9	6.1	12.6	-8.0	1.8	-0.6	51.5	-	Sa.	
—	—	—	123752	IIIbM	完形	73.8	-4.7	40.3	5.5	26.1	5.5	1.8	-0.6	104.2	-	Sa.	

表Ⅱ-19 ⅢSB-63属性表(続き)

押印 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	部位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差
Ⅱ-14-43	-	-	123892	ⅢbM	完形	76.1	-2.4	27.2	-7.6	23.9	3.3	2.8	0.4	66.2	-	Sa.
Ⅱ-14-44	-	-	123736	ⅢbM	完形	74.5	-4.0	31.5	-3.3	21.6	1.0	2.4	0.0	55.3	-	Sa.
-	-	-	123734	ⅢbM	完形	76.8	-1.7	34.8	0.0	17.0	-3.6	2.2	-0.2	64.9	-	Sa.
-	-	-	123852	ⅢbM	完形	74.9	-3.6	27.7	-7.1	17.0	-3.6	2.7	0.3	54.7	-	Sa.
-	-	-	123705	ⅢbM	完形	75.5	-3.0	35.0	0.2	20.4	-0.2	2.2	-0.2	67.6	-	Sa.
Ⅱ-14-45	-	-	123857	ⅢbM	完形	76.6	-1.9	19.5	-15.3	18.0	-2.6	3.9	1.5	42.2	-	Sa.
Ⅱ-14-46	-	-	123855	ⅢbM	完形	75.4	-3.1	28.7	-6.1	17.5	-3.1	2.6	0.2	56.5	-	Sa.
-	-	-	123757	ⅢbM	略完形	76.3	-2.2	42.6	7.8	17.8	-2.8	1.8	-0.6	70.4	-	Sa.
-	-	-	123721	ⅢbM	完形	74.9	-3.6	41.5	6.7	20.9	0.3	1.8	-0.6	100.0	-	Sa.
-	-	-	123709	ⅢbM	完形	75.6	-2.9	28.0	-6.8	14.4	-6.2	2.7	0.3	39.9	-	Sa.
-	-	-	123745	ⅢbM	完形	72.0	-6.5	27.2	-7.6	20.7	0.1	2.6	0.2	67.2	-	Mud.
-	-	-	123795	ⅢbM	完形	75.5	-3.0	27.5	-7.3	15.3	-5.3	2.7	0.3	67.8	-	Sa.
-	-	-	123793	ⅢbM	略完形	71.2	-7.3	35.9	1.1	20.5	-0.1	2.0	-0.4	78.9	-	Sa.
Ⅱ-14-48	-	-	123872	ⅢbM	完形	76.7	-1.8	37.3	2.5	19.5	-1.1	2.1	-0.3	87.5	-	Sa.
-	-	-	123695	ⅢbM	完形	72.4	-6.1	37.1	2.3	25.4	4.8	2.0	-0.4	94.8	-	Sa.
Ⅱ-14-42	-	-	123799	ⅢbM	完形	77.1	-1.4	42.9	8.1	22.1	1.5	1.8	-0.6	95.7	-	Sa.
-	-	-	123891	ⅢbM	完形	79.2	0.7	39.7	4.9	16.9	-3.7	2.0	-0.4	78.3	-	Sa.
Ⅱ-14-49	-	-	123758	ⅢbM	完形	80.7	2.2	36.3	1.5	19.4	-1.2	2.2	-0.2	86.9	-	Sa.
-	-	ⅢS1267	123717	ⅢbM	完形	78.5	0.0	39.0	4.2	33.5	12.9	2.0	-0.4	121.5	-	Sa. 植1点
-	-	-	123724	ⅢbM	完形	80.7	2.2	37.8	3.0	26.2	5.6	2.1	-0.3	102.6	-	Sa.
Ⅱ-14-50	-	-	123794	ⅢbM	完形	78.4	-0.1	38.8	4.0	21.8	1.2	2.0	-0.4	90.0	-	Sa.
-	-	ⅢS1278	123790	ⅢbM	略完形	75.2	-3.3	37.1	2.3	26.3	5.7	2.0	-0.4	76.1	-	Mud. 植2点
-	-	-	123800	ⅢbM	完形	78.5	0.0	34.1	-0.7	14.6	-6.0	2.3	-0.1	56.2	-	Sa.
-	-	-	123697	ⅢbM	完形	76.4	-2.1	25.5	-9.3	24.4	3.8	3.0	0.6	81.0	-	Sa.
-	-	-	123789	ⅢbM	完形	82.5	4.0	34.5	-0.3	14.7	-5.9	2.4	0.0	59.4	-	Sa.
Ⅱ-24-57	99-2	-	123837	ⅢbM	完形	83.0	4.5	32.4	-2.4	19.7	-0.9	2.6	0.2	71.3	-	Sa.
-	-	-	123766	ⅢbM	完形	83.5	5.0	30.8	-4.0	19.1	-1.5	2.7	0.3	79.2	-	Sa.
-	-	ⅢS1275	123710	ⅢbM	完形	84.2	5.7	26.3	-8.5	16.9	-3.7	3.2	0.8	57.9	-	Sa. 植1点
Ⅱ-14-52	-	-	123797	ⅢbM	完形	85.4	6.9	28.8	-6.0	26.9	6.3	3.0	0.6	85.1	-	Sa.
-	-	-	123856	ⅢbM	完形	83.7	5.2	36.6	1.8	24.5	3.9	2.3	-0.1	117.6	-	Sa.
-	-	-	123862	ⅢbM	完形	85.5	7.0	43.3	8.5	25.2	4.6	2.0	-0.4	112.6	-	Sa.
Ⅱ-14-53	-	-	123714	ⅢbM	完形	87.1	8.6	29.9	-4.9	14.7	-5.9	2.9	0.5	36.9	-	Sa.
-	-	-	123854	ⅢbM	完形	84.4	5.9	37.7	2.9	13.8	-6.8	2.2	-0.2	68.3	-	Sa.
Ⅱ-14-54	-	-	123844	ⅢbM	完形	88.4	9.9	31.5	-3.3	18.8	-1.8	2.8	0.4	66.2	-	Sa.
-	-	-	123825	ⅢbM	完形	86.1	7.6	30.5	-4.3	23.5	2.9	2.8	0.4	98.9	-	Sa.
-	-	-	123861	ⅢbM	完形	87.7	9.2	41.6	6.8	14.6	-6.0	2.1	-0.3	82.0	-	Sa.
-	-	-	123723	ⅢbM	完形	87.7	9.2	46.1	11.3	23.4	2.8	1.9	-0.5	166.6	-	Sa.
-	-	-	123873	ⅢbM	完形	87.2	8.7	31.0	-3.8	17.6	-3.0	2.8	0.4	85.4	-	Sa.
-	-	-	123739	ⅢbM	完形	85.6	7.1	27.6	-7.2	21.8	1.2	3.1	0.7	106.9	-	Sa.
-	-	-	123826	ⅢbM	完形	90.6	12.1	25.7	-9.1	20.0	-0.6	3.5	1.1	87.9	-	Sa.
-	-	-	123747	ⅢbM	完形	91.0	12.5	30.7	-4.1	27.4	6.8	3.0	0.6	102.0	-	Sa. 植1点
-	-	-	123811	ⅢbM	完形	94.8	16.3	27.8	-7.0	16.0	-4.6	3.4	1.0	54.4	-	Sa.
-	-	-	123858	ⅢbM	完形	93.7	15.2	46.3	11.5	23.1	2.5	2.0	-0.4	131.4	-	Sa.
-	-	-	123702	ⅢbM	完形	92.4	13.9	39.4	4.6	20.6	0.0	2.3	-0.1	105.0	-	Sa.
-	-	-	123803	ⅢbM	完形	91.5	13.0	30.0	-4.8	19.3	-1.3	3.1	0.7	75.9	-	Sa.
-	-	-	123804	ⅢbM	完形	92.2	13.7	40.3	5.5	15.5	-5.1	2.3	-0.1	78.4	-	Sa.
-	-	-	123703	ⅢbM	完形	95.9	17.4	32.5	-2.3	18.5	-2.1	3.0	0.6	80.4	-	Sa.
-	-	-	123738	ⅢbM	完形	102.1	23.6	39.1	4.3	29.7	9.1	2.6	0.2	155.3	-	Sa.
-	-	-	123848	ⅢbM	完形	108.3	29.8	32.3	-2.5	31.9	11.3	3.4	1.0	210.0	-	Sa.
-	-	ⅢS1281	123857	ⅢbM	欠損	110.3	31.8	95.9	61.1	45.5	24.9	1.2	-1.2	570.0	-	Sa. 植1点
平均						78.5		34.8		20.6		2.4		82.3		
												総点数	249点		素完形	80点



図II-15 灰集中11・12 (ⅢAS-11・12)

表II-20 ⅢAS-11・12属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-15	—	ⅢAS-11	AA-16	ⅢbM	楕円形	15	11	2	灰	
II-15	9-7	ⅢAS-12	AA-16・17	ⅢbM	不整形	40	38	2	灰・骨	

灰集中11〔ⅢAS-11〕 (図II-15)

位置：AA-16区 規模：15×11×2cm

確認・調査：AA-16区のⅢb層を掘削した際、土壌化した灰の分布を確認した。平面形の記録後、堆積状態確認のためトレンチを入れた。下位に焼土を確認できなかったため投棄された灰と判断し、ⅢAS-11として設定した。

堆積状態：ⅢAS-11の灰は土壌化の進行により、極めて薄い。灰層の厚さは約2cmで、下底面はやや窪んでいる。

灰集中12〔ⅢAS-12〕 (図II-15 図版9-7・8)

位置：AA-16・17区 規模：40×38×2cm

確認・調査：Ⅲb層調査の際、AA-17区杭の脇で未被熱のシカ遺存体と小規模な灰の集積を検出した。平面形の記録後、堆積状態確認のためトレンチを入れた結果、下位に比較的良好な灰集中を確認した。焼土は形成されていなかったため、投棄された灰と判断しⅢAS-12として設定した。

堆積状態：ⅢAS-12は上位に土壌化した灰層が堆積し、その下位で良好な灰が僅かに残存していた。灰層の下底面はほぼ水平で、最大で厚さ3cmを測る。

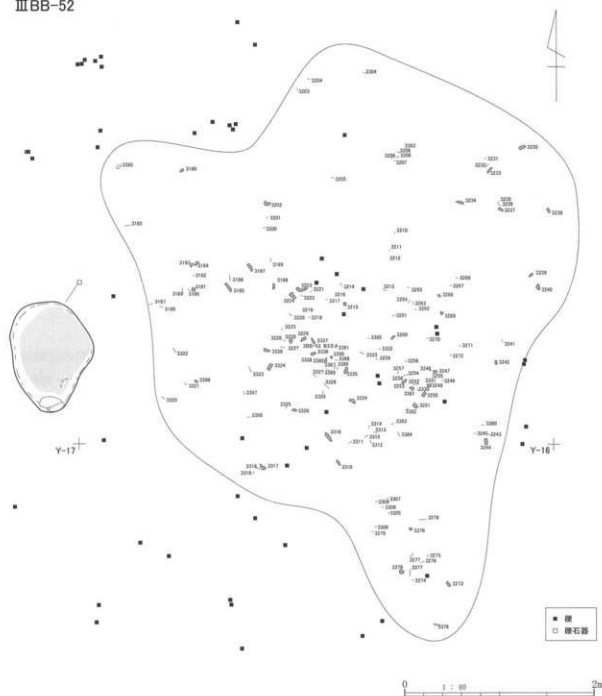
獣骨集中52〔ⅢBB-52〕 (図II-16・17 図版9-1~4)

位置：X・Y-15・16区 主体検出層位：ⅢbM

規模：668×500cm 主要動物／部位：シカ・頭蓋骨および四肢骨

確認・調査：本獣骨集中は、ⅢH-09北東側のⅢb層調査時に検出した。検出地点はT₂-T₃段丘崖裾の低みに位置し、Ⅲb層が厚く堆積していたためⅢH-09付属炉よりも獣骨検出のタイミングがやや遅れた。しかし検出位置を考慮すると、平成17年度に調査したⅢH-02に伴う獣骨集中ⅢBB-03と同様、住居址に関連する獣骨集中と考えられる。遺存状態が悪かったため、獣骨番号を付番し写真撮影した後は、状態の良いもののみを取り上げ、他は廃棄した。

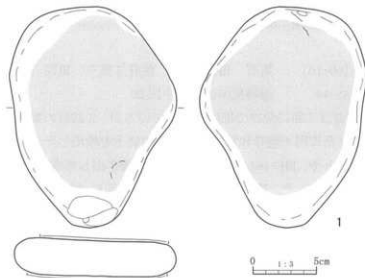
ⅢBB-52



図Ⅱ-16 獣骨集中52(ⅢBB-52)平面図

表Ⅱ-21 ⅢBB-52属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	炭熟の 有無	関連 遺構	備 考
						長軸	短軸				
Ⅱ-16	9-1~4	ⅢBB-52	Y-2-16-17	ⅢbM	不整形	668	500	肋骨・四肢骨	—	ⅡH-09	



図II-17 III BB-52 出土遺物

表II-22 III BB-52出土遺物属性表

採回 番号	図取 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-17-1	-	-	123589	滑沢面のある礫	-	III bM	-	Y-16	174.0	132.0	29.0	1160.0	Mud.	

出土状態(図II-16)：獣骨は668×500cmの範囲で出土しているが、その中心の概ね200cm四方の範囲で特に密集している。遺存状態の良い資料も密集範囲内で検出されており、本来小規模であった集中が遺跡形成過程で移動、拡散したものと考えられる。

獣骨の特徴：出土した獣骨は遺存状態が悪く、部位の同定が可能なものは極めて少なかった。同定し得た資料をみると、四肢骨、臼歯等様々な部位が認められ、特定部位に偏るといった傾向はない。この点も平成17年度に調査したIII BB-03と類似している。

出土遺物(図II-17)：1は獣骨集中の周囲で出土した礫石器で、扁平礫を素材とし、表裏の平坦面に滑沢面が形成されている。

10号平地式住居周辺の概況 (図II-18)

10号平地式住居はT₆の南東端付近に位置する。付属炉検出が2回目のIII b 掘削段階であったため、当初擦文文化期の焼土と考えていたが、この周辺からは擦文土器片が出土していないことや、出土した遺物とB-Tmとの間にIII bの黒色土が堆積していたことから、アイヌ文化期の遺構として判断した。ただし検出面が低いため、アイヌ文化期の中でも特に古い時期に属すると考えられる。この点については第七章1節のAMS年代測定結果からも追認できる。住居周辺では灰集中や、遺物集中区(集中区20)を検出しているが、いずれも住居と同様に検出面が低く、古い段階のアイヌ文化期に属する遺構・遺物群である。

10号平地式住居址〔ⅢH-10〕 (図Ⅱ-19～21 図版10・11-1・2)

位置：AD・AE-14・15区 規模：830×—cm

長軸方向：N-47° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-160・161 集石 ⅢSB-31 焼骨片集中 ⅢBB-16

関連遺構：灰集中 ⅢAS-14 遺物集中区 集中区20

確認・調査：Ⅲb層の調査は2回に分けて掘削を行っているが、2回目の掘削時にAD・AE-14・15区において集石が出土し、また周囲で焼骨片集中と2ヵ所の焼土を検出した。焼土が北東-南西方向に並列する配置であったことや、ⅢF-161において炉の灰を掻き出した痕跡が認められたことから、住居址に伴う炉の可能性を想定した。遺物の出土状態、炉の平面形・堆積状態の記録を行った後、柱穴確認に努めたが、検出できたのはⅢKP-144の1ヵ所のみであった。住居址プランを形成する配列は確認できなかったが炉と集石の配置を考慮し、報告書作成段階において10号平地式住居址として設定した。

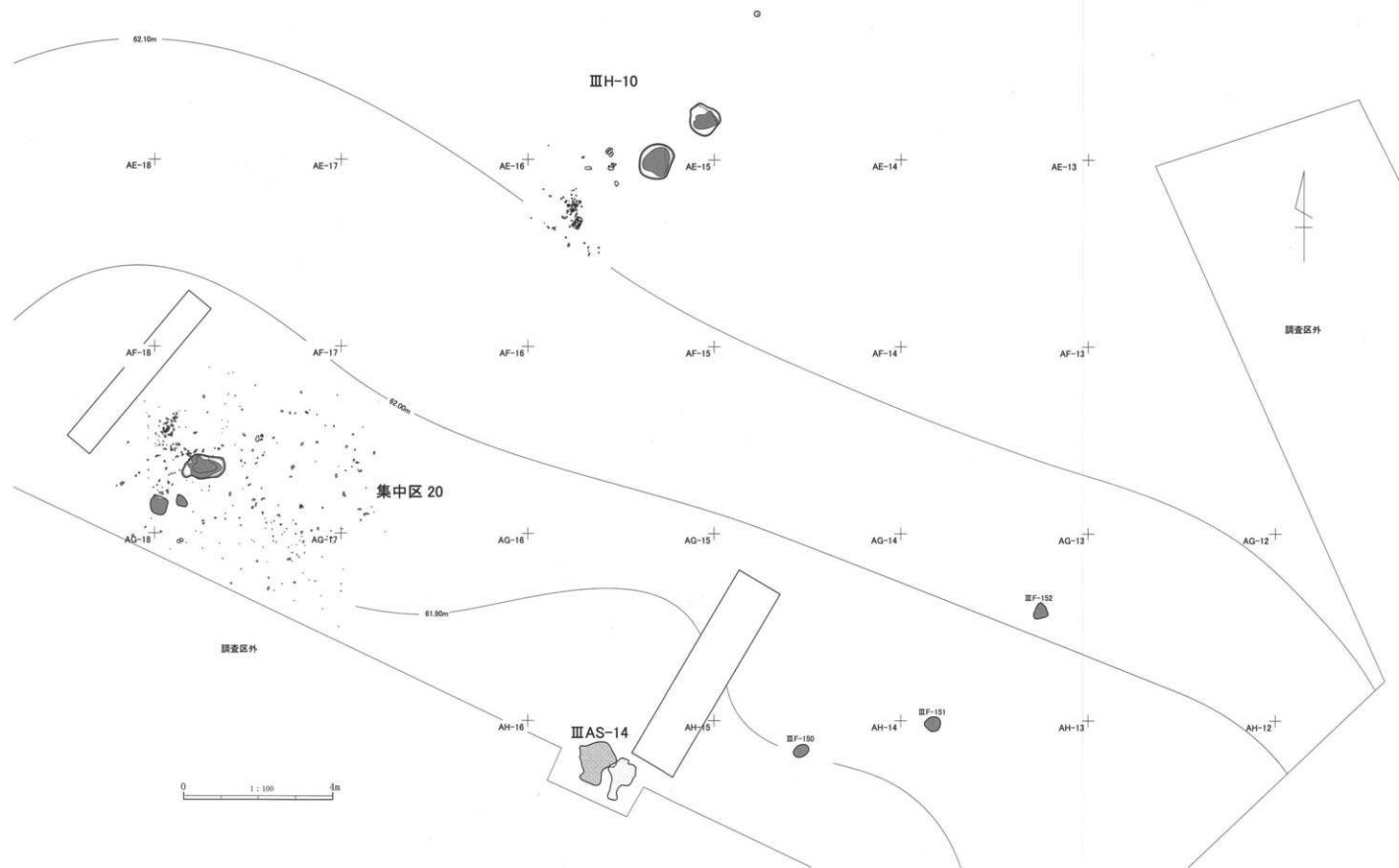
付属炉(図Ⅱ-20)：付属炉はⅢF-160・161の2ヵ所である。ⅢF-160は、不整楕円形で、上位に焼骨片を含む土壌が堆積していたが、明瞭な灰は確認できなかった。また周囲の古い風倒木の影響で焼土中にTa-d2Pとシルト岩片が多く含まれていた。ⅢF-161は検出時焼土中央にⅢbが大きく落込んでいた。当初根による攪乱と考えたが、断面を観察したところ下位に良好な焼土層が認められたため、根の攪乱ではなく元々の焼土面の窪みと判断した。上位のⅢb層と焼土面との間は境が明瞭であり、Ⅲb層中に焼土粒も含まれていたことから人為的な攪乱が行われたと考えられ、灰の掻き出しを行った焼土と判断した。土壌サンプルからはⅢF-160・161共にサケ属を主体とする骨が得られ、またⅢF-160ではムギ類の炭化種子も得ている。

柱穴(図Ⅱ-20)：ⅢKP-144の1本のみを検出した。AD-14区の精査を繰り返し、ジョレンでV層上面付近まで下げた際に確認した。柱穴内覆土は上位にIV層、下位にⅢc層が堆積し、しまりは弱い。覆土の違いからも古いアイヌ文化期の所産と思われる。

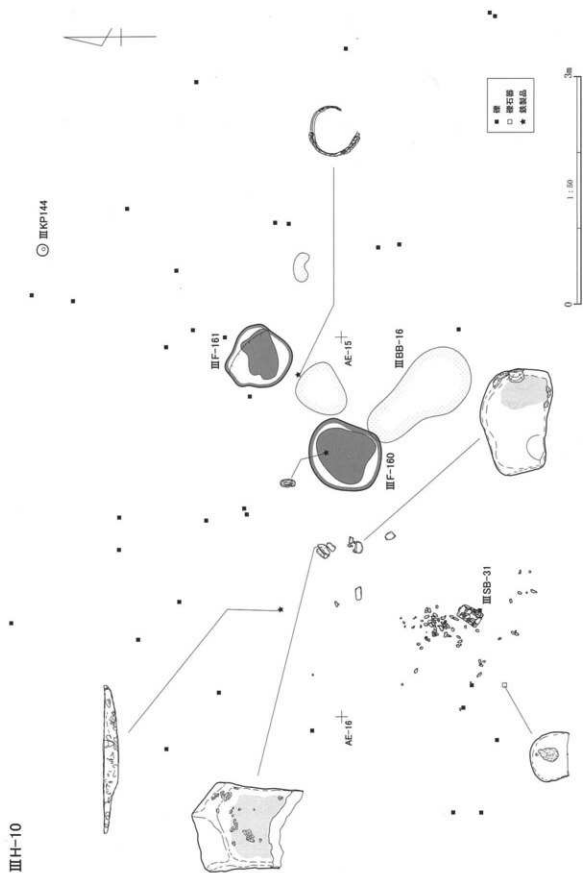
焼骨片集中(図Ⅱ-19)：ⅢF-160・161の東側で確認した。大小3つのブロックに分かれており、最も規模の大きいブロックで160×87cmを測る。付属炉よりも高い面で検出しており、炉に伴う焼骨片が浮遊し拡散した可能性が高い。

遺物出土状態(図Ⅱ-19)：床面遺物の分布はⅢSB-31が位置する南西側で密度が高いが、炉跡を中心とする範囲で礫、及び鉄製品が少数出土している。ⅢF-160では焼土面直上で帯金具が出土した。ⅢSB-31は棒状礫を主体とする集石であるが、板状の大型礫も構成礫中に数点含まれている。

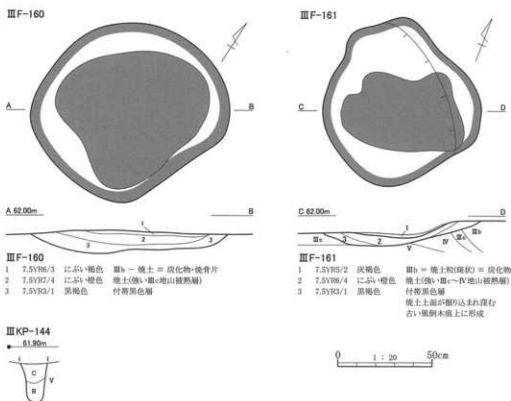
出土遺物(図Ⅱ-20)：1は扁平礫を素材とし、平坦面にやや大きく窪み敲打痕が形成されたたたき石である。2・3はⅢSB-31で出土したもので、共に滑沢面と敲打痕が形成された礫である。2は板状礫、3は角柱状礫を素材としている。4は棟区が未形成で茎断面が方形の刀子、5は出土時環状を呈していた鉄製品で、厚さ1mmの幅広い鉄板を巻いたものである。締金具や腕輪等の性格が考えられる。6は楕円形に巻かれた帯金具である。錆で固着しているが、端部の合わせ目が認められる。7～17はⅢSB-31で出土した礫である。棒状礫のみの長軸長平均値は61.8mmで、やや小型の礫が中心となっている。



図II-18 10号平地式住居址周辺平面図



図Ⅱ-19 10号平地式住居址(ⅢH-10)平面図



図Ⅱ-20 10号平地式住居址付属遺構

表Ⅱ-23 III H-10属性表

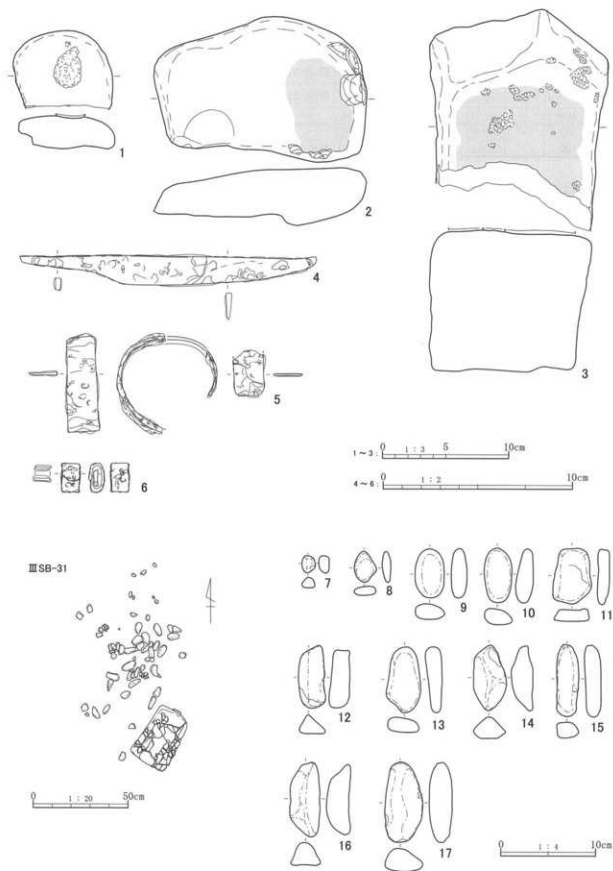
挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸 方向	規模 (cm)				柱穴 本数	付属遺構	
						主体部 長軸	付属部 短軸	主体部 短軸	付属部 長軸			
II-19	10-1	III H-10	AD-AE-14-15	III bM	N47° E	830	-	-	-	1	-	III F-160・161, III SB-31

表Ⅱ-24 III H-10付属炉属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-20	10-2・3	III F-160	AE-15	III bL	楕円形	105	96	12	-	
II-20	10-4・5	III F-161	AD-15	III bL	楕円形	94	90	6	-	

表Ⅱ-25 III H-10柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-19	11-2	III KP-144	13	7	19	3°	打込み	



図II-21 10号平地式住居址出土遺物

表Ⅱ-26 ⅢH-10出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-21-1	100-1	-	56293	たたき石	Ⅳ	ⅢbM	-	AE-15	61.0	78.0	26.0	180.0	Sa.	
Ⅱ-21-2	100-3	-	57629	滑沢面と 磨打痕のある礫	Ⅰ	ⅢbM	ⅢSB-31	AE-15	115.0	168.0	44.0	1150.0	Sa.	
Ⅱ-21-3	100-4	ⅢS1281	57637	滑沢面と 磨打痕のある礫	-	ⅢbM	ⅢSB-31	AE-15 (175.0)	142.0	111.0	3600.0	Sa.		
Ⅱ-21-4	100-5	-	59210	刀子	-	ⅢbL	-	AD-15	156.0	17.0	4.0	18.3	Irn.	
Ⅱ-21-5	100-6	-	56596	締金具?	-	ⅢbL	-	AD-15 (53.0)	18.0	7.3	10.8	Irn.		
Ⅱ-21-6	100-7	-	56981	帯金具	-	ⅢcM	ⅢF-160	AD-15	15.5	10.5	9.0	1.7	Irn.	

表Ⅱ-27 ⅢSB-31属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 材	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
Ⅱ-21-7	-	-	57562	ⅢbM	完形	18.5	-54.1	13.4	-24.4	10.9	-9.2	1.4	-0.6	3.4	-	Sa.	
-	-	-	57630	ⅢbM	完形	22.2	-50.4	15.7	-22.1	7.8	-12.3	1.4	-0.6	3.6	○	Sa.	
Ⅱ-21-8	-	-	57605	ⅢbM	完形	32.1	-40.5	23.4	-14.4	9.2	-10.9	1.4	-0.6	7.4	-	Sa.	
-	-	-	57557	ⅢbM	完形	37.0	-35.6	22.5	-15.3	9.7	-10.4	1.6	-0.4	10.0	-	Sa.	
-	-	-	57574	ⅢbM	完形	47.3	-25.3	31.4	-6.4	18.0	-2.1	1.5	-0.5	39.5	-	Sa.	
Ⅱ-21-9	-	-	57550	ⅢbM	完形	52.1	-20.5	31.1	-6.7	16.2	-3.9	1.7	-0.3	33.8	-	Sa.	
-	-	-	57580	ⅢbM	完形	52.3	-20.3	34.7	-3.1	12.5	-7.6	1.5	-0.5	29.4	-	Sa.	
-	-	-	57579	ⅢbM	完形	54.9	-17.7	31.4	-6.4	17.3	-2.8	1.7	-0.3	39.9	-	Sa.	
-	-	-	57603	ⅢbM	完形	57.8	-14.8	34.5	-3.3	25.0	4.9	1.7	-0.3	71.6	-	Sa.	
Ⅱ-21-10	-	-	57554	ⅢbM	完形	57.5	-15.1	28.7	-9.1	16.3	-3.8	2.0	0.0	36.9	-	Sa.	
Ⅱ-21-11	-	-	57557	ⅢbM	完形	57.9	-14.7	39.9	2.1	12.5	-7.6	1.5	-0.5	42.9	-	Sa.	
-	-	ⅢS1286	57594	ⅢbM	完形	60.7	-11.9	35.2	-2.6	17.8	-2.3	1.7	-0.3	62.7	-	Sa.	他2点
-	-	ⅢS1282	57606	ⅢbM	完形	64.8	-7.8	27.3	-10.5	25.4	5.3	2.4	0.4	43.1	○	Sa.	他1点
-	-	-	57610	ⅢbM	完形	64.9	-7.7	37.1	-0.7	20.6	0.5	1.7	-0.3	66.9	-	Sa.	
-	-	-	57609	ⅢbM	完形	67.9	-4.7	43.6	5.8	12.9	-7.2	1.6	-0.4	57.0	-	Sa.	
Ⅱ-21-13	-	-	57614	ⅢbM	完形	69.4	-3.2	34.0	-3.8	15.2	-4.9	2.0	0.0	41.2	○	Sa.	
-	-	-	57602	ⅢbM	完形	68.5	-4.1	32.0	-5.8	22.5	2.4	2.1	0.1	66.1	○	Sa.	
Ⅱ-21-14	-	ⅢS1285	57558	ⅢbM	略完形	69.1	-3.5	31.1	-6.7	22.8	2.7	2.2	0.2	43.4	○	Sa.	他1点
-	-	-	57378	ⅢbM	完形	68.2	-4.4	23.4	-14.4	17.7	-2.4	2.9	0.9	45.1	○	Sa.	
-	-	-	57593	ⅢbM	完形	73.8	1.2	28.7	-9.1	25.3	5.2	2.6	0.6	70.6	-	Sa.	
-	-	-	57626	ⅢbM	完形	74.3	1.7	32.3	-5.5	25.7	5.6	2.3	0.3	67.2	-	Sa.	
-	-	-	57589	ⅢbM	完形	77.6	5.0	26.1	-11.7	18.7	-1.4	3.0	1.0	53.8	-	Sa.	
-	-	-	57590	ⅢbM	完形	78.3	5.7	42.2	4.4	18.6	-1.5	1.9	-0.1	81.9	-	Sa.	
Ⅱ-21-15	-	-	57607	ⅢbM	完形	76.2	3.6	22.7	-15.1	16.1	-4.0	3.4	1.4	41.9	-	Sa.	
Ⅱ-21-16	-	-	57572	ⅢbM	完形	78.7	6.1	31.5	-6.3	23.6	3.5	2.5	0.5	64.2	-	Sa.	
-	-	-	57560	ⅢbM	完形	78.6	6.0	25.8	-12.0	16.0	-4.1	3.0	1.0	50.1	-	Sa.	
-	-	-	57548	ⅢbM	完形	86.1	13.5	36.9	-0.9	18.0	-2.1	2.3	0.3	61.4	-	Mud.	
Ⅱ-21-17	-	-	57639	ⅢbM	完形	83.7	11.1	39.3	1.5	24.4	4.3	2.1	0.1	94.3	-	Sa.	
-	-	-	57635	ⅢbM	完形	133.5	60.9	61.4	23.6	60.0	39.9	2.2	0.2	985.0	-	Gra.	
-	-	-	57579	ⅢbM	完形	315.0	242.4	216.0	178.2	45.3	25.2	1.5	-0.5	4800.0	-	Sa.	

平均 72.6 37.8 20.1 2.0 237.1
総点数 104点 ※完形 30点

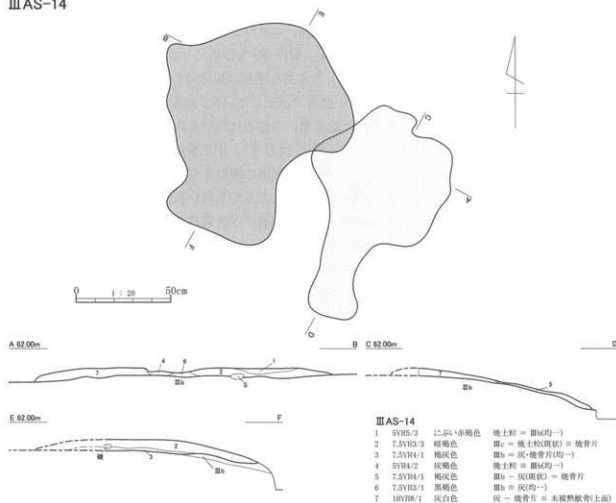
灰集中 14【ⅢAS-14】 (図Ⅱ-22 図版11-3・4)

位置: AH-15区 規模: 114×66×7cm

確認・調査: AH-15区のⅢb層調査の際、T₂縁辺の調査区外にまたがる位置で灰の集積を検出した。調査は発掘区内にかかっている範囲を先行して進め、その後発掘区を拡張し、残りの範囲の記録を行った。灰集中はT₀-T₂段丘崖に一部かかっており、灰の一部が斜面下方に向けて流れ落ちていた。また本遺構は灰集中のみでなく、Ⅲcと焼土粒から成るブロックも形成されていた。調査は灰集中部分、焼土粒集中部分それぞれの記録を作成し、土壌サンプルを採取している。

堆積状態: ⅢAS-14は東側の灰集中部分と、西側の焼土粒集中部分の2つにブロックが分かれる。共に約7cmの厚さで堆積し、灰集中は焼土粒集中の一部を被覆している。灰集中部分では上位に少数の未被熟シカ遺存体が出土し、また斜面下に向けては土壌化した灰が流れ出していた。焼土粒集中はⅢc主体土の焼土粒が堆積していた。

ⅢAS-14



図Ⅱ-22 灰集中 14(ⅢAS-14)

表Ⅱ-28 ⅢAS-14属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-22	11-3・4	ⅢAS-14	AH-15	ⅢbM	不整形	114	66	7	灰	

集中区 20 (図Ⅱ-23~25 図版 11-5, 12-1~6)

位置: AF・AG-16~18区 規模: 950×850cm 層位: IIIbM

関連遺構: 焼土 IIIF-157~159 集石: III SB-28

確認・調査: 10号平地式住居址南西のIIIb層を調査中、やや大型の鉄製品の一部を確認した。製品の大半が土中に埋まっていたため、その場では全体の形状を把握できなかった。2回目のIIIb層掘削時、鉄製品以外に周囲で多数の礫が出土した他、3ヵ所の焼土を検出した。焼土は平面形・堆積状態を記録し、土壌サンプルを採取した。集石は出土状態のデジタル写真実測を委託し、取り上げを行った。また当初より確認していた鉄製品は、全体を検出した結果金鉗と半製品の2つが重なって出土したことから、出土状態の図面を作成した上で取り上げを行った。2回目のIIIb層掘削で検出しているため、IIIH-10と同様アイヌ文化期でもかなり古い時期の集中区と考えられる。

焼土(図Ⅱ-24): IIIF-157・159は2つ並ぶ配置で検出した。いずれも焼骨片は伴わなかったが、焼土層の形成は良好であった。III F-158はIII F-157・159よりも規模が大きく、焼土上位に多量の焼骨片を含む土壌化灰層を伴っていた。焼土面はやや大きく窪み、III cmまで下がった位置に形成されていた。土壌サンプルからはIII F-158においてサケ属、コイ科、哺乳綱の骨が多数得られた。また炭化種子に関してはIII F-157・158でムギ類、キビが、III F-158では他にヒエ属の種子も得ている。

遺物出土状態(図Ⅱ-23): 集中区 20で出土した主要な遺物はIII SB-28の礫である。集中区内全体に広がっているが、III F-158の北側で最も高い密度で出土していた。金鉗と半製品はIII F-158の東側で出土した。出土位置は浅く窪み、窪みの下底面側に金鉗の把握部を向ける状態で、半製品が下位に、金鉗がその上位に重なって出土していた(図Ⅱ-23左下)。出土状態を見る限り、無造作に置かれたとは考え難い。窪みについてはトレンチを開けて断面の観察を行ったが、人為的に形成されたものかを判断することはできなかった。金鉗が出土したことから剥片状鉄滓等の鉄器生産関連遺物の出土を想定し、焼土周辺のサンプルを採取したが、特筆すべき資料を得ることはできなかった。

出土遺物(図Ⅱ-24・25): 1は板状礫を素材とし、表面に線状痕が形成された礫である。2は楕円形礫の1面に小規模な敲打痕が形成された台石で、全体に被熱の痕跡が認められる。3は金鉗で全体に成形時の敲打による浅い凹凸が認められる。把握部と機能部からなる2本の部品が支点でビス止めされている。把握部は断面方形で、支点部分が最も幅広く成形されている。把握部の断面形を除き、現代の鍛冶職人が使用する金鉗と同じ形態である。4は小刀の半製品で、目釘穴となる穴が穿孔されているが、刃部は形成されず、断面は方形である。茎に相当する範囲は成形時の敲打によりめくれ上がり、肥厚している。図示していないがIII SB-28を構成する礫は長軸の長さによらずつきをもち、被熱礫の比率が高い。

表Ⅱ-29 集中区20焼土属性表

標図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-24	12-3・4	III F-157	AF-17	III bL	楕円形	56	49	6	-	
Ⅱ-24	12-1・2	III F-158	AF-17	III bL	長楕円形	118	74	10	灰	
Ⅱ-24	12-4	III F-159	AF-17	III bL	楕円形	37	26	5	-	

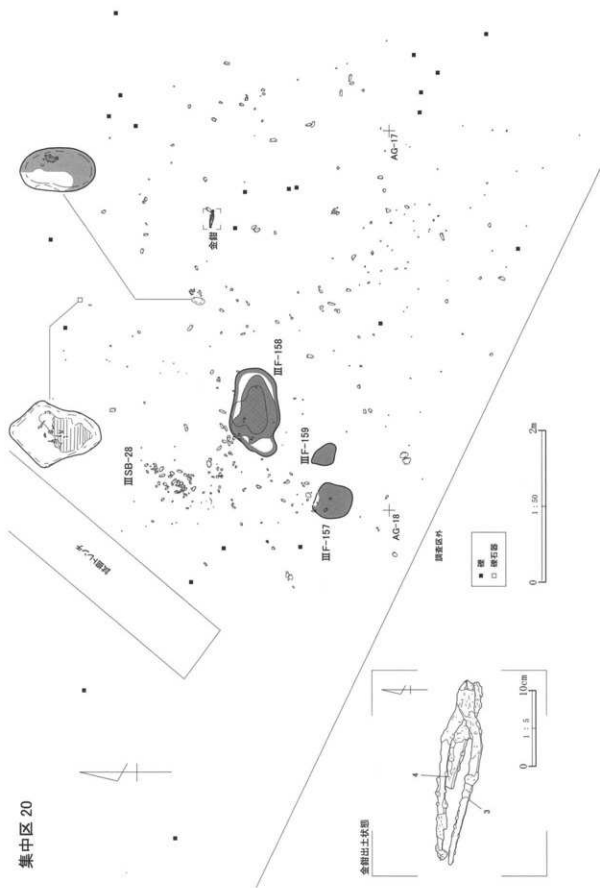
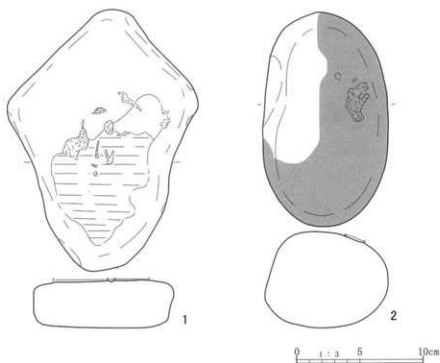
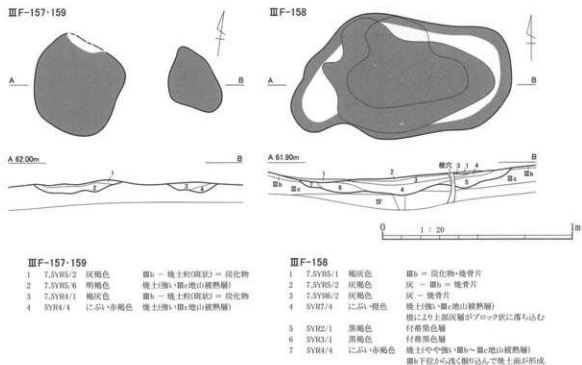
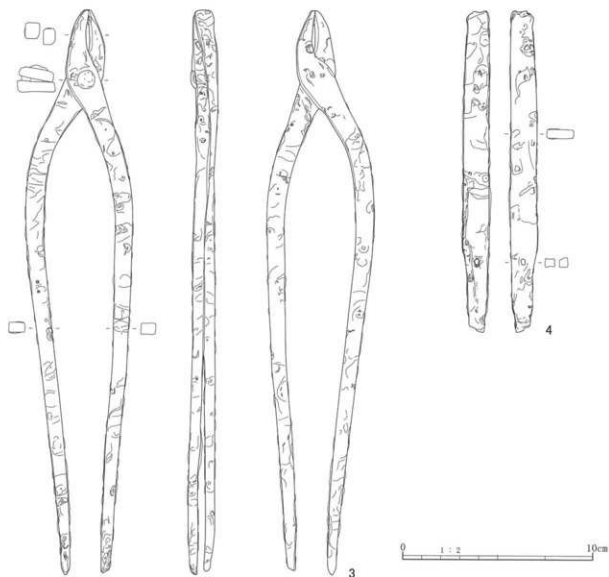


図 II-23 集中区 20 平面図及び遺物出土状態



図Ⅱ-24 集中区 20 関連遺構及び出土遺物(1)



図II-25 集中区20出土遺物(2)

表II-30 集中区20出土遺物属性表

神宮 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-24-1	101-2	-	58520	棒状重のある鏝	-	III bL	III SB-28	-	206.0	151.0	38.0	1390.0	Sa.	
II-24-2	101-3	-	59101	台石	-	III bL	III SB-28	-	169.0	100.0	77.0	1720.0	Sa.	
II-25-3	101-4	-	57011	金錯	-	III bL	-	AF-17	296.0	52.5	15.0	192.9	Irn.	
II-25-4	101-5	-	57012	小刀半製品	-	III bL	-	AF-17	169.5	16.0	4.5	55.7	Irn.	
-	101-1	III ST082	57913	たたき石	II a3	III bL	III SB-28	-	156.0	119.0	43.7	950.0	Sa.	

表Ⅱ-31 ⅢSB-28属性表

神宮 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比 標準 偏差	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差							厚さ
-	-	-	59189	ⅢbM	完形	23.7	-39.1	17.4	-14.2	9.6	-7.2	1.4	-0.6	4.7	-	Sa.
-	-	-	59207	ⅢbM	完形	24.3	-38.5	22.5	-9.1	10.2	-6.6	1.1	-0.9	7.2	○	Sa.
-	-	-	59055	ⅢbM	完形	24.6	-38.2	21.1	-10.5	16.7	-0.1	1.2	-0.8	9.6	-	Sa.
-	-	-	59177	ⅢbM	完形	24.4	-38.4	23.9	-7.7	15.0	-1.8	1.0	-1.0	15.1	-	Che.
-	-	-	57930	ⅢbM	完形	31.8	-31.0	26.1	-5.5	6.6	-10.2	1.2	-0.8	9.9	-	Sa.
-	-	-	59026	ⅢbM	完形	33.6	-29.2	23.6	-8.0	9.5	-7.3	1.4	-0.6	10.2	-	Sa.
-	-	-	57934	ⅢbM	完形	34.4	-28.4	22.0	-9.6	15.5	-1.3	1.6	-0.4	13.0	-	Sa.
-	-	-	59044	ⅢbM	完形	35.8	-27.0	30.9	-0.7	12.0	-4.8	1.2	-0.8	16.8	-	Sa.
-	-	-	57922	ⅢbM	完形	41.0	-21.8	26.9	-4.7	8.8	-8.0	1.5	-0.5	13.8	-	Sa.
-	-	-	59185	ⅢbM	完形	41.9	-20.9	30.9	-0.7	7.6	-9.2	1.4	-0.6	13.9	-	Sa.
-	-	-	57919	ⅢbM	完形	42.1	-20.7	23.2	-8.4	14.9	-1.9	1.8	-0.2	19.2	-	Sa.
-	-	-	57940	ⅢbM	完形	44.2	-18.6	29.4	-2.2	16.9	0.1	1.5	-0.5	26.1	○	Sa.
-	-	-	59178	ⅢbM	完形	43.4	-19.4	32.7	1.1	13.3	-3.5	1.33	-0.7	27.8	-	Sa.
-	-	-	57967	ⅢbM	完形	44.2	-18.6	24.9	-6.7	11.4	-5.4	1.8	-0.2	17.4	○	Sa.
-	-	-	57928	ⅢbM	完形	44.7	-18.1	41.1	9.5	14.3	-2.5	1.1	-0.9	29.7	-	Sa.
-	-	-	57946	ⅢbM	完形	45.8	-17.0	21.8	-9.8	15.7	-1.1	2.1	0.1	20.7	-	Sa.
-	-	-	59028	ⅢbM	完形	46.2	-16.6	24.2	-7.4	15.5	-1.3	1.9	-0.1	23.1	○	Sa.
-	-	-	57909	ⅢbM	完形	49.5	-13.3	22.7	-8.9	14.0	-2.8	2.2	0.2	18.2	-	Sa.
-	-	-	59093	ⅢbM	完形	50.0	-12.8	40.3	8.7	8.8	-8.0	1.2	-0.8	23.8	-	Sa.
-	-	-	59082	ⅢbM	完形	50.2	-12.6	35.6	4.0	11.8	-5.0	1.4	-0.6	26.1	-	Sa.
-	-	-	59187	ⅢbM	完形	50.7	-12.1	32.3	0.7	7.8	-9.0	1.6	-0.4	18.6	-	Sa.
-	-	-	59033	ⅢbM	完形	52.2	-10.6	28.2	-3.4	8.9	-7.9	1.9	-0.1	15.9	○	Tu.
-	-	-	59188	ⅢbM	完形	53.2	-9.6	36.5	4.9	7.6	-9.2	1.5	-0.5	23.5	-	Sa.
-	-	-	57995	ⅢbM	完形	52.4	-10.4	29.8	-1.8	9.7	-7.1	1.8	-0.2	21.5	○	Sa.
-	-	-	59020	ⅢbM	完形	51.2	-11.6	25.2	-6.4	25.4	8.7	2.0	0.0	54.6	○	Sa.
-	-	-	59025	ⅢbM	完形	51.1	-11.7	30.6	-1.0	19.5	2.8	1.7	-0.3	38.2	○	Sa. 焼1点
-	-	-	57894	ⅢbM	完形	53.5	-9.3	34.0	2.4	20.5	3.8	1.6	-0.4	44.3	-	Sa.
-	-	-	59017	ⅢbM	完形	54.3	-8.5	32.5	0.9	9.7	-7.1	1.7	-0.3	25.9	○	Sa.
-	-	-	59012	ⅢbM	完形	55.1	-7.7	28.4	-3.2	12.7	-4.1	1.9	-0.1	28.8	○	Sa.
-	-	-	59036	ⅢbM	完形	55.5	-7.3	33.5	1.9	17.0	0.3	1.7	-0.3	38.7	○	Sa.
-	-	-	57887	ⅢbM	完形	57.9	-4.9	29.8	-1.8	22.5	5.8	1.9	-0.1	58.1	-	Sa.
-	-	-	59015	ⅢbM	略完形	58.3	-4.5	30.9	-0.7	14.3	-2.5	1.9	-0.1	34.0	-	Sa. 焼1点
-	-	-	57912	ⅢbM	完形	56.9	-5.9	20.5	-11.1	12.5	-4.3	2.8	0.8	16.2	-	Sa.
-	-	-	57925	ⅢbM	完形	56.6	-6.2	15.5	-16.1	9.2	-7.6	3.7	1.7	10.9	-	Sa.
-	-	-	59078	ⅢbM	完形	55.3	-7.5	35.0	3.4	17.0	0.3	1.6	-0.4	37.5	-	Mud. 焼1点
-	-	-	57998	ⅢbM	完形	55.3	-7.5	30.3	-1.3	30.0	13.3	1.8	-0.2	67.0	○	Sa. 焼1点
-	-	-	59053	ⅢbM	完形	58.3	-4.5	30.6	-1.0	15.8	-0.9	1.9	-0.1	37.7	-	Sa.
-	-	-	59208	ⅢbM	完形	58.4	-4.4	34.9	3.3	16.7	-0.1	1.7	-0.3	49.0	○	Sa.
-	-	-	59021	ⅢbM	完形	59.0	-3.8	37.5	5.9	15.0	-1.8	1.6	-0.4	46.1	○	Sa.
-	-	-	59048	ⅢbM	完形	59.8	-3.0	27.8	-3.8	16.1	-0.6	2.2	0.2	43.7	-	Sa.
-	-	-	57988	ⅢbM	完形	61.8	-1.0	29.8	-1.8	13.9	-2.9	2.1	0.1	34.4	○	Sa.
-	-	-	59041	ⅢbM	完形	57.3	-5.5	37.1	5.5	17.0	0.3	1.5	-0.5	46.8	○	Sa.
-	-	-	57992	ⅢbM	完形	59.4	-3.4	27.8	-3.8	21.4	4.7	2.1	0.1	34.5	○	Sa.
-	-	-	59088	ⅢbM	完形	59.4	-3.4	38.7	7.1	22.3	5.6	1.5	-0.5	64.1	-	Sa.
-	-	-	59090	ⅢbM	完形	62.1	-0.7	25.3	-6.3	18.2	1.5	2.5	0.5	38.9	-	Sa.
-	-	-	57955	ⅢbM	完形	63.2	0.4	26.2	-5.4	17.0	0.3	2.4	0.4	38.9	○	Sa.
-	-	-	59047	ⅢbM	完形	62.8	0.0	23.0	-8.6	18.4	1.7	2.7	0.7	37.8	○	Sa.
-	-	-	59206	ⅢbM	完形	61.5	-1.3	27.6	-4.0	23.4	6.7	2.2	0.2	49.1	○	Sa.
-	-	-	59075	ⅢbM	完形	61.3	-1.5	34.4	2.8	24.7	8.0	1.8	-0.2	63.8	-	Sa. 焼1点
-	-	-	57878	ⅢbM	完形	61.6	-1.2	26.2	-5.4	22.6	5.9	2.4	0.4	48.3	-	Sa. 焼1点
-	-	-	57892	ⅢbM	完形	63.6	0.8	28.7	-2.9	13.4	-3.4	2.2	0.2	30.3	-	Mud.
-	-	-	59014	ⅢbM	略完形	63.7	0.9	30.8	-0.8	15.7	-1.1	2.1	0.1	35.6	○	Sa.
-	-	-	59171	ⅢbM	完形	63.3	0.5	40.5	8.9	15.4	-1.4	1.6	-0.4	48.2	-	Sa.
-	-	-	56594	ⅢbM	完形	63.2	0.4	28.2	-3.4	12.9	-3.9	2.2	0.2	27.8	-	Sa.
-	-	-	59172	ⅢbM	完形	64.5	1.7	28.3	-3.3	22.2	5.5	2.3	0.3	46.6	-	Sa.
-	-	-	59091	ⅢbM	完形	65.0	2.2	36.6	5.0	15.5	-1.3	1.8	-0.2	49.6	-	Sa.
-	-	-	59202	ⅢbM	完形	66.5	3.7	26.0	-5.6	21.2	4.5	2.6	0.6	46.6	-	Sa.
-	-	-	59008	ⅢbM	完形	66.9	4.1	26.3	-5.3	12.4	-4.4	2.5	0.5	39.8	○	Sa.
-	-	-	59069	ⅢbM	完形	66.5	3.7	31.1	-0.5	21.8	5.1	2.1	0.1	55.6	-	Sa.
-	-	-	57973	ⅢbM	完形	66.7	3.9	29.3	-2.3	20.4	3.7	2.3	0.3	45.7	-	Mud.
-	-	-	57954	ⅢbM	完形	69.5	6.7	42.1	10.5	18.9	2.2	1.7	-0.3	59.2	○	Sa.
-	-	-	57997	ⅢbM	完形	69.2	6.4	35.2	3.6	15.0	-1.8	2.0	0.0	54.3	○	Sa.
-	-	-	59063	ⅢbM	完形	68.0	5.2	31.8	0.2	17.9	1.2	2.1	0.1	63.3	-	Sa.
-	-	-	57984	ⅢbM	完形	70.2	7.4	32.7	1.1	10.8	-6.0	2.1	0.1	42.8	○	Sa.
-	-	-	57993	ⅢbM	完形	70.9	8.1	29.6	-2.0	17.5	0.8	2.4	0.4	51.3	○	Sa.

表II-31 III SB-28属性表(続き)

採回 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考			
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差						厚さ	標準 偏差	
-	-	-	57900	IIIbM	完形	73.3	10.5	26.4	-5.2	19.5	2.8	2.8	0.8	48.1	-	Sa.	
-	-	-	59174	IIIbM	完形	72.6	9.8	45.2	13.6	19.8	3.1	1.6	-0.4	86.3	-	Sa.	
-	-	-	57911	IIIbM	完形	64.7	1.9	45.9	14.3	40.7	24.0	1.4	-0.6	197.0	-	And.	
-	-	-	57956	IIIbM	完形	73.5	10.7	32.8	1.2	17.4	0.6	2.2	0.2	63.3	○	Sa.	
-	-	-	59076	IIIbM	完形	73.3	10.5	32.4	0.8	26.5	9.8	2.3	0.3	101.4	-	Sa.	
-	-	-	57901	IIIbM	完形	74.3	11.5	39.5	7.9	15.3	-1.5	1.9	-0.1	51.4	-	Sa.	
-	-	-	59173	IIIbM	完形	74.6	11.8	39.1	7.5	18.5	1.8	1.9	-0.1	72.4	-	Sa.	
-	-	-	59043	IIIbM	完形	71.6	8.8	42.4	10.8	12.3	-4.5	1.7	-0.3	65.2	○	Sa.	
-	-	-	59029	IIIbM	完形	76.1	13.3	39.9	8.3	17.6	0.9	1.9	-0.1	64.7	○	Sa.	
-	-	-	57951	IIIbM	完形	78.7	15.9	30.0	-1.6	17.3	0.6	2.6	0.6	52.5	○	Sa.	
-	-	-	59027	IIIbM	完形	77.9	15.1	28.3	-3.3	13.5	-3.3	2.8	0.8	43.2	-	Sa.	
-	-	-	59065	IIIbM	完形	80.5	17.7	27.5	-4.1	20.2	-3.5	2.9	0.9	85.1	-	Sa.	
-	-	-	57933	IIIbM	完形	86.9	24.1	36.9	5.3	23.8	7.1	2.4	0.4	83.5	-	Sa.	
-	102-1	-	59067	IIIbM	完形	87.5	24.7	35.1	3.5	20.9	4.2	2.5	0.5	86.2	-	Sa.	
-	-	-	59085	IIIbM	完形	87.7	24.9	30.5	-1.1	13.6	-3.2	2.9	0.9	57.6	-	Mud.	
-	-	-	59070	IIIbM	完形	89.8	27.0	36.2	4.6	25.6	8.9	2.5	0.5	95.1	-	Sa.	
-	-	-	59072	IIIbM	完形	89.8	27.0	40.2	8.6	11.3	-5.5	2.2	0.2	56.3	-	Sa.	
-	-	-	59071	IIIbM	完形	89.1	26.3	29.2	-2.4	25.0	8.3	3.1	1.1	111.3	-	Sa.	
-	-	-	57975	IIIbM	完形	89.7	26.9	56.2	24.6	12.6	-4.2	1.6	-0.4	84.4	-	Che.	
-	-	-	59042	IIIbM	完形	92.3	29.5	33.2	1.6	23.7	7.0	2.8	0.8	96.8	○	Sa.	
-	-	-	III S1244	57923	IIIbM	完形	89.5	26.7	37.3	5.7	19.4	2.7	2.4	0.4	81.4	-	Sa. 掘1点
-	-	-	59037	IIIbM	完形	89.7	26.9	33.9	2.3	19.3	2.6	2.6	0.6	89.4	○	Sa.	
-	-	-	59170	IIIbM	完形	93.2	30.4	31.9	0.3	20.7	4.0	2.9	0.9	74.4	-	Sa.	
-	-	-	57949	IIIbM	完形	92.5	29.7	29.8	-1.8	21.9	5.2	3.1	1.1	67.4	○	Sa.	
-	-	-	59066	IIIbM	完形	97.3	34.5	32.6	1.0	14.0	-2.8	3.0	1.0	53.3	-	Mud.	
-	-	-	III S1245	59094	IIIbM	欠損	108.3	45.5	33.9	2.3	16.5	-0.3	3.2	1.2	82.6	○	Sa. 掘6点
平均						62.9	31.6	16.8	2.0	47.3							
											総点数	279点	完形90点				

第2節 建物跡

方形プラン等の規格的な配置で並んだ柱穴を建物跡とした。平成18・19年度調査区内では、第1節で記載した4本柱(建物跡7)、5本柱(建物跡6)の例の他、9本柱の建物跡8を検出しており、合計3件の建物跡が見つっている。ここでは単独で検出した建物跡8について記載する。

建物跡8 (図II-26 図版13-1~7)

位置: I-38・39区 規模: 350×310cm

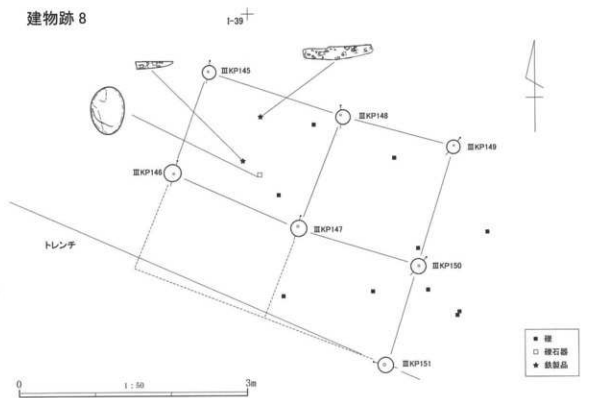
構成: 9本柱? (III KP-145~151)

確認・調査: 平成19年度調査区T₁-T₂段丘崖裾のIIIb層調査を終了し、柱穴確認のためIIIc層をジョレンで精査した際、I-38・39区で円形のIIIb落込みを確認した。半載して断面を確認した結果、いずれも杭跡と判断した。配置は一部試掘時のトレンチで失われているが、「田」字形に9本柱で構成される建物跡と想定できたため、建物跡8として設定した。

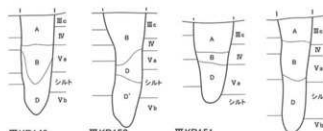
柱穴: III KP-145~151はいずれも打ち込みによる柱穴で、覆土上位にIIIb主体土が厚く堆積する例がほとんどであることから、アイヌ文化期の中でも比較的新しい時期に属すると考えられる。構成する柱穴の内5本は確認面からの深さが50cm以上ある深いものであった。

出土遺物: 直接この建物跡に伴うとは限らないが、建物跡プラン内とその周辺で遺物が出土している。1は楕円形礫の2頂端部に滑沢面が形成された泥岩製の石器である。2・3は刀子片で、同一個体かと思われたが、断面の厚さが異なるためそれぞれ別個体の破片である。3は刀身部に緩やかな反りが形成されている。

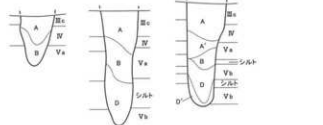
建物跡 8



III KP145 58.20m III KP146 58.20m III KP147 58.20m III KP148 58.20m



III KP149 58.10m III KP150 58.10m III KP151 58.00m



A' IIIb = IV(覆石)
D' V = シルト(覆石)
D'' V = IV(覆石)

0 1 : 20 50cm

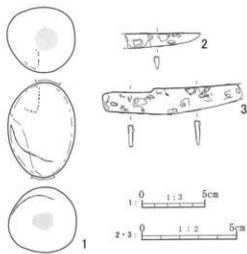


図 II-26 建物跡8平面図及び出土遺物

表Ⅱ-32 建物跡8柱穴属性表

棟号 番号	図版 番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-26	13-1・2	ⅢKP-145	17	3	54	2°	打込み	
Ⅱ-26	13-3	ⅢKP-146	21	4	57	0°	打込み	
Ⅱ-26	13-4	ⅢKP-147	20	7	40	3°	打込み	
Ⅱ-26	13-5	ⅢKP-148	17	5	57	2°	打込み	
Ⅱ-26	—	ⅢKP-149	17	4	25	4°	打込み	
Ⅱ-26	13-6	ⅢKP-150	19	4	51	1°	打込み	
Ⅱ-26	13-7	ⅢKP-151	20	9	51	2°	打込み	

表Ⅱ-33 建物跡8出土遺物属性表

棟号 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-26-1	102-2-1	—	115359	溝状面のある輪	—	ⅢbM	—	I-38	75.2	53.1	51.7	290.0	Mud.	
Ⅱ-26-2	102-2-2	—	115373	刀子切先	—	ⅢbM	—	I-39	(40.5)	8.5	3.0	2.8	lrn.	
Ⅱ-26-3	102-2-3	—	115374	刀子片	—	ⅢbM	—	I-38	(73.5)	16.0	4.0	9.4	lrn.	

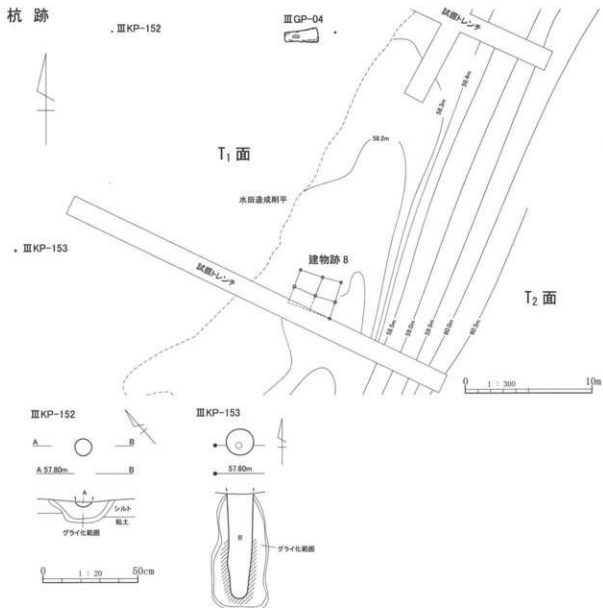
第3節 杭跡 (図Ⅱ-27 図版13-8-9)

平成18・19年度調査区においても、16・17年度と同様にⅢb層調査終了後、炉跡を伴わない建物跡の存在を考慮し、調査区内全体をⅢc層上面においてジョレン精査した。その際、建物跡として捉え得る方形プランや列を構成せず、単独に打ち込まれたものを杭跡として捉え、本節で扱う。なお一部アイヌ文化期の杭跡(ⅢKP-134~137)を第三章6節でも報告しているので、参照されたい。

E-42、H-43区：ⅢKP-152・153の2本を確認した。検出位置は近代以降の造成により、V層下位まで削平された範囲であり、確認面はV層より下位のシルト層面であった。同じ面で確認した遺構として後述するⅢGP-04があり、いずれもシルト層中にⅢ層の土が落ち込む状態で検出した。ⅢKP-153・154はいずれも杭跡周囲がグライ化しており、ⅢGP-04墓標穴と類似する状態であった。2本の杭跡は共に離れた位置で単独で形成され配列を構成しておらず、T₁では建物跡8を除き住居址が構築された痕跡が認められない。以上の状況から、この2本の杭跡は、ⅢGP-04と同様の墓標穴であった可能性がある。

表Ⅱ-34 杭跡属性表

棟号 番号	図版 番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-72	46-4	ⅢKP-134	16	8	26	0°	掘立?	
Ⅲ-72	46-4	ⅢKP-135	15	2.2	38	6.5°	打込み	
Ⅲ-72	46-4	ⅢKP-136	17	1.4	29	4°	打込み	
Ⅲ-72	46-4	ⅢKP-137	18	9	28	0°	掘立?	
Ⅱ-27	13-8	ⅢKP-152	9	4	(3)	0°	打込み	
Ⅱ-27	13-9	ⅢKP-153	13	6.5	51	0°	打込み	



図Ⅱ-27 杭跡

第4節 土壌墓

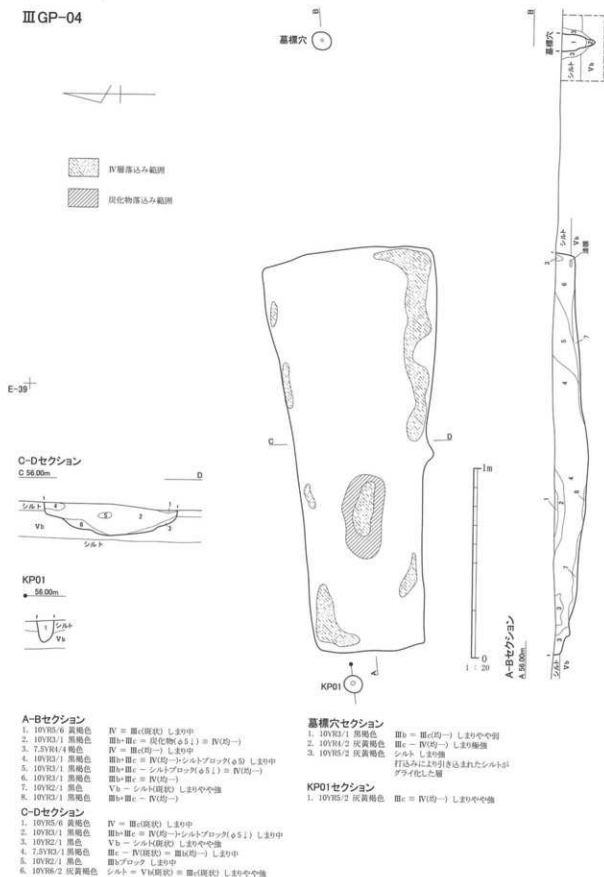
4号土壌墓〔ⅢGP-04〕 (図Ⅱ-28・29 図版14)

位置：E-38・39区 規模：214×90/76cm×(18)cm

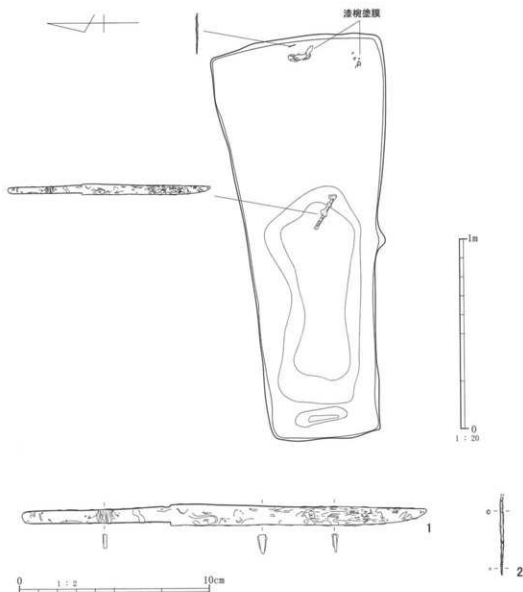
主体部平面形：長台形 長軸方向：N-89° E

確認・調査：平成19年度T₁調査区の表土・火山灰除去中、E-38・39区において長台形プランのⅢ層の落込みと、その東に直径約10cmの円形の落込みを確認した。検出位置はV層が削平されており、表土直下はV層より下位の灰白色シルト層であったため、この場所でのⅢ層黒色土の落込みによるプランは極めて明瞭に把握できた。プランからアイヌ文化期の墓塚と判断できたため、ⅢGP-04として設定した。調査は墓塚主体部の長軸・短軸方向に堆積状態確認のためのセクションラインを十字に設定し、ベルトに区切られた区画ごとに掘削を進めた。過年度の調査例から遺体が残されている可能性が想定されたため土層断面の記録を作成した後、遺体の確認に努めた。結果本墓塚に遺体は

III GP-04



図II-28 4号土壌墓(III GP-04)検出時平面図及び断面図



図Ⅱ-29 4号土墳墓平面図及び出土遺物

表Ⅱ-35 ⅢGP-04属性表

挿図 番号	図版 番号	層位	グリッド	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	備考
				調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-28・ 29	14- 1~7	Ⅲb	D-38・39	長台形/ 長台形	214	90	210	89	18	N-89°W	

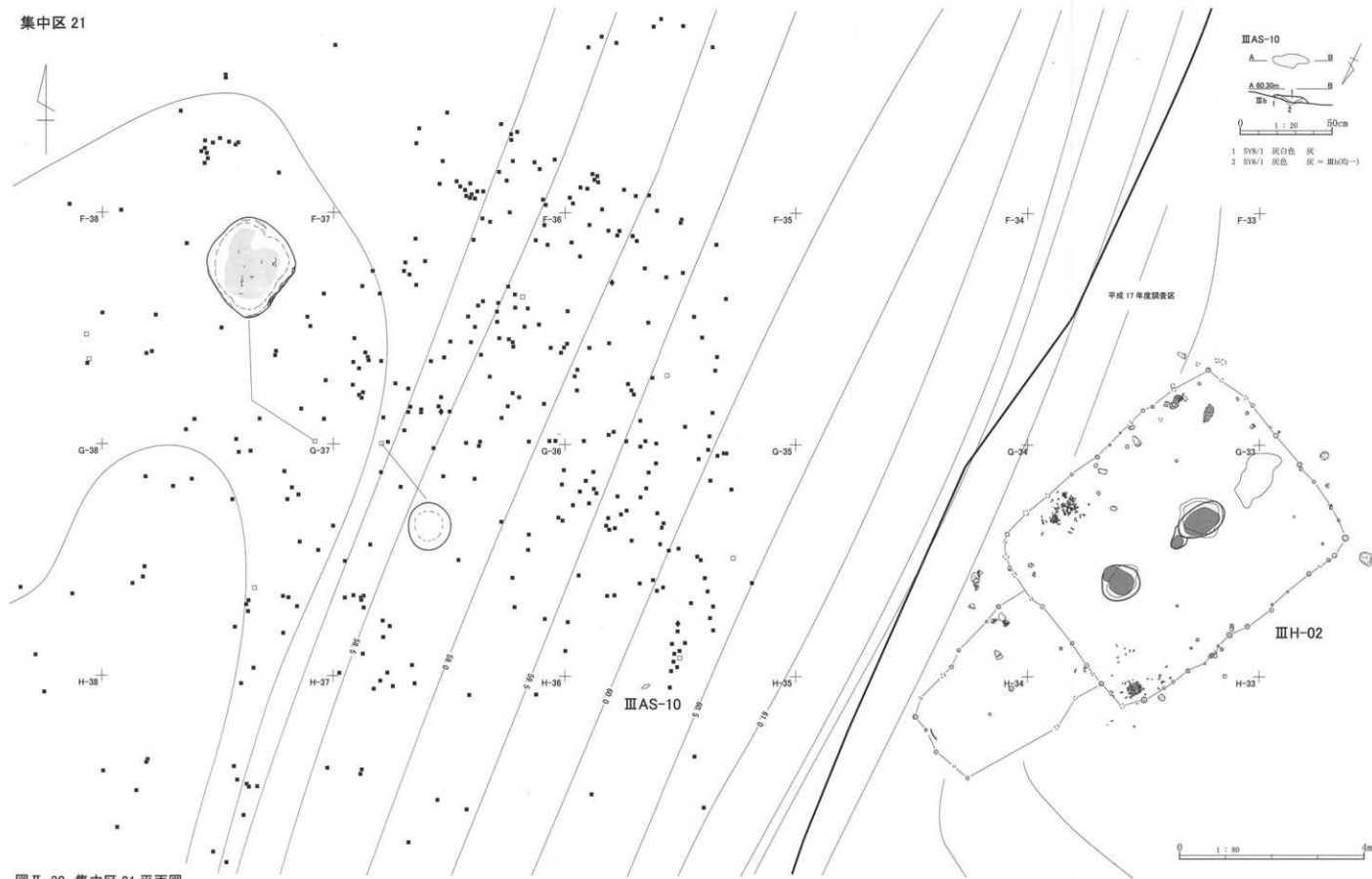
表Ⅱ-36 ⅢGP-04墓標穴・杭跡属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-28	14-4	墓標穴	9	1	18	0°	打込み	
Ⅱ-28	-	KP01	9	2	11	3°	打込み	

表Ⅱ-37 ⅢGP-04出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考	
									長軸	短軸	厚さ				
Ⅱ-29-1	103-1	-	116353	小柄刀身	-	2L	ⅢGP-04	E-39	212.5	12.0	5.0	10.9	Iron		
Ⅱ-29-2	103-2	-	116354	針	-	2L	ⅢGP-04	E-38	(41.0)	2.5	2.5	0.2	Iron		
-	14-6-7	-	116355	漆器桶塗膜	-	2L	ⅢGP-04	E-38	-	-	-	-	-	Jp.	

集中区 21



図II-30 集中区 21 平面図

残存していないことが把握できたため、墓墳底面の検出を進めたところ、副葬品の刀子、針、漆器塗膜を検出した。副葬品出土状態と墓墳形態の記録を作成した後、墓標穴、及び墓墳西側で検出した杭跡の断面観察のためトレンチを設定し、堆積状態の記録を行った。また墓墳底面が水平でなく浅い窪みが形成されていたことから、トレンチを設定して墓墳下位の堆積状態を確認したが、造成等の痕跡を確認することは出来なかった。

主体部形態(図Ⅱ-29)：主体部は東側が広く、西側に向けて狭くなる長台形プランを呈する。主体部南壁の中程で一部プランが乱れているが、根穴ではないため、墓墳掘削時の工具痕の可能性がある。また底面の西半分が広い範囲で浅く窪み、西端には墓墳プランに沿う配置で溝状の落ち込みが形成されていた。いずれも墓墳構築時に形成されたものと判断した。

堆積状態(図Ⅱ-29)：堆積土はⅢbとⅢcが主体である。ただし検出時、墓墳縁辺付近に帯状に廻るⅣ層主体土の堆積が観察できた。また墓墳中央やや西よりの位置で炭化物を含む土壌が堆積していた。前者は主体部形態の項で記載した溝状の落ち込みと共に、既報告のⅢGP-01で想定した、木棺構造に関連する堆積の可能性が高い。

墓標穴：主体部の東側114cmのところ検出した。確認面からの深さは約20cmで、周囲の土壌は若干グライ化が進んでいた。覆土はしまりの弱いⅢb主体土である。

杭跡：主体部の西側で検出した。確認面からの深さは12cm程で、覆土はしまりのあるⅢc層が主体を占めていた。性格は不明である。

副葬品出土状態(図Ⅱ-29)：副葬品の配置は、遺体の腰付近と思われる位置で刀子(1)が出土し、東壁際で針(2)と漆器塗膜片が出土した。漆器塗膜片は主体部中央軸線上に椀1個体分の塗膜が見つかった他、南東隅でも極僅かに塗膜片が出土している。塗膜の量から複数個体があったとは考えにくい。後から塗膜が動いたものと考えられる。

出土遺物(図Ⅱ-29)：1は刀子で全長約212mmを測る。両区で茎部分が細長く形成されていることから、小柄の刀身部と思われる。2は断面の直径2.5mmの縫い針である。糸通しの穴は確認できなかった。図化していないが墓墳内東側で出土した漆器塗膜は漆塗り椀の塗膜のみが残ったもので、外面は黒色漆の上に赤色漆で植物の文様を描き、内面は赤色漆が塗られていた。

第5節 集中区

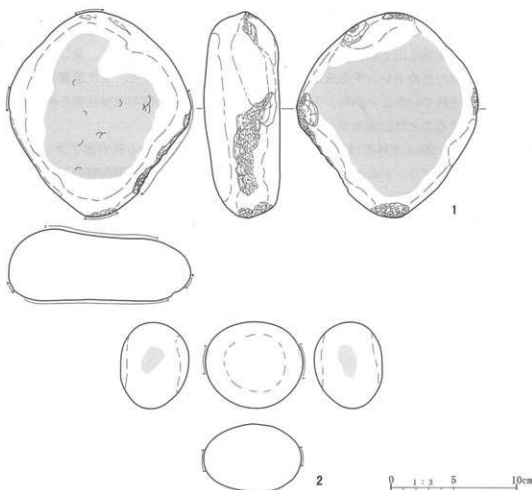
アイヌ文化期に属する集中区は5ヵ所検出した。このうち、集中区20については既に10号平地式住居址と合わせて報告したため、ここでは残りの集中区21~24について記載する。これらアイヌ文化期の集中区は、その位置関係から平地式住居址と関連すると考えられ、集中区21は過年度報告分の2号平地式住居址と、集中区22は6号平地式住居址と、集中区24は1号平地式住居址とそれぞれ関連すると考えられる。

集中区21 (図Ⅱ-30・31 図版15-1・2)

位置：E~H-34~37区 規模：1,900×1,450cm 層位：ⅢbM

関連遺構：灰集中 ⅢAS-10

確認・調査(図Ⅱ-30)：E~H-34~37区を調査中、T₁-T₂段丘崖のⅢbMで棒状礫を中心とする多数の遺物が出土した。遺物は斜面を中心に分布し、斜面裾では少ないため、上方のT₂から流れた遺物で



図Ⅱ-31 集中区 21 出土遺物

表Ⅱ-38 ⅢAS-10属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-30	15-2	ⅢAS-10	F-33	Ⅲb	不整形	20	8	4	灰	

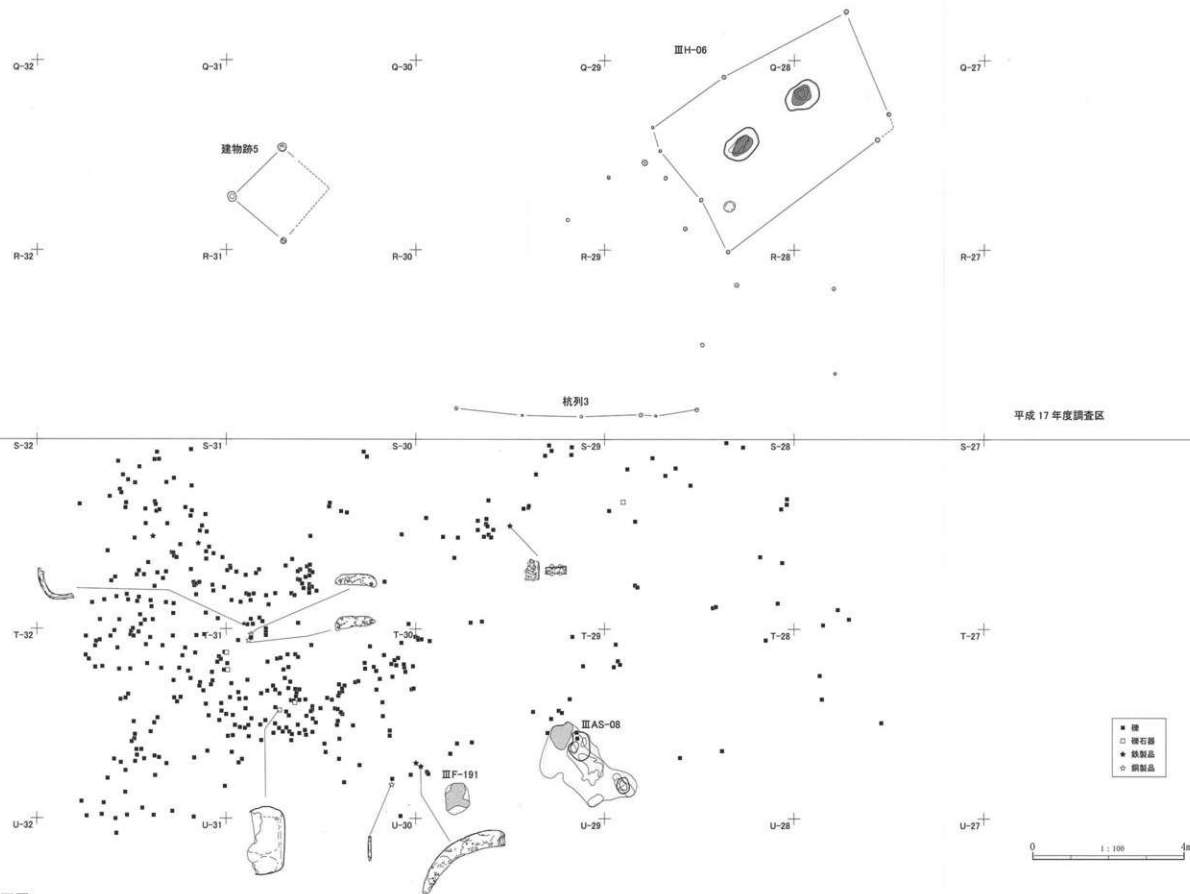
表Ⅱ-39 集中区21出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-31-1	103-2-1	-	115290	たたき石	Ⅱa2	ⅢbM	-	F-37	164.0	144.0	57.0	1820.0	Qu-Sh.	
-	103-2-2	-	115125	たたき石	Ⅳ	ⅢbM	-	F-36	(71.0)	(79.0)	57.0	280.0	Sa.	
-	103-2-3	-	115599	たたき石	Ⅱa2	ⅢbM	-	G-35	75.0	64.0	21.0	125.0	Sa.	
Ⅱ-31-2	103-2-4	-	115296	滑沢面のある礎	-	ⅢbM	-	F-36	76.0	68.0	53.0	380.0	Sa.	
-	103-2-5	-	115300	滑沢面のある礎	-	ⅢbM	-	F-35	280.0	181.0	71.0	3800.0	Sa.	
-	103-2-6	-	115302	台石	-	ⅢbM	-	G-35	(124.0)	91.0	49.0	960.0	Sa.	
-	103-2-7	-	115392	たたき石	Ⅲb	ⅢbM	-	F-38	38.0	36.0	33.0	60.0	Sa.	
-	-	-	115391	たたき石	Ⅱb2	ⅢbM	-	F-38	(96.0)	59.0	62.0	500.0	Sa.	

あることが想定された。この集中区の上方には既報告の2号平地式住居跡が位置し、この住居に関連する遺物である可能性が高いため、報告書作成段階において集中区として設定した。集中区内では遺物の他、小規模な灰集中も検出した(ⅢAS-10)。灰集中については平面形・堆積状態を記録した上で土壌サンプルを採取している。

灰集中(図Ⅱ-30): ⅢAS-10 が関連する灰集中である。T₁-T₂ 段丘上位で検出した小規模な灰集中である。焼骨片は含まれておらず、灰のみが約3cmの厚さで、長軸を斜面部等高線に直交する方

集中区 22



図II-32 集中区22平面図

向に向けて堆積していた。

出土遺物(図II-31)：1は扁平な礫を素材とし、側縁と頂端を使用したたき石である。表裏2面に滑沢面が形成されている。2は楕円形礫の頂端部に滑沢面が形成された礫である。

集中区 22 (図II-32~34 図版 15-3~6, 16-1~6)

位置：S・T-27~31区 規模：2,350×1,250cm 層位：ⅢbM

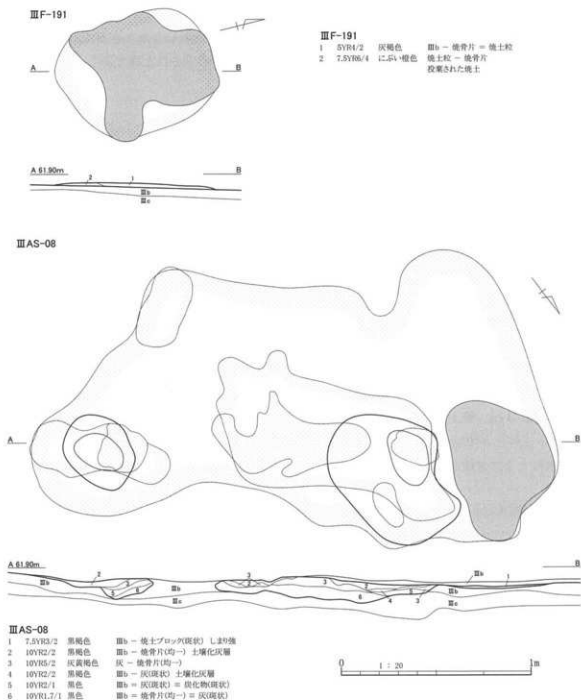
関連遺構：焼土 ⅢF-191 灰集中：ⅢAS-08

確認・調査(図II-32)：T-28・29区のⅢa層調査中、灰集中の一部を確認した(ⅢAS-08)。Ⅲb層を被覆していたため、全体形状の検出はⅢb層調査に入ってから行った。周囲のⅢb層調査を進めたところ、ⅢAS-08に近接してⅢF-191を確認したため、共に平面形・堆積状態の記録を作成した後、土壌サンプルを採取した。両遺構の西側には礫を中心に多数の遺物が出土していたため、報告書作成段階において遺構・遺物出土範囲を集中区として設定した。

焼土(図II-33)：本集中区に関連する焼土はT-29区において検出したⅢF-191である。プランは不整形で、堆積状態を観察したところ、下底面が水平であったことから、投棄された焼土と判断した。土壌サンプルからはウグイと思われるコイ科の骨を多数得ている。

灰集中(図II-33)：ⅢAS-08は長さ266cm、幅164cmの範囲で焼骨片が広がり、その範囲内に合計3カ所の灰ブロックと、1カ所の焼土粒ブロックが形成されている。灰ブロックは最大のもので長さ84cm、幅44cm、焼土粒ブロックは長さ74cm、幅54cmを測る。灰ブロックの下位には灰を斑状に含むⅢb主体土が堆積していた。灰層からは未被熱シカ遺存体が僅かに出土した他、シカ中手・中足骨を素材とした骨鎌が出土している。土壌サンプルからは哺乳綱、コイ科、サケ属の骨を多く得ている。

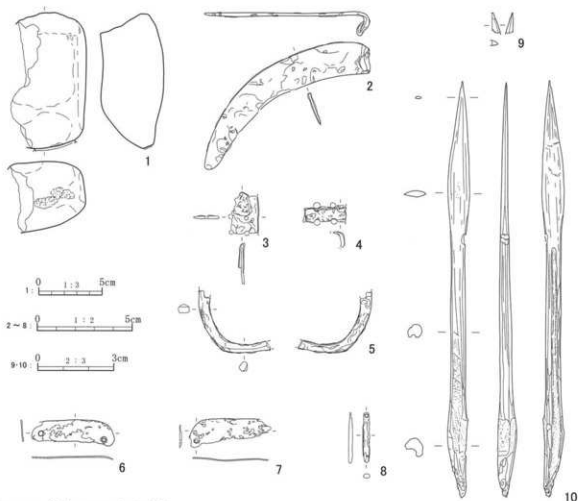
出土遺物(図II-34)：1は角柱状礫を素材としたたき石で、頂端部に敲打痕が形成されている。2~4は鉄製品で、2は着柄部が巻き返されるタイプの鎌である。刃部の幅は約16mmで端部が丸味を帯びている。3・4は小札片で、共に折り返しが認められる。5は現存部形状がL字形に曲がった断面方形の棒状鉄片である。鉤状製品の半製品かもしれない。6~8は銅製品である。6・7は同種のもので、両端部付近に穿孔がみられる。8は靴状のものだが、穿孔は一端のみである。いずれも武器等の部品と思われる。9はⅢAS-08の灰をフローテーションにかけた際に検出したもので、加工痕のある骨片である。骨角器の一部と思われるが、製品の種類を把握するには至らなかった。10はⅢAS-08灰層中から出土した骨鎌である。シカの中手・中足骨を素材とし、基部はやや幅広に、鎌部分は柳葉形に形成されている。灰層中に埋まっていたためか、遺存状態は極めて良好である。



図Ⅱ-33 集中区22 関連遺構

表Ⅱ-40 集中区22焼土・灰集中属性表

採回 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-33	16-1~3	ⅢF-191	T-29	ⅢbM	不整形	96	70	2	骨	焼土粒
Ⅱ-33	16-4~6	ⅢAS-08	T-28-29	ⅢbM	不整形	266	164	13	灰・骨	



図II-34 集中区22出土遺物

表II-41 集中区22出土遺物属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-34-1	103-3-1	-	67194	たたき石	IV	IIIbM	-	T-30	107.0	(58.3)	54.6	400.0	Sa.	
II-34-2	103-3-3	-	63135	鎌	-	IIIbM	-	T-29	86.5	68.0	2.5	13.0	Irn.	
II-34-3	103-3-4	-	55001	小札	-	IIIbU	-	S-29	(23.0)	14.0	3.5	1.2	Irn.	
II-34-4	103-3-5	-	55001	小札	-	IIIbU	-	S-29	(19.0)	23.0	6.0	1.1	Irn.	
II-34-5	103-3-6	-	55002	鈎状製品片	-	IIIbU	-	S-30	(33.5)	38.0	4.0	4.0	Irn.	
II-34-6	103-3-7	-	55007	飾金具?	-	IIIbU	-	T-30	(44.0)	14.0	2.0	1.5	Cu.	
II-34-7	103-3-8	-	63137	飾金具?	-	IIIbM	-	T-30	(43.0)	(15.0)	2.0	1.2	Cu.	
II-34-8	103-3-9	-	63136	留金具?	-	IIIbM	-	T-30	21.0	4.0	4.0	0.9	Cu.	
II-34-9	103-3-10	-	98674	骨角器	-	2	IIIAS-08	T-28	8.0	3.0	2.5	0.1	B.	
II-34-10	103-3-11	-	64819	骨鏝	-	2	IIIAS-08	T-28	16.6	7.2	6.6	6.0	B.	
-	103-3-2	-	61862	たたき石	-	IIIbM	-	T-31	(115.6)	70.9	48.1	390.0	Sa.	

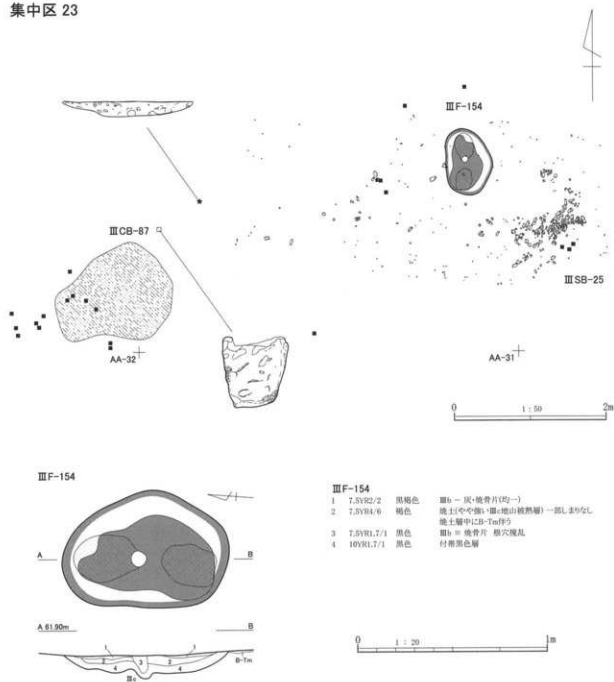
集中区23 (図II-35-36 図版16-7・8)

位置: Z・AA-30~32区 規模: 1,000×500cm 層位: IIIbM

関連遺構: 焼土 IIIF-154 炭化物集中: IIIbCB-87

確認・調査(図II-35): アイヌ文化期の遺構・遺物が希薄なT₂南側段丘縁で検出した集中区である。Z-30区のIIIa層調査時に、棒状礫の一部を確認した。集石と判断できたためIIIbSB-25として設定した。礫の大半はIIIb層中に埋まっていたが、この範囲のみIIIb層調査を先行し、集石全体の検出に努めた。検出の際、周囲の土壌に炭化物が多く混入していたため、土壌サンプルを採取している。

集中区 23



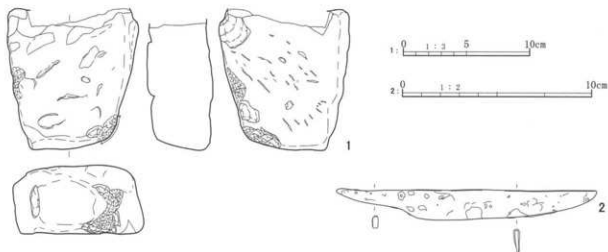
図Ⅱ-35 集中区 23 平面図及び関連遺構断面図

表Ⅱ-42 集中区23焼土属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-35	16-8	ⅢF-154	Z-31	ⅢbL	楕円形	88	62	12	灰	

表Ⅱ-43 集中区23炭化物集中属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅱ-35	-	ⅢCB-87	Z-31・32	ⅢbM	不整形	155	130	



図Ⅱ-36 集中区 23 出土遺物

表Ⅱ-44 集中区23出土遺物属性表

種図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-36-1	104-1-2	-	57009	たたき石	Ⅳ	ⅢbM	-	T-32	111.0	103.0	50.0	890.0	Sa.	
Ⅱ-36-2	104-1-3	-	63502	刀子	-	ⅢbM	-	Z-31	137.0	17.0	3.5	19.2	Irn.	
-	104-1-1	-	63770	たたき石	I a3	ⅢbM	-	Z-29	164.0	67.0	36.0	510.0	Sa.	
-	-	-	63941	砥石	-	ⅢbM	-	AB-32	(143.0)	(47.1)	(16.0)	290.0	Sa.	

表Ⅱ-45 ⅢSB-25属性表

種図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ						標準偏差	
-	-	-	62344	ⅢbM	完形	32.4	-24.5	20.2	-5.9	9.4	-9.3	1.6	-0.7	9.9	○	Sa.	
-	-	-	62222	ⅢbM	完形	33.8	-23.1	24.8	-1.3	12.9	-5.8	1.4	-0.9	14.5	○	Sa.	
-	-	-	62252	ⅢbM	完形	41.0	-15.9	17.4	-8.7	9.9	-8.8	2.4	0.1	10.4	○	Sa.	
-	-	-	56576	ⅢbM	磨完形	39.4	-17.5	27.3	1.2	17.4	-1.3	1.4	-0.9	25.0	○	Sa.	
-	-	-	62211	ⅢbM	完形	41.9	-15.0	21.6	-4.5	18.7	0.0	1.9	-0.4	20.6	○	Sa.	
-	-	-	62223	ⅢbM	完形	45.1	-11.8	25.8	-0.3	19.9	1.2	1.7	-0.6	31.6	○	Sa.	
-	-	-	62250	ⅢbM	完形	44.2	-12.7	26.3	0.2	23.7	5.0	1.7	-0.6	34.7	○	Sa.	
-	-	-	62253	ⅢbM	完形	44.6	-12.3	22.5	-3.6	18.2	-0.5	2.0	-0.3	26.9	○	Sa.	穂1点
-	-	-	62249	ⅢbM	完形	47.0	-9.9	27.2	1.1	19.9	1.2	1.7	-0.6	21.5	○	Sa.	
-	-	-	62248	ⅢbM	完形	50.5	-6.4	18.7	-7.4	16.9	-1.8	2.7	0.4	22.7	○	Sa.	
-	-	-	62276	ⅢbM	完形	50.9	-6.0	29.6	3.5	17.4	-1.3	1.7	-0.6	29.5	-	Sa.	
-	-	-	61750	ⅢbM	完形	46.4	-10.5	26.5	0.4	21.9	3.2	1.8	-0.5	45.2	-	Sa.	
-	-	-	62273	ⅢbM	完形	50.3	-6.6	33.8	7.7	19.7	1.0	1.5	-0.8	49.3	-	Sa.	
-	-	-	62274	ⅢbM	完形	55.3	-1.6	23.1	-3.0	19.6	0.9	2.4	0.1	35.7	-	Sa.	
-	-	-	62190	ⅢbM	完形	56.2	-0.7	41.3	15.2	15.5	-3.2	1.4	-0.9	49.5	-	Sa.	
-	-	-	62358	ⅢbM	完形	54.8	-2.1	34.2	8.1	24.7	6.0	1.6	-0.7	55.2	-	Sa.	
-	-	-	62157	ⅢbM	磨完形	55.6	-1.3	27.3	1.2	26.3	7.6	2.0	-0.3	64.2	○	Sa.	穂1点
-	-	-	62326	ⅢbM	磨完形	55.7	-1.2	27.1	1.0	14.1	-4.6	2.1	-0.2	42.1	-	Sa.	
-	-	-	61751	ⅢbM	磨完形	58.4	1.5	27.9	1.8	17.5	-1.2	2.1	-0.2	35.3	○	Sa.	
-	-	-	62241	ⅢbM	完形	60.6	3.7	26.3	0.2	16.0	-2.7	2.3	0.0	41.6	○	Sa.	
-	-	-	62262	ⅢbM	磨完形	62.1	5.2	19.7	-6.4	19.4	0.7	3.2	0.9	28.3	-	Mud.	穂1点
-	-	-	62141	ⅢbM	完形	60.8	3.9	25.2	-0.9	17.6	-1.1	2.4	0.1	48.3	○	Sa.	
-	-	-	62340	ⅢbM	完形	62.1	5.2	28.7	2.6	22.5	3.8	2.2	-0.1	65.2	○	Sa.	
-	-	-	62192	ⅢbM	完形	62.1	5.2	26.4	0.3	19.4	0.7	2.4	0.1	49.7	○	Sa.	
-	-	-	62388	ⅢbM	完形	62.2	5.3	20.9	-5.2	21.7	3.0	3.0	0.7	47.6	-	Sa.	
-	-	-	62155	ⅢbM	完形	58.1	1.2	32.1	6.0	12.8	-5.9	1.8	-0.5	36.8	-	Mud.	
-	-	-	62341	ⅢbM	完形	65.5	8.6	26.4	0.3	14.6	-4.1	2.5	0.2	39.8	○	Sa.	穂1点
-	-	-	62176	ⅢbM	磨完形	70.3	13.4	33.8	7.7	17.1	-1.6	2.1	-0.2	50.9	○	Sa.	
-	-	-	62325	ⅢbM	完形	72.0	15.1	27.3	1.2	14.2	-4.5	2.6	0.3	39.0	-	Sa.	
-	-	-	62289	ⅢbM	磨完形	62.8	5.9	35.4	9.3	24.6	5.9	1.8	-0.5	63.5	-	Sa.	
-	-	-	62292	ⅢbM	完形	62.6	5.7	37.3	11.2	24.4	5.7	1.7	-0.6	78.9	-	Sa.	
-	-	-	62363	ⅢbM	完形	67.2	10.3	39.1	13.0	17.7	-1.0	1.7	-0.6	59.3	-	Sa.	

表Ⅱ-45 ⅢSB-25属性表(続き)

標図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	-	-	62270	ⅢbM	略完形	68.0	11.1	29.1	3.0	14.9	-3.8	2.3	0.0	57.8	-	Sa.		
-	-	-	62227	ⅢbM	略完形	70.0	13.1	31.2	5.1	20.4	1.7	2.2	-0.1	57.0	○	Sa.		
-	-	ⅢS1168	62317	ⅢbM	完形	66.0	9.1	34.9	8.8	20.7	2.0	1.9	-0.4	76.0	-	Sa.	他3点	
-	-	-	62242	ⅢbM	略完形	69.2	12.3	27.7	1.6	18.8	0.1	2.5	0.2	46.0	○	Mud.		
-	-	-	62391	ⅢbM	完形	71.5	14.6	29.1	3.0	17.6	-1.1	2.5	0.2	59.4	○	Sa.		
-	-	-	62263	ⅢbM	完形	73.3	16.4	20.3	-5.8	20.9	2.2	3.6	1.3	51.7	-	Sa.		
-	-	ⅢS1166	62196	ⅢbM	完形	72.0	15.1	33.6	7.5	20.1	1.4	2.1	-0.2	49.7	○	Mud.	他1点	
-	-	ⅢS1170	62346	ⅢbM	完形	71.6	14.7	22.7	-3.4	15.1	-3.6	3.2	0.9	40.0	-	Mud.	他2点	
-	-	-	62180	ⅢbM	完形	76.1	19.2	35.9	9.8	18.0	-0.7	2.1	-0.2	66.5	○	Sa.		
-	-	-	62258	ⅢbM	完形	74.3	17.4	23.4	-2.7	16.9	-1.8	3.2	0.9	53.9	○	Sa.		
-	104-1-4	ⅢS1167	62170	ⅢbM	完形	76.5	19.6	19.8	-6.3	11.8	-6.9	3.9	1.6	31.5	○	Mud.	他1点	
-	-	-	62243	ⅢbM	完形	77.4	20.5	26.8	0.7	11.8	-6.9	2.9	0.6	44.6	○	Sa.		
-	-	-	62281	ⅢbM	完形	79.3	22.4	27.6	1.5	15.2	-3.5	2.9	0.6	39.2	-	Sa.		
-	-	-	62277	ⅢbM	完形	73.7	16.8	34.4	8.3	21.6	2.9	2.1	-0.2	74.8	○	Sa.		
-	-	-	62231	ⅢbM	欠損	73.7	16.8	30.9	4.8	19.3	0.6	2.4	0.1	68.9	○	Sa.		
-	-	ⅢS1174	62305	ⅢbM	完形	80.7	23.8	34.4	8.3	18.7	0.0	2.3	0.0	65.9	-	Mud.	他8点	
-	-	-	62343	ⅢbM	完形	78.8	21.9	36.3	10.2	16.9	-1.8	2.2	-0.1	85.0	○	Sa.		
-	-	-	62280	ⅢbM	完形	79.5	22.6	27.2	1.1	26.0	7.3	2.9	0.6	58.8	○	Sa.		
-	-	-	62381	ⅢbM	完形	77.3	20.4	30.9	4.8	27.9	9.2	2.5	0.2	119.7	-	Sa.		
-	-	-	62239	ⅢbM	完形	84.9	28.0	24.4	-1.7	16.6	-2.1	3.5	1.2	55.7	-	Sa.		
平均						56.9		26.1		18.7		2.3		48.5				
												総点数	295点	察外形	51点			

また集石の脇で焼土を検出したため(ⅢF-154)、その平面形・堆積状態の記録を行った。ⅢSB-25、ⅢF-154の調査終了後、周囲のⅢb層掘削を行った際、ⅢF-154の西側約4mの位置でクルミを主体とする炭化物集中を検出した。ⅢCB-87として設定し、範囲を記録し、土壌サンプルを採取した。集中区としての設定は報告書作成段階に行った。

焼土(図Ⅱ-35)：ⅢF-154はⅢbMに形成された焼土で、上位に僅かに灰が堆積している。厚さ6cmの良好な焼土層が形成されている。

礫集中(図Ⅱ-35)：ⅢSB-25は棒状礫で構成され、総点数295点、内完形個体51点であった。被熱礫の比率が極めて高い集石であり、周囲の土壌には炭化物が多量に含まれていた。

炭化物集中(図Ⅱ-35)：ⅢCB-87は炭化クルミ殻を主体とする炭化物集中で、長さ160cm、幅130cmの範囲でまとまって検出した。同じ位置で縄文時代のフレイク・チップ集中ⅢFCB-07が出土しているが、ⅢCB-87がⅢbMで最も密度が高く、Ⅲcには達していなかったのに対し、ⅢFCB-07は下位に掘削を進めるに従い密度が高くなっていったため、両遺構の時期が異なることを把握できた。

出土遺物(図Ⅱ-36)：1はたき石で、角柱状礫の稜と頂端部が使用されている。2は棟区のない刀子である。茎は断面方形で端部が尖る。

集中区 24 (図Ⅱ-37~39 図版 17-1~8)

位置：V-X-21~23区 規模：1,200×1,150cm 層位：ⅢbU

関連遺構：焼土 ⅢF-145・148 灰集中：ⅢAS-07・09

確認・調査(図Ⅱ-37)：V-X-21~23区のⅢa層を掘削した際、多数の礫と共に焼土2ヵ所(ⅢF-145・148)と灰集中2ヵ所(ⅢAS-07・09)を確認した。各遺構についてはそれぞれ平面形・堆積状態の記録を作成した後、土壌サンプルを採取した。これらを検出した位置は、平成16年度に調査を行った1号平地式住居址(ⅢH-01)の西側で、位置関係や層位より、関連する遺構群である可能性が高い。そ

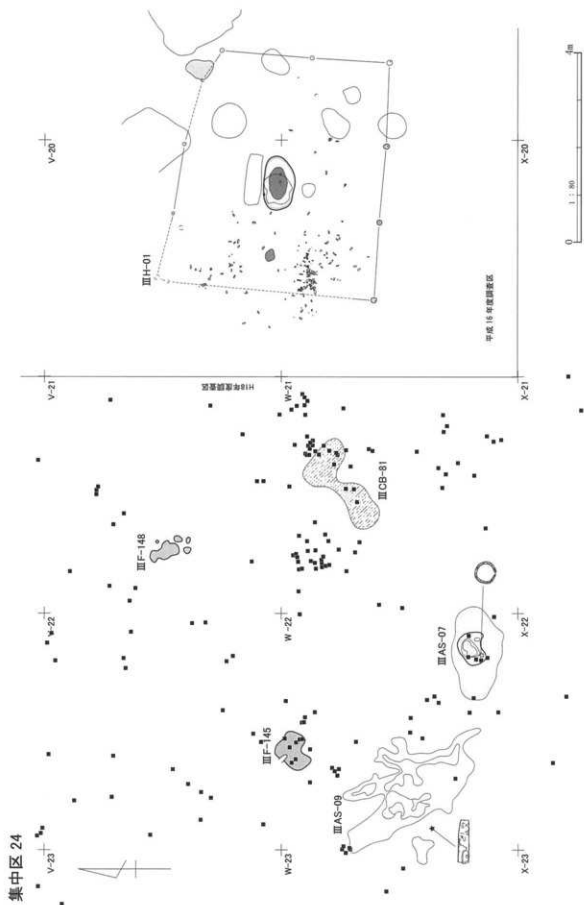
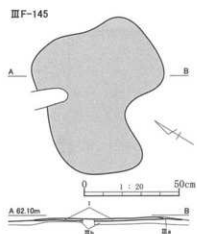
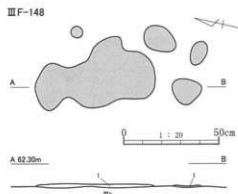


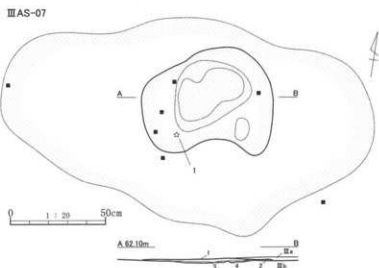
図 II-37 集中区 24 平面図



III F-145
1 10V12/1 黒色 焼土粒・灰 - IIIa~IIIb(均-) = 焼骨片(均-) 土壌化灰層



III F-148
1 7.5V15/4 に近い褐色 焼土ブロック(固状) = 灰(均-) 骨片・炭化物物含まない 段層焼土



III AS-07
1 10V12/1 黒褐色 IIIb = 焼骨片(φ20) = 灰(均-) 粘性極めて強い
2 10V14/1 褐色 IIIb = 灰(均-) = 焼骨片(均-) 粘性やや強
3 10V17/1 灰白色 灰 = IIIb(固状)+焼骨片(均-) 粘性強
4 10V18/1 灰白色 灰 = 焼骨片(φ10) 粘性強



図 II-38 集中区 24 関連遺構

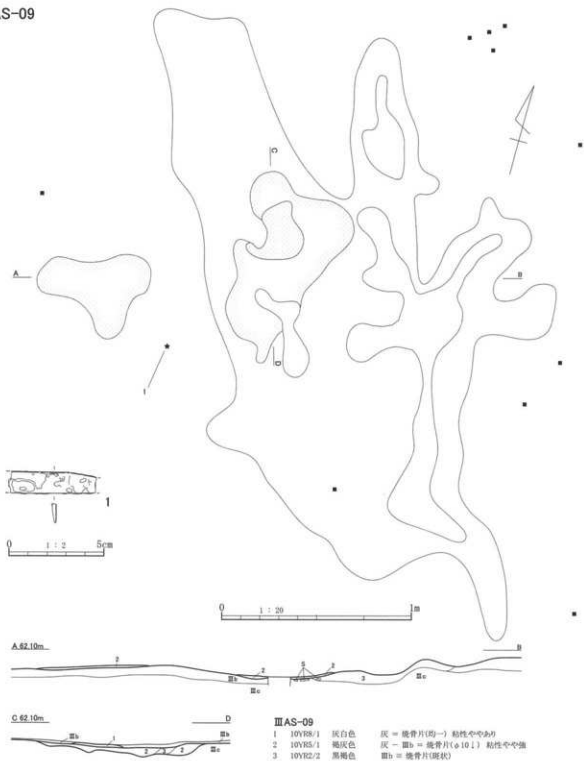
表 II-46 集中区24焼土属性表

棟図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-38	17-1・2	III F-145	W-V-22	IIIbU	不整形	88	84	2	—	焼土粒
II-38	17-3・4	III F-148	V-21	IIIbU	不整形	44	38	2	—	
II-38	17-5~7	III AS-07	W-21-22	IIIbU	不整形	186	108	2	灰・焼骨片	
II-39	17-8	III AS-09	W-22-23	IIIbU	不整形	100	64	7	灰・焼骨片	

表 II-47 集中区24炭化物集中属性表

棟図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		備考
						長軸	短軸	
II-37	—	III CB-81	W-21	IIIbM	不整形	192	112	

IIIAS-09



図II-39 灰集中9 (IIIAS-09)

表II-48 集中区24出土遺物属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-38-1	104-5	—	56003	ニンカリ	—	IIIa	IIIAS-07	W-22	23.0	22.0	2.0	1.3	Cu.	
II-39-1	104-6	—	55960	刀子片	—	IIIbU	—	W-22	(47.0)	12.5	3.0	4.2	Iron.	

こで遺構調査と遺物の取り上げを終了した後、ⅢH-01 前小屋に関連する柱穴の検出に努めたが、確認には至らなかった。

焼土(図Ⅱ-38)：ⅢF-145はⅢAS-09の北側に位置する。焼土粒と灰が主体で、断面を観察した結果、下底面が水平であったことから投棄された焼土と判断した。長さ88cm、厚さ2cmの規模で堆積していた。ⅢF-148は不整形プランの焼土で、堆積状態を観察した結果、下底面が水平であったためⅢF-145と同様投棄された焼土であると判断した。約2cmの厚さで灰を僅かに含む焼土粒が堆積していた。

灰集中(図Ⅱ-38)：ⅢAS-07は長さ44cm、厚さ1cmの規模を測る灰ブロックと、その周囲に広がる焼骨片からなる。焼骨片は灰ブロック上位で最も密度が高く分布していた。灰層上面でニンカリが1点出土している。ⅢAS-09は長さ30cm、厚さ1.5cmの灰ブロックと焼骨片の分布からなる。周囲はⅢAS-09の形成より新しい樹木根の痕跡があり、灰を混入したⅢbが灰ブロック下位に押し込まれていた。周囲で刀子片1点が出土している。

出土遺物(図Ⅱ-38・39)：38-1は銅製のニンカリで、直径約20mm、断面の径は2mmを測る。輪の途切れた部分では約1mmの間隔が開き、端部は一方が尖り、一方は平坦につくり出されている。39-1は刀子の刀身部片である。

第6節 焼土(図Ⅱ-40・41 図版18, 19, 20-1~4)

Ⅲbu~Ⅲbmで検出した焼土をアイヌ文化期に属するものとして扱う。既刊報告書の中でアイヌ文化期の焼土の傾向として、a. 灰層を伴うこと、b. 焼土縁辺に明瞭な付帯黒色層が観察できること、c. 燃焼面が窪むこと、の3つをあげた。今回の報告分でも良好な遺構の検出は少ないが、こうした傾向を追認できる。以下で個別に記載していく。

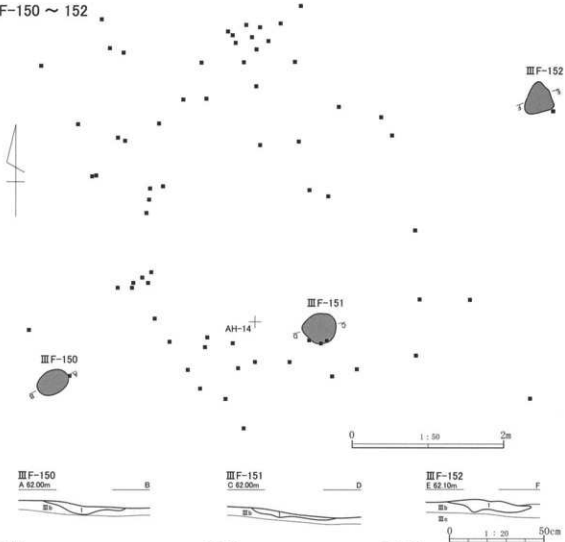
ⅢF-149(図-40)

AD-20区のⅢa調査中に検出した。不整形プランを呈し、焼土粒主体土で形成されている。堆積状態では、焼土下底面が水平で、投棄された焼土と判断した。上位には遺存状態の良い炭化物が多く認められる。Ⅲal~Ⅲbuが形成面で、アイヌ文化期の中でも新しい段階に属する遺構と考えられる。

ⅢF-150~152(図-40)

AG-AH-13・14区のⅢaを掘削した際、ⅢF-150・151・152の3カ所の焼土を検出した。いずれもⅢbuの形成で、焼骨片は極僅かしか伴わないが、良好な焼土層が形成されている。同一面で形成されている他の焼土はほとんどが灰、または焼骨片を伴う中で、これら様相の異なる焼土のみが3カ所近接して検出されていることから、通常の生業活動とは異なる行為にこの場所が使用されていた可能性が想定される。周囲では不定形な礫が散逸して出土しているのみで、特筆する出土状態ではなかった。

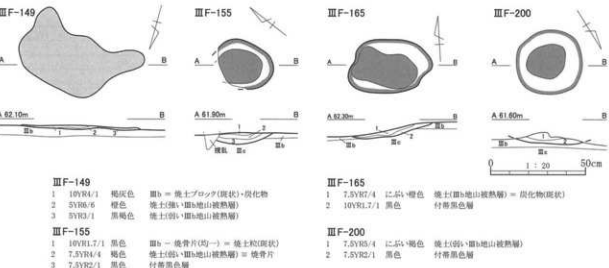
ⅢF-150 ~ 152



ⅢF-150 A 82.00m
 ⅢF-151 C 82.90m
 ⅢF-152 E 82.10m

ⅢF-150 ⅢF-151 ⅢF-152

ⅢF-150 ⅢF-151 ⅢF-152



図Ⅱ-40 アイヌ文化期焼土(1)

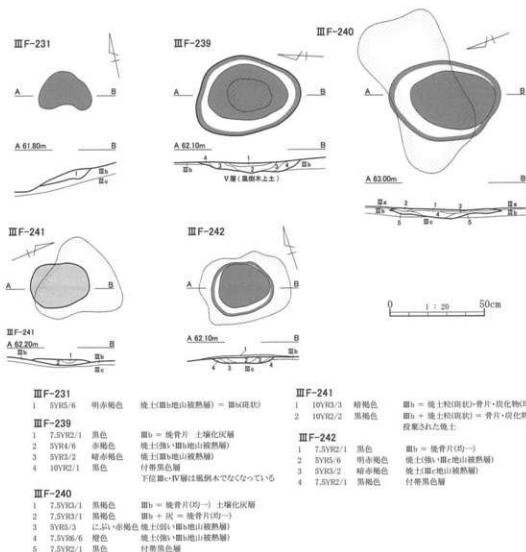


図 II-41 アイヌ文化期焼土 (2)

表 II-49 アイヌ文化期焼土属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-40	19-1	III F-149	AD-20	IIIbU	不整形	66	48	2	—	焼土粒
II-40	18-1~3	III F-150	AH-14	IIIbU	楕円形	44	32	4	—	
II-40	18-5	III F-151	AH-13	IIIbU	楕円形	44	44	3	—	
II-40	18-6・7	III F-152	AG-13	IIIbU	楕円形	44	42	6	—	
II-40	19-2・3	III F-155	Y-28	IIIbM	—	(18)	27	6	骨	
II-40	19-4・5	III F-165	U-21	IIIbU	楕円形	47	29	4	—	
II-40	—	III F-200	—	IIIb	円形	35	34	6	—	
II-41	19-6	III F-231	I-35	IIIbM	楕円形	28	22	6	—	
II-41	19-7	III F-239	AA-14	IIIbM	楕円形	56	42	6	骨	
II-41	20-1・2	III F-240	Z-16-AA-14	IIIbM	長楕円形	59	42	5	骨	
II-41	—	III F-241	X-17	IIIbM	楕円形	33	23	3	骨	焼土粒
II-41	20-3・4	III F-242	AC-14	IIIbM	楕円形	33	28	3	骨	

III F-155 (図-40)

Y-28区で検出した。IIIbUの形成で西側が根による攪乱を受けている。燃焼面は浅く窪み、上位に焼骨片を含むIIIbが堆積していた。

ⅢF-165(図-40)

U-21区において検出した。検出が遅れ上部を削平したため時期は明確ではないが、残存部分で厚さ4cmの焼土が形成されていた。近接する平成16年度調査区において古い段階のアイヌ文化期の焼土を検出しているため、同時期の可能性が高い。

ⅢF-200(図-40)

W-34区で検出した。周囲はⅢbM付近まで耕作により削平されており、焼土上部も削られていた。ただし焼土層がⅢcまで達していないことから、アイヌ文化期の焼土と考えた。

ⅢF-231(図-41)

I-35区T₁-T₂段丘崖上方のⅢbMで検出した。斜面で検出したことから、投棄された焼土粒の可能性を想定したが、断面を観察したところレンズ状の焼土層が確認できたため、この場所で形成された焼土と判断した。焼骨片は伴わない。

ⅢF-239(図-41)

AA-14区のT₂-T₄段丘崖裾のⅢbMで検出した。燃焼面は窪み、上位に焼骨片を含むⅢbが堆積していた。土壌サンプル中からは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-240(図-41)

Z-16区のⅢbMで検出した。燃焼面は僅かに窪み、上位に焼骨片が分布していた。ⅢH-09の南東方向に位置し検出層位も同じであるため、住居址に関連する遺構の可能性がある。土壌サンプルからは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-241(図-41)

X-17区のⅢbMで検出した。堆積状態の観察では、下底面がやや窪むが、レンズ状ではなかったため、投棄された焼土と判断した。ⅢH-09の北側に位置するため住居址に関連する遺構の可能性がある。土壌サンプル中からは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-242(図-41)

AC-14区のⅢbMで検出した。焼土層の厚さは約3cmで、上位に焼骨片を伴う。

第7節 集中遺物 (図Ⅱ-1 図版35-1~4, 89-2, 91-2)

調査区内で他の遺構や遺物集中と関連することなく単体で出土した集中遺物は、ⅢSB-29・30の2カ所である。以下で個別に記載する。

ⅢSB-29 (図Ⅱ-1)

位置: AC-20区 層位: ⅢbM

確認・調査: AC-20区のⅢb調査時に検出した。320×130cmの範囲で64点の棒状を主体とする礎

表Ⅱ-50 ⅢSB-29属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
--	--	--	56585	ⅢbM	完形	21.5	-51.0	18.7	-12.6	9.5	-10.0	1.1	-1.4	5.6	--	Sa	
--	--	--	56546	ⅢbM	完形	25.4	-47.1	18.9	-12.4	14.3	-5.2	1.3	-1.2	10.7	--	Sa	
--	--	ⅢSI256	56574	ⅢbM	完形	53.4	-19.1	27.4	-3.9	18.3	-1.2	1.9	-0.6	31.7	--	Sa	他1点
--	--	--	56576	ⅢbM	完形	56.9	-15.6	32.6	1.3	11.0	-8.5	1.7	-0.8	29.6	--	Sa	
--	--	--	56531	ⅢbM	完形	60.9	-11.6	26.1	-5.2	25.4	5.9	2.3	-0.2	56.9	--	Sa	
--	--	--	56586	ⅢbM	完形	61.8	-10.7	28.3	-3.0	18.6	-0.9	2.2	-0.3	48.1	--	Sa	
--	--	--	56532	ⅢbM	完形	66.9	-5.6	22.4	-8.9	27.4	7.9	3.0	0.5	56.3	--	Sa	
--	--	--	56563	ⅢbM	完形	65.6	-6.9	28.2	-3.1	12.3	-7.2	2.3	-0.2	33.4	--	Sa	
--	--	--	56564	ⅢbM	完形	71.1	-1.4	26.2	-5.1	10.4	-9.1	2.7	0.2	27.4	--	Sa	
--	--	--	56572	ⅢbM	完形	72.3	-0.2	37.9	6.6	16.6	-2.9	1.9	-0.6	63.7	--	Sa	
--	--	--	56538	ⅢbM	完形	76.5	4.0	39.0	7.7	18.9	-0.6	2.0	-0.5	67.1	--	Sa	
--	--	ⅢSI253	56589	ⅢbM	欠損	79.1	6.6	36.0	4.7	28.4	8.9	2.2	-0.3	108.0	--	Sa	他2点
--	--	--	56550	ⅢbM	完形	91.8	19.3	23.7	-7.6	22.7	3.2	3.9	1.4	55.7	--	Mud	
--	--	--	56565	ⅢbM	完形	91.6	19.1	34.3	3.0	26.9	7.4	2.7	0.2	112.4	--	Sa	
--	--	ⅢSI252	56542	ⅢbM	完形	94.3	21.8	37.0	5.7	21.3	1.8	2.5	0.0	94.5	--	Sa	他2点
--	--	ⅢSI254	56533	ⅢbM	完形	98.5	26.0	33.4	2.1	10.0	-9.5	2.9	0.4	50.6	--	Sa	他2点
平均						72.5		31.3		19.5		2.5		56.8			総点数 64点 聚完形 15点

表Ⅱ-51 ⅢSB-30属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
--	--	--	58104	ⅢbM	完形	18.7	-45.1	11.8	-22.3	7.6	-10.2	1.6	-0.4	2.1	--	Sa	
--	--	--	58103	ⅢbM	完形	35.7	-28.1	19.7	-14.4	15.5	-2.3	1.8	-0.2	11.0	--	Sa	
--	--	--	58028	ⅢbM	完形	45.2	-18.6	20.1	-14.0	11.7	-6.1	2.2	0.2	14.4	--	Sa	
--	--	--	58040	ⅢbM	完形	45.8	-18.0	33.1	-1.0	11.1	-6.7	1.4	-0.6	28.0	--	Sa	
--	--	--	58084	ⅢbM	完形	48.1	-15.7	24.3	-9.8	14.2	-3.6	2.0	0.0	22.4	--	Sa	
--	--	--	58022	ⅢbM	完形	50.9	-12.9	38.7	4.6	20.3	2.5	1.3	-0.7	33.1	--	Sa	
--	--	--	58078	ⅢbM	完形	51.2	-12.6	26.6	-7.5	17.8	0.0	1.9	-0.1	33.3	--	Sa	
--	--	--	58029	ⅢbM	完形	51.1	-12.7	30.0	-4.1	12.4	-5.4	1.7	-0.3	28.5	--	Sa	
--	--	--	58030	ⅢbM	完形	51.9	-11.9	22.6	-11.5	14.5	-3.3	2.3	0.3	25.0	--	Sa	
--	--	--	58038	ⅢbM	完形	55.5	-8.3	32.9	-1.2	19.1	1.3	1.7	-0.3	42.6	--	Sa	
--	--	--	57471	ⅢbM	完形	55.1	-8.7	24.1	-10.0	21.3	3.5	2.3	0.3	37.7	--	Sa	
--	--	--	58026	ⅢbM	完形	57.2	-6.6	31.9	-2.2	16.7	-1.1	1.8	-0.2	38.5	--	Con	
--	--	--	58056	ⅢbM	完形	57.0	-6.8	36.3	2.2	13.9	-3.9	1.6	-0.4	45.3	--	Sa	
--	--	--	57466	ⅢbM	完形	57.6	-6.2	26.0	-8.1	14.8	-3.0	2.2	0.2	25.7	--	Sa	
--	--	--	58312	ⅢbM	完形	59.4	-4.4	35.1	1.0	10.8	-7.0	1.7	-0.3	30.8	--	Sa	
--	--	--	58090	ⅢbM	完形	60.8	-3.0	42.1	8.0	19.4	1.6	1.4	-0.6	48.5	--	Sa	
--	--	--	58313	ⅢbM	完形	60.6	-3.2	29.7	-4.4	11.2	-6.6	2.0	0.0	32.6	○	Sa	
--	--	--	58009	ⅢbM	完形	63.5	-0.3	23.3	-10.8	23.0	5.2	2.7	0.7	37.6	--	Sa	
--	--	--	58069	ⅢbM	完形	61.4	-2.4	21.8	-12.3	14.0	-3.8	2.8	0.8	23.8	--	Sa	
--	--	--	58071	ⅢbM	完形	60.7	-3.1	42.2	8.1	20.6	2.8	1.4	-0.6	57.4	--	Sa	
--	--	--	57498	ⅢbM	完形	59.3	-4.5	36.3	2.2	29.2	11.4	1.6	-0.4	77.4	--	Sa	
--	--	--	58072	ⅢbM	完形	64.2	0.4	38.4	4.3	11.4	-6.4	1.7	-0.3	39.0	--	Sa	
--	--	--	58077	ⅢbM	完形	63.3	-0.5	32.7	-1.4	19.4	1.6	1.9	-0.1	46.3	--	Sa	
--	--	--	58094	ⅢbM	完形	64.9	1.1	30.7	-3.4	18.9	1.1	2.1	0.1	47.2	--	Sa	
--	--	--	57484	ⅢbM	完形	65.5	1.7	36.2	2.1	21.1	3.3	1.8	-0.2	60.5	--	Sa	
--	--	--	58089	ⅢbM	完形	68.2	4.4	35.5	1.4	14.2	-3.6	1.9	-0.1	46.0	--	Sa	
--	--	--	58068	ⅢbM	完形	65.3	1.5	31.1	-3.0	23.7	5.9	2.1	0.1	44.4	--	Sa	
--	--	ⅢSI266	57487	ⅢbM	完形	67.4	3.6	23.0	-11.1	23.6	5.8	2.9	0.9	72.0	--	Sa	
--	--	--	57468	ⅢbM	完形	66.6	2.8	22.7	-11.4	21.4	3.6	2.9	0.9	38.2	--	Sa	他1点
--	--	--	58085	ⅢbM	完形	69.6	5.8	41.7	7.6	20.4	2.6	1.7	-0.3	80.5	--	Sa	
--	--	--	57497	ⅢbM	完形	72.1	8.3	32.7	-1.4	23.0	5.2	2.2	0.2	67.9	--	Sa	
--	--	--	58046	ⅢbM	完形	83.3	19.5	38.2	4.1	23.0	5.2	2.2	0.2	90.0	--	Sa	
--	--	--	57494	ⅢbM	完形	102.2	38.4	33.0	-1.1	18.5	0.7	3.1	1.1	54.7	--	Sa	
--	--	--	58105	ⅢbM	完形	210.0	146.2	155.0	120.9	29.0	11.2	1.4	-0.6	1630.0	--	Sa	
平均						63.8		34.1		17.8		2.0		88.6			総点数 143点 聚完形 34点

が出土している。出土状態は散逸しており、住居に伴う礫集中と比べてまとまりが悪い。完形個体は15点で、欠損率が高い集石である。

ⅢSB-30 (図Ⅱ-1)

位置：X-18・19区 層位：ⅢbM

確認・調査：X-18・19区のⅢb層調査時に検出した。周囲は攪乱が著しく、島状に残されたⅢb残存範囲で出土している。300×220cmの範囲で143点の棒状礫が出土している。出土状態はやや散逸している。完形の個体は34点で、やや欠損率が高い。

第8節 獣骨集中・焼骨片集中

本節では、包含層調査中に平地式住居址から距離をおき、スポット的に検出した骨の集中について記載する。これらはいずれもⅢBBの遺構名を付けているが、大きく2つの種類に分けられる。1つは未被熱の獣骨で構成されるもので「獣骨集中」として報告する。もう1つは焼骨片で構成されるもので「焼骨片集中」として報告する。獣骨集中及び調査区内で出土した個々の未被熱獣骨については、1破片毎にNoを付し、台帳に層位と推定部位等を記入し、トータルステーションで位置を記録した。また必要に応じ微細図を作成している。取り上げについては遺存状態が良好で、部位同定が可能と思われる資料のみ、希釈した木工用ボンドで補強し、土壌ごと取り上げている。焼骨片集中に関しては、分布範囲を記録した上で、土壌サンプルを採取した。

獣骨集中 34 [ⅢBB-34] (図Ⅱ-42 図版20-5~7)

位置：O・P-42区 主体検出層位：ⅢbU

規模：366×333cm 平面形：不整形

主体動物/部位：シカ/頭蓋骨

確認・調査：ⅢBB-34はT₁-T₂段丘崖裾のO・P-42区で検出した。Ⅲa層の掘削を開始してすぐに散逸した状態で多数の骨の出土を確認したことから、全体形状の検出に努めた。出土した骨はすべてⅢb層上面に位置していたため、アイヌ文化期でも新しい時期のものであると判断できた。調査中、トレンチの縁に位置していた一部の骨が大雨の際にトレンチ壁面と共に崩落したが、他の資料については補強した上で取り上げを行っている。

分布・出土状態：散逸した分布であるが、試掘トレンチに近い南側でやや密度が高い。平成16年度に行ったT₁の試掘調査でもトレンチ内で多数の獣骨を確認したため、トレンチ付近が分布の中心であったと考えられる。集中範囲内に複数個体のシカ下顎骨がそれぞれ距離を置いて出土していた。

獣骨の特徴：同定結果では、シカの角座、上顎・下顎歯などの頭蓋骨に由来する部位が主体で、四肢骨等胴体部分の骨はほとんど含まれていない。また遺存状態は上・下顎骨が比較的良好な状態で遺存するものから、臼歯冠列のみが遺存するものまで、個体ごとに差が認められた。

性格：四肢骨等胴体部分の骨が極端に少ないことからシカ頭部のみが意図的に集められ、また下顎骨を伴うことからこの場に持ち込まれた時点では骨のみでなく肉や皮膚も残っていた可能性が

表Ⅱ-52 ⅢBB-34属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備 考
						長軸	短軸				
Ⅱ-42	20-5~7	ⅢBB-34	O・P-42,P-43	ⅢbU	不整形	366	333	上・下顎骨	—	—	

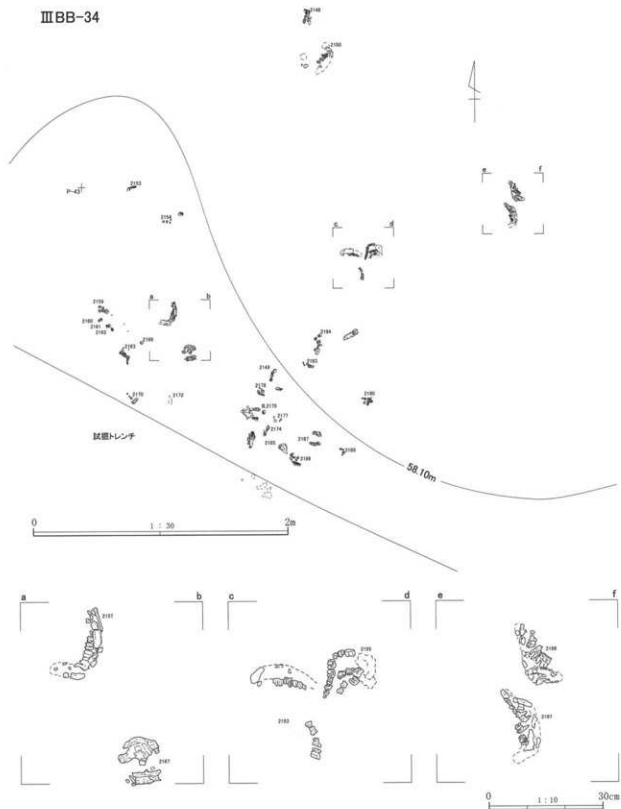


図 II-42 獣骨集中 34 (III BB-34) 平面図

高い。以上の状況から遺跡内、もしくはごく近縁で解体し、その直後のシカ頭骨を用いた「送り儀礼」的行為により残された集中と考えられる。時期については、検出層位からモイ遺跡が集落として営まれた最も新しい時期に相当する。

獣骨集中 51 [ⅢBB-51] (図Ⅱ-43・44 図版 21)

位置：A+B+51・52区 主体検出層位：ⅢaU

規模：885×450cm 平面形：不整形

主体動物/部位：シカ全身骨

確認・調査：重機による火山灰除去中、T₁北西端部で検出した。獣骨集中の位置はIV層(Ta-c)降下時まで流れていた旧河道跡の中州状の高まりに相当する。Ⅱc層(Ta-b)を直接被る状態で出土したことから、周囲の火山灰除去は人力で慎重に行った。骨の検出を進めた結果、樹木根痕とその東脇に1個体、南に離れた位置で1個体の計2個体分のシカの骨を確認した。骨と樹木痕との関係を把握するため、樹木痕に堆積状態観察用のトレンチを設定したところ、Ⅱcの堆積は全体を被覆しているが、腐食した根痕中への混入は極僅かであることが解った。以上よりこの樹木痕は獣骨集中が形成されたTa-b降下時にまだ生育していたか、あるいは立ち枯れ状態であった立木の痕跡であると判断した。獣骨の調査は写真撮影の後、微細図を作成した後取り上げを行った。

分布・出土状態：出土した2個体内、樹木痕脇の1個体(個体A)はほぼ全身の骨が残され、比較的まとまり良く出土していた。アイヌ文化期の他の獣骨集中ではみられない部位の末節骨や椎骨などの体幹骨が出土しているのが特徴である。南に離れて出土した別個体(個体B)の骨は、頭蓋骨と僅かな四肢骨で構成され、散逸した状態で出土していた。獣骨が樹木痕内に落込んでいないことから、獣骨集中と樹木痕との同時性が追認できる。

獣骨の特徴：詳細は第七章第4節で報告されているが、出土したシカは4歳前後の成獣で、特筆すべき点として個体Aの角幹に小動物による噛み痕が残されていた。

性格：出土した獣骨は直接Ⅱcを被覆していたことから、1667年直前頃に残された集中と判断できる。上幌内モイ遺跡における焼土等の他の遺構は、いずれもⅢa層を除去した後に検出され、ⅢbU形成のものが最も新しいため、集落としての利用は1667年よりも数十年程古い17世紀初頭頃までであったと考えられる。従って本遺構は遺跡が集落としての機能を終えた後に残されたことになる。また4歳前後の大きく成長したシカの全身骨が出土していることから、狩猟後長距離を移動したとは考え難く、近くで狩猟した後すぐに解体され、肉、皮のみを得た残りと考えられる。以上より、本遺構は集落から離れた狩猟場における、大木を意識した「送り場」としての性格が想定される。

表Ⅱ-53 ⅢBB-51属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備考
						長軸	短軸				
Ⅱ-43	21	ⅢBB-51	A+B-50-51	ⅢaU	不整形	885	450	シカ全身	—	—	樹木根痕に伴う

III BB-51

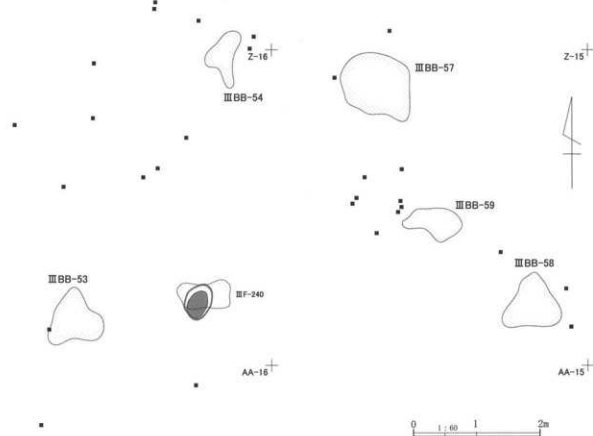


図II-44 獣骨集中51(III BB-51)拡大図

焼骨片集中 53・54・57～59〔ⅢBB-53・54・57～59〕 (図Ⅱ-45)

確認・調査等：いずれも Z-15・16 区のⅢbM で検出した焼骨片集中である。ⅢBB-53・54・59 の土壌サンプル中からは哺乳綱の骨を得ている。ⅢH-09 の南東側に位置し、それぞれの土壌サンプルから得た骨の構成に魚骨が含まれていない点がⅢH-09 付属炉と共通することや検出層位より、住居址と関連する遺構群の可能性はある。

ⅢBB-53・54・57～59



図Ⅱ-45 焼骨片集中

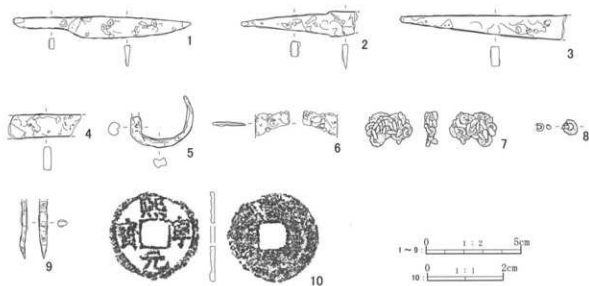
表Ⅱ-54 アイヌ文化期焼骨片集中属性表

種図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備 考
						長軸	短軸				
Ⅱ-45	—	ⅢBB-53	Z-16	ⅢbM	不整形	93	90	—	○	—	
Ⅱ-45	—	ⅢBB-54	Y・Z-16	ⅢbM	不整形	90	75	—	○	—	
Ⅱ-45	—	ⅢBB-57	Z-15	ⅢbM	不整形	132	102	—	○	—	
Ⅱ-45	—	ⅢBB-58	Z-15	ⅢbM	不整形	93	84	—	○	—	
Ⅱ-45	—	ⅢBB-59	Z-15	ⅢbM	不整形	96	54	—	○	—	

第9節 アイヌ文化期包含層出土遺物

金属製品 (図Ⅱ-46 図版 104-2)

1~4 は刀子及び刀子片である。1 は棟区のない比較的小型のもの、2~4 は某部分で2には棟区、刃区の両方が形成されている。いずれも基部の断面形は方形である。5 は表採資料の鈎状製品で表裏関係にある2面に浅い溝が入り断面形が「H」字形になっている。6 は小札片で径2mmの穴が開けられている。7・8 は同一個体の鎖形製品で、8 は鎖を構成する鉄製の輪の1つである。鎖の連結方法に特徴があり、直径約8mmある鉄製の輪同士を、径の異なる別の輪を用いて連結している。同様の構造をした製品は、陸別町クエピラチャシ跡(大島居 2007)で出土している。9 は棒状鉄片で、端部が尖り、若干折れ曲がっている。断面形が長方形であることから、鍔片の可能性がある。ⅢH-08に近いS-21区ⅢbUで出土している。10 は1068年初鋳の「熙寧元寶」である。



図Ⅱ-46 アイヌ文化期包含層出土遺物

表Ⅱ-55 アイヌ文化期包含層出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-46-1	104-2-1	-	56282	刀子	-	ⅢbM	-	AG-15	94.0	12.5	3.0	7.1	Iron	
Ⅱ-46-2	104-2-2	-	55003	刀子片	-	ⅢbU	-	U-34	(62.0)	13.0	5.0	7.6	Iron	
Ⅱ-46-3	104-2-3	-	55004	刀子茎	-	ⅢbU	-	V-34	(38.0)	8.0	5.0	16.8	Iron	
Ⅱ-46-4	104-2-4	-	73673	刀子茎	-	ⅢbM	-	K-36	38.0	13.0	5.0	3.1	Iron	
Ⅱ-46-5	104-2-5	-	-	鈎状製品	-	ⅢbM	-	表採	33.0	27.0	7.0	4.9	Iron	
Ⅱ-46-6	104-2-6	-	55239	小札片	-	ⅢbU	-	U-22	8.0	(18.0)	3.0	0.7	Iron	
Ⅱ-46-7	104-2-7	-	73674	鎖型製品	-	ⅢbM	-	K-36	24.8	18.0	6.8	3.1	Iron	
Ⅱ-46-8	-	-	73674	鎖型製品	-	ⅢbM	-	K-36	8.1	8.0	4.0	0.3	Iron	
Ⅱ-46-9	104-2-8	-	55507	鍔片	-	ⅢbU	-	S-21	(30.0)	5.0	4.0	0.5	Iron	
Ⅱ-46-10	104-2-9	-	73880	古銭	-	Ⅲbl	-	V-40	23.0	23.0	1.0	2.2	Cu	

第三章 擦文文化期の調査

擦文文化期の調査では、合計 57 カ所の焼土や土器・礫石器を中心に多数の遺構・遺物が出土している。これらは無関係に分布しているのではなく、ある程度まとまりをもった集中区を形成している。平成 18・19 年度の調査区では擦文文化期に属する集中区が合計 20 カ所で認められた。この中には鉄器生産関連遺物の集中も含まれている。また特筆すべき遺構として、擦文文化期としては事例の少ない土壇墓を 1 基検出している。

表Ⅲ-1 擦文文化期 遺構群一覧表

遺構名	規模 (cm)		グリッド	層位	付属遺構						備考
	長軸	短軸			土坑	焼土等	獣骨集中	炭化物集中	土器集中	礫集中	
集中区25	825	575	S-T-21	Ⅲbl		ⅢF-146・167・180		ⅢCB-83	ⅢPB-23	ⅢSB-36	
集中区26	1,300	1,050	T~V-22-25	Ⅲbl	ⅢP-23・25・27・28・29	ⅢF-162・166		ⅢCB-84		ⅢSB-35	
集中区27	900	850	S-T-25・26	Ⅲbl		ⅢF-172・173			ⅢPB-26		
集中区28	850	700	U・V-26・27	Ⅲbl		ⅢF-170・171			ⅢPB-27・28・29		
集中区29	900	700	S-T-27・28	Ⅲbl		ⅢF-176・179				ⅢSB-37	
集中区30	1,200	1,150	S~U-29~31	Ⅲbl		ⅢF-193・194・195・196			ⅢPB-40	ⅢSB-41・42	
集中区31	800	600	U・V-30・31	Ⅲbl	ⅢP-47	ⅢF-189			ⅢPB-39	ⅢSB-43	
集中区32	950	750	W・X-30・31	Ⅲbl	ⅢP-31	ⅢF-186・188			ⅢPB-33・34		
集中区33	1,350	1,000	U~W-31~34	Ⅲbl	ⅢP-32	ⅢF-190		ⅢCB-88		ⅢSB-44	
集中区34	1,300	700	W~Y-32~34	Ⅲbl		ⅢF-185	ⅢBB-25		ⅢPB-35	ⅢSB-40	
集中区35	1,500	1,300	T~W-34~36	Ⅲbl	ⅢP-40・41・44・45	ⅢF-192・216・218・219・224	ⅢBB-37・41		ⅢPB-42・52・54	ⅢSB-47・53	
集中区36	650	500	Y-34・35	Ⅲbl	ⅢP-35・36・39	ⅢF-214				ⅢSB-52	
集中区37	750	700	W・X-35・36	Ⅲbl	ⅢP-33・34a・34b・38	ⅢF-217				ⅢSB-51	
集中区38	700	500	V~X-37・38	Ⅲbl	ⅢP-37a・37b	ⅢF-210・212・227				ⅢSB-49	
集中区39	975	950	V・W-38~40	Ⅲbl	ⅢP-42・43・46	ⅢF-209・211・213・215・220・222				ⅢSB-50・57	
集中区40	1,050	800	AA~AC	Ⅲbl		ⅢF-168			ⅢPB-24・25		
集中区41	1,350	650	AB・AC-28~30	Ⅲbl		ⅢF-183・198・202	ⅢBB-23	ⅢCB-86	ⅢPB-31・32・45	ⅢSB-38・39	
集中区42	850	800	S-T-38・39	Ⅲbl							ⅢX-02と関連?
集中区43	900	750	P・G-47・48	Ⅲbl		ⅢF-236・237				ⅢSB-61・62	
集中区44	900	600	O・P-41・42	Ⅲbl					ⅢPB-48	ⅢPB-02	

第1節 土墳墓

3号土墳墓〔ⅢGP-03〕 (図Ⅲ-3~7 カラー図版 1-1~5、図版 22-1~7、23-1~8)

位置: W・X-37・38区

規模: [主体部] 262×94×30cm [封土] 328×-×4cm

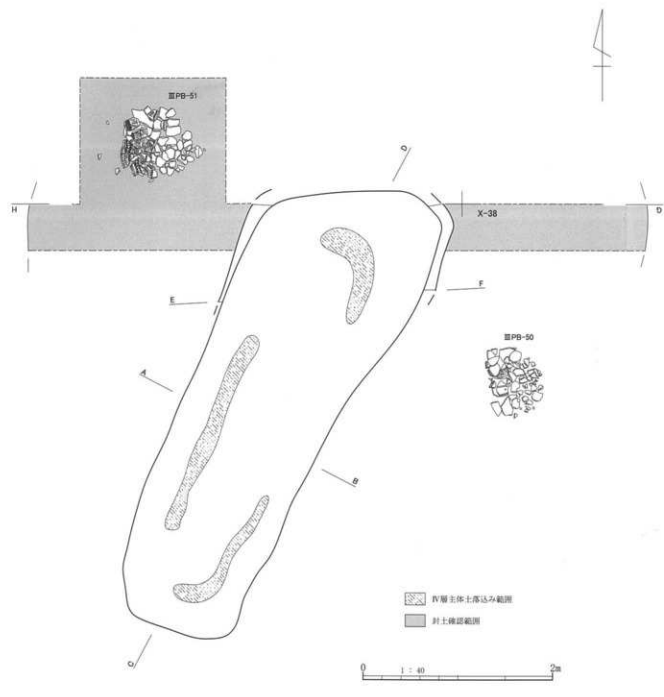
遺構の用語: [土墳墓] 遺構全体に対する呼称 [主体部] 遺体を埋葬した土坑部分
[封土] 主体部を覆うマウンド

主体部平面形: 不整長方形 長軸方向: N-27° E

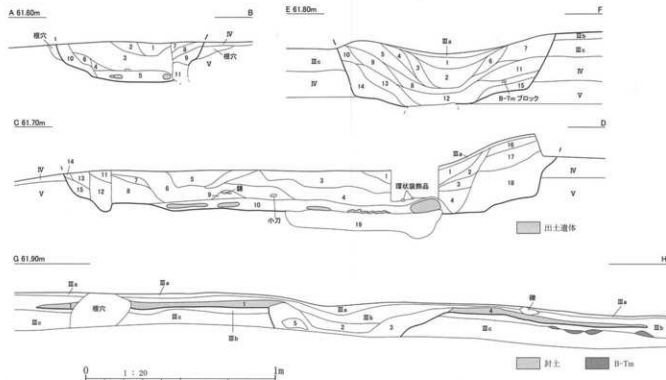
確認・調査: Ⅲ層の調査が進み、包含層掘削がⅣ層上面まで達した際、X-38区においてⅢc主体土の落込みを確認した。性格を把握するためトレンチを設定し、堆積状態の確認を行った。その際、プランが調査区メインセクションベルトと一部重なっていたことから、ベルトに沿わせてトレンチを設定した(E-Fライン)。調査を進めたところ、トレンチ内Ⅲc落込み中から金属製品と、その下位でヒトの歯冠片を確認したため、土墳墓であることが判明した。土墳墓の主体部プラン確認のため周囲のⅣ層上面の精査を行った結果、北東-南西方向に長い不整長方形プランを検出した。またE-Fラインと包含層メインセクションで堆積状態の観察を行い、主体部構築時に掘り上げたTa-c主体土の堆積を確認した。同質の土は主体部上位を覆う状態で堆積していたことから封土と判断した。検出面では主体部プランに沿う配置で認められるTa-c主体土の溝状の落込みが確認できたため、記録を行った。また土墳墓確認以前に周囲で検出した土器集中が墓に関連する可能性が想定されたため、メインセクションにかかるⅢPB-51について封土との関係を観察した。結果封土に直接乗る状態で土器集中が形成されていたことから、副葬品であると判断した。主体部の調査はプランに合わせて十字のセクションラインを設定し内部を4分割し、1区画ごとに進めた。遺体が残存していることが解っていたため、最初の掘削は墳底面まで下げず、堆積土の粘性が高く遺体に近いと思われる面で止めた。堆積状態を記録しながら各区画の掘削を進めたところ、主体部中央付近で鉄製品が2点、北東壁際で黒曜石転礫、北側で擦文土器小型甕が出土した。遺体層直上まで全体が下がった段階で、副葬品出土状態の図面作成と撮影を行い、その後遺体の検出に入った。遺体検出は脚部側から始め、情報量の多い歯を伴う頭部の検出を最後に行う手順で進め、途中5%と20%濃度のバインダー溶液を用いて人骨を補強しながら行った。人骨の遺存状態は悪く骨粉化が進んではいたが、ほぼ全身の部位が把握できる状態であった。すべての部位の検出を終了した後、検出状態の撮影と図面作成を行い、副葬品の取り上げを行った。遺体の取り上げは、頭蓋骨等の主要部位については札幌医科大学中村宅雄氏に依頼し、他の部位については氏の指導に従い調査員が行った。取り上げた遺体は補強した後梱包し、札幌医科大学松村博文氏に鑑定を依頼した上で、大学にて保管していただいている(第七章3節)。遺体取り上げ後、墓壇の構造把握のため墳底及び壁面にトレンチを複数設定し、堆積状態の観察を行った。特に遺体周囲で杭跡状のしまりのないⅢc主体土の落込みを複数確認していたため、その性格把握に努めたが、いずれも下端部が横方向に曲がって落込んでいたため根痕として判断した。また遺体の直下にもしまりのない土が堆積していたが、これも根による攪乱である可能性がある。

主体部形態(図Ⅲ-3・4): 主体部は北東隅がやや張り出す不整長方形プランを呈する。長さ262cm、幅94cmの規模を測り、確認面からの深さは約22cm、セクション面E-Fラインで観察できる構築面からの深さは約37cmである。墳底面は、北側と東西両壁面付近で段状の平坦部が認められ、南側か

III GP-03



図Ⅲ-3 3号土墳墓検出状態平面図及び断面図



A-Bラインセクション

- 1. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = V(既設) L2中や全層 粘性中
- 2. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既設) L2中 粘性强
- 3. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 4. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中 粘性强
- 5. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性や全層
- 6. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性中
- 7. 10YR2/1 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 8. 10YR2/1 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 9. 10YR3/4 に近い黄褐色 Ⅳ = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强
- 10. 10YR3/2 に近い黄褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 11. 10YR2/1 黒褐色 Ⅲc = IV(既設) L2中 粘性强

E-Fラインセクション

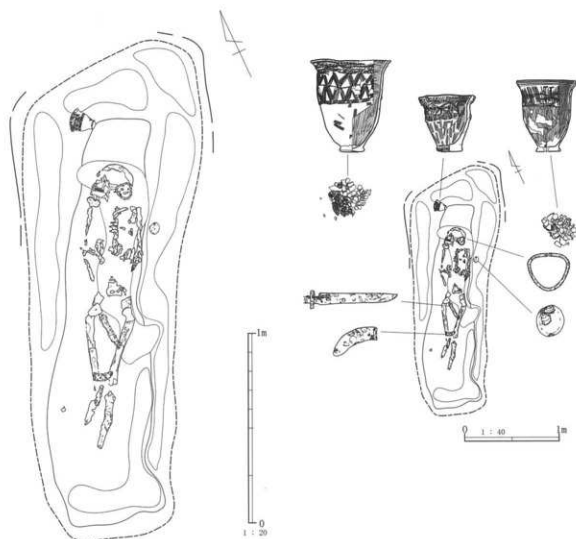
- 1. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲb = L2中 粘性强
- 2. 10YR2/1 黒褐色 Ⅲb = IV-V(既) L2中 (φ20) L2中や全層 粘性强
- 3. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中 粘性强
- 4. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = Ⅲc(既) L2中 粘性强
- 5. 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅲc = IV(既) L2中 粘性强
- 6. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = Ⅲc(既) L2中 粘性强
- 7. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 8. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 9. 10YR2/1 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 10. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 11. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 12. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 13. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 14. 2.5Y3/4 黄褐色 Ⅳ = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强
- 15. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 16. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 17. 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅳ = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强
- 18. 10YR4/3 に近い黄褐色 Ⅳ = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强
- 19. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强

C-Dラインセクション

- 1. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲb = V(既) L2中 粘性や全層
- 2. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中 粘性や全層
- 3. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中 粘性や全層
- 4. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中 粘性强
- 5. 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅲc = IV(既) L2中 粘性や全層
- 6. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中 粘性强
- 7. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性中
- 8. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 9. 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 10. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 11. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 12. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 13. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 14. 2.5Y3/4 黄褐色 Ⅳ = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强
- 15. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = V(既) L2中や全層 粘性强
- 16. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = IV(既) L2中や全層 粘性强
- 17. 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅳ = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强
- 18. 10YR4/3 に近い黄褐色 Ⅳ = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强
- 19. 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = Ⅲc(既) L2中や全層 粘性强

G-Hラインセクション

- 1. 10YR4/2 灰黄褐色 Ⅲc = Ⅲc(既) L2中
- 2. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = Ⅲc(既) L2中
- 3. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既)
- 4. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既)
- 5. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(既)



図Ⅲ-4 ⅢGP-03墓墳内平面図

表Ⅲ-2 ⅢGP-03属性表

棟号 番号	図版 番号	検出	グリッド	平面形		調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	備考
				調査面/ 坑底面	不整長方形/ 不整長方形	長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅲ-3-4	カラー-1 22-23	Ⅳ	W・X-38	不整長方形/ 不整長方形	262	94	214	55	30	N-27°E		

ら南東側壁面付近には浅い溝状の落込みが確認できた。壁面は鉢状に開きながら立ち上がっている。

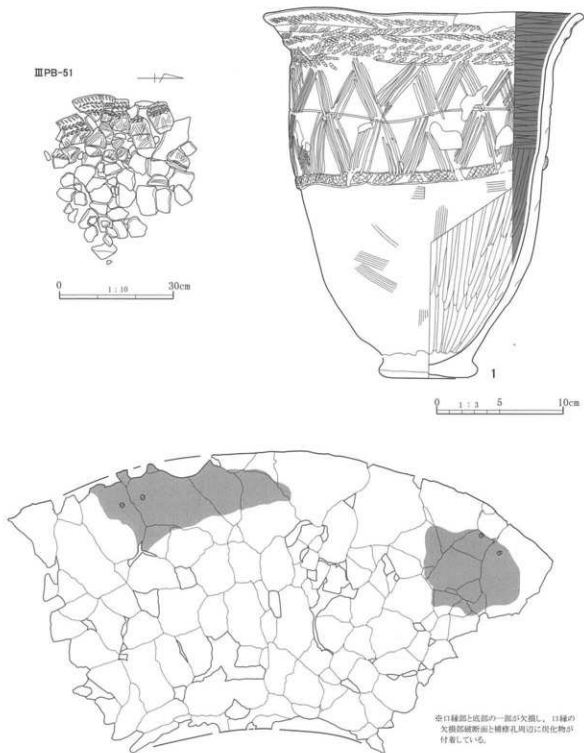
堆積状態(図Ⅲ-3)：堆積土はⅢeとⅣ層が主体である。特筆すべき堆積状態として、A-BラインとC-Dラインセクションの壁際付近において層の明瞭な境が観察できた。この位置は主体部検出時溝状に確認できたTa-c主体土の落込みと対応する。またE-Fラインでは主体部上位のⅢbが大きく落込む状態が観察できた。以上の特徴よりこの土壌墓は、構築当時木棺が用いられ内部が空洞であり、その上に封土が盛土されていたと判断した。層の境は木棺の仕切りによる堆積過程の違いを示し、Ⅲbの深い落込みは空洞部への封土陥没後の自然堆積と判断した。以下ではA-Bライン、C-Dラインを対象に、分層した各堆積土について上記判断の下での解説を記載する。C-Dラインの1・2は土壌

墓理没後のⅢb 自然堆積。A-B ラインの 1~6、C~D ラインの 3~9 は埋没時における主体部内部への封土落込み。A-B ラインの 7~9・10、C-D ラインの 11~18 は主体部壁面と木棺との間の間隙を埋めた壁面起源の土。

出土遺体(図Ⅲ-4)：遺体は身長約 150 cm。第Ⅶ章第 3 節の報告によれば性別は不明だが壮年(20~40 歳)とのことであった。埋葬姿勢は北北東頭位の仰臥伸展葬で、顔面は西に向けていた。腕は腹部付近で掌が重なるであろう状態に軽く曲げられており、また若干肩をすぼめている印象を受けた。脚は両膝が接し、内股の状態になっていた。主体部の広さに反して窮した姿勢といえる。

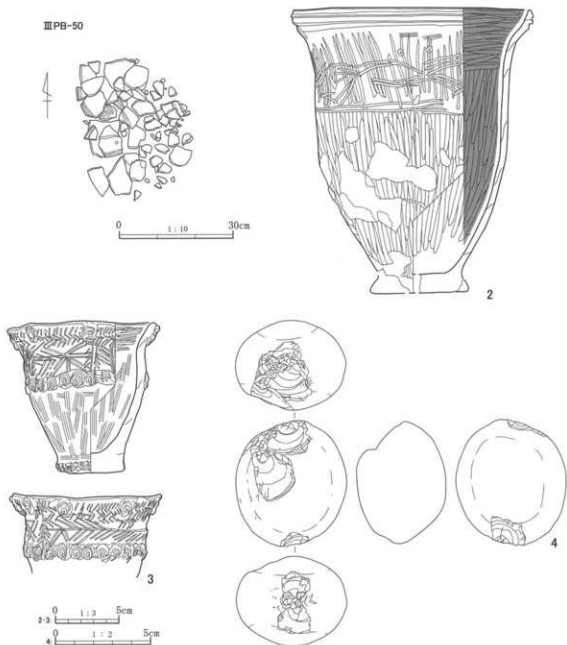
副葬品出土状態(図Ⅲ-3・4)：副葬品の配置は、遺体頭部の北側約 20 cm の位置で擦文土器小型甕(3)、頭部直上で環状装飾品(8)、左肩付近の主体部壁際で黒曜石転礫(4)、股付近で小刀(5)と帯金具(6)が組み合わさった状態で、膝上で鎌(7)が出土している。これらの内、小型甕は出土時横倒しの状態で、下位に封土起源の土が堆積していたため、本来封土上、あるいは封土中に置かれたものが埋没時に主体部内に落込んだものと考えられる。また小刀と鎌も下位に封土起源の土が堆積していたため、同じく封土上か、木棺上に置かれ封土を被覆する位置に置かれていた可能性が考えられる。黒曜石は木棺壁の想定位置よりも外側で出土していることから、木棺と主体部壁面との間隙埋土に置かれていた可能性が高い。木棺内に副葬されたと考えられるものは環状装飾品で、輪の切れ目を左耳にあてる位置で出土していた。この他主体部外では擦文土器甕が副葬されており、主体部から北西方向約 40 cm の位置の封土上にⅢPB-51 の土器(1)が、東側 60 cm の位置でⅢPB-50 の土器が、共に破片位置が殆ど乱れることなくその場で潰れたままの状態でも出土している。

出土遺物(図Ⅲ-5~7)：1~3 はⅧB3c の甕である。1 はⅢPB-51 としたもので、出土した破片のほぼ全てが接合したが、口縁部と底部の一部が欠損している。整形は粗雑で胴部表面の凹凸が著しい。口縁部と胴部貼付帯の文様に特徴があり、櫛歯状工具による刻みが矢羽状に施されている。同様の文様は管見の限り道央部の擦文土器には確認できない。道東の標津町伊茶仁チシネ第 2 遺跡出土の擦文土器に櫛歯状工具による施文(佐原・福田 1978)が認められるが、工具の櫛歯形態がやや異なる。ほぼ同類の工具で施文されたと考えられる文様は、刻文期のオホーツク式土器(例：北構 1992)に認められる。時期、地域ともに大きく異なるが、興味深い特徴といえる。土器外面をみると、口縁部の欠損部分と補修孔周辺を中心に炭化物の付着が認められ、欠損部割れ口にも炭化物が付着していることから、欠損後も煮焚きに使われていたことが判る。2 はⅢPB-50 で出土した。当初副葬品とは考えていなかったが、周囲で出土している土器と比べ形態的に新しい時期に属し、墓の他の土器と同時期と判断したことや、ⅢPB-51 と同様に破片位置の乱れが少ない出土状態であったため、報告段階において副葬品の 1 つとして扱うこととした。胴部上半の文様は沈線ではなく、整形時のミガキに用いられる工具で描かれている。3 は主体部内で出土した小型の甕で、口縁部に粘土瘤が間隔を置いて貼付され、胴部貼付帯と共に馬蹄形圧痕文が施文されている。底部は直立が困難な程に丸味をもち、縁辺に刻みが廻らされている。内面に炭化物が付着しており、1 と同様煮焚きで使用された可能性がある。4 は卵形の黒曜石転礫で、上下両端部に剥離が認められるが、上面側の剥離に打面が確認できるのに対し、下面側は潰れによる剥離と考えられることから、両極打法によると考えられる。5 は小刀で、6 は出土時 5 の茎部に組み合わさっていた。5 は棟区、刃区共に形成され、茎には目釘穴がつけられている。茎の断面は刀身部と同様に刃側に向かって薄くなっている。刃部は使い減りが顕著である。7 は曲刃タイプの鎌で、刃部先端が丸みを帯び、使い減りが著しい。折



図Ⅲ-5 3号土壌墓出土遺物 (1)

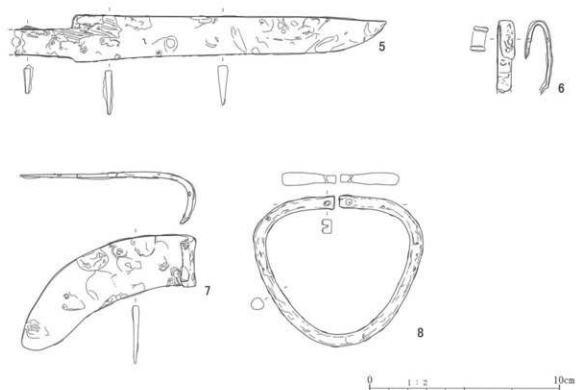
り返して形成されている着柄部の傾きから、柄と刃との間隔の狭い鎌と考えられる。8 は隅丸三角形を呈する鉄製環状装飾品で、断面は円形であるが、輪の途切れ部付近のみ断面方形に成形され、端部2ヵ所に斜方向の穿孔が認められる。類例として、標津町伊茶仁B遺跡と根室市トーサムポロ遺跡の同じく擦文文化期土壌墓副葬品があり、前者は錫製、後者は銅製と報告されている(石附他 1973)。



図Ⅲ-6 3号土墳基出土遺物(2)

表Ⅲ-3 ⅢGP-03出土土器属性表

神宮 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備 考
										内側	外側		
Ⅲ-5-1	カラー 1-1	SP158A	VEB3c	80635.80700.80613他	Ⅲbl.	ⅢPB-51	W-38	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ナダ	49	
				81761.81763.81765他	Ⅲbl.	ⅢPB-51	W-038					1	
				80625	Ⅲbl.	ⅢSB-53	U-35					1	
				83605	Ⅲbl.	-	S-27					1	
Ⅲ-6-2	カラー 1-2	SP090A	VEB3c	79999.80019.81597他	Ⅲbl.	ⅢPB-50	X-37	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	44	
				80158.80189.80197他	Ⅲbl.	ⅢSB-50	W-39					8	
				80095	Ⅲbl.	ⅢSB-51	X-36					1	
				88695	Ⅲc	-	W-37					1	
				85524	ⅢcM	-	X-37			1			
Ⅲ-6-3	カラー 1-3	SP165A	VEB3c	88575	Ⅲbl.	ⅢGP-03	X-38	甕	口縁～ 底部	ハケメ ナダ	ハケメ ナダ	1	



図Ⅲ-7 3号土墳墓出土遺物(3)

表Ⅲ-4 ⅢGP-03出土遺物属性表

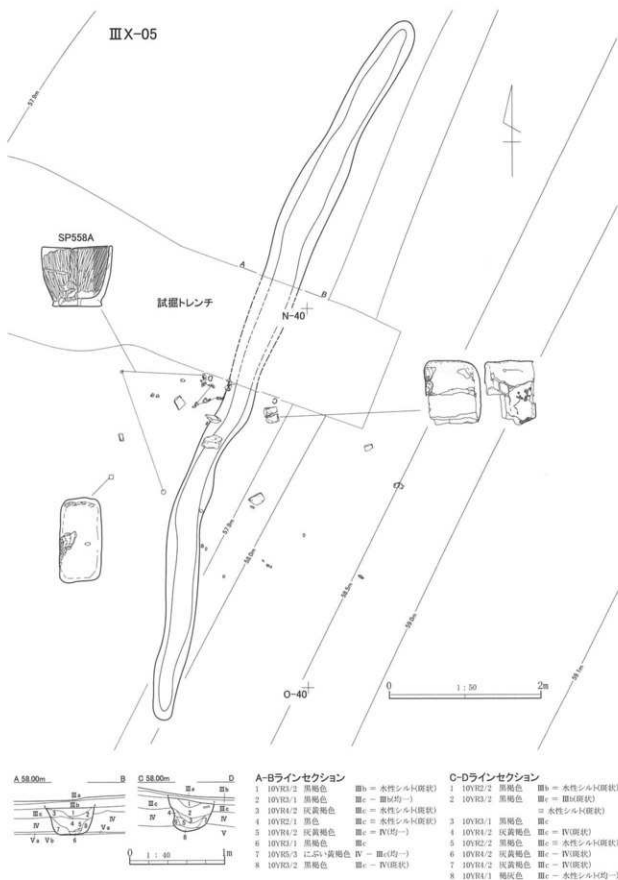
挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-6-1	カラー 2-1-4	-	88577	黒曜石転礫	-	Ⅲbl	ⅢGP-03	X-38	66.3	58.2	47.3	204.0	Obs.	
Ⅲ-7-5	カラー 2-1-5	-	88579	小刀	-	Ⅲbl	ⅢGP-03	X-38	(196.0)	25.0	4.0	51.9	lrn.	
Ⅲ-7-6	カラー 2-1-5	-	88578	帯金具	-	Ⅲbl	ⅢGP-03	X-38	(38.5)	10.0	13.5	4.2	lrn.	
Ⅲ-7-7	カラー 2-1-6	-	88580	鎌	-	Ⅲbl	ⅢGP-03	X-38	91.5	60.5	22.0	35.7	lrn.	
Ⅲ-7-8	カラー 2-1-7	-	88576	環状装飾品	-	Ⅲbl	ⅢGB-03	X-38	90.0	80.5	7.0	44.8	lrn.	

第2節 溝状遺構

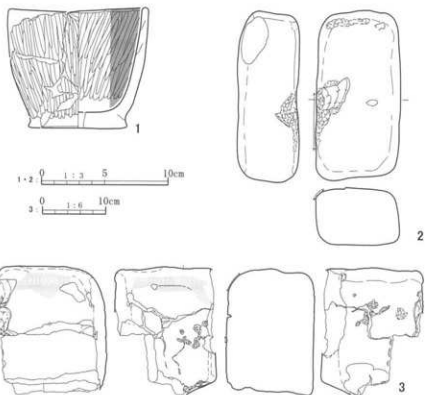
溝状遺構〔ⅢX-05〕 (図Ⅲ-8・9 図版36~38-1・2)

位置：M・N-39・40区 規模：975×60×(55) cm

確認・調査：平成16年度に行ったT₁の試掘調査の際、トレンチ壁面でⅢbl~Ⅲc付近からV層上面まで掘り込まれた溝状の落込みを確認した。位置はT₁-T₂段丘崖にあたる。溝覆土より擦文土器も出土していたことから、擦文文化期の遺構であると確認し、本調査を待った。平成18年度の本調査で、試掘トレンチの脇で多数の礫と擦文土器片が出土したため、溝状遺構に伴う遺物と考え出土状態の記録を行った。遺物が出土したⅢbl面では溝のプランを認識できなかったため、IV層上面までジョレンで掘削しプランの検出に努めた。検出プランは段丘崖に沿う方向に細長い溝状の落込みであった。セクション面を試掘トレンチ壁面に設定し、堆積状態の記録を行った後、溝の掘削を開始した。溝は全ての場所でV層を浅く掘り込む程度で坑底に達し、覆土中に遺物も含まれていなかったため、掘削はスムーズに進んだ。坑底面検出後、平面形の記録を取り調査を終了した。



図Ⅲ-8 溝状遺構(ⅢX-03)



図Ⅲ-9 III-X-05 出土遺物

表Ⅲ-5 III-X-05属性表

種図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形		調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅲ-8	24-1~4	ⅢX-05	O-40	Ⅲb	長楕円形	975	60	955	35	55		

表Ⅲ-6 III-X-05出土土器属性表

種図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-9-1	105-1	SP558A	ⅣD1	76134,76140,76150,他	ⅢcU	ⅢX-05	N-40	坏	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	23	
				12046						ⅢhL	K,BTR- 02	N-40	

表Ⅲ-7 III-X-05出土遺物属性表

種図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-9-2	105-2	-	76118	たたき石	Ⅱb2	ⅢcU	ⅢX-05	-	134.0	67.0	45.0	760.0	Sa.	
Ⅲ-9-3	105-4	ⅢST0009	76128	台石	-	ⅢcU	ⅢX-05	-	(204.0)	(161.0)	173.0	3600.0	Sa.	
-	105-3h	-	76119	たたき石	Ⅳ	ⅢcU	ⅢX-05	-	(98.0)	62.0	(56.0)	460.0	Sa.	

溝形態：段丘崖に沿って緩やかな弓形に湾曲した平面形で、壁面の立ち上がりは溝中央付近では比較的垂直気味だが、両端付近は緩やかな立ち上がりであった。坑底面は部分的な凹凸は認められたが、総じて平坦に形成されていた。

出土遺物(図Ⅲ-9)：1は鉢形の擦文土器で、内外面共にミガキが施され、内面は黒色処理されている。2は角柱状縁の縁辺を使用したたたき石、3は台石で縁辺の稜に滑沢面が形成されている。

第3節 集中区 (図Ⅲ-10~70 図版 24~45)

擦文文化期の遺構・遺物検出面であるⅢbl からは、多数の資料が得られているが、その分布をみると、調査区各所である程度まとまりをもって出土している。今回の報告においても昨年度報告分と同様これらまとまりを集中区として捉え、計 20 か所の集中区を設定した。設定にあたっては、①遺構密度が高いこと、②遺物密度が高いこと、③遺構と集中遺物とが共伴すると考えられる配置及び同一面層位で検出されていること、の3点を考慮した。なお今回設定した擦文文化期の集中区は各集中区間が近接し、明確な境界を示せない例が多い。また集中区として合わせて報告する遺構・遺物は、必ずしもそのすべてが共伴するとは限らない点を明記しておく。

集中区 25 (図Ⅲ-10・11 図版 24-5~8・25-1~4)

位置：S・T-20・21 区 規模：825×575cm

関連遺構：焼土 ⅢF-146・167・180 炭化物集中 ⅢCB-83 土器集中 ⅢPB-23

礎集中 ⅢSB-36

確認・調査：S・T-20・21 区のⅢb層調査中、焼土2か所(ⅢF-146・167)と土器集中1か所(ⅢPB-23)を検出し、さらにその南側で円形のⅢb 落込みを確認した。焼土、土器集中の記録後、落込みに十字ベルトを設定し、掘削を行った。掘削開始後まもなく多数の棒状礫と共にカバ属の樹皮と思われる炭化樹皮片が3点出土したためⅢSB-36として設定した。遺物を取り上げながらさらに掘削を進めたところ、落込みの中央で焼土(ⅢF-180)を検出したため、その記録を行い、最後に性格を把握するため、十字ベルトに沿うトレンチを設定し、堆積状態の観察を行った。結果この落込みは人為的に構築されたものではなく、焼土形成以前の風倒木痕の窪みであることが確認できたため堆積状態の記録を取り、調査を終了した。

焼土(図Ⅲ-10)：ⅢF-146・167 は共に焼骨片を伴う焼土で、焼土層も良好に形成されていた。風倒木窪みの中で検出したⅢF-180 は焼土下面がレンズ状でないことや、焼土中に焼骨片が含まれていることから投棄された焼土ブロックと判断した。

炭化物集中(図Ⅲ-10)：ⅢCB-83 はⅢF-146 の東側約1mの位置で検出した。炭化材が主体の炭化物集中であるが、フローテーションの結果ではクルミ属が少量含まれていた。

土器集中(図Ⅲ-5)：ⅢF-167 の西側で検出した。細片化した土器片の集中で復元は殆どできなかったが、個体数は環1個体のみであった。

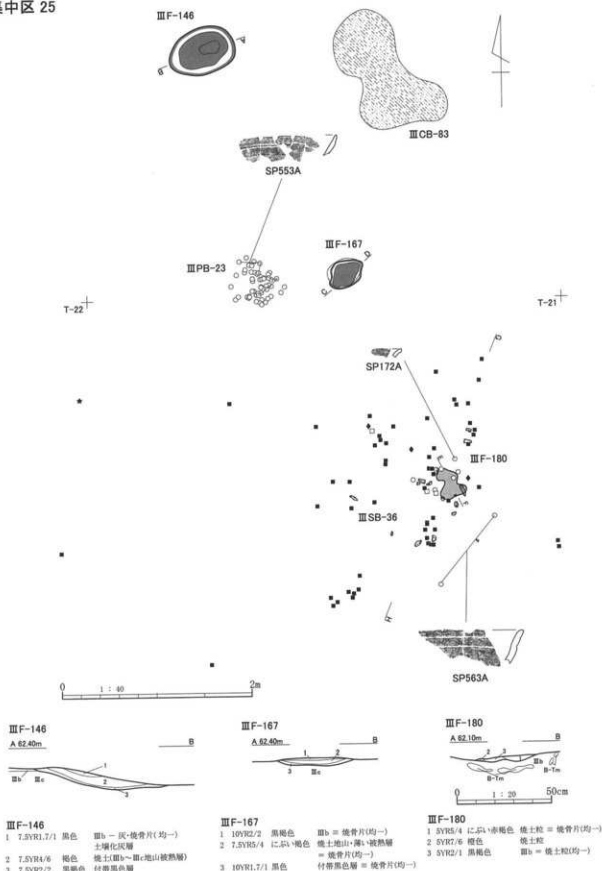
表Ⅲ-8 集中区25焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-10	25-1-2	ⅢF-146	S-21	Ⅲbl	長楕円形	72	50	6	骨	
Ⅲ-10	25-3	ⅢF-167	S-21	Ⅲbl	楕円形	42	30	4	骨	
Ⅲ-10	24-7-8	ⅢF-180	T-21	Ⅲbl	不整形	33	28	3	—	焼土粒

表Ⅲ-9 集中区25炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅲ-10	-	ⅢCB-83	S-21	Ⅲbl	不整形	145	86	

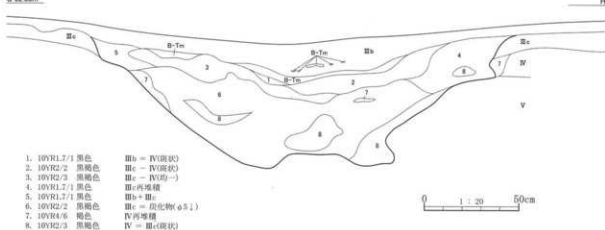
集中区 25



図Ⅲ-10 集中区 25 平面図及び関連遺構断面(1)

III SB-36

0 52.50m



図Ⅲ-11 集中区 25 関連遺構断面図(2) 及び出土遺物

表Ⅲ-10 集中区25出土土器属性表

挿入 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
III-11-1	105-1-1	SP172A	ⅣB	61398	IIIbL	III SB-36	T-21	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	1	
III-11-2	105-1-3	SP563A	ⅣC	60915,60925,60948他	IIIbL	III P1-23	S-21	杯	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナゲ	8	
III-11-3	105-1-2	SP563A	ⅣC	61088,61094	IIIbL	-	T-21	杯	口縁	ミガキ 黒色処理	ミガキ	2	

表Ⅲ-11 集中区25出土遺物属性表

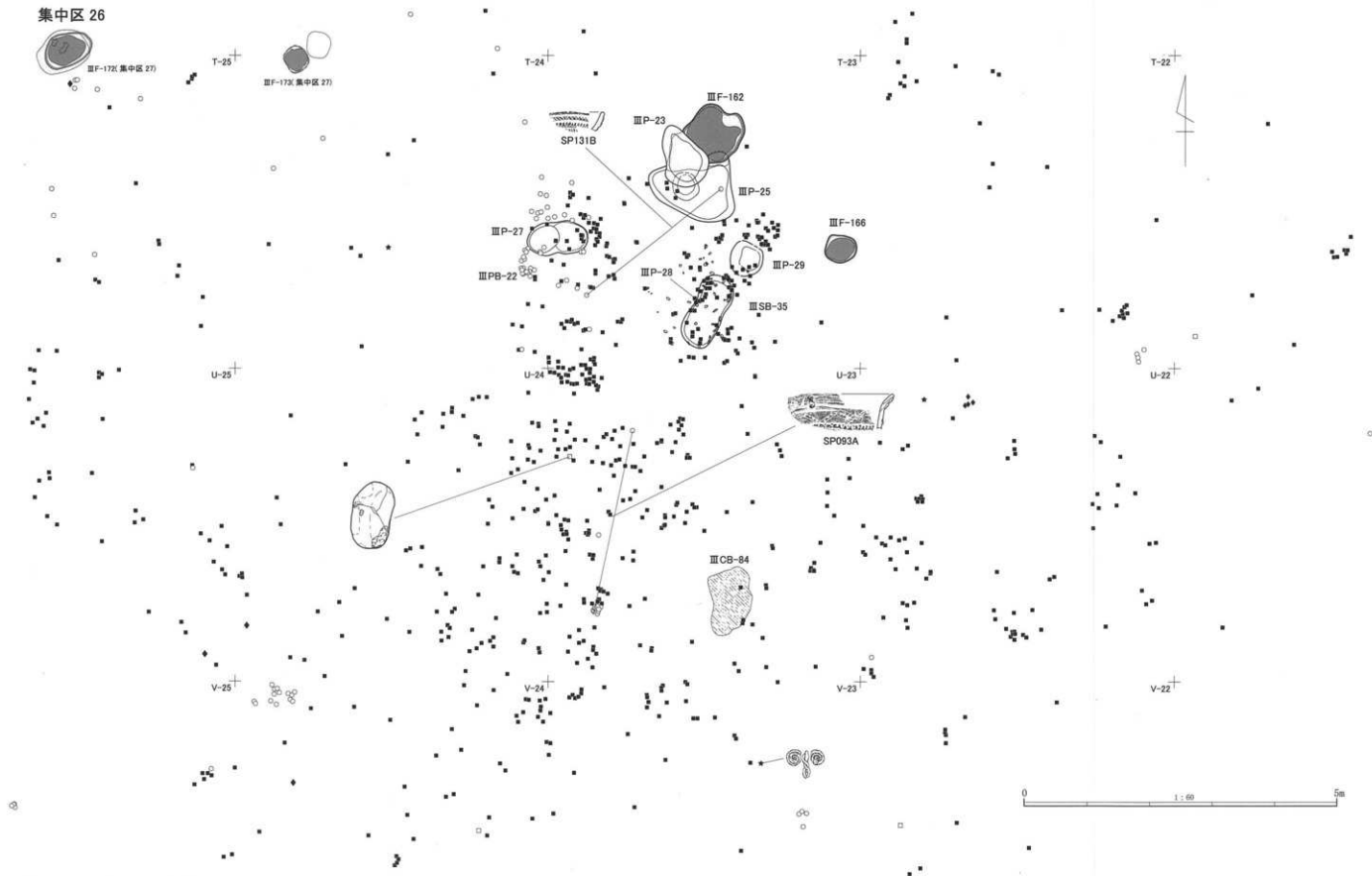
挿入 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
-	105-1-4	-	58580	滑沢面のある礎	-	IIIbL	-	T-21	118.0	105.0	68.0	1210.0	Ser.	
-	24-6	-	61366	カバ風炭化樹皮	-	IIIbL	III SB-36	T-21	-	-	-	-	Cw.	
-	-	-	61367	カバ風炭化樹皮	-	IIIbL	III SB-36	T-21	-	-	-	-	Cw.	
-	-	-	62070	カバ風炭化樹皮	-	IIIbL	III SB-36	T-21	-	-	-	-	Cw.	

表Ⅲ-12 III SB-36属性表

挿入 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					長短比	標準 偏差
-	105-2-5	-	61388	IIIbL	完形	21.5	-46.2	15.3	-14.7	6.7	-11.4	1.4	-0.8	2.4	○	Mud.	
		-	61356	IIIbL	完形	24.7	-43.0	18.6	-11.4	16.8	-1.3	1.3	-0.9	10.0	-	Mud.	
		-	61353	IIIbL	完形	52.5	-15.2	29.3	-0.7	23.6	5.5	1.8	-0.4	46.1	-	Sa.	
		-	61364	IIIbL	完形	59.8	-7.9	40.3	10.3	19.3	1.2	1.5	-0.7	51.5	-	Sa.	
		-	61354	IIIbL	完形	67.4	-0.3	22.4	-7.6	13.4	-4.7	3.0	0.8	32.4	-	Sa.	
		-	61361	IIIbL	完形	70.9	3.2	35.0	5.0	16.0	-2.1	2.0	-0.2	51.9	-	Sa.	
		-	61348	IIIbL	完形	88.1	20.4	25.5	-4.5	12.8	-5.3	3.5	1.2	37.1	-	Sa.	
		-	61350	IIIbL	完形	93.4	25.7	45.1	15.1	25.7	7.6	2.1	-0.1	112.4	-	Sa.	
		III S1357	61358	IIIbL	完形	130.6	62.9	38.6	8.6	28.4	10.3	3.4	147.4	-	Sa.	他品	
平均						67.7		30.0		18.1		2.22	54.6				

総点数 60点 ※完形 9点

集中区 26



図Ⅲ-12 集中区 26 平面図

礫集中(図III-10)：ⅢSB-36は風倒木窪み中に形成された礫集中である。総点数60点の内、完形個体は9点のみであり、欠損率の高い礫集中であった。散逸していることからⅢF-180同様に投棄された可能性がある。

出土遺物(図III-11)：1～3は擦文土器片である。1はⅢSB-36で出土した甕口縁部片。2はⅢPB-23で出土した坏口縁部片である。口縁下外面に段状沈線が廻っている。3もⅢSB-36近くで出土した坏口縁部片で、2と同じく段状沈線が廻る。

性格：窪みの性格は、欠損率の高い礫で構成されるⅢSB-36の出土や焼土ⅢF-180の投棄が窪み内に集中していることから、風倒木の窪みを意識した廃棄の場と考えられる。特異な遺物は出土していないが、アイヌ文化期の遺跡に多い堅穴上層遺構に類するものである可能性が考えられる。

集中区26 (図III-12～14 図版25-5～7・26-1～7)

位置：T～V-22・25区 規模：1,300×1,050cm

関連遺構：土坑 ⅢP-23・25・27・28・29 焼土 ⅢF-162・166 炭化物集中 ⅢCB-84

礫集中 ⅢSB-35

確認・調査：T～V-22・25区のⅢb層調査において、棒状礫を中心とする多数の遺物が広範囲に出土し、その分布範囲で焼土2ヵ所(ⅢF-162・166)と炭化物集中1ヵ所(ⅢCB-84)を検出した。遺物は一部密集した範囲についてⅢSB-35の遺構名を付し、焼土は個別に調査を進めた。焼土調査中周囲で焼骨片を含む灰混じりのⅢb落込みを確認したため半載したところ、不整形であるが人為的に掘り込まれたと考えられる土坑群を検出したため、それぞれ堆積状態と平面形の記録を行った。

遺構配置(図III-12)：広範囲に広がる遺物分布範囲の北端に焼土と土坑が位置する。2ヵ所ある焼土の南西側に小規模な土坑が近接して形成されている。遺物は土坑検出位置の上位で特に密集しており、この範囲の遺物に対してⅢSB-35を設定した。

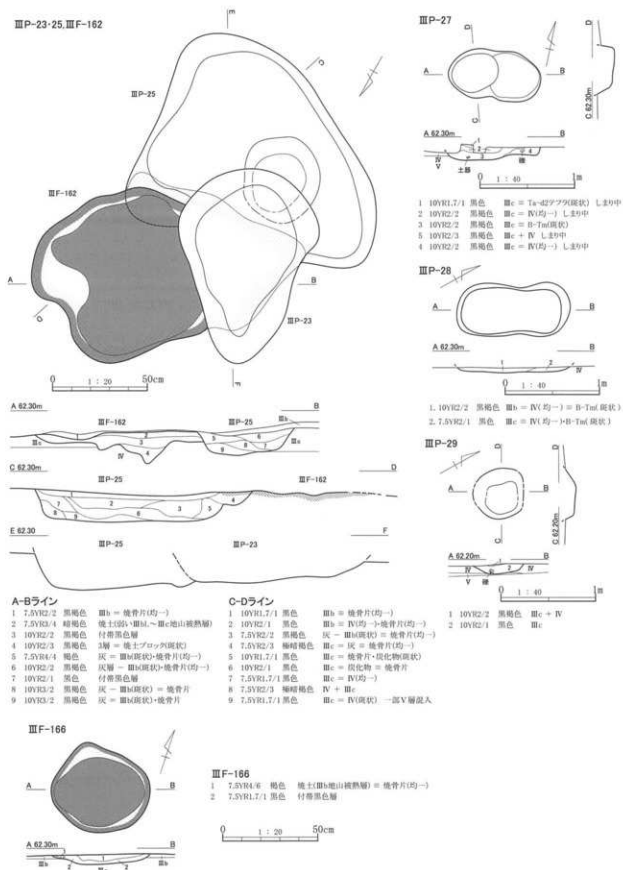
土坑(図III-13)：ⅢP-23・25はⅢF-162を切る配置で検出した土坑である。共に平面形は不整形だが、覆土に焼骨片を含む土が堆積し、坑底面が平らなことから、人為的に掘り込まれたものと判断した。形態や覆土の様相は平成17年度調査時に検出した集中区3に関連する土坑と類似する。ⅢP-27～29はIV層上面で確認した。ⅢP-27はⅢF-162の南西側に位置する。坑底面の段差とプランの形状から2基の土坑が切り合ったものである可能性が高い。ⅢP-28は埋土にB-Tmブロックが含まれているためⅢbLの形成であることが把握できた。ⅢP-29は確認時既に掘削が進み、プランの一部のみを把握できたに過ぎなかったが、円形に近い土坑と思われる。底面付近で棒状礫が出土した。

焼土(図III-13)：ⅢF-162は長軸約100cmの焼骨片を伴う焼土で、南西側をⅢP-23によって切られている。ⅢF-166は長軸52cmで、同じく焼骨片を伴う。土壌サンプルからはⅢF-162でコイ科、サケ属といった魚骨を中心とする多数の骨の他、ムギ類、キビといった炭化種子も得られた。

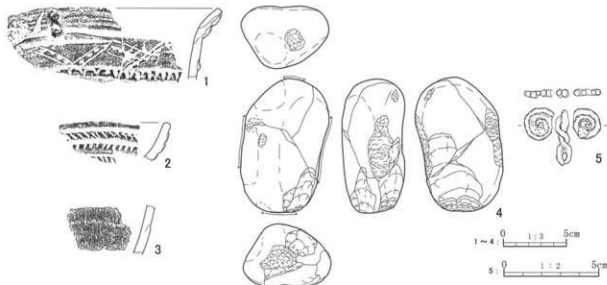
炭化物集中(図III-12)：ⅢCB-84は遺物分布範囲の南側で検出した不整形プランの炭化物集中で、土壌サンプル中からはクルミ属の炭化種子を得ている。

礫集中(図III-12)：ⅢSB-35は棒状礫を主体に構成される礫集中で、礫個体総数212点中、完形個体88点であり、完形の比率は遺跡内出土礫集中の平均的な値である。

出土遺物(図III-14)：1～3はⅤBに分類される擦文土器片で、1は胴部に貼付帯が廻らされている他、口縁部にも縦位の粘土紐が貼付されている。共に馬蹄形圧痕文が施文されている。2・3は同一



図Ⅸ-13 集中区 26 関連遺構



図III-14 集中区26出土遺物

表III-13 集中区26土坑属性表

探図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形		調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸							
III-13	26-4	III P-23	T-23	III bl.	不整形/不整形	102	74	-	-	10	-	1.38	-	-	-	-
III-13	26-6・8	III P-25	T-23	III bl.	不整形/不整形	148	116	-	-	24	-	1.28	-	-	-	-
III-13	-	III P-27	T-23・24	IV	楕円/楕円	98	54	92	48	180	N-85° E	1.81	1.92	-	-	-
III-13	-	III P-28	T-23	IV	長楕円/楕円	120	58	106	48	6	N-30° E	2.07	2.21	-	-	-
III-13	-	III P-29	T-23	IV	円形/円形	54	54	36	32	12	N-30° E	1.00	1.13	-	-	-

表III-14 集中区26焼土属性表

探図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
III-13	25-6・7	III F-162	T-23	III bl.	不整形	(96)	92	5	骨	
III-13	26-1・2	III F-166	T-23	III bl.	楕円形	52	48	6	骨	

表III-15 集中区26炭化物集中属性表

探図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		備考
						長軸	短軸	
III-12	-	III CB-84	U-23	III bl.	不整形	114	78	

表III-16 集中区26出土土器属性表

探図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
III-14-1	105-2-1	SP093A	III B3c	59353	III B3c	III SB-33	U-23	甕	口縁へ 胴部	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	1	
				59932, 59937, 59942組						黒色処理	黒色処理	7	
III-14-2	105-2-2	SP131B	III B3	59954	III bl.	III P-23	T-23	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	1	
				59238						III bl.	III PB-22	T-23	黒色処理
III-14-3	105-2-3	SP152A	III B3	62973	3	III P-25	T-23	甕	胴部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	1	

表III-17 集中区26出土遺物属性表

探図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
III-14-4	105-2-4	-	61165	たたき石	II b2	III bl.	-	U-23	106.0	65.0	49.0	420.0	Sa.	
-	105-2-4	-	58615	滑沢面のある磯	-	III bl.	-	V-22	(47.0)	(72.0)	(12.0)	40.0	Sa.	
-	-	-	58639	たたき石	IV	III bl.	-	V-24	(43.7)	69.2	57.9	205.0	Sa.	
III-14-5	105-2-6	-	58637	コイル状装飾品	IP	III B3	-	V-23	295.0	40.0	4.5	5.7	Iron.	

表Ⅲ-18 ⅢSB-35属性表

挿入 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸 標準 偏差	短軸 標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	-	-	61295	Ⅲbl	完形	39.7	-17.6	37.0	5.2	10.7	-4.7	1.1	-0.8	21.5	-	Sa
-	-	-	61301	Ⅲbl	完形	40.8	-16.5	34.1	2.3	11.2	-4.2	1.2	-0.7	24.0	-	Sa
-	-	-	61210	Ⅲbl	完形	43.8	-13.5	28.1	-3.7	15.7	0.3	1.6	-0.3	25.9	-	Sa
-	-	-	61331	Ⅲbl	完形	43.0	-14.3	37.1	5.3	8.6	-6.8	1.2	-0.7	21.0	-	Sa
-	-	-	61324	Ⅲbl	完形	41.9	-15.4	39.0	7.2	16.6	1.2	1.1	-0.8	41.0	-	Sa
-	-	-	62408	Ⅲbl	完形	44.9	-12.4	23.0	-8.8	19.1	3.7	2.0	0.1	31.3	-	Sa
-	-	-	61223	Ⅲbl	完形	46.2	-11.1	35.5	3.7	17.6	2.2	1.3	-0.6	37.0	-	Sa
-	-	-	62409	Ⅲbl	完形	44.1	-13.2	38.0	6.2	10.6	-4.8	1.2	-0.7	26.2	-	Sa
-	-	-	61214	Ⅲbl	完形	38.6	-18.7	36.4	4.6	12.9	-2.5	1.1	-0.8	30.5	-	Sa
-	-	-	61280	Ⅲbl	完形	43.0	-14.3	39.6	7.8	16.7	1.3	1.1	-0.8	41.7	-	Sa
-	-	-	61321	Ⅲbl	完形	43.9	-13.4	30.2	-1.6	13.5	-1.9	1.5	-0.4	24.7	-	Sa
-	-	-	61239	Ⅲbl	完形	43.1	-14.2	33.5	1.7	14.4	-1.0	1.3	-0.6	28.1	-	Sa
-	-	-	61254	Ⅲbl	完形	47.0	-10.3	18.8	-13.0	11.8	-3.6	2.5	0.6	15.2	-	Sa
-	-	-	61282	Ⅲbl	完形	47.8	-9.5	25.8	-6.0	20.9	5.5	1.9	0.0	31.2	-	Sa
-	-	-	61315	Ⅲbl	完形	45.0	-12.3	38.3	6.5	11.7	-3.7	1.2	-0.7	33.2	-	Con.
-	-	-	61232	Ⅲbl	完形	46.6	-10.7	37.8	6.0	13.4	-2.0	1.2	-0.7	37.5	-	Sa
-	-	-	61211	Ⅲbl	完形	49.1	-8.2	30.5	-1.3	19.5	4.1	1.6	-0.3	34.7	-	Sa
-	-	-	61235	Ⅲbl	完形	47.7	-9.6	39.6	7.8	17.4	2.0	1.2	-0.7	43.3	-	Sa
-	-	-	62440	Ⅲbl	完形	48.8	-8.5	26.9	-4.9	25.2	9.8	1.8	-0.1	47.3	-	Sa
-	-	-	62425	Ⅲbl	完形	48.4	-8.9	20.1	-11.7	9.5	-5.9	2.4	0.5	16.3	-	Sa
-	-	-	61322	Ⅲbl	完形	48.3	-9.0	39.7	7.9	10.1	-5.3	1.2	-0.7	24.8	-	Sa
-	-	-	62402	Ⅲbl	完形	49.3	-8.0	30.7	-1.1	15.4	0.0	1.6	-0.3	30.2	-	Sa
-	-	-	61243	Ⅲbl	完形	49.3	-8.0	39.0	7.2	18.5	3.1	1.3	-0.6	53.5	-	Sa
-	-	-	61253	Ⅲbl	完形	48.5	-8.8	38.1	6.3	22.1	6.7	1.3	-0.6	57.7	-	And.
-	-	-	61303	Ⅲbl	完形	50.6	-6.7	38.2	6.4	10.4	-5.0	1.3	-0.6	38.3	-	Sa
-	-	-	61242	Ⅲbl	完形	53.3	-4.0	33.5	1.7	22.9	7.5	1.6	-0.3	55.3	-	Sa
-	-	-	62446	Ⅲbl	完形	51.1	-6.2	27.8	-4.0	18.5	3.1	1.8	-0.1	32.1	-	Sa
-	-	-	61293	Ⅲbl	完形	52.1	-5.2	34.6	2.8	13.4	-2.0	1.5	-0.4	24.6	-	Sa
-	-	-	61327	Ⅲbl	完形	48.3	-9.0	38.6	6.8	14.7	-0.7	1.3	-0.6	35.8	-	Sa
-	-	-	61305	Ⅲbl	完形	45.9	-11.4	40.0	8.2	8.8	-6.6	1.1	-0.8	28.7	-	Sa
-	-	-	61241	Ⅲbl	完形	48.0	-9.3	29.2	-2.6	18.9	3.5	1.6	-0.3	33.2	-	Sa
-	-	-	61313	Ⅲbl	完形	50.0	-7.3	24.2	-7.6	14.6	-0.8	2.1	0.2	27.6	-	Sa
-	-	-	61252	Ⅲbl	完形	51.6	-6.7	25.4	-6.4	20.6	5.2	2.0	0.1	34.4	-	Sa
-	-	-	61310	Ⅲbl	完形	53.1	-4.2	23.4	-8.4	10.4	-5.0	2.3	0.4	11.7	-	Sa
-	-	-	61228	Ⅲbl	完形	52.9	-4.4	31.0	-0.8	21.7	6.3	1.7	-0.2	36.5	-	Sa
-	-	-	61304	Ⅲbl	完形	53.2	-4.1	34.2	2.4	13.0	-2.4	1.6	-0.3	31.8	-	Sa
-	-	-	61244	Ⅲbl	完形	52.5	-4.8	33.7	1.9	17.4	2.0	1.6	-0.3	36.6	-	Sa
-	-	-	61227	Ⅲbl	完形	54.0	-3.3	28.7	-3.1	14.8	-0.6	1.9	0.0	32.0	-	Sa
-	-	-	61231	Ⅲbl	完形	51.5	-5.8	50.4	18.6	11.8	-3.6	1.0	-0.9	55.3	-	Sa
-	-	-	61238	Ⅲbl	完形	45.9	-11.4	34.5	2.7	20.2	4.8	1.3	-0.6	46.1	-	Sa
-	-	-	62416	Ⅲbl	完形	54.7	-2.6	18.8	-13.0	14.5	-0.9	2.9	1.0	27.1	-	Sa
-	-	-	61345	Ⅲbl	完形	55.7	-1.6	36.7	4.9	13.4	-2.0	1.5	-0.4	35.9	-	Sa
-	-	-	61248	Ⅲbl	完形	55.7	-1.6	21.3	-10.5	18.4	3.0	2.6	0.7	25.6	-	Sa
-	-	-	62406	Ⅲbl	完形	54.4	-2.9	36.0	4.2	14.3	-1.1	1.5	-0.4	39.1	-	Sa
-	-	-	61307	Ⅲbl	完形	58.5	1.2	40.5	8.7	7.2	-8.2	1.4	-0.5	24.1	-	Sa
-	-	-	62429	Ⅲbl	完形	52.2	-5.1	47.0	15.2	14.5	-0.9	1.1	-0.8	59.6	-	Sa
-	-	-	61259	Ⅲbl	完形	53.5	-3.8	41.8	10.0	13.2	-2.2	1.3	-0.6	37.3	-	Sa
-	-	-	61251	Ⅲbl	完形	54.7	-2.6	29.3	-2.5	16.8	1.4	1.9	0.0	33.6	-	Sa
-	-	-	61332	Ⅲbl	完形	55.1	-2.2	28.9	-2.9	16.3	0.9	1.9	0.0	40.6	○	Sa
-	-	-	61219	Ⅲbl	完形	56.7	-0.6	31.9	0.1	21.5	6.1	1.8	-0.1	47.4	-	Sa
-	-	-	61325	Ⅲbl	完形	57.5	0.2	34.0	2.2	14.3	-1.1	1.7	-0.2	36.6	-	Sa
-	-	-	61292	Ⅲbl	完形	57.1	-0.2	21.5	-10.3	17.0	1.6	2.7	0.8	30.0	-	Sa
-	-	-	61291	Ⅲbl	完形	56.5	-0.8	28.1	-3.7	21.4	6.0	2.0	0.1	44.4	-	Sa
-	-	-	61287	Ⅲbl	完形	57.5	0.2	31.2	-0.6	14.0	-1.4	1.8	-0.1	31.5	-	Sa
-	-	-	61290	Ⅲbl	完形	56.8	-0.5	38.7	6.9	12.4	-3.0	1.5	-0.4	36.4	-	Sa
-	-	-	61218	Ⅲbl	完形	59.6	2.3	31.1	-0.7	17.5	2.1	1.9	0.0	44.2	-	Sa
-	-	-	62404	Ⅲbl	完形	59.0	1.7	29.8	-2.0	16.9	1.5	2.0	0.1	36.0	-	Sa
-	-	-	61277	Ⅲbl	完形	61.6	4.3	18.5	-13.3	11.4	-4.0	3.3	1.4	14.9	-	Sa
-	-	-	62447	Ⅲbl	完形	63.9	6.6	38.7	6.9	14.2	-1.2	1.7	-0.2	41.0	-	Sa
-	-	-	61306	Ⅲbl	完形	49.8	-7.5	49.1	17.3	11.1	-4.3	1.0	-0.9	44.6	-	Sa
-	-	-	61288	Ⅲbl	完形	61.4	4.1	21.6	-10.2	19.6	4.2	2.8	0.9	43.9	-	Sa
-	-	-	62414	Ⅲbl	完形	61.7	4.4	30.2	-1.6	13.0	-2.4	2.0	0.1	39.1	-	Sa
-	-	ⅢS1309	61278	Ⅲbl	完形	62.2	4.9	34.3	2.5	24.1	8.7	1.8	-0.1	84.7	-	他点
-	-	-	62405	Ⅲbl	完形	63.2	5.9	19.7	-12.1	13.8	-1.6	3.2	1.3	21.2	-	Mud.
-	-	-	62417	Ⅲbl	完形	61.7	4.4	40.8	9.0	11.8	-3.6	1.5	-0.4	39.4	-	Sa

表Ⅲ-18 ⅢSB-35属性表(続き)

挿入 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	62441	Ⅲbl.	完形	63.2	5.9	30.3	-1.5	9.9	-5.5	2.1	0.2	29.5	-	Sa.	
-	-	-	61328	Ⅲbl.	完形	65.3	8.0	31.3	-0.5	14.1	-1.3	2.1	0.2	39.2	-	Sa.	
-	-	-	62401	Ⅲbl.	完形	64.7	7.4	39.0	7.2	27.2	11.8	1.7	-0.2	84.6	-	Sa.	
-	-	-	61326	Ⅲbl.	完形	65.5	8.2	19.6	-12.2	14.6	-0.8	3.3	1.4	22.1	-	Sa.	
-	-	-	61330	Ⅲbl.	完形	67.9	10.6	22.7	-9.1	12.5	-2.9	3.0	1.1	27.1	-	Sa.	
-	-	-	61247	Ⅲbl.	完形	67.4	10.1	32.0	0.2	20.7	5.3	2.1	0.2	61.7	-	Sa.	
-	-	Ⅲ1369	61339	Ⅲbl.	完形	66.9	9.6	37.5	5.7	14.2	-1.2	1.8	-0.1	50.2	-	Sa. 穂1点	
-	-	-	61255	Ⅲbl.	完形	67.5	10.2	29.3	-2.5	13.6	-1.8	2.3	0.4	32.7	-	Sa.	
-	-	-	61302	Ⅲbl.	完形	70.1	12.8	37.4	5.6	10.0	-5.4	1.9	0.0	40.4	-	Sa.	
-	-	-	62436	Ⅲbl.	完形	68.9	11.6	38.8	7.0	9.0	-6.4	1.8	-0.1	43.1	-	Sa.	
-	-	-	61245	Ⅲbl.	完形	68.8	11.5	14.5	-17.3	14.2	-1.2	4.7	2.8	22.3	-	Sa.	
-	-	-	62403	Ⅲbl.	完形	70.8	13.5	25.2	-6.6	22.7	7.3	2.8	0.9	50.9	-	Sa.	
-	-	-	61217	Ⅲbl.	完形	71.2	13.9	27.5	-4.3	15.9	0.5	2.6	0.7	44.4	-	Sa.	
-	-	-	61283	Ⅲbl.	完形	76.0	18.7	33.1	1.3	17.1	1.7	2.3	0.4	49.9	-	Sa.	
-	-	-	61281	Ⅲbl.	完形	75.4	18.1	35.6	3.8	25.9	10.5	2.1	0.2	87.4	-	Sa.	
-	-	-	61236	Ⅲbl.	完形	77.2	19.9	29.7	-2.1	8.8	-6.6	2.6	0.7	37.7	-	Sa.	
-	-	-	61343	Ⅲbl.	完形	78.7	21.4	31.0	-0.8	22.0	6.6	2.5	0.6	48.7	-	Gin.	
-	-	-	61229	Ⅲbl.	完形	81.8	24.5	21.9	-9.9	17.5	2.1	3.7	1.8	32.1	-	Sa.	
-	-	-	61233	Ⅲbl.	完形	83.2	25.9	27.5	-4.3	18.7	3.3	3.0	1.1	61.3	-	Sa.	
-	-	-	61314	Ⅲbl.	完形	82.2	24.9	31.8	0.0	25.9	10.5	2.6	0.7	109.6	-	Sa.	
-	-	-	62434	Ⅲbl.	完形	90.7	33.4	25.2	-6.6	12.6	-2.8	3.6	1.7	38.2	-	Sa.	
-	-	-	62412	Ⅲbl.	完形	91.1	33.8	30.6	-1.2	22.4	7.0	3.0	1.1	67.7	-	Sa.	
-	-	-	62422	Ⅲbl.	完形	98.7	41.4	31.1	-0.7	17.1	1.7	3.2	1.3	56.0	-	Sa.	
平均						57.5	31.9	15.7	1.9	39.0							
						総点数 212点 未完形 88点											

個体の可能性がある土器片で、2はⅢP-23で、3はⅢP-25で出土した。2はⅧBcに分類できる。4は楕円形礫の側縁と頂端を使用したたき石。5はいわゆるコイル状装飾品と呼ばれているものの1つで、平取町二風谷遺跡出土資料(三浦他 1986)と同形態の資料である。2本の鉄線を絡め、端部をゼンマイ状に巻いている。鉄線の直径は約2mmである。

集中区 27 (図Ⅲ-15-16 図版 27)

位置: S・T-25・26区 規模: 900×850cm 平面形: 楕円形

関連遺構: 焼土 ⅢF-172・173 土器集中 ⅢPB-26

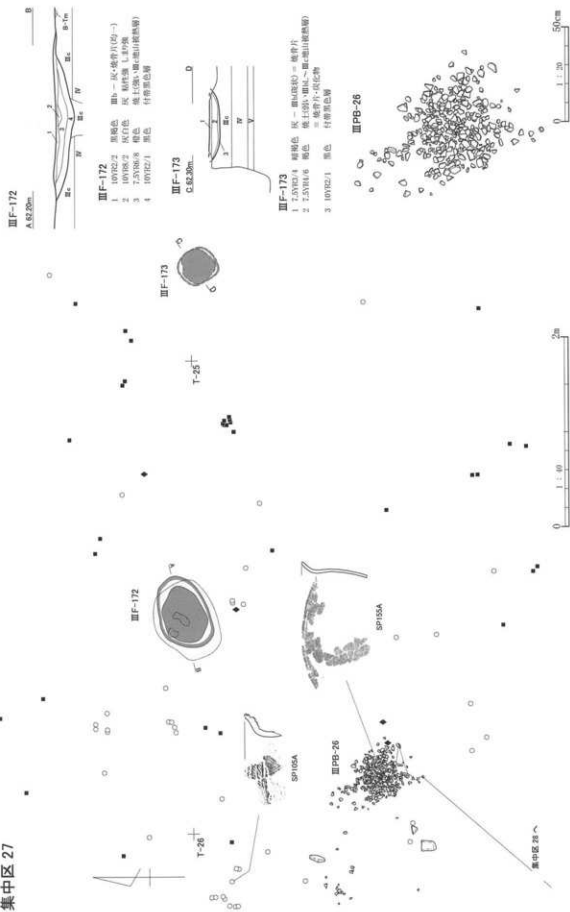
確認・調査: S・T-25・26区のⅢb層調査時に焼土2ヵ所(ⅢF-172・173)と土器集中1ヵ所(ⅢPB-26)を検出した。検出段階において焼土と土器集中との関連性が伺えたため、合わせて写真撮影を行った後、個々の記録を作成した。

焼土(図Ⅲ-15): ⅢF-172は長軸80cmの楕円形プランを呈し、焼骨片の他、僅かに灰を伴う焼土である。焼土層は厚さ10cmで、極めて良好に形成されている。ⅢF-173は長軸44cmを測る円形プランの焼土である。灰と焼骨片を伴い、焼土層も厚さ6cmで比較的良好に形成されていた。共に土壌サンプルよりサケ属を主体とする魚骨を得ている。

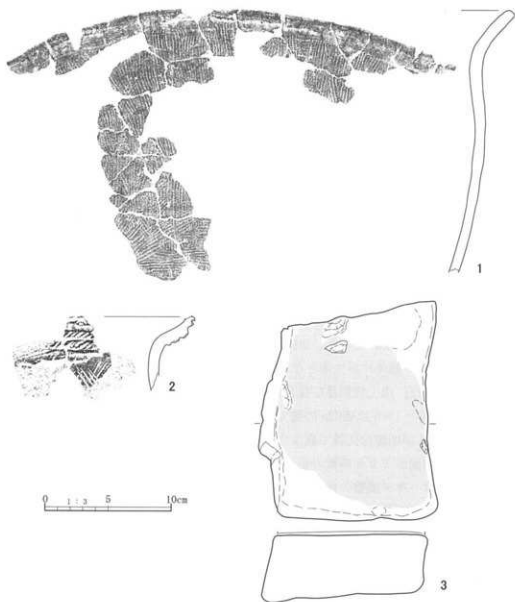
土器集中(図Ⅲ-15): ⅢPB-26は細片化した281点の破片で構成される土器集中である。SP155の破片のみで構成され、集中区28のⅢPB-27・28との間で接合関係をもつ。

出土遺物(図Ⅲ-16): 1はⅧB2eに分類される無文の擦文土器である。外面は短い単位のハケメ調整痕が観察でき、内面は黒色処理を施している。2はⅧB3cの口縁部～胴部片で、断面は比較的厚みがあり、胴部に4条一対の沈線が鋸歯状に施文されている。口縁部の隆起部分に幅広の刻みが廻り、形態は大きく開いた後、内湾して立ち上がる。内面は顕著なミガキ調整の後、黒色処理を施している。3は板状礫の表面に滑沢面が形成された礫である。

集中区 27



図Ⅲ-15 集中区 27 平面図及び関連断面図



図Ⅲ-16 集中区27出土遺物

表Ⅲ-19 集中区27焼土属性表

採図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-15	27-2・3	ⅢF-172	S-25	ⅢbL	楕円形	80	52	10	骨・灰	
Ⅲ-15	27-4・5	ⅢF-173	T-24	ⅢbL	円形	44	38	6	骨	

表Ⅲ-20 集中区27出土土器属性表

採図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考			
										内側	外側					
Ⅲ-16-1	106-2-1	SP155A	ⅡE2e	61477.61570.61669他	ⅢbL	ⅢF9-26	T-25	甕	口縁へ 胴部	ハケメ	ハケメ	13				
				62718.62756.62769他						ⅢbL		ⅢF9-27		T-25	ミガキ 黒色処理	10
				62957						ⅢbL		ⅢF9-38		U-26		1
Ⅲ-16-2	106-2-2	SP105A	ⅡE3c	61676.61677	ⅢbL	—	T-25	甕	口縁	ミガキ	ナゲ	2				
				60441.55560						ⅢbL		T-26		黒色処理	2	

表Ⅲ-21 集中区27出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-16-3	106-2-3	-	59544	漆灰面のある磚	-	ⅢbL	-	S-24	(168.2)	133.6	52.0	2000.0	Sa.	

集中区 28 (図Ⅲ-17・18 図版 28)

位置：U・V-26・27区 規模：850×700cm

関連遺構：焼土 ⅢF-170・171 土器集中 ⅢPB-27・28・29

確認・調査：U・V-26・27区のⅢb調査時に焼土2カ所(ⅢF-170・171)と土器集中3カ所(ⅢPB-27・28・29)を近接した位置で検出した。それぞれ関連する遺構の可能性を想定したため、検出状態の撮影を行ってから個々の記録を作成した。

焼土(図Ⅲ-17)：ⅢF-170は根による攪乱を受けており、灰が地山被熱層の下位まで押し込まれていた。ⅢF-171は焼骨片を僅かに伴う弱い焼土である。土壌サンプルからは共に哺乳綱の骨を多く得ている。

土器集中(図Ⅲ-18)：ⅢPB-27は265点の土器片で構成され、1の甕が主体となる他、集中区27のSP155の破片も少数含まれていた。ⅢPB-28は164点、ⅢPB-29は58点の土器片で構成され、共に2・3のSP135の同一個体片が主体となっている他、ⅢPB-28では極僅かにⅢPB-27と同様SP155の破片も含まれていた。出土状態及び接合関係より集中区27と同時期の可能性もある。

出土遺物(図Ⅲ-18)：1～3はⅧB2aの甕で、2・3は同一個体である。1・2は共に横走沈線に樹枝状文を重ねているが、1が明瞭な沈線で施文されているのに対し、2は浅い不明瞭な沈線で構成されている。1の調整は内面がミガキ調整の後、黒色処理が行われ、外面もミガキ調整が行われている。一方2では内面ではハケメ調整の後ミガキが行われ黒色処理は施されておらず、外面は砂粒の動きが顕著な強めのハケメ調整が行われている。接合状態をみると、1は集中区31のⅢPB-39出土土器片と接合し、広範囲での接合関係が確認できるのに対し、2・3はⅢPB-28・29の近接した範囲内での接合に止まっていた。4・5は礫側縁と頂端部が使用されたたき石である。4は扁平な礫を素材とし、表面に滑沢面が形成されている。5は不整形礫を素材とし、廃棄後に敲打部分が被熱し黒色化している。

表Ⅲ-22 集中区28焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-17	28-2	ⅢF-170	U-26	ⅢbL	楕円形	(58)	38	5	骨	
Ⅲ-17	28-3	ⅢF-171	U-27	ⅢbL	長楕円形	59	38	6	骨	

集中区 28

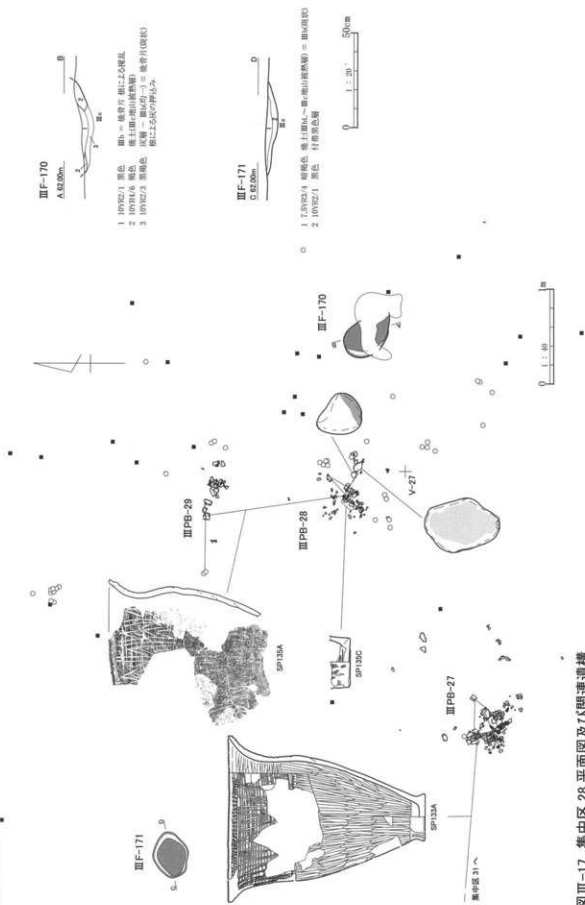
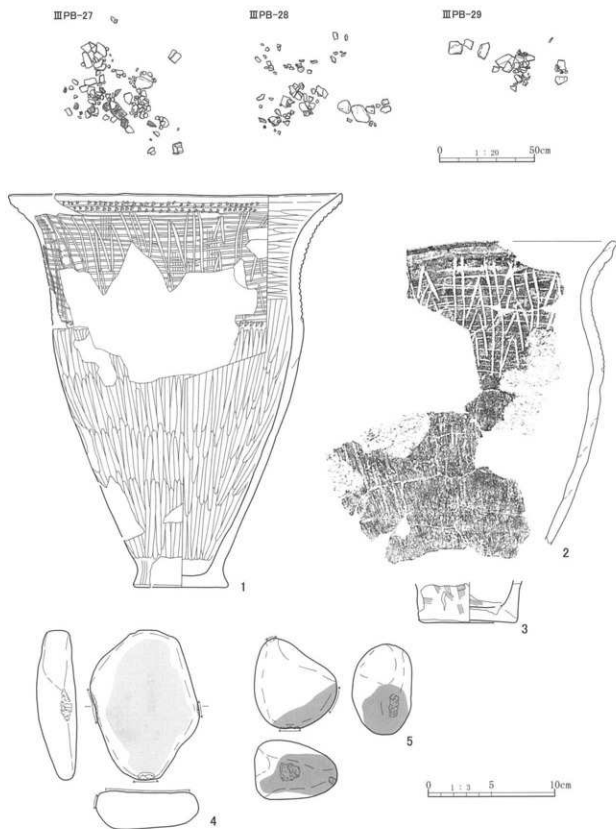


図 III-17 集中区 28 平面図及び関連遺構



図III-18 集中区 28 関連遺構及び出土遺物

表Ⅲ-23 集中区28出土土器属性表

採回 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-19-1	107-1	SP133A	ⅣB2a	61680.62028.62117地	ⅢbL	ⅢPB-27	V-27	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色地埋	ハケメ ミガキ	37	
				65762.63680.63768地	ⅢbL	ⅢPB-30	U-30					35	
				62890	ⅢbM	—	T-31					1	
Ⅲ-19-2	107-2	SP135A	ⅣB2a	62790.62831.62849地	ⅢbL	ⅢPB-28	U-27	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ (クマヅク)	16	
				62872.62873.62907地	ⅢbL	ⅢPB-29	U-27					4	
Ⅲ-19-3	107-3	SP135C	ⅣB2a	62844.62950.62951地	ⅢbL	ⅢPB-28	U-27	甕	底部	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	10	

表Ⅲ-24 集中区28出土遺物属性表

採回 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-18-4	107-4	—	62868	たたく石	Ⅱb2	ⅢbL	ⅢPB-28	U-27	118.0	81.2	31.0	440.0	And.	
Ⅲ-18-5	107-5	—	62869	たたく石	Ⅱb2	ⅢbL	ⅢPB-28	U-27	70.0	64.0	46.0	330.0	And.	
—	—	—	62102	黒曜石転礫	—	ⅢbL	ⅢPB-27	V-27	31.4	30.3	20.3	15.0	Obs.	

集中区 29 (図Ⅲ-19-20 図版 29-1～4)

位置：S・T-27・28区 規模：900×700cm

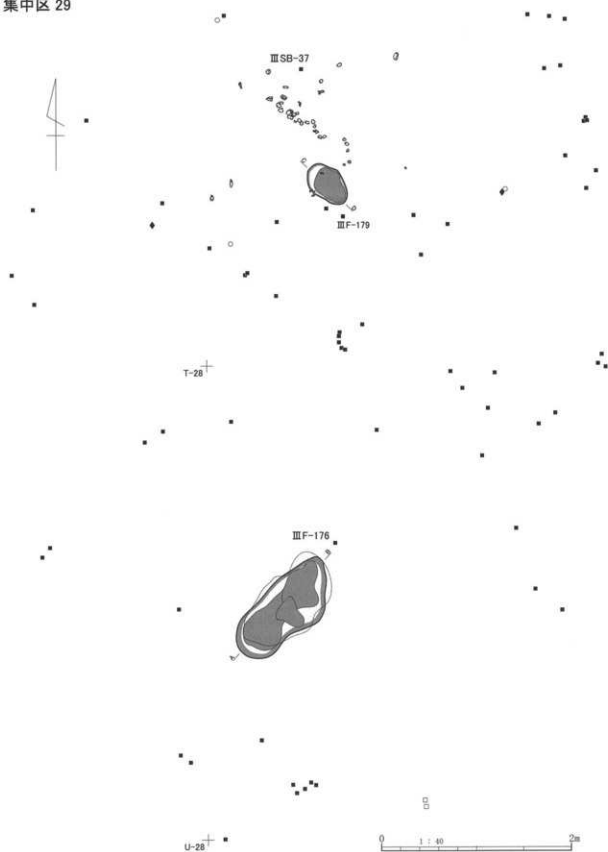
関連遺構：焼土 ⅢF-176・179 礫集中 ⅢSB-37

確認・調査：S・T-27・28区のⅢb層調査中、焼土2カ所(ⅢF-176・179)と礫集中1カ所(ⅢSB-37)を検出した。調査時は個々に記録を作成しており、集中区としての認識はなかった。また今回設定した他の集中区と比べても遺物出土数は少ない。ただしこの北側の平成17年度調査区において集中区10と複数の縄文文化期の焼土が検出されていたため、それらとの関連を想定し、集中区として設定した。

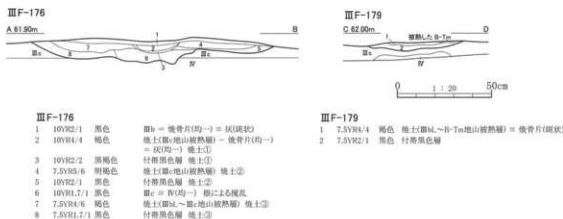
焼土(図Ⅲ-19-20)：ⅢF-176はⅢF-179、ⅢSB-37からやや南に離れた位置で検出した。長さ129cmを測る規模の大きい焼土だが、断面の観察から3つの焼土が重なっていることを確認した。上位には焼骨片の他、僅かに灰も堆積していた。ⅢF-179は僅かに焼骨片を伴う弱い焼土である。断面の観察においてB-Tmが被熱していることを確認できたため、確実にB-Tmより新しい焼土といえる。土壌サンプルには共に魚骨が多く含まれ、ⅢF-176ではシソ属とクルミ属の炭化種子も得られた。

礫集中(図Ⅲ-19)：ⅢSB-37はⅢF-179の北側に隣接して検出した。総点数57点中完形個体12点で、欠損率の高い礫集中である。

集中区 29



図Ⅲ-19 集中区 29 平面図



図Ⅲ-20 集中区29 関連遺構断面図

表Ⅲ-25 集中区29焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-19	29-1-2	ⅢF-176	T-27	ⅢbL	長楕円形	129	60	12	骨	
Ⅲ-19	29-3-4	ⅢF-179	S-27	ⅢbL	長楕円形	56	35	5	骨	

表Ⅲ-26 ⅢSB-37属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	重量(g)	被熱材質	備考		
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差					長短比	標準偏差
-	-	-	60695	ⅢbL	完形	42.9	-10.4	30.7	-1.2	14.1	-0.4	1.4	-0.6	28.2	-	Sa.	
-	-	-	60733	ⅢbL	完形	44.9	-8.4	33.5	1.6	8.4	-6.1	1.3	-0.6	19.7	-	Sa.	
-	-	-	60736	ⅢbL	完形	43.6	-9.7	38.5	6.6	18.5	4.0	1.1	-0.8	38.2	-	Sa.	
-	-	-	60734	ⅢbL	完形	48.4	-4.9	37.5	5.6	9.5	-5.0	1.3	-0.7	25.3	-	Sa.	
-	-	-	ⅢS1364	60622	ⅢbL	完形	48.4	-4.9	28.2	-3.7	14.3	-0.2	1.7	-0.2	27.2	-	Sa. 焼土点
-	-	-	60710	ⅢbL	完形	52.1	-1.2	25.0	-6.9	14.9	0.4	2.1	0.1	25.6	-	Sa.	
-	107-6	-	60708	ⅢbL	欠損	52.9	-0.4	43.8	11.9	25.3	10.8	1.2	-0.8	74.8	-	Sa.	
-	-	-	60702	ⅢbL	完形	53.7	0.4	35.2	3.3	11.7	-2.8	1.5	-0.4	32.8	-	Sa.	
-	-	-	60715	ⅢbL	完形	54.0	0.7	38.6	6.7	10.9	-3.6	1.4	-0.6	33.9	-	Sa.	
-	-	-	60718	ⅢbL	完形	57.5	4.2	39.0	7.1	10.5	-4.0	1.5	-0.5	30.2	-	Sa.	
-	-	-	60709	ⅢbL	完形	59.5	6.2	20.5	-11.4	10.8	-3.7	2.9	0.9	14.3	-	Mud.	
-	-	-	60730	ⅢbL	完形	65.5	12.2	33.7	1.8	10.6	-3.9	1.9	0.0	35.1	-	Sa.	
-	-	-	60744	ⅢbL	完形	74.1	20.8	17.9	-14.0	14.5	0.0	4.1	2.2	31.9	-	Mud.	
						58.1		35.2		14.5		1.96		34.8			
														総点数	57点	※完形	12点

集中区30 (図Ⅲ-21~23 図版29-5~8)

位置: S~U-29~31区 規模: 1,200×1,150cm

関連遺構: 焼土 III F-193・194・195・196 土器集中 III PB-40

礫集中 III SB-41・42

確認・調査: S~U-29~31区 のⅢb層で、礫を中心とする多数の遺物が出土した。出土遺物に被熱礫が含まれていたため、焼土がある可能性を想定し慎重に調査を進めたところ、S-30・31区において4カ所の焼土を検出した(ⅢF-193~196)。またⅢF-194の上位で土器片がまとまって出土したためⅢPB-40として設定し、礫についても焼土群南東側に近接した位置で比較的分布密度が高かったため、ⅢSB-41・42の2カ所を礫集中として設定した。集中遺物は平面図を記録した上で、取り上げを行った。焼土は平面形及び断面の記録を行い、土壌サンプルを採取した。

焼土(図Ⅲ-21・22): 4カ所の焼土の内ⅢF-193・194・196は焼骨片を伴い、焼土層も良好に形成さ

れている。ⅢF-195 は焼骨片を伴うが焼土層は不明瞭なため、投棄された焼土が極短期間使用された焼土の可能性がある。土壌サンプルからはそれぞれシカと思われる哺乳綱の骨が得られているほか、ⅢF-193・196 ではコイ科、ⅢF-194 ではサケ属の魚骨が得られた。またⅢF-196 ではキビの炭化種子を得ている。

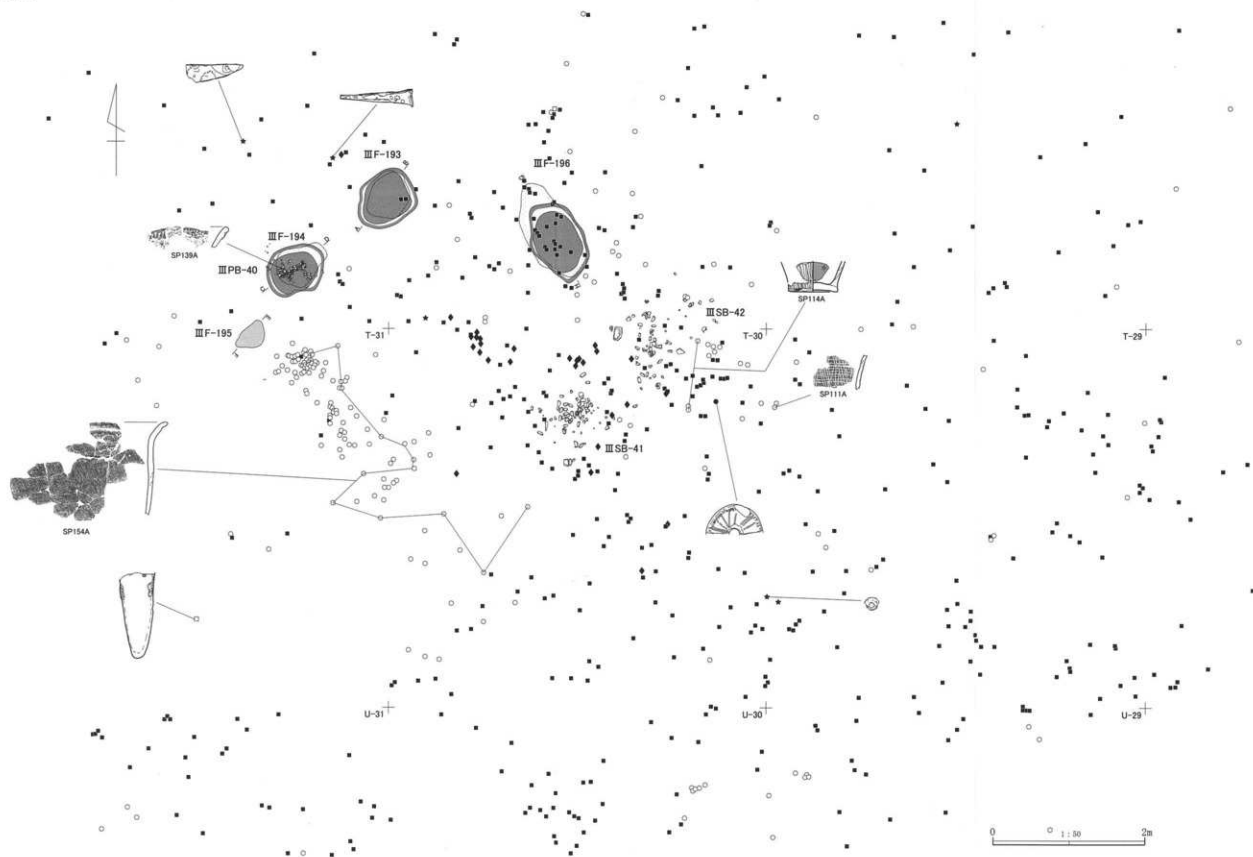
土器集中 (図Ⅲ-22) : ⅢPB-40 では、75×30cm の範囲で 206 点の土器片が密集して出土した。ⅢF-194 の上位で出土したが、間に若干間層を挟むことや、土器片に 2 次的な被熱を確認できないことから、焼土形成時期とは異なると考えられ、この集中区が複数回の行為の累積によって形成されたことが把握できる。

出土遺物 (図Ⅲ-23) : 1 はⅢSB-42 で出土した甕底部片である。外面はミガキ調整が施され、内面は黒色処理が行われている。底面に笹状の葉脈痕が認められる。2 は集中区平面図範囲から若干東に外れた位置で出土した小型の坏で、底部は全体の 1/2 が残存している。内外面共粗雑な整形のままにミガキ調整が行われており、粘土の継目を残している。3 は焼土群の南側で出土した無文の甕で、外面は粗いハケメ整形の後、粗雑なミガキ調整が行われ、内面は基本的にナデによる整形の後、口縁部付近のみミガキ調整が行われている。4 はⅢPB-40 で出土した甕口縁部片である。外面に篋状工具の端部を用いたとみえる深い刻みが廻らされ、内面はミガキ調整の後黒色処理が行われている。5 は甕口縁部片で、口唇部は欠損している。外面に 2 条一対の沈線により樹枝状と思われる文様が施文され、口唇部には刻みが入られている。6 はⅧB2a と思われる甕胴部片である。7 は紡錘車片で、下面に沈線と列点による放射状の文様が施文され、縁辺に列点が廻らされている。胎土は擦文土器と似ているが、径 3mm 以下の小礫を多く含む点で若干様相が異なる。8 はⅢSB-41 で出土した加工痕のある礫。9 はⅢSB-42 で出土した砥石で、砥面が粗く材質は砂岩である。10 はたたき石で棒状礫の稜部分を使用している。11 は刀子片で、切先が若干折れ曲がっている。12 は刀子茎で折損後に再加工したと思われ、折損部や上面がたたき潰されている。13 は板状の製品で、厚さ 1.5 mm の鉄片の両面に別の板状鉄片が密着している。鉾が通されていた可能性があるが、X 線写真からは判断できなかった。

表Ⅲ-27 集中区30焼土属性表

採掘 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-21	29-6	ⅢF-193	S-31	ⅢbL	楕円形	95	74	8	骨	
Ⅲ-21	29-6	ⅢF-194	S-31	ⅢbL	不整形	88	72	10	骨	
Ⅲ-21	29-6	ⅢF-195	T-31	ⅢbL	楕円形	44	30	4	—	
Ⅲ-21	29-7	ⅢF-196	S-30	ⅢbL	不整形	112	72	10	骨	

集中区 30



图Ⅲ-21 集中区 30 平面图



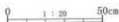
- III F-193
1 10YR2/1 黒色 Ⅱb = 焼骨片(均-) 粘性有
2 10YR4/6 褐色 焼土(Ⅱc地山被熟層)
3 10YR3/3 暗褐色 付帯黒色層



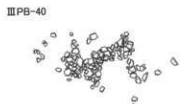
- III F-194
1 10YR2/1 黒色 Ⅱb = 焼骨片(均-) ⅡPB-465出土
2 10YR2/3 黒褐色 Ⅱb = 焼骨片(均-) = 灰(均-)
3 7.5YR5/6 明褐色 焼土(Ⅱb地山被熟層)
4 7.5YR3/3 明褐色 焼土(Ⅱc地山被熟層)
5 7.5YR5/3 黒褐色 付帯黒色層



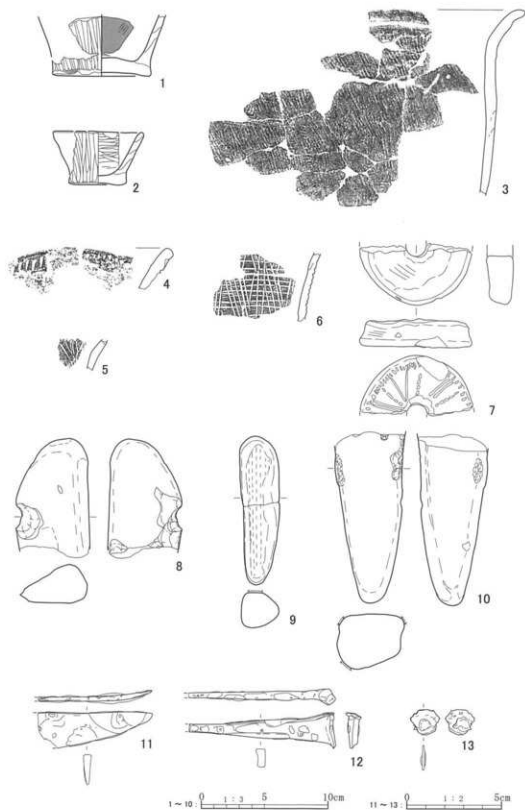
- III F-195
1 10YR3/1 黒褐色 Ⅱb = 焼骨片(均-+3.1)
2 10YR4/6 褐色 焼土(Ⅱcの被熟) 投棄された焼土が使用期間の短い焼土



- III F-196
1 10YR1.7/1 黒色 Ⅱb = 焼土(斑状)焼骨片
2 7.5YR6/4 に近い褐色 焼土(Ⅱb地山被熟層) = 焼骨片(均-)
3 7.5YR4/6 褐色 焼土(Ⅱc地山被熟層) = Ⅱbプロック(斑状)
4 7.5YR3/2 黒褐色 付帯黒色層 = 焼土(斑状)
5 7.5YR2/1 黒褐色 付帯黒色層 粘性やや有



図Ⅲ-22 集中区30 関連遺構



図Ⅲ-23 集中区 30 出土遺物

表Ⅲ-28 集中区30出土土器属性表

神岡 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-23-1	108-5	SP114A	ⅣB	69242.69246	Ⅲbl.	ⅢSB-42	-	甕	底部	ナデ	ハケメ	2	
				67892.67893.71002						Ⅲbl.	T-30		
Ⅲ-23-2	108-6	SP556A	ⅣC2	66473	Ⅲbl.	-	T-29	坏	口縁～ 台部	ミガキ 黒色処理?	ミガキ	3	
Ⅲ-23-3	108-1	SP154A	ⅣB3a	66136.66136.66209他	Ⅲbl.	-	-	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	6	
				66664.67926.68204他						Ⅲbl.	T-31		
Ⅲ-23-4	108-2	SP139B	ⅣB3	69339.69345.69350	Ⅲbl.	ⅢPB-40	-	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	3	
Ⅲ-23-5	108-3	SP121A	ⅣB2b	61975	Ⅲbl.	-	T-31	甕	口縁	ナデ	ナデ	1	
Ⅲ-23-6	108-4	SP111A	ⅣB2a	67887.67888.67890	Ⅲbl.	-	T-29	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	3	

表Ⅲ-29 集中区30出土遺物属性表

神岡 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-23-7	108-7	-	68192	紡錘車	-	Ⅲbl.	-	T-30	8.7	3.9	2.1	26.9	Cray.	
Ⅲ-23-8	108-12	-	69154	加工痕のある礎	-	Ⅲbl.	ⅢSB-41	T-30	(94.0)	58.0	30.0	200.0	Sa.	
Ⅲ-23-9	108-13	-	69368	砥石	-	Ⅲbl.	ⅢSB-42	T-30	117.0	32.0	27.0	140.0	Sa.	
Ⅲ-23-10	108-11	-	66531	たたき石	I b2	Ⅲbl.	-	T-31	(135.0)	52.5	43.0	380.0	Sa.	
-	108-8	-	67570	たたき石	Ⅱ b2	Ⅲbl.	-	S-30	131.0	81.0	51.0	645.0	Mud.	
-	108-9	-	66562	たたき石	Ⅱ a2	Ⅲbl.	-	T-29	138.0	117.0	49.0	1100.0	Sa.	
-	108-15	-	64816	台石	-	Ⅲbl.	-	S-29	(156.0)	(107.0)	58.0	990.0	Sa.	
Ⅲ-23-11	108-16	-	66728	刀子片	-	Ⅲbl.	-	S-31	(61.0)	19.5	4.0	7.4	Iron.	
Ⅲ-23-12	108-17	-	69058	刀子茎	-	Ⅲbl.	-	S-31	(77.0)	19.0	5.0	12.9	Iron.	
Ⅲ-23-13	108-18	-	65472	板状鉄片	-	Ⅲbl.	-	T-29	14.0	16.0	3.0	0.6	Iron.	新付?

表Ⅲ-30 ⅢSB-41属性表

神岡 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差							厚さ	標準 偏差
-	-	-	69174	Ⅲbl.	完形	53.3	-21.2	30.9	-7.3	24.9	-0.9	1.7	-0.5	53.1	-	Sa.	
-	-	-	69151	Ⅲbl.	完形	56.9	-17.6	30.1	-8.1	20.3	-5.5	1.9	-0.3	43.4	-	Sa.	
-	-	-	69158	Ⅲbl.	欠損	59.7	-14.8	36.0	-2.2	16.0	-9.8	1.7	-0.5	47.0	○	Sa.	
-	-	ⅢS1386	69146	Ⅲbl.	完形	66.1	-8.4	39.5	1.3	23.1	-2.7	1.7	-0.5	66.8	-	Sa.	物2点
-	-	-	69142	Ⅲbl.	完形	67.4	-7.1	34.3	-3.9	24.1	-1.7	2.0	-0.2	77.7	-	Sa.	
-	-	-	69184	Ⅲbl.	完形	71.1	-3.4	39.7	1.5	35.2	9.4	1.8	-0.4	143.0	-	Sa.	
-	-	-	69160	Ⅲbl.	完形	73.3	-1.2	35.7	-2.5	20.3	-5.5	2.1	-0.1	76.3	-	Sa.	
-	-	-	69140	Ⅲbl.	完形	73.7	-0.8	41.6	3.4	32.3	6.5	1.8	-0.4	109.7	-	Sa.	
-	-	-	69131	Ⅲbl.	完形	74.4	-0.1	45.4	7.2	26.5	0.7	1.6	-0.5	95.8	-	Sa.	
-	-	-	69133	Ⅲbl.	完形	73.1	-1.4	42.5	4.3	31.7	5.9	1.7	-0.5	154.6	-	Sa.	
-	-	109-19	69152	Ⅲbl.	完形	75.2	0.7	28.9	-9.3	23.0	-2.8	2.6	0.4	75.2	-	Sa.	
-	-	-	69137	Ⅲbl.	完形	78.9	4.4	33.5	-4.7	19.1	-6.7	2.4	0.2	78.9	-	Sa.	
-	-	-	69136	Ⅲbl.	欠損	76.3	1.8	45.4	7.2	18.7	-7.1	1.7	-0.5	91.6	-	Sa.	
-	-	-	69178	Ⅲbl.	完形	74.3	-0.2	40.8	2.6	24.8	-1.0	1.8	-0.4	104.0	-	Sa.	
-	-	-	69143	Ⅲbl.	完形	77.2	2.7	43.2	5.0	25.2	-0.6	1.8	-0.4	115.3	-	Sa.	
-	-	-	69144	Ⅲbl.	完形	81.0	6.5	38.4	0.2	24.2	-1.6	2.1	-0.1	110.5	-	Sa.	
-	-	-	69125	Ⅲbl.	完形	85.1	10.6	34.5	-3.7	16.3	-9.5	2.5	0.3	74.9	-	Sa.	
-	-	-	69157	Ⅲbl.	完形	87.7	13.2	44.4	6.2	19.6	-6.2	2.0	-0.2	116.1	-	Sa.	
-	-	-	69177	Ⅲbl.	完形	89.8	15.3	43.7	5.5	20.1	-5.7	2.1	-0.1	111.8	-	Sa.	
-	-	-	69150	Ⅲbl.	完形	89.6	15.1	38.0	-0.2	29.5	3.7	2.4	0.2	128.2	-	Sa.	
-	-	-	69179	Ⅲbl.	完形	94.7	20.2	39.2	1.0	14.9	-10.9	2.4	0.2	93.3	-	Sa.	

平均 83.1 42.4 25.8 2.18 103.5
総点数 81点 炭完形 17点

表Ⅲ-31 ⅢSB-42属性表

挿入 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比 標準 偏差	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考		
						長軸 標準 偏差	短軸 標準 偏差	厚さ 標準 偏差	厚さ 標準 偏差								
-	-	69239	Ⅲbl.	完形	31.0	-34.4	27.0	-6.3	14.3	-5.1	1.1	-0.9	13.3	-	Sa.		
-	-	69212	Ⅲbl.	完形	45.0	-20.4	39.0	5.7	14.7	-4.7	1.2	-0.9	38.3	○	Sa.		
-	-	69221	Ⅲbl.	完形	53.2	-12.2	35.5	2.2	11.4	-8.0	1.5	-0.6	22.7	-	Tu.		
-	-	69225	Ⅲbl.	完形	51.4	-14.0	23.6	-9.7	15.0	-4.4	2.2	0.1	29.8	-	Sa.		
-	-	69240	Ⅲbl.	完形	57.1	-8.3	42.1	8.8	12.8	-6.6	1.4	-0.7	43.9	-	Sa.		
-	-	69224	Ⅲbl.	完形	59.0	-6.4	38.5	5.2	25.3	5.9	1.5	-0.5	86.9	-	Sa.		
-	-	69211	Ⅲbl.	完形	62.4	-3.0	30.1	-3.2	17.0	-2.4	2.1	0.0	55.9	-	Sa.		
-	-	ⅢS1396	69189	Ⅲbl.	完形	62.8	-2.6	41.3	8.0	28.9	9.5	1.5	-0.5	91.9	-	Sa.	焼1点
-	-	69199	Ⅲbl.	完形	68.5	3.1	34.2	0.9	14.0	-5.4	2.0	-0.1	47.4	-	Sa.		
-	-	69230	Ⅲbl.	完形	68.7	3.3	23.8	-9.5	17.3	-2.1	2.9	0.8	31.8	-	Sa.		
-	-	69193	Ⅲbl.	完形	70.6	5.2	36.1	2.8	21.3	1.9	2.0	-0.1	49.3	-	Sa.		
-	-	69367	Ⅲbl.	完形	71.3	5.9	34.8	1.5	26.6	7.2	2.0	0.0	81.2	-	Sa.		
-	-	69187	Ⅲbl.	完形	73.0	7.6	35.0	1.7	13.2	-6.2	2.1	0.0	53.4	-	Sa.		
-	-	69219	Ⅲbl.	完形	78.6	13.2	37.0	3.7	15.6	-3.8	2.1	0.1	65.5	-	Sa.		
-	-	69218	Ⅲbl.	完形	80.1	14.7	32.3	-1.0	15.7	-3.7	2.5	0.4	55.8	-	Sa.		
-	-	ⅢS1397	69201	Ⅲbl.	焼完形	80.6	15.2	32.5	-0.8	21.1	1.7	2.5	0.4	71.1	○	Sa.	焼1点
-	-	69233	Ⅲbl.	完形	81.4	16.0	21.0	-12.3	20.8	1.4	3.9	1.8	56.4	-	Sa.		
-	-	69186	Ⅲbl.	完形	83.3	17.9	41.5	8.2	30.7	11.3	2.0	-0.1	143.7	-	Sa.		
-	-	69236	Ⅲbl.	完形	83.5	18.1	46.0	12.7	26.5	7.1	1.8	-0.3	145.3	-	Sa.		
-	-	69194	Ⅲbl.	完形	83.2	17.8	31.0	-2.3	11.0	-8.4	2.7	0.6	37.6	-	Mud.		
-	-	69208	Ⅲbl.	完形	82.8	17.4	34.5	1.2	20.0	0.6	2.4	0.3	77.3	-	Sa.		
-	-	69229	Ⅲbl.	完形	87.2	21.8	38.0	4.7	17.8	-1.6	2.3	0.2	75.0	-	Sa.		
-	-	69223	Ⅲbl.	完形	152.7	87.3	80.3	47.0	30.3	10.9	1.9	-0.2	460.0	-	Sa.		
平均						72.5	36.3	19.2	2.07			79.7				総点数 75点 密完形 23点	

集中区 31 (図Ⅲ-24・25 図版 30-1~6)

位置：U・V-30・31区 規模：800×600cm 平面形：楕円形

関連遺構：土坑 ⅢP-47 焼土 ⅢF-189 土器集中 ⅢPB-39

竊集中 ⅢSB-43

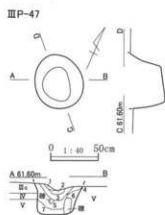
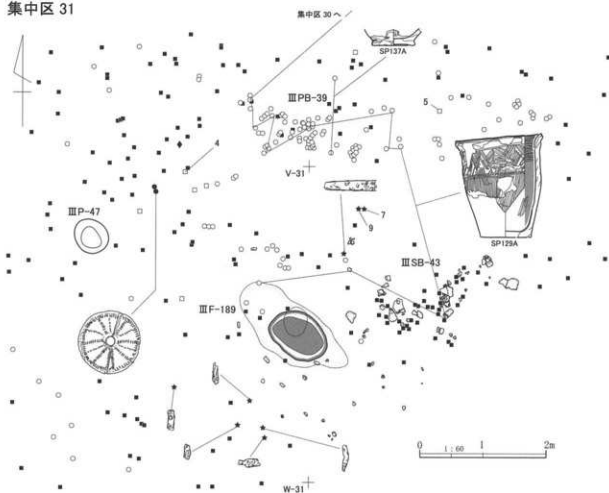
確認・調査：U・V-30・31区のⅢb層調査時に長楕円形に広がる焼骨片と斑状の灰を確認した。掘削を進めたところ下位で焼土を検出し(ⅢF-189)、周囲では土器、及び礫の集中を確認したため(ⅢPB-39・43)、関連する遺構群と判断し写真撮影を行った。遺物を取り上げ、焼土の記録を作成した後、周囲をⅢc面まで掘削した際、ⅢF-189の北西側でⅢbの円形の落込みを検出した。半載した結果、底面が平らな円形の土坑であることが確認できたため、ⅢP-47として設定した。堆積状態の記録後完掘し、調査を終了した。

土坑(図Ⅲ-24)：ⅢP-47は開口部で約60cmの径を測る円形の土坑である。堆積土7層は壁面の崩れによると思われる、自然埋没した土坑と考えられる。また土坑内には壁面崩落時に流れ込んだと考えられる礫が少数出土している。

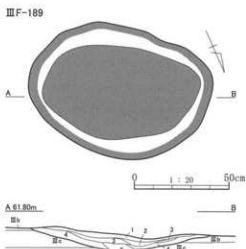
焼土(図Ⅲ-24)：ⅢF-189は長軸98cmの規模を測る。上位に焼骨片と僅かな灰を含むⅢb主体土が堆積し、炭化したクルミ片も確認できた。燃焼面は浅く窪み、焼土層は厚さ2cm程で平面規模に比べやや薄い。土壌サンプルからはサケ属とシカの骨の他、ムギ類、ヒエ属、クルミ属をはじめとする炭化種子も多く得られた。また特筆すべき点として、少量ではあるが板状の小鉄片も抽出している。

土器集中(図Ⅲ-24)：ⅢPB-39は200×90cmの範囲で115点の土器片が出土した。1のSP129個体片が主体となっている他、集中区28のSP133個体片も多数含まれていた。

集中区 31

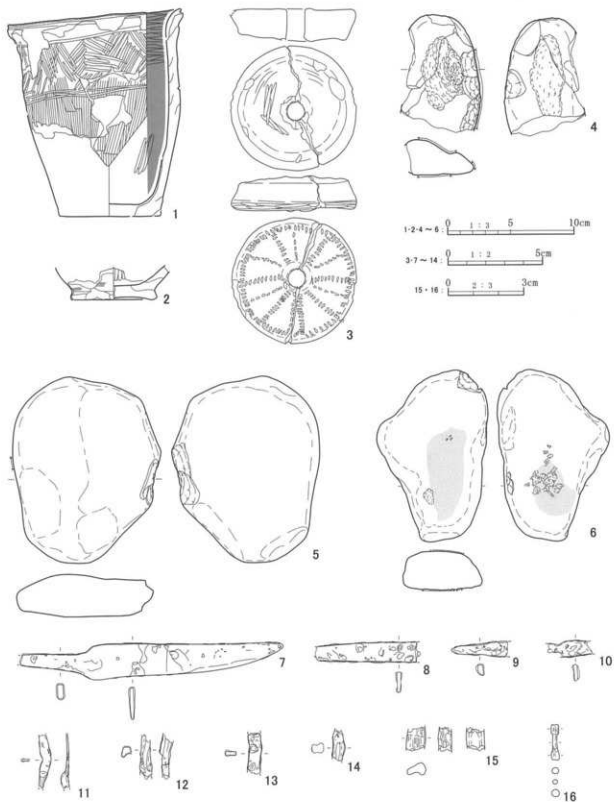


- III-P-47**
- 1 10YR2/1 黒色 Ⅲb
 - 2 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(面状)
 - 3 10YR3/1 黒褐色 Ⅲc = Vb(均一)
 - 4 10YR3/1 黒褐色 Vb = Ⅲc(面状)
 - 5 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = Vb(面状)
 - 6 10YR2/2 黒褐色 Ⅲc = Vb(均一)
 - 7 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc = IV(均一)



- III-F-189**
- 1 10YR2/2 黒褐色 Ⅲb - 地骨片 = 炭化クルミ片
 - 2 10YR1/4 褐色 Ⅲb - 地骨片 = 灰(均一)
 - 3 7.5YR4/6 褐色 焼土(器+地山経熟層)
 - 4 10YR2/1 黒褐色 行帯黒色層
 - 5 10YR2/2 黒褐色 ⅢcによるⅢc-IVの滲込み
- ※ 2層はⅢ層外壁上による灰の増殖

図Ⅲ-24 集中区 31 平面図及び関連遺構



图Ⅲ-25 集中区 31 出土遺物

表Ⅲ-32 集中区31土坑属性表

神図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅲ-24	30-5-6	ⅢP-47	V-31	Ⅲc	N-38° W	58	50	34	29	34	1.16	1.17	-	

表Ⅲ-33 集中区31焼土属性表

神図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-24	30-3-4	ⅢF-189	V-30-31	ⅢbL	楕円形	98	74	9	骨・灰	

表Ⅲ-34 集中区31出土土器属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考	
										内側	外側			
Ⅲ-25-1	110	SP129A	ⅢB3c	65672.65724.65744他	ⅢbL	ⅢPB-39	U-31	甕	口縁へ 底面	ミガキ 黒色処理	ハケメ	16		
				65558								T-28	1	
				65583								T-29	1	
				65941.65443.65444他								T-30	4	
				64434.64445								U-29	2	
				64440.65971.66614他								U-30	9	
				65979.65985								U-31	2	
				65993								V-31	1	
Ⅲ-25-2	110	SP137A	ⅢC4	65676	ⅢbL	ⅢPB-39	U-30	甕	底面	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナツ	3		

表Ⅲ-35 集中区31出土遺物属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考												
									長軸	短軸	厚さ															
Ⅲ-25-3	-	-	65994	紡錘車	CP	ⅢbL	-	V-31	6.6	6.6	1.8	77.8	Cray													
Ⅲ-25-4	110-7	-	65991	たたき石	IV	ⅢbL	-	V-31	(93.0)	64.0	27.0	205.0	Sa.													
Ⅲ-25-5	110-8	-	65957	加工痕のある礫	-	ⅢbL	-	U-30	146.0	118.0	34.0	870.0	Sa.													
Ⅲ-25-6	110-9	-	91603	得穴面と縦打痕 のある礫	II	I	ⅢP-47	-	271.0	177.0	61.0	3400.0	Sa.													
				-									110-4	-	65617	たたき石	IV	ⅢbL	-	V-30	(58.0)	(42.0)	34.0	70.0	Sa.	
				-									110-6	-	65627	たたき石	IV	ⅢbL	-	V-31	(71.0)	41.0	43.0	135.0	Sa.	
				-									110-5	-	65642	たたき石	IV	ⅢbL	-	V-31	(60.0)	51.0	34.0	135.0	Sa.	
				-									-	ⅢST0071	65954	台石	-	ⅢbL	-	U-30	(78.9)	15.4	18.8	110.0	Sa.	
				-									-	-	65993	たたき石	II b2	ⅢbL	-	V-31	114.1	(95.3)	69.5	800.0	Mud.	
				Ⅲ-25-7									109-10	-	63129	刀子	-	ⅢbL	-	V-30	(139.0)	20.0	5.0	22.3	Irn.	
				Ⅲ-25-8									109-11	-	63128	刀子茎	-	ⅢbL	-	V-30	(55.5)	11.0	3.5	5.5	Irn.	
				Ⅲ-25-9									109-12	-	67240	刀子茎	-	ⅢbL	-	V-30	(30.0)	8.5	5.0	1.8	Irn.	
				Ⅲ-25-10									109-13	-	63130	板状鉄片	-	ⅢbL	-	V-31	(23.0)	9.0	4.0	1.5	Irn.	
Ⅲ-25-11	-	-	63131	棒状鉄片	-	ⅢbL	-	V-31	(28.0)	7.0	2.0	0.7	Irn.													
Ⅲ-25-12	109-14	-	63133	棒状鉄片	-	ⅢbL	-	V-31	(24.0)	6.0	6.0	1.5	Irn.													
Ⅲ-25-13	109-15	-	63134	棒状鉄片	-	ⅢbL	-	V-31	(22.0)	8.5	4.0	1.3	Irn.													
Ⅲ-25-14	109-16	-	63132	棒状鉄片	-	ⅢbL	-	V-31	(16.5)	7.0	5.0	1.3	Irn.													
Ⅲ-25-15	109-17	-	98673	中柄?	-	ⅢbL	ⅢF-189	V-31	8.0	1.0	8.0	0.3	B.	FLT												
Ⅲ-25-16	109-18	-	101340	糸巻き	-	ⅢbL	ⅢF-189	V-31	14.0	2.5	3.0	0.2	B.	FLT												
-	-	-	-	板状鉄片	-	ⅢbL	ⅢF-189	V-31	-	-	-	-	Irn.	FLT												

礫集中(図Ⅲ-24)：ⅢSB-43は280×120cmの範囲でまとまって出土した礫集中である。総数126点の内完形個体は22点で欠損率の非常に高い礫集中であった。また構成している礫も板状の大型礫を多く含む点で、同時期の他の礫集中とは様相を異にしていた。

出土遺物(図Ⅲ-25)：1はⅢPB-39で出土した甕で、集中区30出土土器片と接合する。器壁に厚みがあり、胴部外面は粗いハケメ調整後、鋸歯状の文様が描かれ、内面はミガキの後黒色処理が行われている。2もⅢPB-39から出土した。坏の底部片で、上げ底気味に成形されている。3は紡錘車

表Ⅲ-36 ⅢSB-43属性表

種目 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	65936	Ⅲbl.	完形	18.3	-47.2	10.9	-26.9	8.0	-14.0	1.7	0.0	2.3	-	Gra.	-
-	-	-	65934	Ⅲbl.	完形	21.2	-44.3	17.1	-20.7	6.2	-15.8	1.2	-0.5	2.2	-	Mud.	-
-	-	-	65844	Ⅲbl.	完形	24.2	-41.3	21.6	-16.2	10.6	-11.4	1.1	-0.6	6.7	-	Sa.	-
-	-	-	65692	Ⅲbl.	完形	31.2	-34.3	25.3	-12.5	13.7	-8.3	1.2	-0.5	13.9	-	Che.	-
-	-	-	65917	Ⅲbl.	完形	33.9	-31.6	14.8	-23.0	17.9	-4.1	2.3	0.6	13.5	-	Sa.	-
-	-	-	65933	Ⅲbl.	完形	35.5	-30.0	29.3	-8.5	8.8	-13.2	1.2	-0.5	13.0	-	Sa.	-
-	-	-	65935	Ⅲbl.	完形	36.1	-29.4	28.2	-9.6	8.0	-14.0	1.3	-0.4	12.4	-	Sa.	-
-	-	-	65907	Ⅲbl.	完形	41.9	-23.6	34.0	-3.8	12.8	-9.2	1.2	-0.5	25.4	-	Sa.	-
-	-	-	65906	Ⅲbl.	完形	42.1	-23.4	27.9	-9.9	10.6	-11.4	1.5	-0.2	18.3	-	Sa.	-
-	-	-	65876	Ⅲbl.	完形	57.2	-8.3	24.4	-13.4	13.5	-8.5	2.3	0.6	26.0	-	Sa.	-
-	-	-	65908	Ⅲbl.	完形	60.5	-5.0	37.8	0.0	24.9	2.9	1.6	-0.1	68.1	-	Sa.	-
-	110-19	ⅢSI418	65872	Ⅲbl.	完形	62.8	-2.7	39.9	2.1	31.8	9.8	1.6	-0.1	107.7	-	Sa.	軸1点
-	-	-	65913	Ⅲbl.	完形	64.8	-0.7	49.5	11.7	32.3	10.3	1.3	-0.4	129.8	-	Sa.	-
-	-	-	65878	Ⅲbl.	完形	67.1	1.6	41.9	4.1	35.7	13.7	1.6	-0.1	117.5	-	Sa.	-
-	-	-	65928	Ⅲbl.	完形	71.5	6.0	36.6	-1.2	26.5	4.5	2.0	0.3	82.5	○	Sa.	-
-	-	-	65875	Ⅲbl.	完形	75.7	10.2	25.5	-12.3	24.6	2.6	3.0	1.3	73.0	-	Sa.	-
-	-	-	65693	Ⅲbl.	完形	101.9	36.4	42.3	4.5	23.4	1.4	2.4	0.7	136.0	-	Sa.	-
-	-	-	65914	Ⅲbl.	完形	105.3	39.8	54.1	16.3	35.1	13.1	1.9	0.2	320.0	-	Sa.	-
-	-	ⅢSI415	65874	Ⅲbl.	完形	104.0	38.5	94.7	56.9	35.5	13.5	1.1	-0.6	525.0	○	Sa.	軸1点
-	-	-	65938	Ⅲbl.	完形	113.5	48.0	52.5	14.7	30.3	8.3	2.2	0.5	225.0	○	Sa.	-
-	-	-	65937	Ⅲbl.	完形	115.7	50.2	58.5	20.7	40.3	18.3	2.0	0.3	330.0	○	Sa.	-
-	-	-	65871	Ⅲbl.	完形	162.0	96.5	91.1	53.3	33.0	11.0	1.8	0.1	890.0	-	Sa.	-
平均						65.7		39.0		22.0		1.7		142.6			
												総点数	126点	※完形	22点		

で、下面に観察できる放射状と縁辺を廻る列点文は、沈線の有無の違いはあるが、集中区30出土のものと同様構成が同じである。4は表裏両面と側縁が使用されたたたき石。5は側縁に加工痕がみられる礫。6は表裏両面に敲打痕と滑沢面が形成された礫である。7は刀子、8・9は共に刀子茎片でいずれも基部断面は方形である。10~14はⅢF-189の南西側で比較的密集して出土したもので、いずれも用途不明な鉄片である。10は一端が潰れて歪んだ板状のもの。11~14は棒状のもので、11は潰れが、12・14では溝状の窪みが認められる。ⅢF-189 土壌サンプル中から得られた板状鉄片と共に、鉄器生産に関わる遺物の可能性がある。15・16はⅢF-189の土壌サンプル中より検出した骨角器で、15はシカ中手・中足骨を素材とした中柄片、16は糸巻き状の製品で、長さは14mmを測り、軸の両端が太く加工され杵状を呈している。断面は円形で、軸部分で1.5mm、両端部で3mmの径を測る。

集中区 32 (図Ⅲ-26・27 図版 31-1~8)

位置: W・X-30・31区 規模: 950×750cm

関連遺構: 土坑 ⅢP-31 焼土 ⅢF-186・188 土器集中 ⅢPB-33・34

確認・調査: W・X-30・31区のⅢb層調査時に焼土2ヵ所と土器集中2ヵ所を検出した。それぞれ関連する遺構と判断したため、検出状態の撮影を行った後に個々の記録を作成した。遺物取り上げ後、Ⅲc上面まで掘削が進んだ際、W-31区でⅢb層の円形の落込みを検出した。半載した結果底面が平らでほぼ垂直に壁面が立ち上がる土坑であることを確認したため、ⅢP-31として設定した。平成17年度に調査したⅢP-10と類似する形態をしていたため、堆積状態の記録後、残り半分を掘削する際、坑底直上の土壌サンプルを採取し、花粉分析を委託することとした。サンプル採取後完掘状態の記録を作成し、調査を終了した。

土坑(図Ⅲ-27): ⅢP-31は開口部での径64cmを測る円形プランの土坑で、確認面からの深さは34cmであった。堆積土はⅢc主体土で構成され、壁面の崩落による自然堆積土と考えられる。この内、最下位に堆積する7層は若干粘性のある土であった。花粉分析用サンプルとして、6層下位と7層からサンプルを採取しており、7層中から花粉・胞子が検出された。詳細は第七章第6節を参照されたい。

焼土(図Ⅲ-26): ⅢF-186・188共に焼骨片を伴う焼土である。ⅢF-186は焼土層中に焼骨片が混入し、焼土下位にも焼骨片を含むⅢc主体土が堆積しているため、掘り返されながら使用された焼土と判断した。ⅢF-188も地山被熱層は小規模で、大半は焼土粒主体の焼土であったことから、攪拌されながら使用された可能性が高い。土壌サンプルからはⅢF-186ではコイ科の骨が、ⅢF-188では哺乳綱の骨が含まれていた。またⅢF-186からはキビの炭化種子も得ている。

土器集中(図Ⅲ-26): ⅢPB-33は21点の土器片で構成される土器集中で、集中区34のⅢPB-35との間で接合関係にある。主体がⅢPB-35であるため出土遺物については集中区34の項にて記載する。ⅢPB-34は86×64cmの範囲に広がる土器集中で、SP136個体片による38点の土器片で構成されている。細片化が著しく接合し得たのは底部のみであった。

出土遺物(図Ⅲ-27): 1はⅢPB-34で出土した甕の底部片で内外面共にナデ調整が行われている。

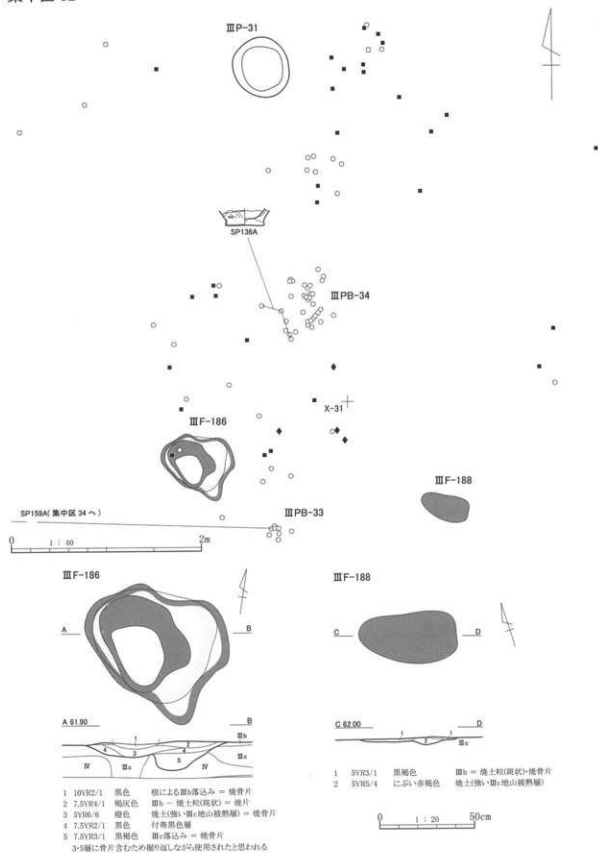
表Ⅲ-37 集中区32土坑属性表

神図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備 考
						長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅲ-27	31-7・8	ⅢP-31	W-31	Ⅲ	N-20° W	64	60	48	42	34	1.07	1.14	—	

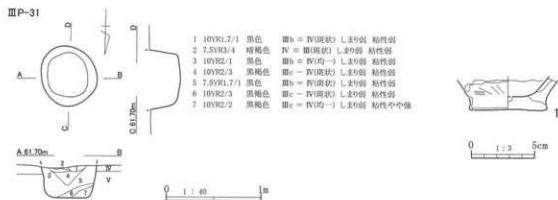
表Ⅲ-38 集中区32焼土属性表

神図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備 考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-26	31-2・3	ⅢF-186	X-31	ⅢbL	不整形	78	60	15	骨	
Ⅲ-26	31-2・4	ⅢF-188	X-30	ⅢbL	長槽円形	52	28	4	骨	

集中区 32



図Ⅲ-26 集中区 32 平面図及び関連遺構断面図



図Ⅲ-27 集中区 32 関連遺構及び出土遺物

表Ⅲ-39 集中区32出土土器属性表

種別 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-28-1	111-1	SP136A	ⅣB	63627, 63630, 63631他	ⅢB	ⅢP-31	W-031	甕	底部	ナデ	ナデ	4	

集中区 33 (図Ⅲ-28・29 図版 32-1~4)

位置：U~W-31~34区 規模：1,350×1,000cm

関連遺構：土坑 ⅢP-32 焼土 ⅢF-190 炭化物集中 ⅢCB-88

礫集中 ⅢSB-44

確認・調査：V-32区のⅢb層調査時に、広範囲に及ぶ焼骨片の広がりを確認した。慎重に掘削を進めたところ、下位で焼土を検出したためⅢF-190とした。また周囲では礫を中心に多数の遺物が出土しており、特にⅢF-190の西側で棒状礫がまとまって出土したことから、ⅢSB-44とし、出土状態の記録を作成した。遺物取り上げ後、周囲の掘削をⅢcまで進めた際、ⅢF-190の南東方向で小規模なⅢbの落込みを確認した。半截したところ、底面が水平で壁面が鉢状に開く小型の土坑であることを確認したため、ⅢP-32とした。エレベーションと平面形の記録のみを作成し、調査を終了した。集中区としての設定は報告書作成段階において行っている。

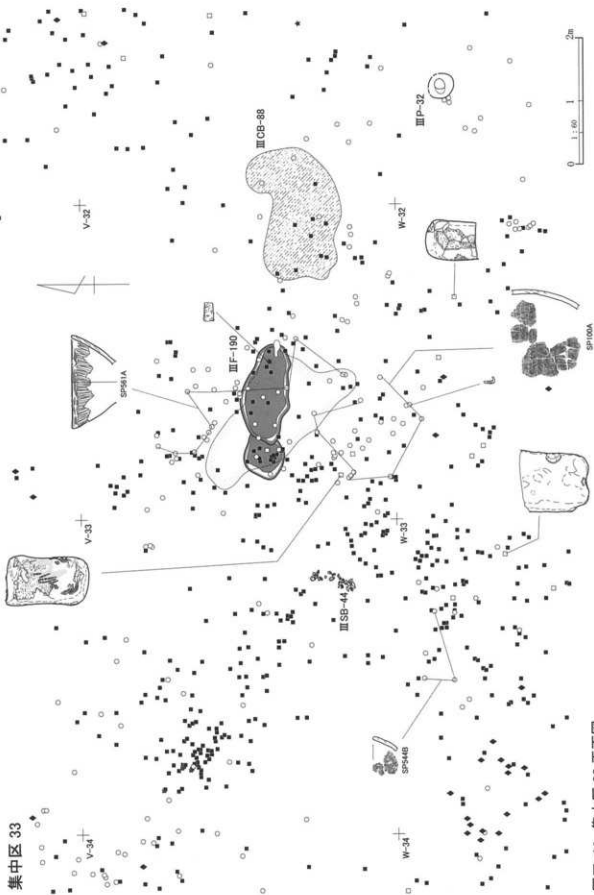
土坑(図Ⅲ-29)：ⅢP-32は開口部で40cmの規模を測り、本遺跡検出例の中では比較的小型の土坑である。坑底面は径16cmで、西側はゆるやかに立ち上がる。

焼土(図Ⅲ-29)：ⅢF-190は長軸212cmを測る規模の大きい焼土である。断面と平面形の観察から、2つの焼土が重なって形成されたものと判断した。上位に焼骨片を伴い燃焼面は浅く窪み、直上で被熱礫が出土している。また厚さ6cmの良好な焼土層が形成されていた。土壌サンプルからはウグイ、サケ属、哺乳綱の骨と、キビ、クルミ属をはじめとする炭化種子が得られた。

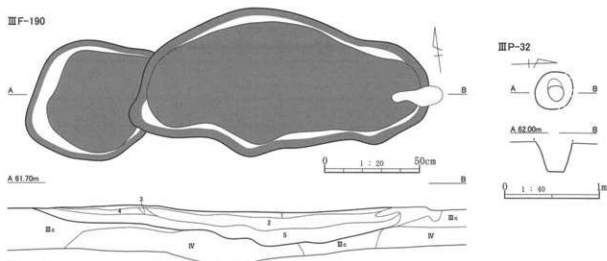
炭化物集中(図Ⅲ-28)：ⅢCB-88はⅢF-190の東側で検出し、長さ220cm、幅144cmの範囲に広がる炭化物集中である。含まれる炭化物は炭化材が中心で、土壌サンプルからも少量のブドウ科種子以外に目立った資料は得られていない。

礫集中(図Ⅲ-28)：ⅢSB-44は72×30cmの範囲に広がる礫集中である。棒状礫を中心に37点の礫が出土した。完形個体は10点で、棒状礫の集中としては平均的な欠損率である。

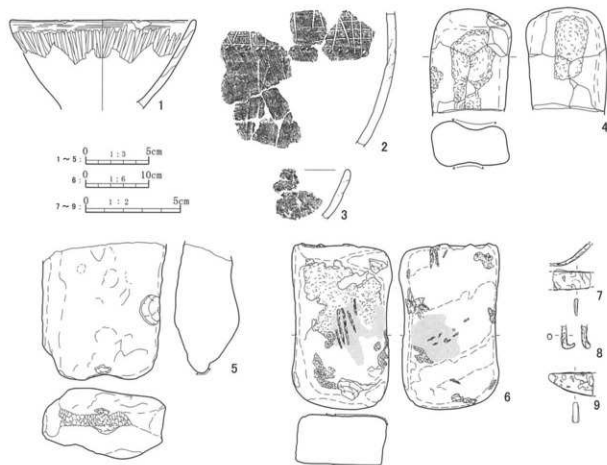
出土遺物(図Ⅲ-29)：1は坯の口縁~体部片で、内外面共にミガキ調整が行われている。破片の一部はⅢF-190の直上で出土した。2は甕の胴部片で横走沈線に斜位の沈線を重ね、文様帯下線に列



图Ⅲ-28 集中区 33 平面图



- III F-190
- | | | | |
|---|----------|--------|--------------------------|
| 1 | 5YR4/2 | 灰褐色 | 堆土粒 - 圓形(或状)・骨片・炭化物 |
| 2 | 5YR5/6 | 明赤褐色 | 堆土(強い)・礫・地山被熱層 |
| 3 | 5YR4/1 | 褐灰色 | 付帯黒色層 |
| 4 | 5YR5/4 | にじみ赤褐色 | 堆土(強い)・礫・地山被熱層) 上面で被熱融出土 |
| 5 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 |



図III-29 集中区 33 関連遺構及び出土遺物

表Ⅲ-40 集中区33土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅲ-29	—	ⅢP-32	W-31	Ⅲ	N-31° W	40	40	16	16	32	1.00	1.00	—	

表Ⅲ-41 集中区33焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-28・29	32-1~3	ⅢF-190a	V-32	ⅢbL	長楕円形	160	78	18	骨	
Ⅲ-28・29	32-1~3	ⅢF-190b	V-32	ⅢbL	—	(82)	68	10	骨	

表Ⅲ-42 集中区33炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅲ-28	—	ⅢCB-88	V-31・32	ⅢbL	不整形	220	144	

表Ⅲ-43 集中区33出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-29-1	111-2	SP561A	ⅤC	65369, 65378, 65417他	ⅢbL	ⅢF-190	V-32	坏	口縁へ 体部	ナゲ ミガキ	ナゲ ミガキ	9	
				67520						ⅢeU	—	V-32	
Ⅲ-29-2	111-3	SP100A	ⅤB2a	65355, 65405, 65411他	ⅢbL	ⅢF-190	V-32	甕	胴部	ハケメ ナゲ	ハケメ ナゲ	8	
Ⅲ-29-3	111-4	SP514B	ⅤC	63371, 63377, 63378	ⅢbL	—	W-33	坏	口縁	ハケメ ナゲ	ナゲ	3	

表Ⅲ-44 集中区33出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-29-4	111-6	—	64293	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-32	(82.0)	64.0	35.0	260.0	Sa.	
Ⅲ-29-5	111-9	—	66405	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-33	109.0	97.0	52.0	660.0	Sa.	
Ⅲ-29-6	111-10	—	66401	滑石面を 船打板の中心線	Ⅱ	ⅢbL	—	V-32	264.0	158.0	79.0	6200.0	Sa.	
Ⅲ-29-7	111-11	—	65421	刀子片	ⅠP	ⅢbL	ⅢF-190	V-32	(20.0)	11.0	2.5	1.8	Iron.	
Ⅲ-29-8	111-12	—	66452	釣針?	ⅠP	ⅢbL	—	W-32	(12.0)	7.0	3.0	0.3	Iron.	
Ⅲ-29-9	111-13	—	79396	板状製品	ⅠP	ⅢbL	ⅢF-190	V-32	(24.0)	13.0	4.0	2.0	Iron.	
—	111-8	—	66394	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-32	(75.0)	62.0	34.0	225.0	Sa.	
—	111-7	—	63363	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-33	(98.0)	48.0	37.0	265.0	Sa.	
—	—	—	66400	たたき石	Ⅰb1	ⅢbL	—	V-32	(132.6)	61.3	48.8	470.0	Sa.	
—	—	—	66429	砥石	—	2	ⅢF-190	V-32	(65.0)	(65.0)	18.4	100.0	Sa.	

表Ⅲ-45 ⅢSB-44属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考			
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差									
—	—	—	67008	ⅢbL	完形	59.9	-6.4	41.4	5.6	20.4	-3.2	1.4	-0.5	73.5	—	Sa.				
—	—	—	57606	ⅢbL	略完形	62.0	-4.3	43.8	8.0	24.9	1.3	1.4	-0.5	90.6	—	Sa.				
—	—	—	64999	ⅢbL	完形	62.9	-3.4	44.2	8.4	16.1	-7.5	1.4	-0.5	66.5	—	Sa.				
—	—	—	67001	ⅢbL	完形	73.0	6.7	29.5	-6.3	22.7	-0.9	2.5	0.5	79.1	—	Sa.				
—	—	—	67002	ⅢbL	完形	76.8	10.5	52.2	16.4	24.3	0.7	1.5	-0.5	110.4	—	Sa.				
—	—	—	57604	ⅢbL	完形	80.7	14.4	43.8	8.0	24.9	1.3	1.8	-0.1	131.5	—	Sa.				
—	—	—	65000	ⅢbL	完形	81.3	15.0	32.8	-3.0	29.2	5.6	2.5	0.5	106.3	—	Sa.				
—	—	—	67004	ⅢbL	完形	85.1	18.8	29.7	-6.1	22.7	-0.9	2.9	0.9	90.4	—	Sa.				
—	—	—	67005	ⅢbL	完形	84.7	18.4	44.4	8.6	28.8	5.2	1.9	-0.1	123.1	—	Sa.				
—	—	—	67168	ⅢbL	完形	94.6	28.3	41.8	6.0	22.0	-1.6	2.3	0.3	117.7	—	Sa.				
平均						76.1		40.4		23.6		1.96		98.9						
																	総点数	37点	密完形	10点

点が廻る。内外面共にハケム調整痕が残る。3 は坯の口縁部片で、器表面の調整は粗雑で凹凸が顕著である。4・5 はたたき石で、4 は表裏両面が使用され、敲打痕により顕著な窪みが形成されている。5 は厚味のある礫を素材とし、稜を使用している。6 は敲打痕と滑沢面が形成された礫で、角柱状礫を素材とし、表裏両面が使用されている。7~9 は鉄製品で、7 は湾曲した刀子片、8 は釣針状の製品、9 は板状の鉄片である。

集中区 34 (図Ⅲ-30~32 図版 32-5~8)

位置：W~Y-32~34区 規模：1,300×700cm

関連遺構：焼土 IIIF-185 焼骨片集中 IIIBB-25 土器集中 IIIPB-35

礫集中 IIISB-40

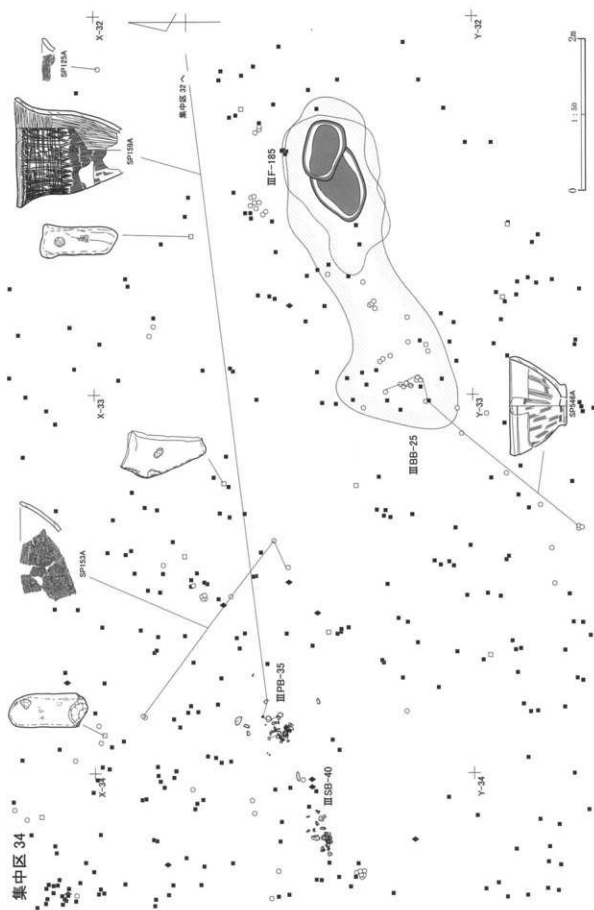
確認・調査：X-32区の調査中、広範囲に広がる焼骨片の分布を確認した(III BB-25)。周囲を精査したところ下位から焼土を検出したため、平面形及び断面の記録を作成した。焼土の調査終了後、III b層調査がX-33区に及んだ際、複数の土器集中と礫集中を検出した。この場所では下位の純縄文時代の遺物も多数浮上っていたため、遺構の所属時期を慎重に判断した結果、III PB-35とIIISB-40を弥文文化期に属する集中遺物として設定した。集中区の設定は報告書作成段階において行った。

焼土(図Ⅲ-31)：IIIF-185は検出時長軸170cmを測る規模の大きい焼土であった。しかし平面形・断面の観察を行った結果、2つの焼土が重なったものであると判断した。周囲には焼骨片が広範囲に分布しており、III BB-25として設定したが、この焼土に伴う骨片が浮遊し拡散したものと考えられる。焼土層の厚さは最大で6cmを測り、良好に形成されていた。土壌サンプルからはシカ、コイ科、サケ属の骨と、キビ、クルミ属をはじめとする炭化種子が得られた。

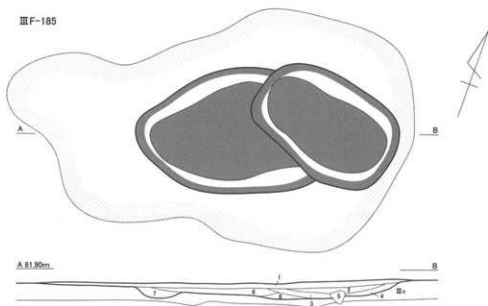
土器集中(図Ⅲ-31)：III PB-35は64×40cmの範囲で出土し、61点の土器片で構成される。1のSPI59個体片の内、主として胴部上半の破片で構成されている。

礫集中(図Ⅲ-31)：IIISB-40は60×25cmの範囲で出土した礫集中である。22点の礫片が出土しているが、構成礫の主体である石英の破片はすべて同一個体が割れたもので、接合した結果長軸約190mmの石英塊となった。個々の破片縁辺に摩滅痕等は認められず、火打石として利用の可能性は低いと思われる。

出土遺物(図Ⅲ-32)：1はIII PB-35で出土したVIB3aの甕で、集中区32のIII PB-33出土土器片と接合する。横走沈線の上に2条一対の縦位の沈線を重ね、その間に鋸歯状文を施文している。文様帯下縁にも2条一対の沈線による鋸歯文が加えられている。胴部外面は細かなハケム調整が施され部分的にミガキ調整が加えられている。内面はミガキ調整の後、黒色処理が行われている。2はVIC2の坯で、口縁部に段状沈線が廻る。3は甕口縁部片で、口唇部は丸みを帯び、内外面共ミガキ調整が行われ、内面は黒色処理が施されている。4は集中区平面図上からはやや西に外れた位置で出土した甕胴部片で、深く明瞭な沈線で文様が描かれている。遺跡内で出土している他の個体に比べ薄手に成形されている。5は坯の底部片と思われる資料で、上げ底に成形されている。6は坯口縁〜体部片で、内外面共ミガキ調整が加えられているが、整形は粗雑で、器表面の凹凸が顕著である。また胎土にも径1mm程の小礫が目立つ。7~9はたたき石で、いずれも礫の平坦部が使用され、9では側縁も使用されている。10は集中区平面図からやや北西に外れた位置で出土した鉄製品で、刀子の茎である。断面の一部が肥厚し成形の粗雑さが把握できる。



図III-30 集中区 34 平面図



ⅢF-185

- ⅢF-185
- 1 7.5YR4/1 褐灰色 Ⅲb-1 焼土粒(塊状)・灰・焼骨片・炭化物
 - 2 5YR6/6 褐色 焼く事化した焼土
 - 3 5YR4/1 褐灰色 焼土(強いⅢc地山被熱燻) 焼土①
 - 4 5YR3/1 黒褐色 付帯黒色層 焼土①
 - 5 5YR5/2 灰褐色 根に上る焼土跡込み
 - 6 5YR5/6 明赤褐色 焼土(強いⅢc地山被熱燻) 焼土②
 - 7 5YR3/1 黒褐色 付帯黒色層 焼土②
 - 8 5YR2/1 黒褐色 付帯黒色層 焼土②
- ※ 焼土①(新)と焼土②(旧)が重なる

ⅢPB-35



ⅢSB-40



0 1 20 50cm

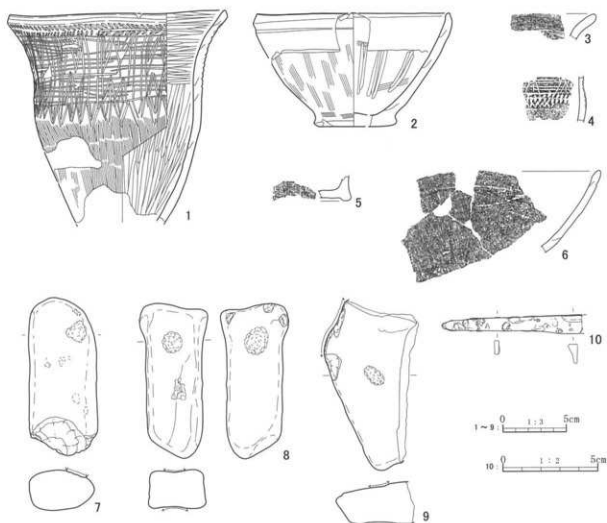
図Ⅲ-31 集中区34関連遺構

表Ⅲ-46 集中区34焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-31	32-5・6	ⅢF-185a	X-32	ⅢbL	楕円形	79	53	7	骨	
Ⅲ-31	32-5・6	ⅢF-185b	X-32	ⅢbL	楕円形	(96)	66	8	骨	

表Ⅲ-47 集中区34焼骨片集中属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備考
						長軸	短軸				
Ⅲ-30	—	ⅢBB-25	X-32-33	ⅢbL	不整形	462	151	—	被熱	ⅢF-185	



図Ⅲ-32 集中区 34 出土遺物

表Ⅲ-48 集中区34出土土器属性表

神図 番号	図版 番号	胴体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考			
										内側	外側					
Ⅲ-32-1	112-1	SP159A	ⅣB3a	63650,63652,63654他	Ⅲbl.	ⅢPB-33	X-31	甕	口縁～ 胴部	エガキ	ハケメ	10				
				69660,69686,69121他						Ⅲbl.	ⅢPB-35	X-33			43	
				64006,64011,65818他						Ⅲbl.		X-32			10	
Ⅲ-32-2	112-2	SP546A	ⅣC2	65118,75022	Ⅲbl.	—	—	坪	口縁～ 台部	ハケメ	ハケメ	2				
				67049,67051,75019他						Ⅲbl.	Y-33	エガキ	ナゲ	4		
Ⅲ-32-3	112-3	SP125A	ⅣB	63889	Ⅲbl.	—	X-32	甕	口縁	ハケメ エガキ 黒色処理	ハケメ エガキ	1				
Ⅲ-32-4	112-4	SP123A	ⅣB3a	67097	Ⅲc	—	X-34	甕	胴部	エガキ	ナゲ	1				
Ⅲ-32-5	112-5	SP120A	ⅣB?	65212	Ⅲbl.	—	X-34	甕	底部	ナゲ	ナゲ	1				
Ⅲ-32-6	112-6	SP153A	ⅣC	65209,65216,67095他	Ⅲbl.	—	X-34	甕	口縁～ 体部	ハケメ エガキ 黒色処理	ハケメ エガキ	5				

表Ⅲ-49 集中区34出土遺物属性表

挿入 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-32-7	112-7	—	73467	たたき石	IB2	ⅢbL	—	X-33	125.1	54.7	31.7	315.0	Sa	
Ⅲ-32-8	112-8	—	63980	たたき石	I b1	ⅢbL	—	X-32	122.0	53.0	30.0	305.0	Sa	
Ⅲ-32-9	112-9	—	65044	たたき石	IV	ⅢbL	—	X-33	(134.0)	(75.0)	33.0	330.0	Sa	
Ⅲ-32-10	112-17	—	63139	刀子茎	—	ⅢbL	—	W-34	(74.0)	10.0	5.0	7.6	Sa	
—	112-10	—	65801	たたき石	IV	ⅢbL	—	X-32	(77.0)	50.0	(15.0)	90.0	Sa	
—	112-12	—	65093	たたき石	IV	ⅢbL	—	X-33	(64.0)	60.0	(27.0)	160.0	Sa	
—	112-13	—	65804	加工痕のある礫	—	ⅢbL	—	X-32	(59.0)	(55.0)	28.0	120.0	Sa	
—	112-14	—	68812	加工痕のある礫	—	ⅢbL	—	X-34	110.0	74.0	28.0	270.0	Sa	
—	112-15	—	65778	たたき石	IV	ⅢbL	—	Y-32	(103.0)	(71.0)	29.0	360.0	Sa	
—	112-16	—	68186	台石	—	ⅢbL	—	X-33	(125.0)	127.0	52.0	1500.0	Sa	
—	—	—	65783	加工痕のある礫	—	ⅢbL	—	Y-32	89.4	(56.5)	22.7	140.0	Sa	
—	—	—	65035	たたき石	IV	ⅢbL	—	Y-33	(59.0)	55.0	(20.0)	90.0	Sa	
—	—	—	65144	たたき石	IV	ⅢbL	—	X-34	(59.8)	50.4	34.5	140.0	Sa	

表Ⅲ-50 ⅢSB-40属性表

挿入 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						
—	112-18	—	66389	ⅢbL	完形	49.1	-186.1	31.7	-122.2	35.8	-57.4	1.5	0.0	102.7	Sa	
—	—	ⅢS1401	66381	ⅢbL	欠損	186.0	-49.1	122.2	-31.7	57.4	-35.8	1.5	0.0	1336.0	Qu	他12点
						235.1		153.9		93.2		1.5		1438.7		
													総点数	21点	象形	1点

集中区 35 (図Ⅲ-33~40 図版 33~36)

位置：T~W-34~36区 規模：1,500×1,300cm

関連遺構：土坑 ⅢP-40・41・44・45 焼土 ⅢF-192・216・218・219・224

杭跡 ⅢKP-139 獣骨集中 ⅢBB-37・41 土器集中 ⅢPB-42・52・54

礫集中 ⅢSB-47・53

調査・確認：U・V-35区のⅢb層調査中、同一軸線上に並列した2カ所の長大な焼土と(ⅢF-216・224)、その周囲で土器集中1カ所(ⅢPB-52)、礫集中1カ所(ⅢSB-53)を検出した。焼土と集中遺物の位置関係がアイヌ文化期の住居址と良く似ていたことから関連性の高いものと判断し、検出状態の撮影を行った。さらに周囲を同一面まで掘削したところ、他に3カ所の焼土(ⅢF-192・218・219)と2カ所の土器集中(ⅢPB-42・54)、1カ所の礫集中(ⅢSB-47)を検出した。先に検出した遺構と共に個々の記録を作成し、遺物の取り上げを行った。調査が進みⅢc層上面まで掘削が進んだ際、ⅢF-216・224の西側で円形のⅢbの落込みを4カ所確認した。半截した結果いずれも円形の土坑と判断し、堆積状態、平面形の記録を行い調査を終えた。集中区としての設定は、検出時に関連性のあるものとして把握した遺構群に、調査進行過程で検出した他の遺構を合わせ、報告書作成段階で設定した。

土坑(図Ⅲ-34)：ⅢP-40・41・44・45は開口部で約60cm、確認面からの深さ50cm前後の規模を測る円形プランの土坑である。形態は類似するが、堆積土が若干異なり、ⅢP-40・44・45は坑底面直上に壁面の崩落土が堆積し、ある程度埋没してから人為的な埋め戻しが行われているが、ⅢP-41では坑底面直上に埋土が認められる。

焼土(図Ⅲ-35)：ⅢF-216・224は並列した配置で検出した。共に長さ160cm以上、厚層10cm以上の規模を測る長大な焼土である。上位に焼骨片を伴い、燃焼面は浅く窪む。ⅢF-192・219は集中区の南東部に、ⅢF-218は北東部に位置し、いずれも焼骨片を伴っている。ⅢF-218は広範囲に広がる焼骨片集中ⅢBB-37と重なることから、ⅢBB-37の骨片はⅢF-218で形成されたものと考えられる。土壌サンプルからはいずれもコイ科、サケ属、哺乳綱の骨を得ているが、ⅢF-216ではイトウの骨も認められた。また炭化種子ではⅢF-216・224のみキビを伴っている。同じ集中区の中でもこの2カ所の焼土は特異な様相を呈している。

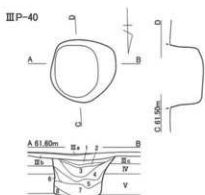
杭跡(図Ⅲ-35)：ⅢKP-139はⅢF-224の西側約150cmの位置で検出した。確認面からの深さは約30cmあり、VI層まで達した杭跡である。下端部に向けて細くなるため、打込みによって立てられたものと考えられる。上位の堆積土はⅢc主体土であった。

獣骨集中(図Ⅲ-37)：ⅢBB-41はⅢF-216の北側約4mの位置で検出した。ⅢPB-52と近接し、その土器片や礫と共に未焼熱の獣骨がまとまって出土した。遺構下位に古い風倒木痕が位置しており、これらの獣骨はこの風倒木の揚げ土を意識して集められたものと考えられる。第Ⅶ章第4節の報告によれば、構成する獣骨はシカの角、上顎骨及びその臼歯が主体であり、下顎骨を伴わない角のついたオスの頭蓋骨が多かったとされている。特定部位の集中であるため、「送り」的行為が行われた場所である可能性が高い。ただし下顎骨を伴わないことから既に白骨化した頭蓋骨が集められたと考えられ、Ⅱ章で報告したアイヌ文化期の「送り場」とは様相が異なる。

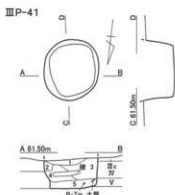
土器集中(図Ⅲ-36)：ⅢPB-52はⅢBB-41に隣接して出土した土器集中で、70×30cmの範囲に645点の土器片が密集して出土した。構成する土器片には複数個体が含まれ、SP142・143・144・145・539・564の6個体分がある。ⅢBB-41と関連し、「送り」的行為の中で形成された土器集中の可能性が高い。ⅢPB-42はⅢF-216の東側約4mの位置で出土した。90×50cmの範囲にSP033の個体片で構成される54点の土器片が出土した。ⅢPB-54はⅢF-224の南側約3mの位置で出土した。80×40cmの範囲にSP148・156の個体片で構成される75点の土器片が出土した。これら3カ所の土器集中の内、ⅢPB-52出土土器片は、ⅢF-216・224との関連が最も高いと想定されるⅢSB-53出土土器片との間で接合関係をもつ。一方ⅢPB-42・54は同一個体片が土器集中以外の広範囲で出土しているものの、ⅢSB-53出土土器片とは接合していない。また出土遺物の項で記載しているように、構成している個体は、ⅢPB-52とⅢPB-42・54とで時期差があると考えられる。従って近接して検出したが、ⅢF-216・224と直接関わる土器集中はⅢPB-52のみと考えられる。またⅢPB-52の土器片取り上げ中に、下位よりシカの上顎歯列も検出している。

礫集中(図Ⅲ-36)：ⅢSB-53はⅢF-216の北側に隣接して検出した棒状礫の集中である。100×80cmの範囲から計87点の礫が出土した。完形個体は21点で欠損率がやや高い。ⅢSB-47はⅢF-224の南側で検出した。不定形でやや大きめの礫で構成され、欠損率も非常に高い。ⅢSB-53はⅢF-216・224との関連性が高いと考えられるが、ⅢSB-47はⅢPB-54と同様時期の異なる礫集中の可能性が高い。

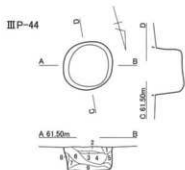
出土遺物(図Ⅲ-38～40)：1・2・3・9・10・13はⅢPB-52から出土したもので、1・2・3・13はⅦB2aの甕、9・10はⅦC2の坏である。この4個体の甕はいずれも浅くやや不明瞭な沈線が文様が描かれており、胴部調整は内外面共にミガキが行われている。さらに1・2の内面は黒色処理が施されている。9は集中区3出土土器片と接合している。4はⅢF-224の周囲で出土したⅦB2aの甕口縁～胴部片で、沈線は浅いが明瞭に引かれている。5はⅢPB-42で出土したⅦB3cの甕で、深く鋭利な工具で沈線が描



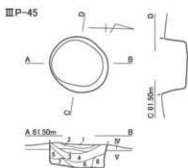
- 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb = IIIc(均-) 粘性中 しまり強
- 2 10YR1.7/1 黒色 IIIb 粘性強 しまり中
- 3 7.5YR4/4 褐色 IV = IIIc(底状) 粘性弱 しまり強 埋土
- 4 7.5YR2/2 黒褐色 IIIc = IV(均-) 粘性中 しまり強
- 5 10YR3/2 黒褐色 IV - IIIc
- 6 7.5YR2/1 黒色 IIIc + IV 粘性中 しまり中 崩落土
- 7 7.5YR1.7/1 黒色 IIIc = IV(均-) 粘性中 しまり弱
- 8 7.5YR2/2 黒褐色 IIIc = IV(均-) 粘性中 しまり弱



- 1 10YR1.7/1 黒色 IIIb = IV(均-) 粘性中 しまり強
- 2 10YR4/4 褐色 IV = IIIc 粘性弱 しまり強
- 3 10YR3/2 黒褐色 IIIc = IV(底状) 粘性中 しまり強
- 4 10YR2/2 黒褐色 IIIc = Vb(底状) 粘性中 強 しまり中
- 5 10YR2/1 黒色 Vb - IIIc(底状) = B-Tm(底状) 粘性中 しまり強 埋土



- 1 10YR3/1 黒褐色 IIIc = IV(底状)
- 2 10YR3/2 黒褐色 IIIc = IV(均-)
- 3 10YR2/1 黒色 IIIb = IIIc(底状) 埋土
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色 IV = IIIc(底状) 埋土
- 5 10YR3/2 黒褐色 IIIc = IV(均-)
- 6 10YR2/2 黒褐色 IIIc = IV(均-)
- 7 10YR5/1 黒褐色 IIIc = IV(均-)
- 8 10YR5/4 にぶい黄褐色 IV = IIIc(底状)
- 9 10YR4/2 灰黄褐色 IIIc - IV(均-)



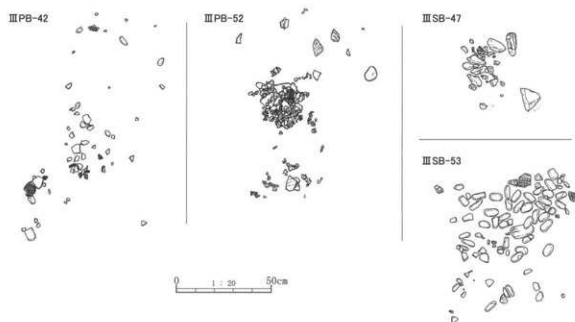
- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色 IIIc - IV(底状)
- 2 10YR2/2 黒褐色 IIIc - IV(均-)
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 IIIc - IV(底状)
- 4 10YR3/1 黒褐色 IIIc = Vb(均-) = IV(底状) 埋土
- 5 10YR3/2 黒褐色 IIIc = Vb(均-) 埋土
- 6 10YR2/1 黒色 IIIc = Vb-B-Tm(底状) 埋土
- 7 10YR4/2 灰黄褐色 IIIc = IV(均-)
- 8 10YR4/2 灰黄褐色 IIIc = IV(均-)



図III-34 集中区35関連遺構(1)

表III-51 集中区35土坑属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考	
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸						短軸
III-34	35-1-2	III-P-40	V-35-36	IIIc	楕円形/楕円形	68	66	56	46	56	N-4°W	1.03	1.22	-
III-34	35-3-4	III-P-41	V-35-36	IIIc	楕円形/楕円形	64	58	58	54	52	N-24°E	1.10	1.07	土器片
III-34	35-5-6	III-P-44	V-36	IV	楕円形/楕円形	56	52	46	44	50	N-61°E	1.08	1.05	-
III-34	35-7-8	III-P-45	V-35	IV	楕円形/楕円形	64	56	56	48	46	N-3.5°E	1.14	1.17	-



図III-36 集中区35関連遺構(3)

表III-52 集中区35焼土属性表

神岡番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
III-35	36-1・2	III F-192	W-34	III bL	長楕円	69	40	8	骨	
III-35	33-2・4	III F-216	V-35	III bL	長楕円	174	86	10	骨	
III-35	36-3・4	III F-218	U-35	III bL	長楕円	58	38	6	骨	
III-35	36-5・6	III F-219	W-35	III bL	楕円形	55	50	7	骨	
III-35	33-3	III F-224	V-35	III bL	長楕円	164	87	12	骨	

表III-53 集中区35杭跡属性表

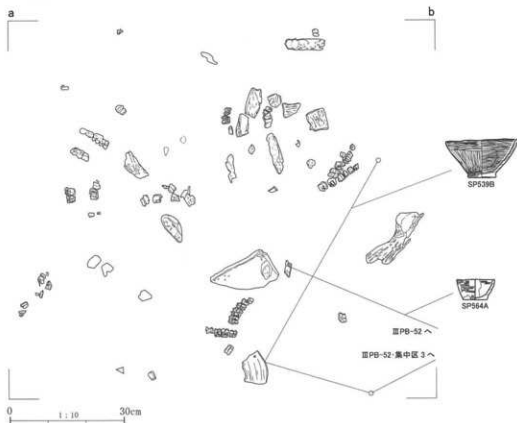
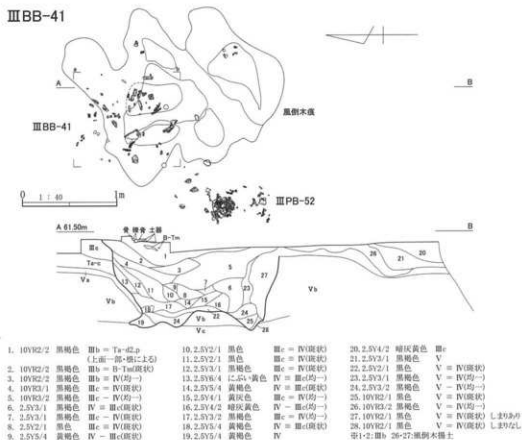
神岡番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
III-35	36-6	III KP-139	15	2	33	3°	打込み	

表III-54 集中区35獣骨集中属性表

神岡番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
III-33	—	III BB-37	T・U-35	III bL	不整形	462	120	—	被熱	III F-218	
III-33	34-3~6	III BB-41	T・U-35	III bL	不整形	238	83	シカ上顎骨	—	III PB-52	

かれ、胴部外面はハケメ痕を残す。口縁部文様帯は隆帯上に刻みを廻らせ、口縁部形態は湾曲して立ち上がる。先のIII PB-52 出土土器よりも新しい時期の要素と思われる。6はIII PB-54 出土のVII B3cの甕で、細く鋭利な工具で沈線が引かれ、胴部外面の調整は文様帯下位付近のみミガキが施されている。口縁部文様帯は細長い刻みを矢羽状に配置し、口縁部形態も5と同様立ち上がる。同じく新しい要素を伴っている。7は小型の土器で、器壁は薄く、横位の沈線が廻る。8は甕の底部片で、外面はケズリによる成形が行われたと思われ、器表面に面取の痕が残されているが、ナデ調整により砂粒の動きは明瞭ではない。11は須恵器の甕で調査区全体に広く破片が散っていた。第七章7節の胎土分析の結果、五所川原産と推定される。12は土師器坏で内面は黒色処理が施されている。14・15・21はVII B2aの甕で14・15の沈線は深く明瞭に引かれている。16はVII B3aの甕片で細いが深く明瞭な沈線で文様が構成されている。17・18・20・23はVII B3で20・23は同一個体である。19はVII B2の口縁部片。22はIII P-41 で出土した甕胴部片。24はVII Cの坏口縁部片である。

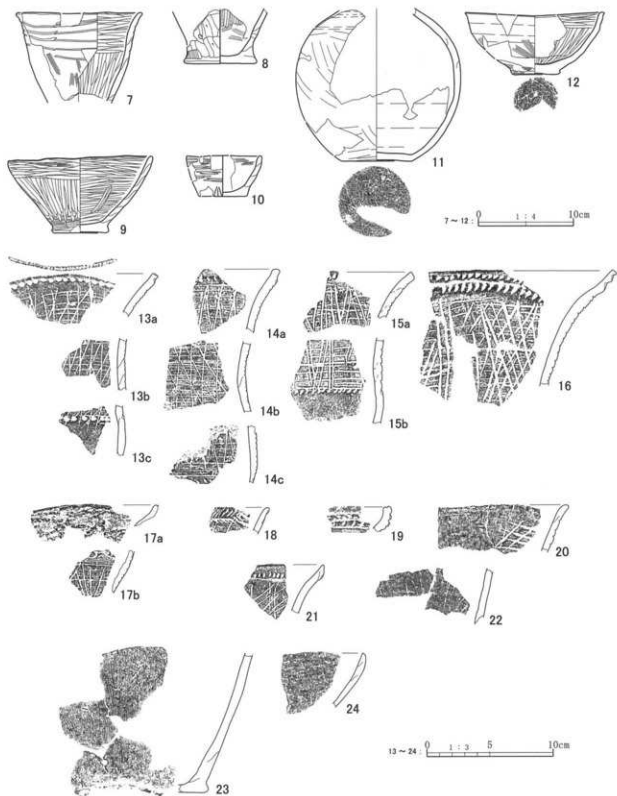
ⅢBB-41



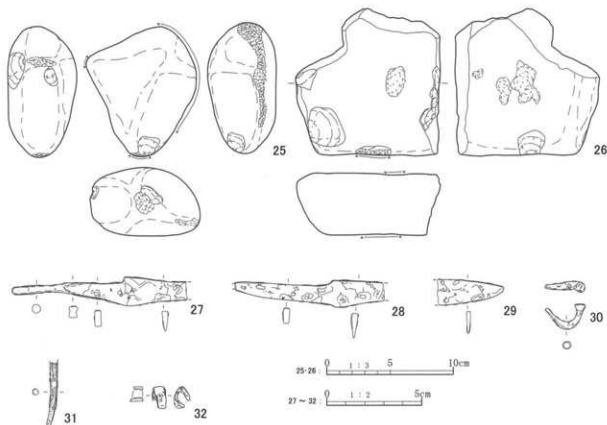
図Ⅲ-37 獣骨集中41(ⅢBB-41)



図Ⅲ-38 集中区 35 出土遺物(1)



図Ⅲ-39 集中区 35 出土遺物(2)



図III-40 集中区 35 出土遺物(3)

性格：2ヵ所の焼土が同一軸線上に並び、近接して礫集中が出土する検出状態は、本遺跡ではアイヌ文化期における平地式住居址の検出パターンとして捉えられる特徴である。また配列の検出には至らなかったが、焼土近くで杭跡も1本検出した。本遺跡では擦文文化期の遺構・遺物が多数出土しているが、竪穴住居址は確認していない。土壇墓や、集中区 44 の項で記載する鍛冶作業の存在、検出される焼土の規模を考慮すると、短期間のキャンプサイトとは考え難い。遺跡内に長期間居住したと考えた場合、住居址は平地式であったと想定され、検出状態を考慮すると本集中区がその痕跡である可能性が高い。

時期：集中区内では時期が異なると考えられる擦文土器が出土している。しかし先述のとおりその出土状態をみると、集中区の主体的遺構となるⅢF-216・224、ⅢSB-53 と関連する土器群はⅦB2の擦文文化期中期のもものが中心である。この点は、第Ⅶ章第1節のAMS年代測定結果が他地域で蓄積された年代観と合致していることから追認できる。周囲で出土しているⅦB3の土器群は、新しい時期に残されたものと思われる。

表Ⅲ-55 集中区35出土土器属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-38-1	113-1	SP143A	ⅣB2a	81229.82741.83091他	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色地埋	ミガキ	30	
				82748	ⅢbL	ⅢPB-41	T-35					1	
				74785	ⅢbL	ⅢF-216	V-35					1	
Ⅲ-38-2	113-2	SP145A	ⅣB2a	81239.81287	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色地埋	ミガキ	2	
				80600.80622.80623他	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35					5	
				81749	Ⅲc	ⅢSB-56	U-40					1	
				77182.77211.79164他	ⅢbL		U-35					10	
				64893	ⅢbL		V-34					1	
				74242	ⅢbL		W-35					2	
				74093.74095.74097他	ⅢbL		X-35					4	
Ⅲ-38-3	113-3	SP142A	ⅣB2a	74749	ⅢbL	ⅢF-216	V-35	甕	口縁～ 胴部	ミガキ	ナブ ミガキ	1	
				81349.81406.83169他	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35					24	
				80603.80616.80618他	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35					5	
				75229.77171.79162他	ⅢbL		U-35					14	
				77167	ⅢbL		V-35					1	
Ⅲ-38-4	113-4	SP161A	ⅣB2a	73888	ⅢbL		V-36	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナブ	1	
				74408	ⅢbL		W-36					1	
				74374.74375.77706他	ⅢbL		V-35					6	
				77796	Ⅲc		V-35					1	
				73900	ⅢbL		V-36					1	
Ⅲ-38-5	113-5	SP033A	ⅣC2a	77029	ⅢbL		W-35	甕	口縁～ 底部	ミガキ	ハケメ	1	
				74108.74109	ⅢbL		X-35					2	
				68840.68880.68894他	ⅢbL	ⅢPB-42	U-34					45	
				68835	ⅢbL		AA-34					1	
				67589	ⅢbL		T-30					1	
				66085	ⅢbM		T-31					1	
				64380	ⅢbL		U-31					1	
				67507.67508	ⅢcU		U-33					2	
				64943.66332.71551他	ⅢbL		U-34					12	
				79175	ⅢbL		U-35					1	
				63274.67156.67165他	ⅢbL		V-33					6	
				63402.64963.64888他	ⅢbL		V-34					15	
				63380	ⅢbL		W-33					1	
				63430.65230	ⅢbL		W-34					2	
Ⅲ-38-6	113-6	SP156A	ⅣB3a	78469.79027.79147他	ⅢbL	ⅢPB-54	W-35	甕	口縁～ 底部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	37	
				74376.77008.77761他	ⅢbL		V-35					7	
				73884.73892.73900他	ⅢbL		V-36					7	
				64854.71092	ⅢbL		W-34					2	
				74250.77098.79092他	ⅢbL		W-35					33	
				75383.81744.83042他	ⅢbL		W-37					4	
				65213.68807.67098他	ⅢbL		X-34					4	
				74092.74102.74107他	ⅢbL		X-35					6	
78997	Ⅲc		Y-36	1									
Ⅲ-39-7	113-15	SP096A	ⅣB2b	80610.80614.80619	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35	甕	口縁～ 胴部	ミガキ	ハケメ ナブ	4	
				79158	ⅢbL		U-35					1	
Ⅲ-39-8	114-24	SP091A	ⅣB	79963	ⅢbL		W-35	甕	口縁～ 底部	ハケメ ミガキ	ケズリ ミガキ?	1	
				76867	ⅢbL		W-37					1	
				76915	ⅢbL		Y-36					1	

表Ⅲ-55 集中区35出土器属性表(続き)

神岡 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考			
										内側	外側					
Ⅲ-39-9	114-27	SP539B	ⅣC2	82765.83072	Ⅲbl.	ⅢPB-52	U-35	環	口縁～ 台部	ヒガキ	ヒガキ	1				
				82807.82808.82809								ⅢPB-41	U-35	3		
				82873								ⅢPB-41	U-35	1		
				25331.28361								ⅢSB-13	R-35	2		
Ⅲ-39-10	114-28	SP564A	ⅣC1	81255.81265.82755他	Ⅲbl.	ⅢPB-52	U-35	環	口縁～ 台部	ハケメ ナブ	ハケメ ヒガキ	8				
				101384								表採	—	BTR	1	
				79136								Ⅲbl.	—	U-35	1	
Ⅲ-39-11	114-26	SP902A	ⅣE2	105126	Ⅲbl.	ⅢF-193	T-30	壺	胴部～ 底部	ロクロナデ	ロクロナデ ヘラケメリ	1				
				69115								—	S-30	1		
				66493								—	T-29	1		
				64817.64818.65083								—	U-34	3		
				66338.66339								—	V-31	2		
				65632.65631.65638他								—	W-34	4		
				63432.63433.65231								—	—	3		
				—								—	—	—	—	—
Ⅲ-39-12	114-30	SP910B	ⅣE4B	77788	Ⅲbl.	ⅢPB-55	W-35	環	口縁～ 台部	ロクロナデ	ロクロナデ 黒色処理	1				
				78279								—	T-35	2		
				64946.66326								—	U-34	2		
				77181.77247								—	U-35	2		
				63275.63277								—	V-33	2		
				63400.63403								—	V-34	2		
				74381								—	V-35	1		
				74246								—	W-35	1		
74740.75453	—	W-36	2													
Ⅲ-39-13a	113-9	SP144A	ⅣB2a	81438.81441.81442	Ⅲbl.	ⅢPB-52	U-35	壺	口縁	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	3				
Ⅲ-39-13b	113-10	SP144B	ⅣB2a	81448	Ⅲbl.	ⅢPB-52	U-35	壺	胴部	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-13c	113-11	SP144C	ⅣB2a	77233	Ⅲbl.	—	U-35	壺	口縁	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-14a	113-20	SP115C	ⅣB2a	81451	Ⅲbl.	ⅢPB-52	U-35	壺	胴部	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-14b	113-20	SP115C	ⅣB2a	101386	表採	—	BTR	壺	口縁	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-14c	113-21	SP115B	ⅣB2a	78454	Ⅲbl.	—	W-36	壺	胴部	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-14d	114-22	SP115A	ⅣB2a	77684.77685	Ⅲbl.	—	V-36	壺	胴部	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	2				
Ⅲ-39-15a	113-7	SP127A	ⅣB2a	77676	Ⅲbl.	—	V-36	壺	口縁	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	2				
Ⅲ-39-15b	113-8	SP127B	ⅣB2a	78111	Ⅲbl.	—	X-37	壺	胴部	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-16	113-12	SP146A	ⅣB2a	74724.74727	Ⅲbl.	—	V-35	壺	口縁～ 胴部	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	2				
				75460.75462.75474他								Ⅲbl.	—	W-36	6	
Ⅲ-39-17a	113-13	SP148A	ⅣB	79145	Ⅲbl.	ⅢPB-54	W-35	壺	口縁	ハケメ ヒガキ	—	1				
Ⅲ-39-17b	113-14	SP148B	ⅣB2a	77763.	Ⅲbl.	—	V-35	壺	胴部	—	ナブ	1				
				75466.75467.76218								Ⅲbl.	—	W-36	3	
Ⅲ-39-18	113-18	SP122A	ⅣB2a	80613	Ⅲbl.	ⅢSB-53	U-035	壺	口縁	ハケメ ナブ	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-19	113-19	SP149A	ⅣB	77232	Ⅲbl.	—	U-35	壺	口縁	ハケメ ヒガキ 黒色処理	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-20	113-17	SP092A	ⅣB2b	79166.79163	Ⅲbl.	—	U-35	壺	口縁	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	2				
Ⅲ-39-21	113-16	SP101E	ⅣB2b	77727	Ⅲbl.	—	U-36	壺	口縁	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナブ	1				
Ⅲ-39-22	114-23	SP171A	ⅣB3a	81811	4	ⅢP-41	U-36	壺	胴部	ハケメ 黒色処理	ハケメ	2				
Ⅲ-39-23	114-25	SP101A	ⅣB2b	81492	Ⅲbl.	—	U-35	壺	胴部～ 底部	ハケメ ヒガキ	ハケメ	1				
				78213.78218.81497								Ⅲbl.	—	U-36	3	
Ⅲ-39-24	114-29	SP547A	ⅣC1	64889	Ⅲbl.	—	V-34	環	口縁	ハケメ	ハケメ ヒガキ	1				

表Ⅲ-56 集中区35出土遺物属性表

挿洞 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-40-25	114-31	—	77026	たたき石	Ⅱb2	ⅢbL	—	V-35	102.0	87.0	54.0	565.0	And.	
Ⅲ-40-26	114-32	—	79179	台石	—	ⅢbL	—	U-35	116.0	115.0	49.0	940.0	Sa.	
Ⅲ-40-27	114-33	—	80549	刀子片	—	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35	(92.0)	15.5	4.5	12.0	Irn.	
Ⅲ-40-28	114-34	—	74646	刀子片	—	ⅢbL	—	V-36	(79.5)	16.0	4.5	9.0	Irn.	
Ⅲ-40-29	114-35	—	74332	刀子切先	—	ⅢbL	—	V-35	(35.0)	14.0	2.0	3.0	Irn.	
Ⅲ-40-30	114-36	—	63138	釘	—	ⅢbL	—	U-34	21.0	13.5	4.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-40-31	114-37	—	76743	棒状鉄片	—	ⅢbL	—	U-35	(33.0)	6.0	3.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-40-32	114-38	—	82744	帯金具	—	ⅢbL	ⅢBB-41	T-35	11.5	7.5	8.0	0.6	Irn.	
—	—	—	80538	たたき石	IV	ⅢbL	—	U-35	(59.7)	95.9	(43.1)	350.0	Gra.	
—	—	—	64896	たたき石	IV	ⅢbL	—	V-34	(68.0)	42.0	(17.0)	60.0	Sa.	
—	—	—	64900	たたき石	I a3	ⅢbL	—	V-34	102.0	50.8	21.1	125.0	Mud.	
—	—	—	75399	たたき石	I a1	ⅢbL	—	W-36	128.2	52.5	27.0	260.0	Sa.	

表Ⅲ-57 ⅢSB-47属性表

挿洞 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
—	—	—	80386	ⅢbL	完形	88.4	-14.3	47.9	6.3	29.1	0.1	1.8	-0.7	119.6	—	Ser?	
—	114-39	—	80369	ⅢbL	完形	103.6	0.9	42.0	0.4	29.0	0.0	2.5	-0.1	220.0	—	Sa.	
—	—	—	80378	ⅢbL	完形	103.7	1.0	30.2	-11.4	30.1	1.1	3.4	0.9	190.1	—	Sa.	
—	—	ⅢS1414	80379	ⅢbL	完形	114.9	12.2	46.4	4.8	27.7	-1.3	2.5	-0.1	156.0	—	Sa.	他3点
平均						102.7		41.6		29.0		2.56		171.4			

総点数 38点 察完形 4点

表Ⅲ-58 ⅢSB-53属性表

挿洞 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
—	—	—	80575	ⅢbL	略完形	57.2	-12.8	29.4	-6.5	27.3	4.8	1.9	-0.1	87.4	—	Sa.	
—	—	—	80559	ⅢbL	完形	62.0	-8.0	36.2	0.3	23.3	0.8	1.7	-0.3	68.6	—	Sa.	
—	—	—	80574	ⅢbL	完形	66.7	-3.3	41.7	5.8	22.9	0.4	1.6	-0.4	100.6	—	Sa.	
—	—	—	80564	ⅢbL	完形	66.8	-3.2	40.2	4.3	22.8	0.3	1.7	-0.3	85.6	—	Sa.	
—	—	—	80581	ⅢbL	完形	63.7	-6.3	33.9	-2.0	20.9	-1.6	1.9	-0.1	74.3	—	Sa.	
—	—	—	80584	ⅢbL	完形	63.4	-6.6	41.3	5.4	24.9	2.4	1.5	-0.5	95.9	—	Sa.	
—	—	—	80568	ⅢbL	略完形 (64.8)	—	—	39.0	3.1	24.0	1.5	-1.7	-3.7	70.8	—	Sa.	
—	—	—	80598	ⅢbL	完形	67.0	-3.0	27.6	-8.3	20.3	-2.2	2.4	0.4	62.9	—	Sa.	
—	—	—	80565	ⅢbL	完形	64.6	-5.4	30.0	-5.9	27.1	4.6	2.2	0.2	75.8	—	Sa.	
—	—	—	80551	ⅢbL	略完形	69.1	-0.9	42.0	6.1	31.5	9.0	1.6	-0.4	121.2	—	Sa.	
—	114-40	—	80573	ⅢbL	完形	72.2	2.2	43.8	7.9	16.6	-5.9	1.6	-0.4	78.8	—	Sa.	
—	—	—	80585	ⅢbL	完形	71.6	1.6	24.4	-11.5	24.7	2.2	2.9	0.9	79.2	—	Sa.	
—	—	—	80553	ⅢbL	完形	71.7	1.7	35.8	-0.1	20.7	-1.8	2.0	0.0	79.2	—	Sa.	
—	—	—	80570	ⅢbL	完形	69.0	-1.0	33.8	-2.1	17.6	-4.9	2.0	0.0	81.6	—	Sa.	
—	—	—	80571	ⅢbL	完形	71.9	1.9	29.9	-6.0	16.0	-6.5	2.4	0.4	53.6	—	Sa.	
—	—	—	80595	ⅢbL	完形	74.3	4.3	39.4	3.5	16.6	-5.9	1.9	-0.1	87.5	—	Sa.	
—	—	—	80576	ⅢbL	完形	75.0	5.0	38.6	2.7	20.4	-2.1	1.9	-0.1	104.5	—	Sa.	
—	—	—	80569	ⅢbL	完形	74.7	4.7	48.4	12.5	28.4	5.9	1.5	-0.5	135.1	—	Sa.	
—	—	—	80554	ⅢbL	完形	78.9	8.9	32.8	-3.1	31.5	9.0	2.4	0.4	134.2	—	Sa.	
—	—	—	80580	ⅢbL	完形	82.1	12.1	30.4	-5.5	17.2	-5.3	2.7	0.7	62.8	—	Sa.	
—	—	—	80578	ⅢbL	完形	82.5	12.5	38.4	2.5	21.7	-0.8	2.1	0.1	117.0	—	Sa.	
平均						63.8		36.0		22.7		1.84		88.4			

総点数 87点 察完形 21点

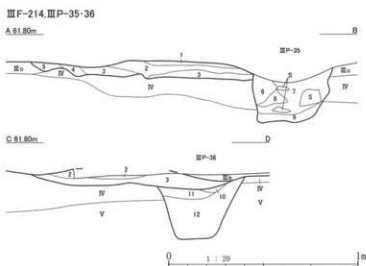
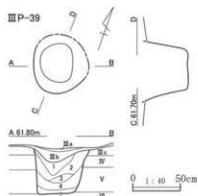
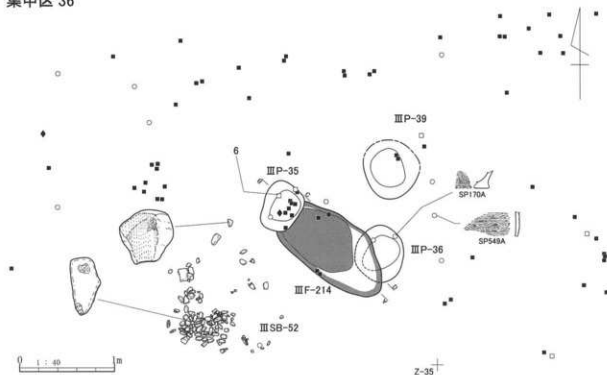
集中区 36 (図Ⅲ-41・42 図版 37)

位置: Y-34・35区 規模: 650×500 cm

関連遺構: 土坑 ⅢP-35・36・39 焼土 ⅢF-214 礫集中 ⅢSB-52

調査・確認: Y-34・35区のⅢb層調査時に、焼土1カ所(ⅢF-214)と礫集中1カ所(ⅢSB-52)を検出した。この内、ⅢSB-52については出土状態の撮影後、デジタル写真実測を委託した。遺物取り上げ後、焼土の調査を行った際、周囲でⅢbの円形の落込みを3カ所検出した。内2カ所は焼土のセ

集中区 36



III P-39

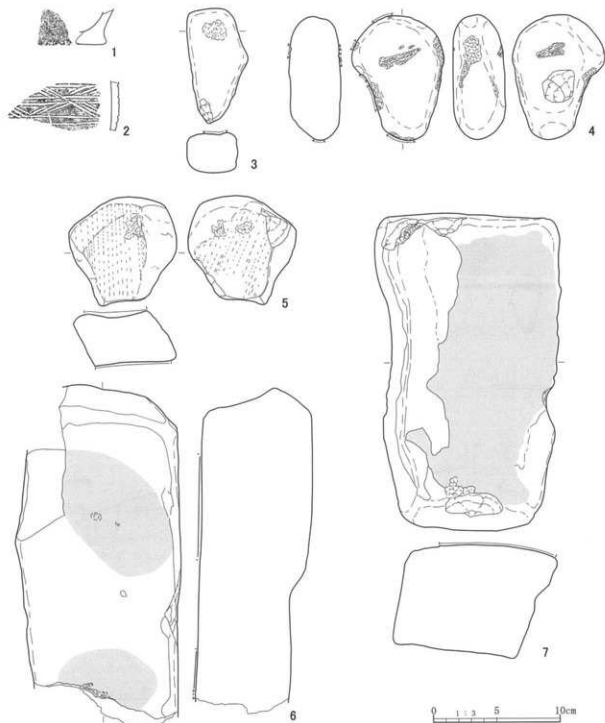
- | | |
|----------------|--------------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒色 | IIIb = IV + IIIc(均-) 粘性強 しまり中 |
| 2 7.5YR2/1 黒色 | IIIc = IV(均-) = 炭化物(♁2↓-底状) 粘性中 しまり中 |
| 3 10YR4/4 褐色 | IV = IIIc(均-) 粘性弱 しまり弱 |
| 4 10YR2/3 黒褐色 | IIIc = IV(均-) 粘性中 しまり中 |
| 5 7.5YR2/2 黒褐色 | IIIc = IV(均-) 粘性強 しまり弱 今や保湿度あり |

III F-214, III P-35-36

- | | | | |
|-----------------|--------------------------------|----------------|------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色 | IIIb = 焼骨片(均-) = 焼土粒(底状) 土壌化灰層 | 7 7.5YR2/2 黒褐色 | IIIb = 焼骨片(均-) |
| 2 7.5YR4/6 褐色 | 焼土粒(地山被熱層) = IIIbブロッグ(均-) 粘性強 | 8 10YR3/3 暗褐色 | IIIc = IV・焼骨(均-) 粘性強 |
| 3 7.5YR2/3 暗暗褐色 | 付着黒色層 = 炭化物 粘性今や強 | 9 10YR3/1 黒褐色 | IIIc = IV(均-) |
| 4 7.5YR4/4 褐色 | 焼土粒(Ⅱ-Ⅲ地山被熱層) | 10 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = II・III(底状) |
| 5 10YR3/4 暗褐色 | 付着黒色層 | 11 7.5YR4/4 褐色 | IIIc = 焼土粒(底状) = 焼骨片(底状) 粘性強 |
| 6 10YR2/3 黒褐色 | IIIb - 焼土粒(底状) III P-35の覆土 | 12 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = 焼骨片(均-) 粘性強 |

1~5: III F-214, 6~9: III P-35, 10~12: III P-36

図Ⅲ-41 集中区 36 平面図



図Ⅲ-42 集中区36出土物

クッションライン上に重なっていたことからそのラインを用い、残りの1ヵ所は半截した上で、それぞれ堆積状態を観察した。その結果、底面がほぼ平らで基本土層が掘り込まれていることが確認できたため、土坑として判断した(ⅢP-35・36・39)。堆積状態の記録後完掘し、調査を終えた。

土坑(図Ⅲ-41)：ⅢP-35・36は共にⅢF-214と重なって検出した土坑で、堆積状態の観察からⅢP-36はⅢF-214より古く、ⅢP-35は新しいと判断した。坑底面はⅢP-35でやや起伏が認められるがほぼ平らで、壁面は鉢状に開きながら立ち上がっている。いずれも堆積土中に焼骨片が含まれてい

表Ⅲ-59 集中区36土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-41	37-2	ⅢP-35	Y-35	ⅢbL	楕円形/ 楕円形	52	42	33	26	25	N-43° E	1.24	1.27	-	
Ⅲ-41	37-3	ⅢP-36	Y-35	ⅢbL	楕円形/ 楕円形	58	54	40	30	29	N-58° E	1.07	1.33	-	
Ⅲ-41	37-4	ⅢP-39	Y-35	ⅢbL	楕円形/ 楕円形	62	60	40	38	49	N-4° E	1.03	1.05	-	

表Ⅲ-60 集中区36焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸 (130)	短軸 64	厚さ 8		
Ⅲ-41	37-1	ⅢP-214	Y-35	ⅢbL	楕円形					

表Ⅲ-61 集中区36出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-42-1	115-1	SP170A	ⅣB	7997	I	ⅢP-36	Y-35	甕	底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	1	
Ⅲ-42-2	115-2	SP549A	ⅣC	79217	Ⅲc	-	Y-35	杯	体部	ミガキ	ナデ	1	

表Ⅲ-62 集中区36出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-42-3	115-5	-	81122	たたき石	I a1	ⅢbL	ⅢSB-52	Y-35	91.0	47.0	31.0	200.0	Sa.	
Ⅲ-42-4	115-8	-	68838	たたき石	Ⅱ b1B	ⅢbL	-	AA-34	98.0	73.0	41.0	370.0	Sa.	
Ⅲ-42-5	115-11	-	81092	砥石	-	ⅢbL	ⅢSB-52	Y-35	86.0	85.0	40.0	380.0	Sa.	
Ⅲ-42-6	115-13	-	79212	溝底面と軌打痕の ある大型礫	Ⅱ	I	ⅢP-35	Y-35	271.0	131.0	87.0	4400.0	Sa.	
Ⅲ-42-7	115-12	-	68815	溝底面のある礫	-	ⅢbL	-	Y-33	251.0	146.0	88.0	5400.0	Sa.	
-	115-3	-	74024	台石	-	ⅢbL	-	Y-35	(47.0)	(62.0)	(34.0)	140.0	Sa.	
-	115-4	-	64149	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Y-34	(79.6)	48.0	32.0	170.0	Sa.	
-	115-6	-	68742	たたき石	Ⅱ a1	ⅢbL	-	Z-34	58.0	54.0	9.0	45.0	Sa.	
-	115-7	-	67034	たたき石	Ⅱ b1	ⅢbL	-	Y-33	95.0	81.0	53.0	510.0	Sa.	
-	115-9	-	81093	たたき石	Ⅳb	ⅢbL	ⅢSB-52	Y-35	77.0	(61.0)	61.0	725.0	Sa.	
-	115-10	-	79971	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Y-35	127.0	84.0	47.0	450.0	Sa.	
-	-	-	64147	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Y-34	(59.0)	54.0	29.0	110.0	Sa.	
-	-	-	68718	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Z-37	(78.0)	42.3	32.7	155.0	Sa.	
-	-	-	68733	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Z-35	(90.5)	47.0	25.5	140.0	Sa.	
-	-	-	68736	たたき石	Ⅳ	ⅢcU	-	Z-34	(95.8)	57.1	30.8	250.0	Sa.	
-	-	-	68832	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Z-34	(76.7)	92.9	24.8	190.0	Sa.	
-	-	-	68831	たたき石	Ⅱ b2	ⅢbL	-	Z-34	15.3	85.3	53.3	560.0	Sa.	
-	-	-	79214	台石	-	I	ⅢP-35	Y-35	140.9	18.1	57.6	980.0	Sa.	

ることから、人為的に埋め戻されたと考えられる。一方ⅢP-39は壁面がほぼ垂直に立ち上がり、堆積土も壁面崩落土が主体で自然埋没したと考えられることから、先の2基とは性格を異にしている。

焼土(図Ⅲ-41)：ⅢP-214は北西端をⅢP-35に切られているが、長さ130cm以上、焼土層の厚さ8cmを測る規模の大きい焼土である。上位に焼骨片を伴い、その一部はⅢP-35・36の覆土中にも混入している。土壌サンプルからはシカを主体とする骨と少量のコイ科、サケ属の骨が得られた他、キビ、クルミ属をはじめとする炭化種子も得ている。

礫集中(図Ⅲ-41)：ⅢSB-52はⅢP-214の南東に隣接する位置で検出した。92×52cmの範囲で132点の棒状を主体とする礫が出土している。完形個体は34点でやや欠損率が高い。

表Ⅲ-63 ⅢSB-52属性表

種図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	82328	Ⅲbl	完形	41.5	-28.3	30.0	-8.7	25.6	1.3	1.4	-0.4	46.0	-	Sa	-
-	-	-	81195	Ⅲbl	完形	48.3	-21.5	34.1	-4.6	21.4	-3.4	1.4	-0.4	46.2	-	Sa	-
-	-	-	81111	Ⅲbl	完形	49.7	-20.1	33.7	-5.0	24.1	-0.7	1.5	-0.4	56.7	-	Sa	-
-	-	-	81124	Ⅲbl	完形	58.6	-11.2	44.9	6.2	26.1	1.3	1.3	-0.5	74.3	-	Mud	-
-	-	-	81133	Ⅲbl	完形	68.8	-1.0	39.7	1.0	26.9	2.1	1.7	-0.1	89.4	-	Sa	-
-	-	-	81160	Ⅲbl	完形	55.5	-14.3	54.3	15.6	25.6	0.8	1.0	-0.8	102.6	-	Sa	-
-	-	-	81128	Ⅲbl	完形	61.2	-8.6	33.0	-5.7	23.1	-1.7	1.9	0.0	65.7	-	Sa	-
-	-	-	81189	Ⅲbl	完形	60.9	-8.9	33.0	-5.7	21.3	-3.5	1.8	0.0	58.6	-	Sa	-
-	-	-	81196	Ⅲbl	完形	62.4	-7.4	32.0	-6.7	24.3	-0.5	2.0	0.1	61.6	-	Sa	-
-	-	-	81191	Ⅲbl	完形	62.7	-7.1	36.9	-1.8	23.0	-1.8	1.7	-0.1	57.8	-	Mud	-
-	-	-	82319	Ⅲbl	完形	61.4	-8.4	38.0	-0.7	21.9	-2.9	1.6	-0.2	79.1	-	Sa	-
-	-	-	81181	Ⅲbl	完形	66.8	-3.0	43.7	5.0	26.3	1.5	1.5	-0.3	90.1	-	Sa	-
-	-	-	81173	Ⅲbl	完形	66.5	-3.3	40.3	1.6	22.3	-2.5	1.7	-0.2	76.4	-	Sa	-
-	-	-	81167	Ⅲbl	完形	66.0	-3.8	28.6	-10.1	25.4	0.6	2.3	0.5	73.1	-	Sa	-
-	-	ⅢS1325	81144	Ⅲbl	完形	67.3	-2.5	41.5	2.8	23.3	-1.5	1.6	-0.2	69.4	-	Mud	穂1点
-	-	-	81152	Ⅲbl	完形	68.0	-1.8	42.4	3.7	22.9	-1.9	1.6	-0.2	109.9	-	Sa	-
-	-	115-14	81169	Ⅲbl	完形	71.8	2.0	33.3	-5.4	33.9	9.1	2.2	0.3	91.5	-	Sa	-
-	-	-	82320	Ⅲbl	完形	72.7	2.9	41.4	2.7	18.6	-6.2	1.8	-0.1	73.7	-	Sa	-
-	-	-	81174	Ⅲbl	完形	72.6	2.8	30.6	-8.1	18.7	-6.1	2.4	0.5	49.4	-	Mud	-
-	-	-	81159	Ⅲbl	完形	73.3	3.5	33.2	-5.5	23.2	-1.6	2.2	0.4	70.0	-	Sa	-
-	-	-	81164	Ⅲbl	完形	76.4	6.6	47.8	9.1	25.6	0.8	1.6	-0.2	133.7	-	Sa	-
-	-	ⅢS1320	81171	Ⅲbl	完形	73.9	4.1	38.7	0.0	22.3	-2.5	1.9	0.1	99.4	-	Sa	穂1点
-	-	-	81177	Ⅲbl	完形	75.6	5.8	45.0	6.3	22.4	-2.4	1.7	-0.2	111.2	-	Sa	-
-	-	-	81123	Ⅲbl	完形	74.1	4.3	38.7	0.0	33.1	8.3	1.9	0.1	140.3	-	Sa	-
-	-	-	81185	Ⅲbl	完形	76.1	6.3	42.0	3.3	26.2	1.4	1.8	0.0	69.1	-	Mud	-
-	-	-	81109	Ⅲbl	完形	75.8	6.0	37.1	-1.6	37.0	12.2	2.0	0.2	100.7	-	Sa	-
-	-	-	81095	Ⅲbl	完形	77.4	7.6	50.4	11.7	28.2	3.4	1.5	-0.3	130.4	-	Sa	-
-	-	-	81157	Ⅲbl	完形	78.9	9.1	41.1	2.4	23.5	-1.3	1.9	0.1	107.3	-	Sa	-
-	-	-	81186	Ⅲbl	完形	80.3	10.5	38.9	0.2	24.3	-0.5	2.1	0.2	91.6	-	Sa	-
-	-	-	81175	Ⅲbl	完形	80.0	10.2	39.5	0.8	34.1	9.3	2.0	0.2	113.9	-	Sa	-
-	-	-	81190	Ⅲbl	完形	85.9	16.1	37.5	-1.2	21.3	-3.5	2.3	0.5	92.7	-	Sa	-
-	-	-	81127	Ⅲbl	完形	82.5	12.7	42.8	4.1	19.3	-5.5	1.9	0.1	96.4	-	Sa	-
-	-	-	81161	Ⅲbl	完形	84.4	14.6	37.6	-1.1	26.9	2.1	2.2	0.4	108.5	-	Sa	-
-	-	-	81126	Ⅲbl	完形	97.3	27.5	35.7	-3.0	22.3	-2.5	2.7	0.9	91.0	-	Sa	-
平均						69.8		38.7		24.8		1.83		86.1			
													総点数	132点		炭完形	34点

出土遺物(図Ⅲ-42):1はⅢP-36覆土上位で出土した擦文土器底底部片である。外面はミガキ調整が施され、内面は黒色処理が行われている。2はⅢCの坏体部片で、文様は深く明瞭な沈線で施文されている。3・4はたたき石でいずれも素材礫の平坦面が使用され、4は側縁と頂端部も使用されている。5は砥石で、砂岩を素材とし、粗い砥面が形成されていたため鉄器とは別のものを対象に使用されたと思われる。3・5は共にⅢSB-52で出土した。6は滑沢面と敲打痕、7は滑沢面が形成された角柱状の礫で、6はⅢP-35より出土した。

集中区 37 (図Ⅲ-43~45 図版 38)

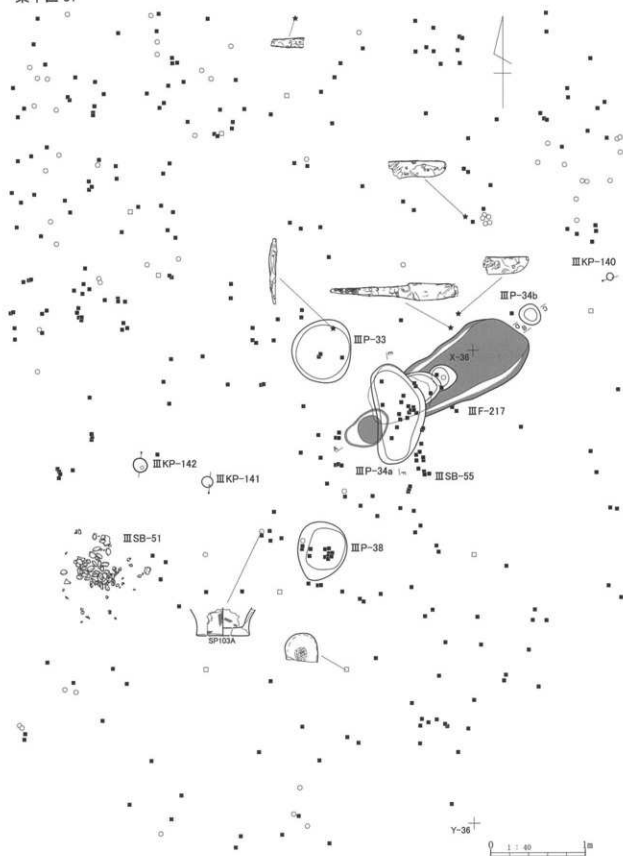
位置: W・X-35・36区 規模: 750×700 cm

関連遺構: 土坑 ⅢP-33・34a・34b・38 焼土 ⅢF-217 杭跡 ⅢKP-140・141・142

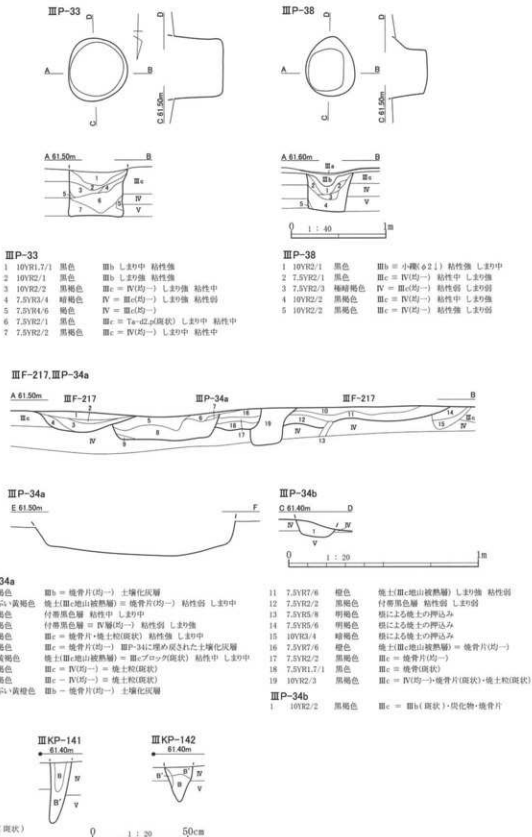
礫集中 ⅢSB-51

調査・確認: W・X-35・36区のⅢb層調査時に長大な焼土(ⅢF-217)を1ヵ所、礫集中(ⅢSB-51)を1ヵ所検出した。また焼土の調査中、焼土と重なる位置で1ヵ所、近接した位置で1ヵ所、焼骨片を含むⅢc主体土の落込みを確認したため半截したところ、基本土層が掘り込まれていることを確認した。土坑と判断し、ⅢP-34a・34bと設定して調査を行った。また周囲をⅢc層上面まで掘削した際、

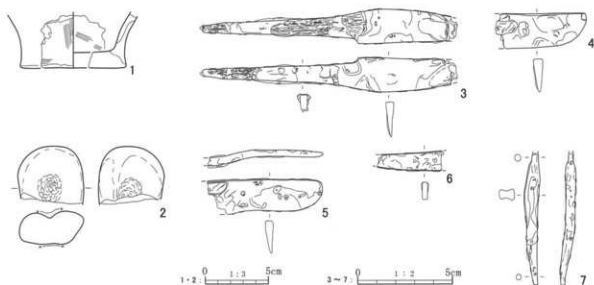
集中区 37



図Ⅲ-43 集中区 37 平面図



図Ⅲ-44 集中区 37 関連遺構



図Ⅲ-45 集中区37出土遺物

表Ⅲ-64 集中区37土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考	
					調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-43	38-1-4	ⅢP-33	X-35-36	Ⅲc	円形/ 円形	68	64	60	56	52	N-47° E	1.06	1.07	-	
Ⅲ-43	38-1-5	ⅢP-38	X-36	Ⅲb	楕円形/ 楕円形	64	52	44	36	36	N-32° E	1.23	1.22	-	
Ⅲ-43	38-1	ⅢP-34a	W-35	Ⅲc	楕円形/ 楕円形	103	50	94	43	12	N-11° W	2.06	2.19	-	
Ⅲ-43	38-1	ⅢP-34b	V-35	IV	円形/ 円形	24	22	14	12	20	N-44° W	1.09	1.17	-	

表Ⅲ-65 集中区37焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-43	38-2	ⅢP-217	X-36	Ⅲbl	長方形	(136)	74	10	骨	

表Ⅲ-66 集中区37杭跡属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-43-44	-	ⅢKP-140	7	1.5	18	5.5°	打込み	
Ⅲ-43-44	-	ⅢKP-141	10.5	2	30	8°	打込み	
Ⅲ-43-44	-	ⅢKP-142	14	7	18	5°	打込み	

表Ⅲ-67 集中区37出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-45-1	116-1	SP103A	ⅤB	85501	ⅢcM	-	X-36	甕	底部	内側 ハツメ ナデ	外側 ハツメ ナデ	1	

焼土の北側で1カ所、南西側で1カ所、Ⅲbの落込みを検出したため、これらも半截し、同じく土坑として判断した(ⅢP-33・38)。それぞれの遺構は関連するものと想定したため、各遺構の完掘後、全体写真を撮影した。なおⅢSB-51は出土状態の図化を委託している。

土坑(図Ⅲ-44): ⅢP-34aはⅢF-217と重複し、ⅢP-34bは北東側に近接している。共に底面はほぼ水平で、壁面は皿状に開く。ⅢP-34aの断面を観察したところ、ⅢF-217の内、北側の古い焼土を切るが南側の焼土は土坑覆土上位に形成されていることが把握できた。焼土の使用継続中に構築された土坑と考えられる。ⅢP-34a・34b共に堆積土中に焼骨片を多く含むため、同時期の形成と考え

表Ⅲ-68 集中区37出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-44-2	116-2	-	74187	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	X-36	(46.0)	52.0	26.0	85.0	Sa.	
Ⅲ-44-3	116-7	-	76745	刀子片	-	Ⅲbl.	ⅢF-217	W-36	(135.5)	19.0	7.5	18.6	Irn.	
Ⅲ-44-4	116-8	-	74272	刀子切先	-	Ⅲbl.	ⅢF-217	W-36	(48.0)	19.0	5.0	11.5	Irn.	
Ⅲ-44-5	116-9	-	74305	刀子切先	-	Ⅲbl.	-	W-36	(61.0)	18.0	4.5	14.6	Irn.	
Ⅲ-44-6	116-10	-	76744	刀子茎	-	Ⅲbl.	-	W-36	(35.5)	11.0	4.0	2.3	Irn.	
Ⅲ-44-7	116-11	-	74790	棒状鉄片	-	Ⅲbl.	ⅢP-33	W-36	(69.5)	9.0	6.0	5.7	Irn.	
-	116-3	-	74067	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	X-35	(61.0)	62.0	36.0	110.0	Sa.	
-	116-4	-	74185	たたき石	Ⅱa1	Ⅲbl.	-	X-36	111.0	67.0	36.0	325.0	Sa.	
-	116-5	-	76227	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	W-36	(102.0)	(52.0)	(23.0)	170.0	Sa.	
-	116-6	-	75996	たたき石	Ⅱb2	Ⅲbl.	-	X-37	137.0	116.0	74.0	1200.0	Sa.	
-	-	-	75410	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	W-36	(98.7)	50.6	26.9	180.0	Sa.	
-	-	-	74230	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	W-35	(63.4)	56.8	30.9	150.0	Sa.	
-	-	-	74271	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	W-35	-	-	-	510.0	Sa.	
-	-	-	74081	たたき石	Ⅰb1	Ⅲbl.	-	X-35	134.0	46.9	35.8	280.0	Sa.	
-	-	-	75997	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	X-36	(64.2)	57.5	(13.1)	70.0	Sa.	
-	-	-	75105	たたき石	Ⅱb1	Ⅲbl.	-	X-37	99.6	52.7	42.8	350.0	Sa.	
-	-	-	75386	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	W-36	(62.1)	(88.2)	72.0	380.0	Sa.	
-	-	-	75360	たたき石	Ⅳ	Ⅲbl.	-	W-36	(71.5)	55.5	22.8	135.0	Sa.	
-	-	-	-	剥片状鉄滓	-	Ⅲbl.	ⅢF-217	W-36	-	-	-	-	Irn.	FLT

表Ⅲ-69 ⅢSB-51属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	焼 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	80093	Ⅲbl.	完形	57.0	-14.4	35.3	-6.2	19.8	-4.2	1.6	-0.2	77.6	-	Sa.	
-	-	-	80076	Ⅲbl.	完形	62.3	-9.1	47.1	5.6	27.2	3.2	1.3	-0.5	102.6	-	Sa.	
-	-	-	80077	Ⅲbl.	完形	60.3	-11.1	44.8	3.3	23.8	-0.2	1.3	-0.5	99.8	-	Sa.	
-	-	-	80109	Ⅲbl.	完形	66.7	-4.7	36.2	-5.3	18.9	-5.1	1.8	0.0	69.7	-	Sa.	
-	-	ⅢS1312	80089	Ⅲbl.	完形	65.8	-5.6	34.5	-7.0	27.8	3.8	1.9	0.1	95.6	-	Sa.	焼点
-	-	-	80112	Ⅲbl.	完形	63.1	-8.3	33.4	-8.1	19.8	-4.2	1.9	0.1	76.9	-	Sa.	
-	-	-	80105	Ⅲbl.	完形	69.7	-1.7	40.3	-1.2	26.4	2.4	1.7	-0.1	97.5	-	Sa.	
-	-	-	80066	Ⅲbl.	完形	71.9	0.5	50.6	9.1	15.1	-8.9	1.4	-0.4	74.1	-	Sa.	
-	-	ⅢS1314	80071	Ⅲbl.	完形	73.4	2.0	43.8	2.3	34.0	10.0	1.7	-0.1	132.3	-	Sa.	焼点
-	-	-	80108	Ⅲbl.	完形	70.9	-0.5	40.9	-0.6	25.7	1.7	1.7	-0.1	101.0	-	Sa.	
-	-	-	80080	Ⅲbl.	完形	71.7	0.3	40.1	-1.4	30.0	6.0	1.8	0.0	103.8	-	Sa.	
-	-	-	80096	Ⅲbl.	完形	71.4	0.0	41.7	0.2	24.5	0.5	1.7	-0.1	101.6	-	Sa.	
-	-	-	80094	Ⅲbl.	完形	72.9	1.5	52.9	11.4	29.1	5.1	1.4	-0.4	152.0	-	Sa.	
-	-	-	80101	Ⅲbl.	完形	72.6	1.2	29.7	-11.8	23.5	-0.5	2.4	0.6	79.8	-	Sa.	
-	-	-	80114	Ⅲbl.	完形	76.3	4.9	42.3	0.8	21.4	-2.6	1.8	0.0	104.0	-	Sa.	
-	-	-	80091	Ⅲbl.	完形	72.1	0.7	38.7	-2.8	16.3	-7.7	1.9	0.1	82.7	-	Sa.	
-	-	-	80090	Ⅲbl.	完形	72.0	0.6	52.0	10.5	23.1	-0.9	1.4	-0.4	122.7	-	Sa.	
-	-	-	80104	Ⅲbl.	完形	77.4	6.0	49.5	8.0	23.1	-0.9	1.6	-0.2	114.0	-	Sa.	
-	-	-	80079	Ⅲbl.	完形	78.4	7.0	47.8	6.3	21.1	-2.9	1.6	-0.2	99.7	-	Sa.	
-	-	-	80081	Ⅲbl.	完形	78.2	6.8	53.4	11.9	22.4	-1.6	1.5	-0.3	104.2	-	Sa.	
-	-	-	80134	Ⅲbl.	完形	79.5	8.1	23.2	-18.3	27.8	3.8	3.4	1.6	95.4	-	Sa.	
-	-	-	80082	Ⅲbl.	完形	86.1	14.7	33.9	-7.6	26.8	2.8	2.5	0.7	97.2	-	Sa.	

平均

71.4

41.5

24.0

1.80

99.2

-

-

総点数 143点 完形形 22点

られる。ⅢP-33・38 は共に壁面が垂直に立ち上がる筒型の土坑で、堆積土は共に壁面崩落、もしくは掘り上げ土(ⅢP-33:4・6層)の流れ込みによる自然埋没土と考えられる。ⅢP-33については堆積土6層及び7層から土壌サンプルを採取し、北海道開拓記念館 山田悟郎氏に花粉分析を依頼した。詳細は第Ⅶ章第6節を参照されたい。

焼土(ⅢⅩ-43・44):ⅢF-217は間にⅢP-34aを挟み新旧2ヶ所の焼土で構成され、全体で長さ212cmを測る長大な焼土である。焼土層の厚さは約4cmと規模の割に薄いが、燃焼面が大きく窪んでい

るため掘り返されながら使用されたと考えられる。焼骨片が焼土上位と、ⅢP-34a・34b 内で多く認められた。土壌サンプルからはシカ、ウグイ、サケ属の骨と、キビ、クルミ属をはじめとする炭化種子が得られた。また特筆すべき点として、少量ではあるが集中区44で報告するものと同じ鉄器生産関連遺物の剥片状鉄滓も抽出している。

杭 跡(図Ⅲ-43・44)：ⅢF-217の北東側で1カ所(ⅢKP-140)、南西側で2カ所(ⅢKP-141・142)の杭跡を検出した。周囲にアイヌ文化期の遺構・遺物は検出されておらず、また杭跡覆土にⅢb主体土が堆積していないことから弥文文化期のものとして捉え、本集中区に関連するものとして判断した。いずれも打込みによる杭跡である。

礫集中(図Ⅲ-43)：ⅢSB-51はⅢF-217の南西側で検出した。100×70cmの範囲で棒状を中心とする143点の礫が出土しており、完形個体は22点で欠損率が極めて高い礫集中である。

出土遺物(図Ⅲ-45)：1はⅢP-38の西側で出土した壺底部片で、内外面共にハケメ調整後にナデ調整が行われている。2はⅢP-38の南側で出土したたき石で、扁平な礫の両面が深く窪むまで使用されている。3～6は刀子片で、3は区部から茎にかけて柄の木質が残る。4・5は刀子切先と考えたが、切先にあたる部分が丸く断面も厚みがあり、また共に折損部側に鉄片と思われる突起物が付着しているため、刃部を伴う別の製品の可能性もある。6は茎部分で断面は方形である。7はⅢP-33の覆土上位で出土した棒状鉄片で表裏面に溝状の窪みが形成され、両端部は尖り、断面は円形である。

集中区 38 (図Ⅲ-46～48 図版 39)

位置：V-X-37・38区 規模：700×500cm

関連遺構：土坑 ⅢP-37a・37b 焼土 ⅢF-210・212・227 礫集中 ⅢSB-49

確認・調査：V-W-37区のⅢb層調査時に長楕円形の焼土1カ所とその南西側でⅢbの落込みを検出した。落込みにかかる位置に焼土セクションラインを設定し半載したところ、落込み中からさらにⅢF-210と227の2カ所の焼土を検出した。半載後堆積状態の観察を行った結果、基本土層が掘り込まれていることを確認したため土坑と判断した。またこの土坑は、深さの異なる2基の土坑が切り合ったものと判断したため、ⅢP-37a・37bとして設定し調査を行った。これら遺構の南側では棒状を中心とする礫集中が出土したためⅢSB-49として設定し、図化は行わずに取上げを行った。

土坑(図Ⅲ-46・47)：ⅢP-37bは浅く、37aに切られている。37aは長さ102cmの楕円形で、深さは48cmを測り、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。37a・37b共に人為的に埋め戻されており、37bではⅢ

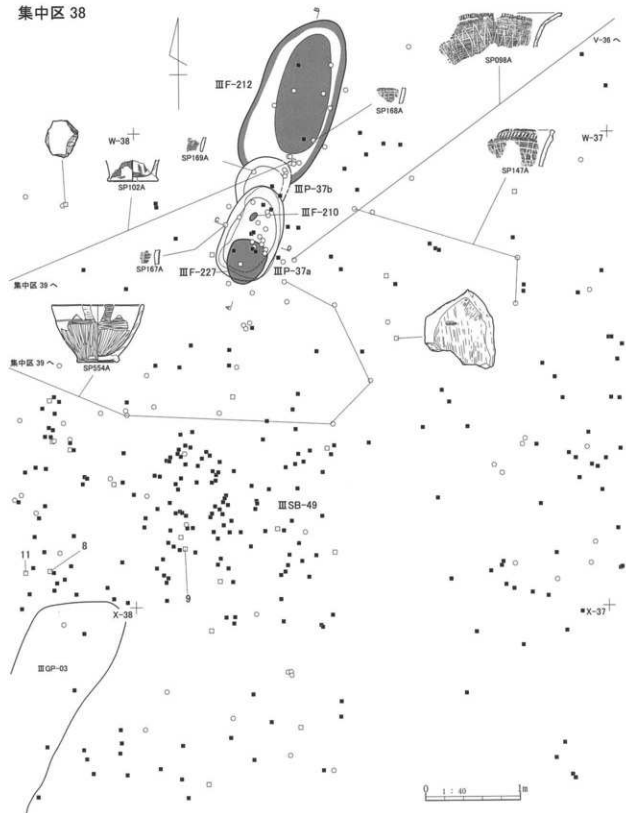
表Ⅲ-70 集中区38土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形		調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸							
Ⅲ-46	39-4~7	ⅢP-37a	W-V-37	Ⅲbl.	長楕円形/長楕円形	102	60	60	50	48	N-23° E	1.70	1.20	-		
Ⅲ-46	39-4~7	ⅢP-37b	W-V-37	Ⅲbl.	長楕円形/長楕円形	(62)	54	(21)	36	10	N-21° E	-	-	-		

表Ⅲ-71 集中区38焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-46-47	39-3	ⅢF-210	W-37	Ⅲbl.	長楕円	10	5	2	骨	-
Ⅲ-46-47	39-1・6-8	ⅢF-212	W-V-37	Ⅲbl.	長楕円	(178)	88	8	骨	-
Ⅲ-46-47	39-4~6	ⅢF-227	W-37	Ⅲbl.	楕円形	49	40	3	骨	-

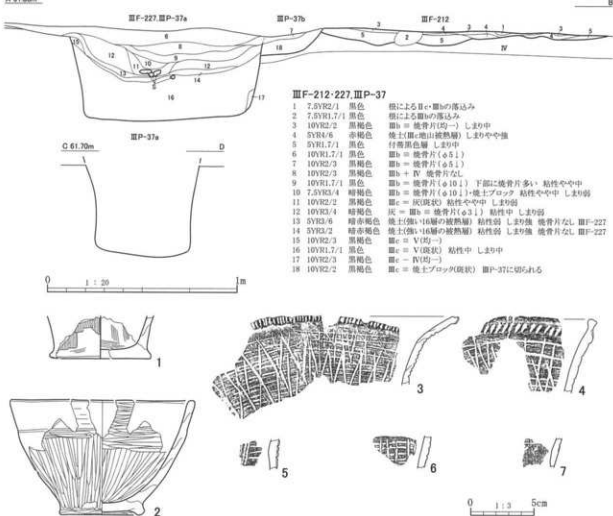
集中区 38



図Ⅲ-46 集中区 38 平面図

ⅢF-212-227,ⅢP-37a-b

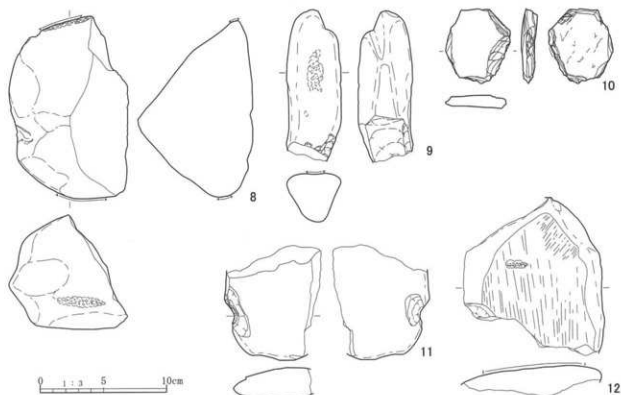
A 61.80m



図Ⅲ-47 集中区 38 関連遺構及び出土遺物(1)

表Ⅲ-72 集中区38出土土器属性表

神図 番号	図版 番号	胴体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-47-1	117-6	SP102A	ⅣB	77705	Ⅲbl.	ⅢF-212	W-37	甕	底部	ハケメ	ハケメ	1	
				74863	Ⅲbl.	-	W-38			ナゲ	ナゲ	1	
				77278	Ⅲbl.	ⅢF-215	W-39					1	
Ⅲ-47-2	117-9	SP554A	ⅣC2	75342,70858,70862他	Ⅲbl.	-	W-37	坏	口縁～ 台部	ハケメ	ハケメ	4	
				74870,70881,81772他	Ⅲbl.		W-38			ミガキ	ミガキ	4	
				85522	Ⅲbl.		X-38						
Ⅲ-47-3	117-1	SP098A	ⅣB2a	76730	1	ⅢF-212	W-37	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	1	
				73899	Ⅲbl.		V-36			ミガキ	ナゲ	1	
Ⅲ-47-4	117-2	SP147A	ⅣB2a	75340,75345,75346他	Ⅲbl.	-	W-37	甕	口縁	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナゲ	5	
Ⅲ-47-5	117-3	SP167A	ⅣB2a	79992	Ⅲbl.	ⅢP-37	W-37	甕	胴部	ミガキ	ナゲ	1	
Ⅲ-47-6	117-4	SP169A	ⅣB	76735	1	ⅢF-212	W-37	甕	胴部	ミガキ	ナゲ	1	
Ⅲ-47-7	117-5	SP168A	ⅣB2	79996	Ⅲbl.	ⅢP-37	W-37	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	1	



図III-48 集中区出土遺物(2)

表III-73 集中区38出土遺物属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
III-48-8	117-15	-	80718	たたき石	IV	IIIbl.	III SB-49	W-37	143.0	(94.0)	91.0	1200.0	Gra.	
III-48-9	117-12	-	80820	たたき石	I a1	IIIbl.	III SB-49	W-37	119.0	43.0	38.0	250.0	Sa.	
III-48-10	117-20	-	73962	加工痕のある礫	-	IIIbl.	-	W-38	59.0	51.0	10.0	50.0	Cha.	
III-48-11	117-21	-	80716	加工痕のある礫	-	IIIbl.	III SB-49	W-37	91.0	76.0	24.0	210.0	Sa.	
III-48-12	117-22	-	75327	縞状痕のある礫	-	IIIbl.	-	W-37	112.0	125.0	74.0	330.0	Sa.	
-	117-10	-	75094	たたき石	IV	IIIbl.	-	X-37	(86.0)	(74.0)	44.0	275.0	Sa.	
-	117-11	-	75143	たたき石	IV	IIIbl.	-	X-38	(101.0)	(78.0)	56.0	560.0	Sa.	
-	117-13	-	76807	たたき石	IV	IIIbl.	-	W-37	(97.0)	59.0	33.0	180.0	Sa.	
-	117-14	-	76837	たたき石	I a1	IIIbl.	-	W-37	(102.0)	57.0	29.0	240.0	Sa.	
-	117-16	-	76842	たたき石	IV	IIIbl.	-	W-37	(60.0)	55.0	23.0	120.0	Sa.	
-	117-17	-	75132	たたき石	IV	IIIbl.	-	X-38	(58.0)	70.0	23.0	140.0	Sa.	
-	117-18	-	76815	たたき石	II a2	IIIbl.	-	W-37	82.0	48.0	25.0	115.0	Sa.	
-	117-19	-	76251	たたき石	IV	IIIbl.	-	X-37	(98.0)	(97.0)	44.0	670.0	Sa.	
-	117-23	-	73934	台石	-	IIIbl.	-	W-38	164.0	144.0	46.0	1715.0	Sa.	
-	-	-	73989	たたき石	IV	IIIbl.	-	V-37	(44.7)	(51.5)	35.4	80.0	Sa.	
-	-	-	75303	たたき石	II b3	IIIbl.	-	W-37	71.0	43.0	36.0	150.0	Sa.	
-	-	-	80733	台石	-	IIIbl.	III SB-49	W-37	290.0	156.0	134.0	6500.0	Sa.	
-	-	-	80744	たたき石	IV	IIIbl.	III SB-49	W-37	(62.0)	58.0	34.0	140.0	Sa.	
-	-	-	80817	たたき石	IV	IIIbl.	III SB-49	W-37	(89.0)	61.0	38.0	340.0	Sa.	
-	-	-	75085	たたき石	IV	IIIbl.	-	X-37	(85.8)	(87.7)	40.6	350.0	Sa.	
-	-	-	76391	たたき石	IV	IIIbl.	-	X-38	(85.3)	58.2	37.4	265.0	Sa.	
-	-	-	81735	たたき石	IV	VII	III F-227	W-37	103.8	56.3	26.0	225.0	Sa.	
-	-	-	75329	たたき石	IV	IIIbl.	-	W-37	(39.8)	(36.6)	28.9	45.0	Sa.	

表Ⅲ-74 ⅢSB-49属性表

種目 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備 考			
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差		
-	-	-	80776	Ⅲbl	完形	15.8	-44.3	9.0	-24.4	7.1	-14.2	1.8	-0.1	1.2	-	Sa.		
-	-	-	80719	Ⅲbl	完形	17.4	-42.7	16.6	-16.8	6.4	-14.9	1.0	-0.8	2.4	-	Sa.		
-	-	-	80711	Ⅲbl	完形	20.8	-39.3	19.4	-14.0	12.3	-9.0	1.1	-0.8	5.7	-	Sa.		
-	-	-	80769	Ⅲbl	完形	24.7	-35.4	20.6	-12.8	17.7	-3.6	1.2	-0.7	9.3	-	Sa.		
-	-	-	80721	Ⅲbl	完形	28.1	-32.0	16.5	-16.9	7.8	-13.5	1.7	-0.1	4.7	-	Sa.		
-	-	-	80745	Ⅲbl	完形	42.3	-17.8	31.0	-2.4	11.2	-10.1	1.4	-0.5	18.8	-	Sa.		
-	-	-	80818	Ⅲbl	完形	43.5	-16.6	33.1	-0.3	11.9	-9.4	1.3	-0.5	23.2	-	Sa.		
-	-	-	80756	Ⅲbl	完形	61.8	1.7	47.9	14.5	18.0	-3.3	1.3	-0.6	80.9	-	Sa.		
-	-	-	80798	Ⅲbl	完形	64.2	4.1	37.0	3.6	25.8	4.5	1.7	-0.1	82.5	-	Sa.		
-	-	-	80801	Ⅲbl	完形	65.5	5.4	33.5	0.1	15.9	-5.4	2.0	0.1	48.0	-	Sa.		
-	-	-	80816	Ⅲbl	完形	65.2	5.1	44.7	11.3	8.9	-12.4	1.5	-0.4	39.9	-	Sa.		
-	-	-	80751	Ⅲbl	完形	63.7	3.6	38.3	4.9	24.6	3.3	1.7	-0.2	75.4	-	Sa.		
-	-	-	80710	Ⅲbl	完形	66.9	6.8	37.7	4.3	28.2	6.9	1.8	-0.1	106.6	-	Sa.		
-	-	-	80753	Ⅲbl	完形	67.0	6.9	33.7	0.3	16.7	-4.6	2.0	0.1	65.2	-	Sa.		
-	-	-	80752	Ⅲbl	完形	67.4	7.3	32.7	-0.7	23.6	2.3	2.1	0.2	65.8	-	Sa.		
-	-	-	80819	Ⅲbl	完形	67.3	7.2	34.0	0.6	26.2	4.9	2.0	0.1	89.5	-	Sa.		
-	118-24	-	80803	Ⅲbl	完形	70.6	10.5	30.3	-3.1	29.1	7.8	2.3	0.5	101.9	-	Sa.		
-	-	-	80754	Ⅲbl	完形	74.7	14.6	49.5	16.1	20.2	-1.1	1.5	-0.3	99.7	-	Sa.		
-	-	ⅢS1404	80782	Ⅲbl	完形	74.8	14.7	43.2	9.8	21.5	0.2	1.7	-0.1	107.2	-	Sa. 礫1点		
-	-	80734	完形	73.1	13.0	42.5	9.1	25.3	4.0	1.7	-0.1	100.7	-	Sa.				
-	-	ⅢS1405	80725	Ⅲbl	完形	73.7	13.6	35.0	1.6	17.9	-3.4	2.1	0.3	73.3	-	Sa. 礫1点		
-	-	80800	完形	74.3	14.2	34.7	1.3	19.6	-1.7	2.1	0.3	0.3	67.7	-	Sa.			
-	-	80824	完形	74.2	14.1	34.5	1.1	19.1	-2.2	2.2	0.3	0.3	84.7	-	Sa.			
-	-	80774	完形	77.4	17.3	47.0	13.6	18.0	-3.3	1.6	-0.2	0.2	85.5	-	Sa.			
-	-	80764	完形	77.7	17.6	41.6	8.2	35.3	14.0	1.9	0.0	0.0	159.0	-	Sa.			
-	-	ⅢS1403	80762	Ⅲbl	完形	78.0	17.9	42.3	8.9	23.2	1.9	1.8	0.0	84.1	-	Mud. 礫1点		
-	-	80799	完形	82.1	22.0	44.4	11.0	19.2	-2.1	1.8	0.0	0.0	97.8	-	Sa.			
-	-	80793	完形	83.8	23.7	49.1	15.7	28.8	7.5	1.7	-0.1	0.1	179.0	-	Sa.			
-	-	80728	欠損	87.0	26.9	48.8	15.4	34.5	13.2	1.8	-0.1	0.1	145.3	-	Sa.			
-	-	80804	断完形	85.9	25.8	42.5	9.1	22.3	1.0	2.0	0.2	0.2	116.9	-	Sa.			
-	-	80767	完形	94.0	33.9	35.3	1.9	19.1	-2.2	2.7	0.8	0.2	82.8	-	Sa.			
-	-	80826	完形	88.0	27.9	49.3	15.9	49.0	27.7	1.8	-0.1	0.1	120.9	-	Sa.			
-	-	80765	完形	96.9	36.8	32.4	-1.0	18.0	-3.3	3.0	1.1	0.1	113.8	-	Sa.			
平均						60.1		33.4		21.3		1.85		79.3				
															総点数	134点	※完形	32点

F-212を掘削した際の土が堆積していた。37aでは埋土上位の窪み中にⅢF-210・227が形成されている。覆土の土壌サンプルからシカ、ウグイ、サケ属の骨と、アワ、キビをはじめとする炭化種子が得られているが、この土坑に直接伴うのではなく、ⅢF-210・227のいずれかに伴うものと考えられる。37aは規模や堆積状態より土壌墓の可能性を想定した調査を行ったが、坑底面からの出土遺物や遺体層は検出していない。

焼土(図Ⅲ-46・47)：ⅢF-212はⅢP-37に切られているが、長さ178cm以上の規模を測る焼土である。上面を根により攪乱されているため、焼土層本来の厚さは不明である。土壌サンプルからはシカ、ウグイ、サケ属の骨とクルミ属をはじめとする炭化種子が得られた。ⅢF-210・227はⅢP-37a埋土中に検出した焼土で、ⅢF-210は投棄された焼土粒であった。ⅢF-227は窪み内で形成され、湾曲した燃焼面をもつ。土壌サンプルからはⅢF-212と同じ組み合わせで骨と炭化種子が得られた。本集中区における焼土と土坑との重複状態は集中区36・37と類似し、同じ性格の遺構群の可能性が高い。

礫集中(図Ⅲ-46)：ⅢF-227の南側約150cmの位置で検出した。200×150cmの範囲で棒状を中心とする134点の礫が出土している。完形個体は32点で欠損率がやや高い。また礫集中内にたたき石、台石といった礫石器も多く含まれていた。

出土遺物(図Ⅲ-47・48):1・3~7は甕の破片で、いずれもⅦB2aに属すると考えられる資料である。1と7は内外面のハケメ調整痕が類似しているため同一個体片となる可能性がある。4と5についても沈線を引く際の工具が同じと思われることから同一個体の可能性がある。2はⅦC2に分類したが上げ底に成形された坏である。口縁部下位に段状沈線が廻り、内外面共丁寧にミガキ調整が加えられている。8・9・11はⅢSB-49で出土したもので、8は長軸両端部を使用した花崗岩製、9は平坦面を使用した砂岩製のたたき石、11は加工痕のある礫である。10は緑色チャート製の加工痕のある礫で、縁辺に微細な剥離が認められることから、火打石として利用された可能性が高い資料である。12は礫面に線状痕が形成された礫である。

集中区 39 (図Ⅲ-49~51 図版 40・41)

位置:V・W-38~40区 規模:975×950cm

関連遺構:土坑 ⅢP-42・43・46 焼土 ⅢF-209・211・213・215・220・222

礫集中 ⅢSB-50・57

確認・調査:V・W-38~40区のⅢb層調査時に礫を中心とする多数の遺物と共に複数の焼土を検出した。この場所では下位に統縄文時代の遺構・遺物が検出される可能性があったため、検出層位の把握に努め、ⅢF-209・211・213・215・220・222の6ヵ所を擦文文化期の焼土として捉えた。また多数出土した遺物の内、2ヵ所でまとまって出土した棒状礫の集中をⅢSB-50・51として設定した。それぞれ個別に記録を作成し、遺物の取上げを行った。取上げ終了後、周囲をⅢc上面まで掘削した際、Ⅲbの落込みを3ヵ所で確認したため半載して断面を観察した結果、底面が水平で基本土層が掘り込まれていることを確認したため土坑と判断し、ⅢP-42・43・46として設定した。

土坑(図Ⅲ-50):ⅢP-42・43は円形、46は楕円形の土坑で、いずれも壁面はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はいずれも壁面崩落土と窪みに堆積した自然堆積土で構成されている。

焼土(図Ⅲ-50):6ヵ所検出した焼土の内、ⅢF-209・211・213・215は焼骨片を伴う。ⅢF-220は焼面が攪乱を受けていたが、周囲で若干の焼骨片を確認したことから、本来は焼骨片を伴う焼土であったと考えられる。土壌サンプルからはシカを中心とする骨が主体として得られた。ただしこの場所は下位に形成された統縄文時代の焼骨片集中の骨も上がっていたため、擦文文化期の焼土に伴うものとは限らない。一方炭化種子については基本的に統縄文時代の焼土、焼骨片集中から雑穀類は検出されていないことから、ⅢF-220で得られたキビはこの焼土に伴うものと考えられる。

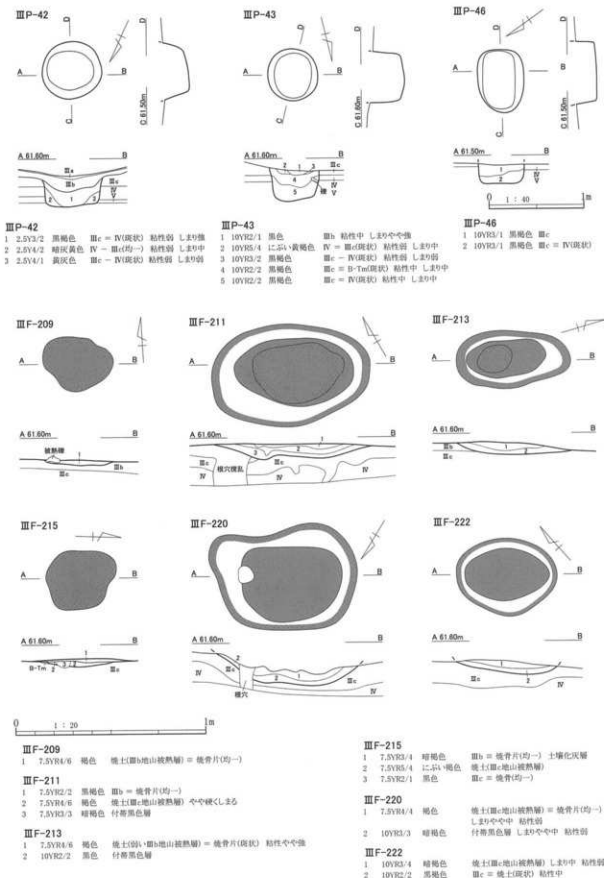
礫集中(図Ⅲ-49):ⅢSB-50はⅢF-220の北東側で出土した。110×70cmの範囲で216点の棒状を中心とする礫が出土した。完形個体は66点で欠損率は平均的である。ⅢSB-57はⅢF-220の東側で出土した礫集中で、独立した礫集中として現場段階で設定したが、出土位置・状態を考慮するとⅢSB-50の礫が動いたものと考えられる。

出土遺物(図Ⅲ-51):1はⅢSB-50の東~南側で出土したⅦE4cの坏である。酸化炎焼成により色調は赤味を帯びるが本遺跡出土のロクロ製坏と比べ硬質の土器である。内外面に十字の火罨痕が残り、体部外面下方に「H」字形のへら記号が刻まれている。2はⅦC2の坏で、内外面共に精緻なミガキ調整が加えられ、平滑な器面を呈している。3・4は同一個体片で、ⅦB2aに属する甕の破片である。浅いが明瞭な沈線で胴部に施文されている。5はⅦB2aの別個体口縁部片で、やや深く細い沈線で施文されている。6はⅢSB-50で出土したたたき石で棒状礫の礫面と側縁を使用している。

集中区 39



図 III-49 集中区 39 平面図



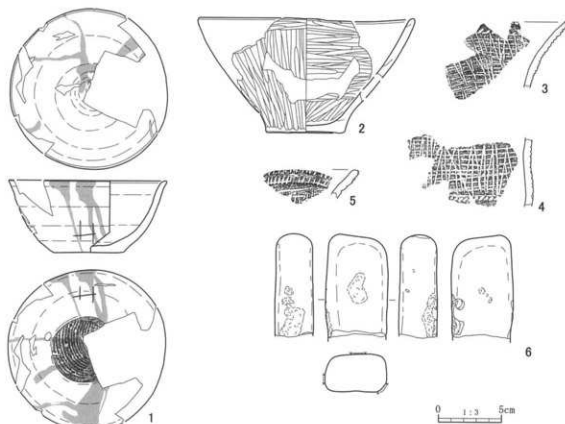
図III-50 集中区 39 関連遺構

表Ⅲ-75 集中区39土坑属性表

棟図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-50	41-3・4	ⅢF-42	V-40	Ⅲc	楕円形/ 楕円形	64	60	48	42	28	N-53°E	1.07	1.14	-	
Ⅲ-50	41-5・6	ⅢF-43	V・W-39	Ⅲc	楕円形/ 楕円形	56	52	48	40	36	N-15°E	-	-	-	
Ⅲ-50	41-7・8	ⅢF-46	V-39	Ⅲc	楕円形/ 長楕円形	68	48	60	34	22	N-55°W	1.42	1.76	-	

表Ⅲ-76 集中区39焼土属性表

棟図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-49-50	40-1・2	ⅢF-209	V-39	ⅢbL	楕円形	37	28	2	骨	
Ⅲ-49-50	40-3・4	ⅢF-211	V-39	ⅢbL	長楕円	84	54	8	骨	
Ⅲ-49-50	40-5・6	ⅢF-213	V-38	ⅢbL	長楕円	60	31	6	骨	
Ⅲ-49-50	40-7・8	ⅢF-215	W-39	ⅢbL	不整形	38	32	3	-	
Ⅲ-49-50	41-1	ⅢF-220	W-39	ⅢbL	楕円形	80	58	6	-	
Ⅲ-49-50	41-2	ⅢF-222	W-39	ⅢbL	楕円形	54	42	6	-	



図Ⅲ-51 集中区39出土遺物

表Ⅲ-77 集中区39出土土器属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考			
										内側	外側					
Ⅲ-51-1	118-1	SP907A	VIIIC4C	82041,82048,82049	Ⅲbl.	ⅢSB-57	W-39	環	口縁へ 底部	ロクロナデ	ロクロナデ	3				
				74809,76770,74871								Ⅲbl.	-	W-38	3	
				74787,78530,78535他								Ⅲbl.	-	W-39	11	
Ⅲ-51-2	118-5	SP551A	VIC2	73909,73974,76765他	Ⅲbl.	-	W-38	環	口縁へ 台部	ハクメ ミガキ	ミガキ	5				
				74939								Ⅲbl.	-	W-39	1	
Ⅲ-51-3	118-2	SP095A	VIIIB2a	76855	Ⅲbl.	-	W-37	甕	口縁	ハクメ ミガキ (黒色処理)	ハクメ ナデ	1				
				74862,79372								Ⅲbl.	-	W-38	2	
Ⅲ-51-4	118-3	SP095B	VIIIB2a	74955,76796	Ⅲbl.	-	W-39	甕	胴部	ハクメ ミガキ 黒色処理	ハクメ ナデ	2				
				76390								Ⅲbl.	-	X-38	1	
				82052								Ⅲbl.	ⅢSB-57	W-39	1	
Ⅲ-51-5	118-4	SP108A	VIIIB2a	74951,74952	Ⅲbl.	-	V-39	甕	口縁	ハクメ ミガキ	ハクメ ナデ	2				

表Ⅲ-78 集中区39出土遺物属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考	
									長軸	短軸	厚さ				
Ⅲ-51-6	118-6	-	-	80197	たたき石	IV	Ⅲbl.	ⅢSB-50	W-39	(82.0)	49.0	30.0	170.0	Sa.	
				79373	たたき石	I a1	Ⅲbl.	-	W-38	(101.0)	63.0	16.0	155.0	Sa.	
				76792	たたき石	IV	Ⅲbl.	-	W-39	(100.0)	50.0	(32.0)	245.0	Sa.	
				80333	たたき石	IV	Ⅲbl.	ⅢSB-50	W-39	(87.0)	53.0	25.0	155.0	Sa.	
				76762	たたき石	II b1	Ⅲbl.	-	W-38	120.0	106.0	56.0	750.0	Sa.	
				73780	たたき石	IV	Ⅲbl.	-	W-40	(85.6)	60.7	24.9	200.0	Sa.	
				79242	たたき石	IV	Ⅲbl.	-	W-38	(111.0)	(82.3)	51.4	450.0	Sa.	
				73929	たたき石	IV	Ⅲbl.	-	W-38	(55.5)	67.6	36.2	165.0	Sa.	

表Ⅲ-79 ⅢSB-50属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	被膜	材質	備考			
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					標準 偏差	標準 偏差	
-	-	-	80207	Ⅲbl.	完形	35.7	-24.8	28.7	-0.2	13.8	-5.6	1.24	-0.76	24.5	-	Mud.		
-	-	-	80211	Ⅲbl.	完形	41.6	-18.9	28.3	-0.6	14.8	-4.6	1.47	-0.5	24.8	-	Sa.		
-	-	ⅢS1347	80203	Ⅲbl.	完形	40.4	-20.1	37.6	8.7	19.9	0.5	1.07	-0.9	44.4	-	Sa.	地3点	
-	-	ⅢS1338	80297	Ⅲbl.	完形	43.2	-17.3	34.9	6.0	18.4	-1.0	1.24	-0.8	36.9	-	Sa.	地1点	
-	-	-	80254	Ⅲbl.	完形	45.8	-14.7	28.1	-0.8	15.8	-3.6	1.63	-0.4	30.7	-	Sa.		
-	-	-	80174	Ⅲbl.	完形	44.0	-16.5	24.3	-4.6	13.7	-5.7	1.81	-0.2	28.2	-	Sa.		
-	-	-	80308	Ⅲbl.	完形	40.0	31.5	27.5	-1.4	23.0	3.6	1.45	-0.5	39.5	-	Sa.		
-	-	ⅢS1333	80309	Ⅲbl.	完形	38.8	-21.7	28.1	-0.8	18.8	-0.6	1.38	-0.6	34.1	-	Mud.	地1点	
-	-	-	80237	Ⅲbl.	完形	48.7	-11.8	25.5	-3.4	18.6	-0.8	1.91	-0.1	28.1	-	Sa.		
-	-	-	80282	Ⅲbl.	完形	47.2	-13.3	30.3	1.4	26.5	7.1	1.56	-0.4	46.6	-	Sa.		
-	-	-	80224	Ⅲbl.	完形	47.1	-13.4	28.8	-0.1	19.4	0.0	1.64	-0.4	40.7	-	Sa.		
-	-	-	80168	Ⅲbl.	完形	49.5	-11.0	28.5	-0.4	18.6	-0.8	1.74	-0.3	24.0	-	Mud.		
-	-	-	80256	Ⅲbl.	完形	46.9	-13.6	28.3	-0.6	22.2	2.8	1.66	-0.3	39.5	-	Sa.		
-	-	-	80173	Ⅲbl.	完形	51.6	-8.9	23.9	-5.0	19.2	-0.2	2.16	-0.2	19.5	-	Mud.		
-	-	ⅢS1344	80244	Ⅲbl.	完形	47.3	-13.2	27.3	-1.6	11.4	-8.0	1.73	-0.3	23.9	-	Mud.	地1点	
-	119-14	-	80255	Ⅲbl.	完形	51.9	-8.6	35.0	6.1	11.7	-7.7	1.48	-0.5	33.1	-	Sa.		
-		-	80187	Ⅲbl.	完形	55.5	-16.6	40.0	11.1	22.2	2.8	1.10	-0.9	44.6	-	Sa.		
-		-	-	80300	Ⅲbl.	完形	55.4	-5.1	33.5	4.6	13.9	-5.5	1.65	-0.3	39.2	-	Sa.	
-		-	-	80301	Ⅲbl.	完形	53.6	-6.9	27.8	-1.1	11.9	-7.5	1.93	-0.1	24.1	-	Sa.	
-		-	-	80182	Ⅲbl.	完形	53.5	-7.0	34.5	5.6	11.6	-7.8	1.55	-0.4	30.0	-	Sa.	
-		-	-	80200	Ⅲbl.	完形	54.6	-5.9	29.5	0.6	22.5	3.1	1.85	-0.1	38.6	-	Sa.	
-		-	ⅢS1349	80158	Ⅲbl.	完形	57.1	-3.4	23.3	-5.6	17.9	-1.5	2.45	0.5	25.3	-	Mud.	地1点
-		-	-	80239	Ⅲbl.	完形	54.4	-6.1	33.1	4.2	15.4	-4.0	1.64	-0.4	33.7	-	Sa.	
-		-	-	80189	Ⅲbl.	完形	56.7	-3.8	33.7	4.8	12.6	-6.8	1.68	-0.3	27.3	-	Sa.	
-		-	-	80304	Ⅲbl.	完形	54.5	-6.0	29.0	0.1	19.2	-0.2	1.88	-0.1	33.0	-	Mud.	
-	-	-	80241	Ⅲbl.	完形	54.9	-5.6	35.1	6.2	15.8	-3.6	1.56	-0.4	33.9	-	Sa.		
-	-	-	80217	Ⅲbl.	完形	54.3	-6.2	33.9	5.0	13.6	-5.8	1.60	-0.4	40.0	-	Sa.		
-	-	-	80154	Ⅲbl.	完形	53.5	-7.0	26.2	-2.7	24.9	5.5	2.04	0.0	56.5	-	Sa.		
-	-	-	80185	Ⅲbl.	完形	57.5	-3.0	28.5	-0.4	22.5	3.1	2.02	0.0	43.9	-	Sa.		
-	-	-	80330	Ⅲbl.	完形	56.9	-3.6	32.9	4.0	17.1	-2.3	1.73	-0.3	41.2	-	Sa.		
-	-	ⅢS1341	80139	Ⅲbl.	完形	55.0	-5.5	27.1	-1.8	12.9	-6.5	2.03	0.0	33.7	-	Sa.	地1点	

表Ⅲ-79 III SB-50属性表(続き)

種図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差							厚さ	標準 偏差
-	-	-	80214	IIIbL	完形	57.8	-2.7	24.9	-4.0	20.5	1.1	2.32	0.3	37.6	-	Sa	
-	-	-	80258	IIIbL	完形	58.3	-2.2	27.3	-1.6	13.3	-6.1	2.14	0.1	29.6	-	Sa	
-	-	-	80169	IIIbL	完形	58.4	-2.1	22.0	-6.9	21.6	2.2	2.65	0.7	29.3	-	Sa	
-	-	-	80285	IIIbL	完形	57.5	-3.0	30.6	1.7	15.3	-4.1	1.88	-0.1	40.0	-	Sa	
-	-	III S1340	80247	IIIbL	完形	56.1	-4.4	23.9	-5.0	26.9	7.5	2.35	0.3	35.3	-	Mud	楕1点
-	-	-	80262	IIIbL	完形	58.6	-1.9	26.4	-2.5	18.4	-1.0	2.22	0.2	32.5	-	Sa	
-	-	-	80283	IIIbL	完形	51.9	-8.6	23.1	-5.8	21.6	2.2	2.25	0.2	35.5	-	Sa	
-	-	-	80162	IIIbL	完形	60.2	-0.3	20.5	-8.4	15.8	-3.6	2.94	0.9	22.1	-	Mud	
-	-	-	80209	IIIbL	完形	61.0	0.5	26.2	-2.7	21.1	1.7	2.33	0.3	38.8	-	Mud	
-	-	-	80188	IIIbL	完形	62.7	2.2	26.0	-2.9	16.3	-3.1	2.41	0.4	32.2	-	Sa	
-	-	-	80284	IIIbL	完形	59.1	-1.4	37.9	9.0	18.0	-1.4	1.56	-0.4	45.0	-	Mud	
-	-	-	80201	IIIbL	完形	61.7	1.2	37.7	8.8	14.2	-5.2	1.64	-0.4	33.2	-	Mud	
-	-	-	80171	IIIbL	完形	63.9	3.4	29.3	0.4	20.2	0.8	2.18	0.2	33.5	-	Sa	
-	-	-	80288	IIIbL	完形	61.5	1.0	35.4	6.5	15.3	-4.1	1.74	-0.3	43.8	-	Sa	
-	-	III S1354	80289	IIIbL	磨完形	64.0	3.5	30.0	1.1	21.2	1.8	2.13	0.1	51.0	-	Sa	楕2点
-	-	-	80216	IIIbL	完形	63.1	2.6	34.7	5.8	17.1	-2.3	1.82	-0.2	49.4	-	Sa	
-	-	III S1348	80199	IIIbL	完形	68.1	7.6	35.2	6.3	15.6	-3.8	1.93	-0.1	44.7	-	Sa	楕1点
-	-	-	80348	IIIbL	完形	70.2	9.7	35.1	6.2	15.2	-4.2	2.00	0.0	59.4	-	Sa	
-	-	III S1350	80183	IIIbL	完形	68.5	8.0	27.0	-1.9	21.5	2.1	2.54	0.5	55.3	-	Sa	楕1点
-	-	-	80243	IIIbL	完形	69.4	8.9	25.0	-3.9	14.1	-5.3	2.78	0.8	30.4	-	Sa	
-	-	-	80146	IIIbL	完形	69.9	9.4	25.4	-3.5	11.2	-8.2	2.75	0.8	27.3	-	Sa	
-	-	-	80240	IIIbL	完形	71.8	11.3	32.4	3.5	19.4	0.0	2.2	0.2	50.2	-	Sa	
-	-	-	80295	IIIbL	完形	72.6	12.1	36.6	7.7	22.3	2.9	2.0	0.0	106.5	-	Sa	
-	-	-	80347	IIIbL	完形	75.8	15.3	40.1	11.2	25.7	6.3	1.9	-0.1	90.8	-	Sa	
-	-	-	80165	IIIbL	完形	75.0	14.5	46.3	17.4	28.5	9.1	1.6	-0.4	156.4	-	Sa	
-	-	-	80334	IIIbL	完形	76.3	15.8	30.0	1.1	25.4	6.0	2.5	0.5	105.2	-	Sa	
-	-	-	80276	IIIbL	完形	78.9	18.4	35.6	6.7	29.8	10.4	2.2	0.2	127.3	-	Sa	
-	-	-	80248	IIIbL	完形	81.0	20.5	39.1	10.2	31.0	11.6	2.1	0.1	117.0	-	Sa	
-	-	-	80263	IIIbL	完形	79.1	18.6	28.0	-0.9	33.4	14.0	2.8	0.8	124.6	-	Sa	
-	-	-	80343	IIIbL	完形	82.3	21.8	40.2	11.3	17.3	-2.1	2.0	0.0	96.6	-	Sa	
-	-	-	80268	IIIbL	完形	79.8	19.3	45.3	16.4	26.4	7.0	1.8	-0.2	147.9	-	Sa	
-	-	-	80252	IIIbL	完形	73.7	13.2	47.5	18.6	23.9	4.5	1.6	-0.4	152.1	-	Sa	
-	-	-	80218	IIIbL	完形	88.2	27.7	47.8	18.9	23.6	4.2	1.8	-0.2	118.3	-	Sa	
-	-	-	80160	IIIbL	完形	97.8	37.3	43.4	14.5	28.6	9.2	2.3	0.3	148.5	-	Sa	
-	-	-	80327	IIIbL	完形	165.0	104.5	46.9	18.0	39.5	20.1	3.5	1.5	610.0	-	Sa	
平均						61.1		30.9		19.5		2.0		60.9			
												楕点数	216点	※完形	66点		

表Ⅲ-80 III SB-57属性表

種図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差							厚さ	標準 偏差
-	-	-	82046	IIIbL	完形	74.9	-38.9	35.7	-35.0	18.8	-14.5	2.1	-0.1	68.5	-	Sa	
-	-	-	82028	IIIbL	完形	72.2	-41.6	28.7	-42.0	26.3	-7.0	2.5	0.3	78.8	-	Sa	
-	-	-	82040	IIIbL	完形	75.8	-38.0	45.1	-25.6	25.9	-7.4	1.7	-0.5	116.0	-	Sa	
-	-	-	82029	IIIbL	完形	78.9	-34.9	44.1	-26.6	29.5	-3.8	1.8	-0.4	120.9	-	Sa	
-	-	-	82038	IIIbL	完形	87.9	-25.9	33.1	-37.6	24.8	-8.5	2.7	0.4	117.7	-	Sa	
-	-	-	80546	IIIbL	完形	101.4	-12.4	84.1	13.4	61.2	27.9	1.2	-1.0	675.0	-	Sa	
-	-	-	79192	IIIbL	完形	101.6	-12.2	105.6	34.9	30.4	-2.9	1.0	-1.3	415.0	-	Sa	
-	-	-	80540	IIIbL	欠損	167.0	53.2	43.3	-27.4	-13.3	-46.6	3.9	1.6	179.9	-	Sch	
-	-	-	80445	IIIbL	完形	151.0	37.2	145.5	74.8	63.0	29.7	1.0	-1.2	2300.0	-	Sa	
平均						113.8		70.7		33.3		2.23		509.0			
												楕点数	37点	※完形	8点		

集中区 40 (図Ⅲ-52~54 図版 42)

位置: AA~AC-26~28区 規模: 1,050×800cm

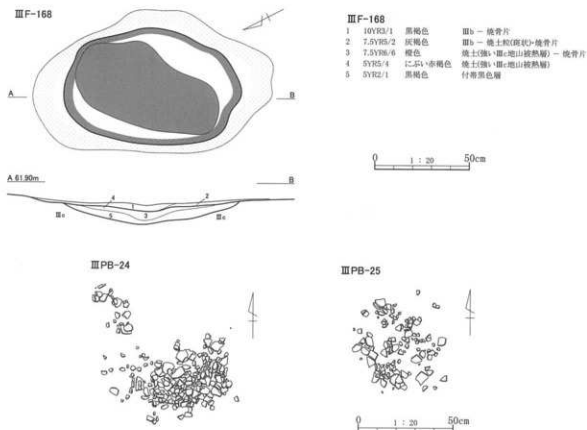
関連遺構: 焼土 III F-168 土器集中 III PB-24・25

確認・調査: AA~AC-26~28区のIIIb層調査時に、焼土1ヵ所(III F-168)と土器集中2ヵ所(III PB-24・25)を検出した。それぞれ関連する遺構と考えたため検出状態の撮影を行った後、個別に記録を作成

集中区 40



図Ⅲ-52 集中区 40 平面図



図III-53 集中区40 関連遺構

表III-81 集中区40焼土属性表

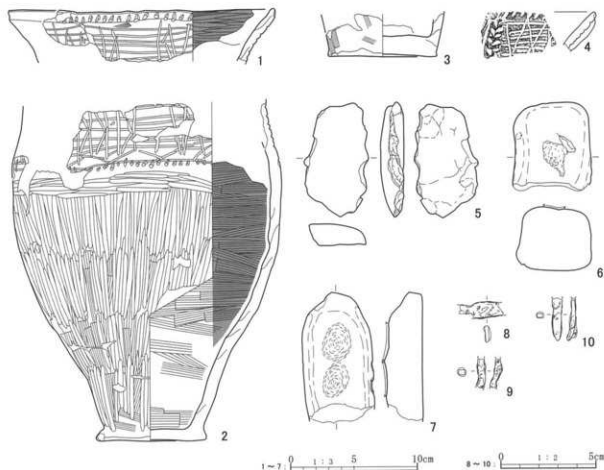
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
III-52-53	42-2・3	III F-168	AA・AB-26	III bL	長楕円形	94	62	7	骨	

した。なお土器集中出土状態の図化はデジタル写真実測を委託している。遺物取り上げ後、III F-168に関連する杭跡確認のため、III c～IV層上面において周囲の精査を行ったが検出には至らなかった。

焼土(図III-53)：III F-168は北東-南西方向に長軸を向けた楕円形の焼土である。長さ88cm、焼土層の厚さ4cmの規模を測る。上位に焼骨片を伴い、燃焼面は浅く窪んでいた。土壌サンプルからはウグイ、サケ属といった魚骨を中心とする骨が得られた。またヒエ、キビをはじめとする炭化種子も得ており、ヒエについては今回報告対象の遺構中最も多い数が得られた。

土器集中(図III-53)：III PB-24は85×70cmの範囲で338点、III PB-25では60×50cmの範囲で144点の土器片が出土している。共に著しく細片化し、他の集中区との間に接合関係はない。

出土遺物(図III-54)：1・2は同一個体で、III PB-24で出土したVII B2aの甕である。浅い沈線で施文され、外面はミガキ調整、内面は胴部においてハケメ調整、口縁部付近でミガキ調整が行われている。3はIII PB-25で出土した甕の底部片。4はVII B2aの口縁部片で、縦位の粘土紐が貼付されており、色調は赤味を帯びている。5は石英片岩を素材とし、縁辺に細かい剥離が形成されている。素材や剥離の特徴から、火打石と考えられる。6・7はたたき石で、棒状礫の平坦面が使用され、7では敲打による窪みが顕著である。8～10は用途不明の板状・棒状鉄片である。



図Ⅲ-54 集中区40出土遺物

表Ⅲ-82 集中区40出土土器属性表

棟号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-54-1	120-1	SP130B	ⅣB2a	62505.62539.631194E	Ⅲbl.	ⅢPB-24	AB-27 AB-26	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナゲ	10	
				60259.60264.602664E	Ⅲbl.	ⅢF-168	AC-26			5			
Ⅲ-54-2	120-2	SP130A	ⅣB2a	60938.62616.631274E	Ⅲbl.	ⅢPB-24	AB-26	甕	胴部～ 底部	ハケメ	ハケメ ミガキ	76	
				60937	Ⅲbl.	ⅢPB-25	AB-27					1	
Ⅲ-54-3	120-4	SP132B	ⅣB	60846.60900.621254E	Ⅲbl.	ⅢPB-25	AC-26	甕	底部	ナゲ	ハケメ ナゲ	7	
Ⅲ-54-4	120-3	SP117A	ⅣB2a	60260	Ⅲbl.	ⅢF-168	AB-26	甕	口縁	ミガキ	ハケメ ナゲ	1	

表Ⅲ-83 集中区40出土遺物属性表

棟号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-54-5	120-5	-	60201	火打石	-	Ⅲbl.	ⅢF-168	AA-26	60.0	33.0	12.0	30.0	Qu-Sch.	
Ⅲ-54-6	120-6	-	58768	たたき石	IV	Ⅲbl.	-	AC-26	70.0	62.0	50.0	330.0	Sa.	
Ⅲ-54-7	120-7	-	60090	たたき石	-	Ⅲbl.	ⅢF-168	AA-26	(100.6)	54.3	36.2	240.0	Sa.	
-	120-8	-	60068	たたき石	IV	Ⅲbl.	ⅢF-168	AA-26	(50.0)	66.0	22.0	85.0	Sa.	
-	120-9	-	60058	たたき石	I b1	Ⅲbl.	ⅢF-168	AA-26	110.0	44.0	40.0	260.0	Sa.	
Ⅲ-54-8	120-10	-	56007	板状鉄片	-	ⅢbuU	-	AA-26	(2.9)	15.0	3.0	1.7	Iron.	
Ⅲ-54-9	120-11	-	60255	棒状鉄片	-	Ⅲbl.	ⅢF-168	AB-26	(15.5)	5.0	5.0	0.6	Iron.	
Ⅲ-54-10	120-12	-	60256	棒状鉄片	-	Ⅲbl.	ⅢF-168	AB-26	(23.0)	6.0	3.5	1.0	Iron.	

集中区 41 (図III-55~58 図版 43)

位置：AB・AC-28~30区 規模：1,350×650cm

関連遺構：焼土 IIIF-183・198・202 焼骨片集中 III BB-23 炭化物集中 III CB-86

土器集中 III PB-31・32・45 礫集中 III SB-38・39

確認・調査：火山灰除去中に、試掘トレンチの壁面において焼土を確認した(III F-183)。周囲のIII b層調査に着手し、焼土形成面まで掘削した際、土器集中(III PB-31・32)と礫集中(III SB-38・39)を2カ所ずつ検出した。周囲でも多数の遺物が出土したため、図化についてはデジタル写真実測を委託した。調査を進めたところ、III F-183と重複する焼土が1カ所(III F-198)と、その北東側で焼骨片集中(III BB-23)と別の焼土1カ所(III F-202)を新たに確認し、III PB-32の東では炭化物の集中1カ所(III CB-86)を確認した。

焼土(図III-56)：III F-183・198は重複して検出した焼土で、III F-198が新しい。III F-183は長さ70cm以上、III F-198は長さ110cmで、共に厚さ6cmの良好な焼土層が形成されている。共に焼骨片を伴い、III F-183は燃焼面が窪んでいる。燃焼面直上では黒曜石フレイクの他、石英片岩のフレイク・チップも多数出土している。本遺跡では弥文文化期の遺物として石英片岩製の火打石と考えられる遺物が出土しているが(乾・小野・奈良 2007)、焼土に伴う多数の石英片岩フレイク・チップは、その出土状況から、火打石のかけらと考えられる。III F-202は長さ36cmの小規模な焼土である。焼土上位で確認した焼骨片集中III BB-23はこの焼土に伴うものと考えられる。土壌サンプルからはそれぞれウグイ、サケ属、哺乳綱の骨が得られた他、炭化種子ではIII F-183で多数のキビを得ている。また同じくIII F-183からは多数の微細な石英片岩チップが得られた。

炭化物集中(図III-55)：III PB-32の東側で検出した230×200cmの範囲に広がる炭化物の集中である。クルミ属をはじめとする炭化種子が少量含まれていた。

土器集中(図III-56)：III PB-31はIII F-183の西側で出土した土器集中で、III SB-38と重なっている。90×50cmの範囲で117点の土器片が出土した。III PB-32はIII F-183の東側で出土し、III SB-39と重なっている。50×40cmの範囲で171点の土器片が出土した。共に他の集中区との間に接合関係はない。

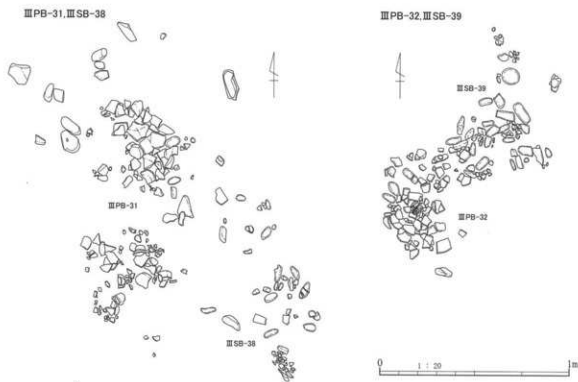
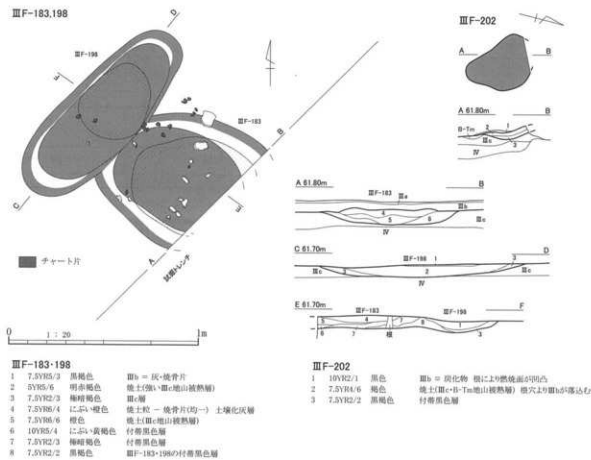
礫集中(図III-56)：III SB-38とIII SB-39は共に棒状礫を主体とする礫集中で、それぞれIII PB-31、III PB-32と重なっている。III SB-38は210×120cmの範囲で160点の礫が、III SB-39は120cm×60cmの範囲に247点の礫が出土している。

出土遺物(図III-57・58)：1・2はIII PB-31で出土した同一個体の甕で、外面には粗いハケメ調整が加えられ、砂粒の移動が顕著である。ミガキ調整は内外面共に胴上半部のみ行われている。3はIII PB-32で出土したもので、太く深い沈線と施文され、口縁部と文様帯下縁の刻みには工具の木口面を押し当てた跡が残る。胴部外面はミガキ調整が著しい。4~6は底部片で、4は底部が上げ底に成形されているため統縄文時代の土器の可能性もある。5は甕の底部。6はIII PB-45で出土した坏の底部片である。7はVIII B3aの口縁部片で、深く明瞭な沈線と施文されている。8は坏の口縁部片で細く浅い沈線と施文されている。9~13はたたき石で、9は円形の扁平礫を素材とし、側縁の下端が使用され、表面に滑沢面が形成されている。14は表面に滑沢面が形成された板状礫である。15・16は鉄製品で、15は刀子片、16は断面方形で、棒状鉄片としたが刀子の茎片の可能性もある。

集中区 41



図 III-55 集中区 41 平面図



図III-56 集中区 41 関連遺構

表Ⅲ-84 集中区41焼土属性表

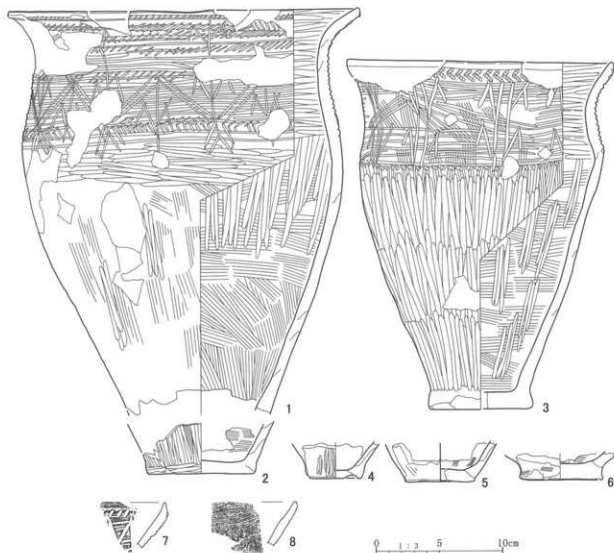
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-55-56	41-2-3	ⅢF-183	AB-29	ⅢbL	長楕円形	(74)	74	8	骨	ⅢF-198と重複
Ⅲ-55-56	41-2-4	ⅢF-198	AB-29	ⅢbL	長楕円形	110	44	8	骨	ⅢF-183と重複
Ⅲ-55-56	41-5	ⅢF-202	AB-29	ⅢbL	不整形	(36)	28	4	—	

表Ⅲ-85 集中区41焼骨片集中属性表

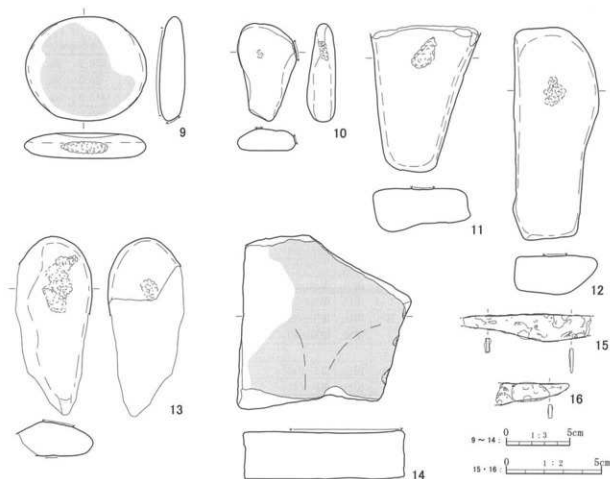
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
Ⅲ-55	—	ⅢBB-23	AB-29	ⅢbL	楕円形	100	65	—	被熱	ⅢF-202	

表Ⅲ-86 集中区41炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅲ-55	—	ⅢCB-86	AB-AC -28-29	ⅢbL	不整形	230	200	



図Ⅲ-57 集中区41出土遺物(1)



図Ⅲ-58 集中区41出土遺物(2)

表Ⅲ-87 集中区41出土土器属性表

採回 番号	図取 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考		
										内側	外側				
Ⅲ-57-1	121-1	SP134A	ⅣB3a	68392.68412.70305他	Ⅲbl.	ⅢPB-32	AB-30	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナデ ヒガキ	68			
				68495.70071								Ⅲbl. ⅢSB-38	AB-30	2	
				71016								Ⅲc	AB-30	1	
				63907.63915.63916他								Ⅲbl.	AB-31	5	
Ⅲ-57-2	121-2	SP134B	ⅣB3a	63582	Ⅲbl.		X-29					1			
				68419.68483.70301他	Ⅲbl.	ⅢPB-32	AB-30	甕	底部	ハケメ	ハケメ ヒガキ	20			
Ⅲ-57-3	121-3	SP157A	ⅣB3a	69502.69561.70404他	Ⅲbl.	ⅢPB-31	AC-29	甕	口縁～ 底部	ハケメ ヒガキ	ハケメ ヒガキ	52			
				67351	Ⅲbl.	ⅢSB-43	V-30					1			
				69618	Ⅲbl.		AB-29					1			
				69619	Ⅲbl.		AC-28					1			
				67570.67571.67575他	Ⅲbl.		S-30					4			
				67582	Ⅲbl.		S-31					1			
Ⅲ-57-4	121-5	SP110A	ⅣC4	65566	Ⅲbl.		T-28					1			
				70026.70031	Ⅲbl.	—	AB-29	甕	底部	ナデ	ナデ ヒガキ	2			
Ⅲ-57-5	121-6	SP112A	ⅣB	71020.71023.71024	Ⅲc	—	AB-29	甕	底部	ハケメ ナデ	ナデ	5			
Ⅲ-57-6	121-8	SP560B	ⅣC3	69856	Ⅲbl.	ⅢPB-45	AB-29	坏	体部	ハケメ ナデ 黒色処理?	ハケメ ナデ	3			
Ⅲ-57-7	121-4	SP128A	ⅣB3a	68908	Ⅲbl.	ⅢF-183	AB-29	甕	口縁	ハケメ ヒガキ	ハケメ ナデ	1			
Ⅲ-57-8	121-7	SP545A	ⅣC4	70026.70034	Ⅲbl.	—	AB-29	坏	口縁	ハケメ ヒガキ	ヒガキ	2			

表Ⅲ-88 集中区41出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-58-9	121-9	-	69633	たたき石	-	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	82.0	96.0	20.0	270.0	Sa.	
Ⅲ-58-10	122-23	-	69718	たたき石	I a2	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	77.0	47.0	17.0	90.0	Sa.	
Ⅲ-58-11	121-13	-	69833	たたき石	-	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	(115.0)	89.0	33.0	415.0	Sa.	
Ⅲ-58-12	122-18	-	69839	たたき石	I a1	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	168.0	68.0	30.0	550.0	Sa.	
Ⅲ-58-13	122-16	-	70060	たたき石	IV	Ⅲbl	ⅢSB-38	-	(85.0)	61.0	31.0	230.0	Sa.	
Ⅲ-58-14	121-10	-	69737	溝沢面のある礎	-	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	(138.0)	(136.0)	37.0	1090.0	Sa.	
Ⅲ-58-15	122-25	-	62914	刀子片	-	Ⅲbl	ⅢF-183	AB-29	(66.5)	15.0	3.5	7.7	Irn.	
Ⅲ-58-16	122-26	-	79395	棒状鉄片	-	Ⅲbl	ⅢF-183	AB-29	(38.5)	12.5	2.5	2.5	Irn.	
-	121-11	-	70035	たたき石	IV	Ⅲbl	ⅢSB-38	-	(53.0)	52.0	21.0	70.0	Sa.	
-	121-12	-	70043	たたき石	IV	Ⅲbl	ⅢSB-38	-	(73.0)	60.0	28.0	150.0	Sa.	
-	121-14	-	69806	たたき石	IV	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	(62.0)	92.0	47.0	255.0	Sa.	
-	121-15	-	69834	たたき石	IV	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	(71.0)	50.0	28.0	150.0	Sa.	
-	122-17	-	66571	たたき石	Ⅱa1	Ⅲbl	-	AA-28	(118.0)	72.0	34.0	410.0	Sa.	
-	122-19	-	70087	たたき石	I a1	Ⅲbl	ⅢSB-38	-	141.0	61.0	27.0	210.0	Sa.	
-	122-20-21	-	69715	たたき石	I a1	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	171.0	58.0	27.0	375.0	Sa.	
-	122-22	-	69786	たたき石	IVb	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	(116.0)	103.0	49.0	790.0	Sa.	
-	122-24	-	69836	台石	-	Ⅲbl	ⅢSB-39	-	172.0	97.1	52.1	1080.0	Sa.	
-	-	-	FLT	火打石砕片	-	-	-	-	-	-	-	5.68	Qu-Sch.	44点
-	-	-	68631	RF・UF	B3a	Ⅲbl	ⅢF-198	-	23.7	25.4	6.5	3.5	Obs.	
-	-	-	68632	黒曜石転礫	-	Ⅲbl	ⅢF-198	-	30.9	45.5	20.1	30.5	Obs.	

表Ⅲ-89 ⅢSB-38属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差
-	-	-	70019	Ⅲbl	完形	21.1	-41.5	15.2	-16.3	3.5	-11.2	1.4	-0.6	0.9	-	Sa.
-	-	-	70005	Ⅲbl	完形	22.8	-39.8	14.0	-17.5	5.1	-9.6	1.6	-0.4	2.2	-	Sa.
-	-	-	70020	Ⅲbl	完形	23.4	-39.2	13.3	-18.2	7.4	-7.3	1.8	-0.2	3.3	-	Sa.
-	-	-	70092	Ⅲbl	完形	23.3	-39.3	15.0	-16.5	9.3	-5.4	1.6	-0.4	5.2	-	Che.
-	-	-	70017	Ⅲbl	完形	24.1	-38.5	14.7	-16.8	9.0	-5.7	1.6	-0.4	4.4	-	Sa.
-	-	-	68500	Ⅲbl	完形	25.9	-36.7	25.5	-6.0	17.3	2.6	1.0	-1.0	14.7	-	Sa.
-	-	-	70046	Ⅲbl	完形	29.1	-33.5	16.4	-15.1	13.8	-0.9	1.8	-0.2	7.3	-	Sa.
-	-	-	70142	Ⅲbl	完形	27.9	-34.7	15.2	-16.3	8.3	-6.4	1.8	-0.2	4.9	-	Sa.
-	-	-	76098	Ⅲbl	完形	35.1	-27.5	19.6	-11.9	11.8	-2.9	1.8	-0.2	8.5	-	Sa.
-	-	-	70185	Ⅲbl	完形	37.7	-24.9	31.4	-0.1	8.5	-6.2	1.2	-0.8	15.4	-	Sa.
-	-	-	70086	Ⅲbl	完形	39.4	-23.2	25.8	-5.7	6.3	-8.4	1.5	-0.5	7.5	-	Sa.
-	-	-	70089	Ⅲbl	完形	41.4	-21.2	30.8	-0.7	7.3	-7.4	1.3	-0.7	12.1	-	Sa.
-	-	-	70079	Ⅲbl	完形	35.1	-27.5	41.1	9.6	15.8	1.1	0.9	-1.1	30.8	-	Sa.
-	-	-	70010	Ⅲbl	完形	42.0	-20.6	21.8	-9.7	7.8	-6.9	1.9	-0.1	7.6	-	Sa.
-	-	-	68391	Ⅲbl	完形	45.1	-17.5	22.4	-9.1	11.6	-3.1	2.0	0.0	16.8	-	Sa.
-	-	-	70012	Ⅲbl	完形	44.3	-18.3	32.3	0.8	23.9	9.2	1.4	-0.6	43.5	-	Sa.
-	123-28	-	70146	Ⅲbl	完形	51.5	-11.1	25.0	-6.5	17.8	3.1	2.1	0.1	38.2	-	Sa.
-	-	-	70078	Ⅲbl	完形	52.3	-10.3	33.5	2.0	26.4	11.7	1.6	-0.4	62.6	-	Sa.
-	-	-	70073	Ⅲbl	完形	55.9	-6.7	37.9	6.4	7.7	-7.0	1.5	-0.5	24.8	-	Sa.
-	-	-	70002	Ⅲbl	完形	56.0	-6.6	28.0	-3.5	17.8	3.1	2.0	0.0	41.4	-	Sa.
-	-	-	70182	Ⅲbl	完形	59.2	-3.4	37.3	5.8	17.9	3.2	1.6	-0.4	59.9	-	Sa.
-	-	-	70105	Ⅲbl	完形	57.9	-4.7	36.7	5.2	23.6	8.9	1.6	-0.4	74.2	-	Sa.
-	-	-	70187	Ⅲbl	完形	52.5	-10.1	47.5	16.0	11.9	-2.8	1.1	-0.9	57.4	-	Sa.
-	-	-	68390	Ⅲbl	完形	56.4	-6.2	46.1	14.6	24.1	9.4	1.2	-0.8	89.4	-	Sa.
-	-	-	70095	Ⅲbl	完形	66.5	3.9	36.7	5.2	19.6	4.9	1.8	-0.2	72.5	-	Sa. 輪1点
-	-	-	70044	Ⅲbl	完形	68.1	5.5	31.6	0.1	17.1	2.4	2.2	0.2	48.7	-	Sa.
-	-	-	70138	Ⅲbl	完形	70.5	7.9	25.6	-5.9	18.0	3.3	2.8	0.8	46.4	-	Sa.
-	-	-	70130	Ⅲbl	完形	70.0	7.4	31.5	0.0	17.6	2.9	2.2	0.2	62.0	-	Sa.
-	-	-	70001	Ⅲbl	完形	69.3	6.7	33.7	2.2	17.7	3.0	2.1	0.1	56.4	-	Sa.
-	-	-	70104	Ⅲbl	完形	72.0	9.4	37.0	5.5	23.4	8.7	1.9	-0.1	83.0	-	Sa.
-	-	-	70144	Ⅲbl	完形	72.3	9.7	36.8	5.3	22.2	7.5	2.0	0.0	99.1	-	Sa.
-	-	-	68386	Ⅲbl	完形	71.2	8.6	31.3	-0.2	16.3	1.6	2.3	0.3	63.4	-	Sa.
-	-	-	70117	Ⅲbl	完形	72.9	10.3	33.4	1.9	22.3	7.6	2.2	0.2	80.2	-	Sa.
-	-	-	70120	Ⅲbl	完形	76.2	13.6	27.7	-3.8	21.1	6.4	2.8	0.8	57.9	-	Sa. 輪2点

表Ⅲ-89 III SB-38属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ							標準偏差
-	-	-	70004	IIIbl	完形	76.4	13.8	32.4	0.9	14.1	-0.6	2.4	0.4	44.7	-	Sa	
-	-	-	70102	IIIbl	完形	76.0	13.4	35.9	4.4	22.9	8.2	2.1	0.1	73.9	-	Sa	
-	-	-	70127	IIIbl	完形	77.4	14.8	39.0	7.5	20.3	5.6	2.0	0.0	68.9	-	Sa	
-	-	-	70077	IIIbl	完形	77.9	15.3	27.0	-4.5	22.3	7.6	2.9	0.9	61.1	-	Sa	
-	-	III S1376	70115	IIIbl	完形	80.5	17.9	24.0	-7.5	16.5	1.8	3.4	1.4	53.4	-	Sa	他1点
-	-	-	70076	IIIbl	完形	80.5	17.9	28.1	-3.4	14.3	-0.4	2.9	0.9	55.0	-	Sa	
-	-	-	70113	IIIbl	完形	80.3	17.7	28.0	-3.5	17.7	3.0	2.9	0.9	61.0	-	Sa	
-	-	-	68387	IIIbl	完形	82.3	19.7	48.4	16.9	14.7	0.0	1.7	-0.3	86.0	-	Sa	
-	-	III S1375	70067	IIIbl	完形	81.9	19.3	40.1	8.6	27.1	12.4	2.0	0.0	125.4	-	Sa	他1点
-	-	-	70036	IIIbl	完形	83.9	21.3	38.3	6.8	18.5	3.8	2.2	0.2	104.3	-	Sa	
-	-	-	70099	IIIbl	完形	83.3	20.7	51.8	20.3	10.6	-4.1	1.6	-0.4	123.2	-	Sa	
-	-	-	70119	IIIbl	完形	84.6	22.0	36.6	5.1	8.5	-6.2	2.3	0.3	63.8	-	Sa	
-	-	-	70122	IIIbl	完形	87.6	25.0	41.7	10.2	8.5	-6.2	2.1	0.1	86.1	-	Con.	
-	-	-	70109	IIIbl	完形	85.9	23.3	29.0	-2.5	8.2	-6.5	3.0	1.0	69.1	-	Sa	
-	-	-	70141	IIIbl	完形	85.8	23.2	35.3	3.8	8.3	-6.4	2.4	0.4	68.6	-	Sa	
-	-	-	70038	IIIbl	完形	87.4	24.8	36.4	4.9	7.3	-7.4	2.4	0.4	74.0	-	Sa	
-	-	-	70072	IIIbl	完形	87.5	24.9	43.5	12.0	16.3	1.6	2.0	0.0	134.0	-	Sa	
-	-	-	70054	IIIbl	完形	86.7	24.1	34.4	2.9	18.6	3.9	2.5	0.5	100.6	-	Sa	
-	-	-	70128	IIIbl	完形	93.2	30.6	32.9	1.4	6.7	-8.0	2.8	0.8	66.4	-	Sa	
-	-	-	70100	IIIbl	完形	97.8	35.2	33.9	2.4	10.1	-4.6	2.9	0.9	76.0	-	Sa	
-	-	-	68494	IIIbl	完形	99.1	36.5	44.2	12.7	9.2	-5.5	2.2	0.2	101.7	-	Sa	

平均 62.6 31.5 14.7 2.0 54.5
総点数 160点 完形形 55点

表Ⅲ-90 III SB-39属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ							標準偏差
-	-	-	69768	IIIbl	完形	14.9	-59.6	14.0	-22.6	10.7	-10.2	1.1	-1.0	2.9	-	Sa	
-	-	-	69727	IIIbl	完形	22.4	-52.1	11.4	-25.2	9.4	-11.5	2.0	-0.1	3.3	-	Sa	
-	-	-	69662	IIIbl	完形	28.2	-46.3	22.2	-14.4	15.7	-5.2	1.3	-0.8	14.4	-	Sa	
-	-	-	69686	IIIbl	完形	24.2	-50.3	22.3	-14.3	12.9	-8.0	1.1	-1.0	11.8	-	Sa	
-	-	-	69775	IIIbl	完形	30.1	-44.4	27.0	-9.6	5.7	-15.2	1.1	-1.0	5.7	-	Mud.	
-	-	-	69817	IIIbl	完形	32.7	-41.8	25.0	-11.6	10.2	-10.7	1.3	-0.8	10.1	-	Sa	
-	-	-	69694	IIIbl	完形	31.8	-42.7	17.4	-19.2	7.1	-13.8	1.8	-0.3	4.8	-	Mud.	
-	-	-	69656	IIIbl	完形	30.5	-44.0	25.8	-10.8	7.7	-13.2	1.2	-0.9	8.4	-	Sa	
-	-	-	69842	IIIbl	完形	46.2	-28.3	34.8	-1.8	12.3	-8.6	1.3	-0.8	26.2	-	Sa	
-	-	-	69780	IIIbl	完形	53.0	-21.5	20.6	-16.0	23.5	2.6	2.6	0.5	31.1	-	Sa	
-	-	-	69723	IIIbl	完形	56.0	-18.5	34.9	-1.7	10.3	-10.6	1.6	-0.5	24.8	-	Sa	
-	-	-	69781	IIIbl	完形	55.3	-19.2	33.0	-3.6	19.1	-1.8	1.7	-0.4	37.8	-	Sa	
-	-	-	69785	IIIbl	完形	56.3	-18.2	31.8	-4.8	14.6	-6.3	1.8	-0.3	32.0	-	Sa	
-	-	-	69654	IIIbl	完形	58.7	-15.8	19.6	-17.0	15.1	-5.8	3.0	0.9	24.0	-	Sa	
-	-	III S1388	69784	IIIbl	完形	57.3	-17.2	34.2	-2.4	12.6	-8.3	1.7	-0.4	27.9	-	Sa	他1点
-	-	-	69831	IIIbl	完形	59.9	-14.6	28.1	-8.5	19.9	-1.0	2.1	0.0	54.5	-	Sa	
-	-	-	69826	IIIbl	完形	62.5	-12.0	43.7	7.1	28.6	7.7	1.4	-0.7	101.7	-	Sa	
-	-	-	69793	IIIbl	完形	61.8	-12.7	41.3	4.7	18.0	-2.9	1.5	-0.6	61.9	-	Sa	
-	-	-	69648	IIIbl	完形	62.8	-11.7	26.7	-9.9	15.7	-5.2	2.4	0.3	38.9	-	Sa	
-	-	-	69691	IIIbl	完形	68.1	-6.4	32.5	-4.1	25.5	4.6	2.1	0.0	70.1	-	Sa	
-	-	-	69729	IIIbl	完形	64.8	-9.7	23.9	-12.7	17.1	-3.8	2.7	0.6	37.3	-	Sa	
-	-	-	69840	IIIbl	完形	66.5	-8.0	29.5	-7.1	22.8	1.9	2.3	0.2	53.2	-	Sa	
-	-	-	69692	IIIbl	完形	68.1	-6.4	32.5	-4.1	17.1	-3.8	2.1	0.0	50.9	-	Sa	
-	-	-	69832	IIIbl	完形	68.3	-6.2	38.0	1.4	19.5	-1.4	1.8	-0.3	70.0	-	Sa	
-	-	-	69754	IIIbl	完形	66.6	-7.9	36.8	0.2	14.6	-6.3	1.8	-0.3	30.0	-	Sa	
-	-	-	69852	IIIbl	完形	69.7	-4.8	32.9	-3.7	20.4	-0.5	2.1	0.0	69.7	-	Sa	
-	-	-	69724	IIIbl	完形	71.1	-3.4	45.1	8.5	26.0	5.1	1.6	-0.5	87.8	-	Sa	
-	-	-	69715	IIIbl	完形	72.2	-2.3	38.6	2.0	21.8	0.9	1.9	-0.2	86.9	-	Sa	
-	-	-	69689	IIIbl	完形	71.5	-3.0	37.0	0.4	29.3	8.4	1.9	-0.2	111.5	-	Sa	
-	-	III S1393	69653	IIIbl	完形	70.2	-4.3	28.2	-8.4	13.9	-7.0	2.5	0.4	44.0	-	Sa	他1点
-	-	-	69688	IIIbl	完形	71.6	-2.9	23.9	-12.7	18.9	-2.0	3.0	0.9	44.2	-	Sa	
-	-	-	69663	IIIbl	完形	72.8	-1.7	28.9	-7.7	21.9	1.0	2.5	0.4	61.9	-	Sa	
-	-	-	69827	IIIbl	完形	74.7	0.2	51.1	14.5	17.9	-3.0	1.5	-0.6	93.5	-	Sa	
-	-	III S1389	69819	IIIbl	完形	74.5	0.0	43.7	7.1	30.8	9.9	1.7	-0.4	139.1	-	Sa	他2点
-	-	-	69675	IIIbl	完形	75.0	0.5	33.0	-3.6	13.1	-7.8	2.3	0.2	46.6	-	Sa	
-	-	III S1395	69670	IIIbl	完形	75.7	1.2	32.5	-4.1	25.1	4.2	2.3	0.2	91.9	-	Sa	他1点

表Ⅲ-90 ⅢSB-39属性表(続き)

挿入 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熟	材質	備 考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	-	-	69634	Ⅲbl	完形	74.8	0.3	30.4	-6.2	25.3	4.4	2.5	0.4	92.8	-	Sa		
-	-	-	69830	Ⅲbl	完形	78.5	4.0	35.1	-1.5	18.9	-2.0	2.2	0.1	64.1	-	Sa		
-	-	-	69644	Ⅲbl	完形	74.5	0.0	39.3	2.7	16.6	-4.3	1.9	-0.2	77.9	-	Sa		
-	-	-	69640	Ⅲbl	完形	80.5	6.0	27.0	-9.6	16.5	-4.4	3.0	0.9	46.3	-	Sa		
-	-	-	69693	Ⅲbl	完形	80.9	6.4	37.7	1.1	21.7	0.8	2.1	0.0	110.1	-	Sa		
-	-	-	69714	Ⅲbl	完形	83.4	8.9	41.2	4.6	21.3	0.4	2.0	-0.1	77.9	-	Sa		
-	-	-	69683	Ⅲbl	略完形	83.3	8.8	36.1	-0.5	19.2	-1.7	2.3	0.2	56.4	-	Sa		
-	-	-	69705	Ⅲbl	完形	83.3	8.8	46.7	10.1	24.1	3.2	1.8	-0.3	123.2	-	Sa		
-	-	-	69795	Ⅲbl	完形	84.6	10.1	41.3	4.7	23.0	2.1	2.0	-0.1	119.4	-	Sa		
-	-	-	69688	Ⅲbl	完形	85.9	11.4	28.8	-7.8	20.1	-0.8	3.0	0.9	66.8	-	Sa		
-	-	-	69690	Ⅲbl	完形	85.0	10.5	28.7	-7.9	20.9	0.0	3.0	0.9	77.6	-	Sa		
-	-	-	69710	Ⅲbl	完形	88.4	13.9	28.9	-7.7	20.2	-0.7	3.1	1.0	82.2	-	Sa		
-	-	-	69687	Ⅲbl	完形	95.3	20.8	28.8	-7.8	24.3	3.4	3.3	1.2	63.0	-	Sa		
-	-	-	69789	Ⅲbl	完形	95.7	21.2	40.8	4.2	26.0	5.1	2.3	0.2	131.9	-	Sa		
-	-	-	69665	Ⅲbl	完形	107.8	33.3	35.3	-1.3	29.2	8.3	3.1	1.0	205.0	-	Sa		
-	-	-	69853	Ⅲbl	完形	142.0	67.5	73.4	36.8	24.0	3.1	1.9	-0.2	252.0	-	Sa		
-	-	-	69835	Ⅲbl	略完形	166.0	91.5	89.9	53.3	24.8	3.9	1.8	-0.3	660.0	-	Sa		
-	-	-	ⅢSI391	69759	Ⅲbl	完形	176.0	101.5	86.9	50.3	32.1	11.2	2.0	-0.1	417.0	-	Sa	他1点
-	-	-	ⅢSI394	69716	Ⅲbl	完形	172.0	97.5	87.1	50.5	47.6	26.7	2.0	-0.1	860.0	-	Sa	他1点
-	-	-	69798	Ⅲbl	完形	190.0	115.5	86.5	49.9	91.2	70.3	2.2	0.1	2480.0	-	Sa		
平均						74.5		36.6		20.9		2.1		138.8				
													総点数 247点			※完形 56点		

集中区 42 (図Ⅲ-59-60)

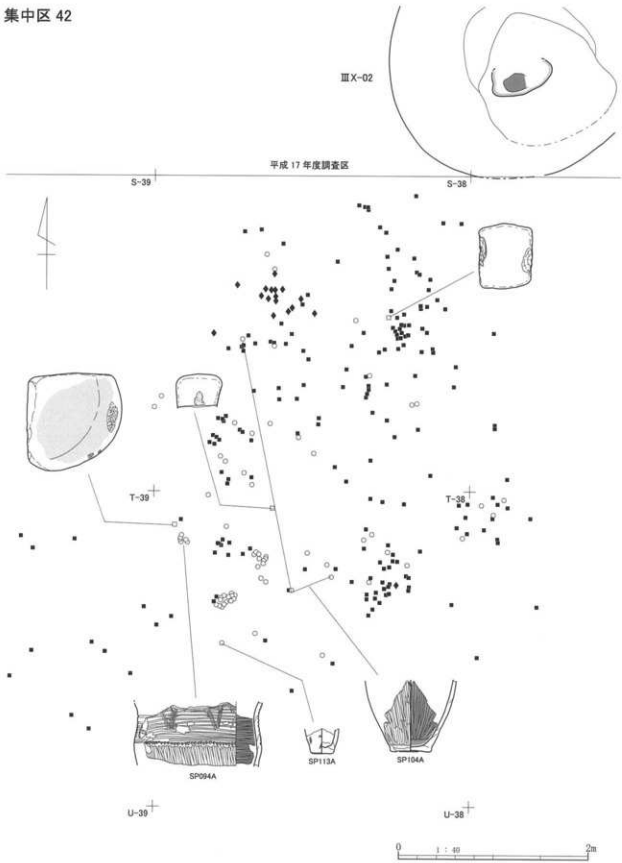
位置：S・T-38・39区 規模：850×800cm

関連遺構：ⅢX-02

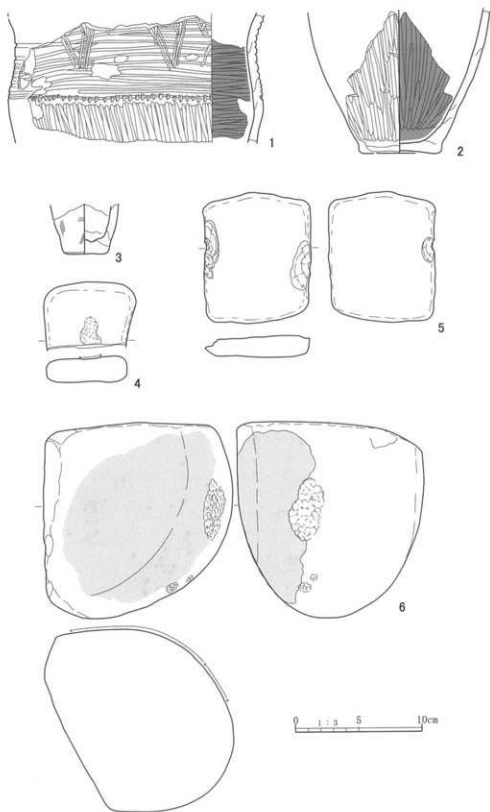
確認・調査：S・T-38・39区のⅢb層調査時にⅢblにおいて多数の遺物が出土した。周辺には焼土等擦文文化期の遺構は検出していなかったため、出土状態の図化は行わずに取り上げを行った。報告書作成段階において、この場所のすぐ北側にあたる平成17年度調査区内において、擦文文化期の竪穴様遺構(ⅢX-02)が位置していたことを考慮し、集中区として設定した。

出土遺物(図Ⅲ-60)：1は甕の胴部片、2は底部片で、内外面の調整が共通するため同一個体の可能性が高い。深く明瞭な沈線により施文されている。3は小型の土器で粗雑な整形のため器表面の凹凸が著しい。4はたたき石で平坦面を使用している。5は側縁に剥離加工がある礫。6は滑沢面と敲打痕をもつ閃緑岩製の台石である。

集中区 42



図Ⅲ-59 集中区 42 平面図



図Ⅲ-60 集中区 42 出土遺物

表Ⅲ-91 集中区42出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-60-1	124-1-1	SP094A	ⅧB3a	74504.78437.78438地	Ⅲbl.	-	T-38	甕	胴部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	6	
				74514.74515								Ⅲbl.	
Ⅲ-60-2	124-1-2	SP104A	ⅧB	78389	Ⅲbl.	-	S-38	甕	胴部～ 底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	1	
				74502.78442.78443地								Ⅲbl.	
Ⅲ-60-3	124-1-3	SP113A	ⅧD2	78450	Ⅲbl.	-	T-38	甕	底部	ナデ	ナデ	1	

表Ⅲ-92 集中区42出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-60-4	124-1-4	-	81657	たたき石	IV	Ⅲbl.	-	T-38	(53.0)	73.0	20.0	115.0	Sa.	
Ⅲ-60-5	124-1-5	-	74570	加工痕のある礫	-	Ⅲbl.	-	S-38	102.4	83.7	17.0	260.0	Sa.	
Ⅲ-60-6	124-1-6	-	81695	擦文面と 取付痕のある礫	I	Ⅲbl.	-	T-38	154.0	150.0	147.0	4700.0	Dio.	

集中区 43 (図Ⅲ-61～63 図版 44)

位置：F・G-47・48区 規模：900×750cm

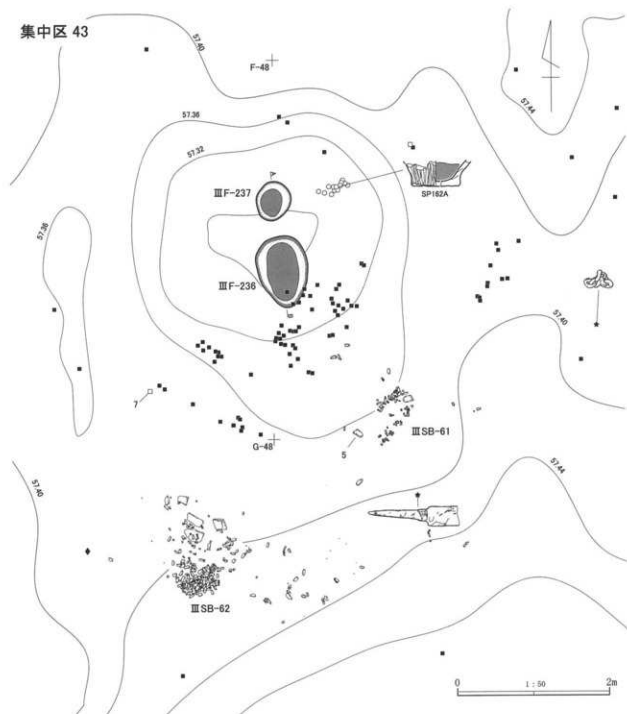
関連遺構：焼土 ⅢF-236・237 礫集中 ⅢSB-61・62

確認・調査：T₁の火山灰除去時にF・G-47・48区においてTa-bが落込んだ円形の窪みを確認した。堅穴住居跡の可能性を想定し、窪み内の火山灰は人力で除去した。調査は窪みの地形測量を行った後、窪みに対し十字に設定したベルトに沿わせトレンチを掘削し、堆積状態の観察を行った。その結果この窪みは人為的に掘り込まれたものではなく、Ta-c降下以前に本集中区西側を流れていた旧河川による自然堤防が2列に並び、結果として堅穴の窪み状になった場所と判断した。しかしこの窪み中央のⅢbl.において焼土を2カ所、周囲で礫集中を2カ所検出したことから、擦文文化期において窪みを意識して利用されていたことが想定できたため、集中区として設定した。窪みの堆積状態と焼土の記録を作成し、礫集中出土状態の図化を行った。なお図化についてはⅢSB-61が技能作業員による実測で、礫の密集度が高かったⅢSB-62はデジタル写真実測を委託した。

焼土(図Ⅲ-61・62)：ⅢF-236・237は窪み中央で南北に並ぶ配置で検出した。共に焼燃面が窪み、上位に焼骨片を伴う。ⅢF-236は厚さ8cmの良好な焼土層が形成されているが、ⅢF-237は極めて弱い焼土であった。土壌サンプルからは哺乳綱の骨と魚骨が少量得られたが、炭化種子で特徴的なものを得る事はできなかった。

礫集中(図Ⅲ-61)：ⅢSB-61・62共に棒状礫を中心とする礫集中である。ⅢSB-61は85×50cmの範囲で54点の礫が出土し、完形個体は22点であった。ⅢSB-62では130×115cmの範囲で271点の礫が出土し、完形個体は93点であった。共に欠損率は同時期の礫集中よりも低い。ⅢSB-62では礫と共に擦文土器片も数点出土している。

出土遺物(図Ⅲ-63)：1はⅢF-237の東側で出土した甕の底部である。外面はミガキ調整、内面は黒色処理を行っている。胎土に粒径1mm程の砂粒を多く含み、遺跡内出土の他の擦文土器と比べ異なる胎土である。2～4は同一個体の甕の破片である。内外面共にミガキによる調整が加えられ、内面に黒色処理が施されている。3・4で胴部文様帯下縁の刻みが確認できるが、その上位に3では縦位、4では横位の沈線が施文されているため、ⅧB3aの横走沈線を下地にする土器ではないと考えられる。5・6はたたき石で、5は礫の平坦面の他、頂端、側縁の各部位も使用されている。7は角柱状



図Ⅲ-61 集中区43平面図

表Ⅲ-93 集中区43焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-61・62	44-2	ⅢF-236	F-47	Ⅲbl.	長楕円	94	68	9	骨	
Ⅲ-61・62	44-3	ⅢF-237	F-48	Ⅲbl.	楕円形	52	46	2	骨	

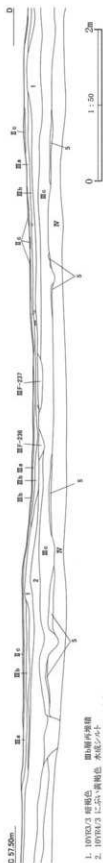


ⅢF-236-237 セクション



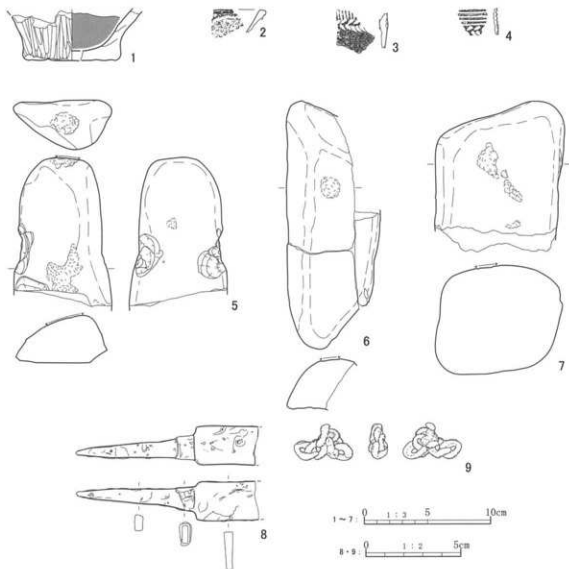
- ⅢF-236-237
- 1 5YR3/2 暗赤褐色 旗土(旗い)層→旗土(旗山遺跡層) = 後付瓦(LIC)
 - 2 10YR3/2 暗褐色 付帯紫色層
 - 3 5YR3/2 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)→旗土(旗山遺跡層)
 - 4 5YR4/6 赤褐色 旗土(旗山遺跡層)→旗土(旗山遺跡層)
 - 5 5YR4/6 赤褐色 旗土(旗山遺跡層)→旗土(旗山遺跡層)
 - 6 5YR4/4 2.5YR赤褐色 旗土(旗山遺跡層)
 - 7 7.5YR3/1 暗褐色 付帯紫色層
 - 8 7.5YR3/2 暗褐色 付帯紫色層

集中区窪地セクション



- ⅢF-236-237
- 1 10YR3/2 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)
 - 2 10YR3/2 2.5YR赤褐色 付帯紫色層
 - 3 5YR3/2 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)
 - 4 10YR3/6 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)
 - 5 10YR3/4 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)
- ⅢF-237
- 1 10YR3/2 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)
 - 2 10YR3/2 2.5YR赤褐色 付帯紫色層
 - 3 5YR3/2 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)
 - 4 10YR3/6 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)
 - 5 10YR3/4 暗褐色 旗土(旗山遺跡層)

図Ⅲ-62 集中区43 関連遺構断面図



図Ⅲ-63 集中区43出土遺物

表Ⅲ-94 集中区43出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-63-1	124-2-1	SP162A	ⅣB3	116273, 116282地	Ⅲbl.	ⅢX-06	F-47	甕	底部	ナデ 黒色処理	ミガキ	3	
Ⅲ-63-2	124-2-2	SP164B	ⅣB3	116501	Ⅲbl.	ⅢSB-62	G-48	甕	口縁	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-63-3	124-2-3	SP164A	ⅣB3	116502	Ⅲbl.	ⅢSB-62	G-48	甕	胴部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	1	
Ⅲ-63-4	124-2-4	SP164C	ⅣB3	116504	Ⅲbl.	ⅢSB-62	G-48	甕	胴部	-	ナデ	1	

表Ⅲ-95 集中区43出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-63-5	124-5	-	116189	たたき石	IV	Ⅲbl.	ⅢX-06	-	(117.0)	78.0	38.0	400.0	Mud.	
Ⅲ-63-6	124-7	-	116358	たたき石	I a1	Ⅲbl.	ⅢSB-62	-	196.0	74.0	37.0	505.0	Sa.	
Ⅲ-63-7	124-8	-	116212	台石	-	Ⅲbl.	ⅢX-06	-	(119.0)	182.0	84.0	1600.0	Sa.	
Ⅲ-63-8	124-2-9	-	116136	小刀様製品	-	Ⅲbl.	ⅢX-06	G-47	(96.5)	21.0	7.0	15.3	Iron.	
Ⅲ-63-9	124-2-10	-	116134	鏡型製品	-	Ⅲbl.	ⅢX-06	F-47	30.0	18.6	9.4	4.3	Iron.	
-	124-6	-	116287	たたき石	I a2	Ⅲbl.	ⅢX-06	-	(101.0)	51.0	44.0	320.0	Sa.	

表Ⅲ-96 ⅢSB-61属性表

神田 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	116188	ⅢbL	完形	34.2	-27.7	29.0	-2.3	20.6	3.9	1.2	-0.9	26.9	-	Sa	-
-	-	-	116183	ⅢbL	完形	48.4	-13.5	22.5	-8.8	12.7	-4.0	2.2	0.1	18.6	-	Sa	-
-	ⅢS1214	-	116169	ⅢbL	完形	51.1	-10.8	34.6	3.3	11.5	-5.2	1.5	-0.6	28.9	-	Sa	標1点
-	-	-	116155	ⅢbL	完形	52.8	-9.1	23.1	-8.2	14.1	-2.6	2.3	0.3	25.5	-	Sa	-
-	-	-	116145	ⅢbL	完形	53.0	-8.9	29.0	-2.3	18.7	2.0	1.8	-0.2	29.6	-	Sa	-
-	-	-	116161	ⅢbL	完形	53.3	-8.6	27.4	-3.9	16.2	-0.5	1.9	-0.1	36.1	-	Sa	-
-	-	-	116150	ⅢbL	完形	55.5	-6.4	31.3	0.0	22.0	5.3	1.8	-0.3	50.9	-	Sa	-
-	-	-	116148	ⅢbL	完形	55.0	-6.9	30.5	-0.8	17.0	0.3	1.8	-0.2	45.9	-	Sa	-
-	-	-	116151	ⅢbL	完形	57.0	-4.9	24.8	-6.5	18.0	1.3	2.3	0.3	48.2	-	Sa	-
-	ⅢS1221	-	116176	ⅢbL	完形	58.9	-3.0	30.3	-1.0	18.9	2.2	1.9	-0.1	44.0	-	Sa	標1点
-	-	-	116170	ⅢbL	完形	57.6	-4.3	26.5	-4.8	11.3	-5.4	2.2	0.1	25.1	-	Sa	-
-	-	-	116141	ⅢbL	完形	59.0	-2.9	29.2	-2.1	19.7	3.0	2.0	0.0	46.9	-	Sa	-
-	-	-	116186	ⅢbL	完形	62.3	0.4	47.8	16.5	23.5	6.8	1.3	-0.7	44.4	-	Mud.	-
-	-	-	116164	ⅢbL	略完形	55.9	-6.0	30.4	-0.9	12.7	-4.0	1.8	-0.2	21.4	-	Sa	-
-	ⅢS1218	-	116166	ⅢbL	略完形	61.9	0.0	28.5	-2.8	16.0	-0.7	2.2	0.1	31.9	-	Sa	標1点
-	-	-	116139	ⅢbL	完形	68.1	6.2	36.4	5.1	12.9	-3.8	1.9	-0.2	39.8	-	Sa	-
-	-	-	116149	ⅢbL	略完形	68.1	6.2	41.4	10.1	18.8	2.1	1.6	-0.4	77.2	-	Sa	-
-	-	-	116144	ⅢbL	完形	73.6	11.7	42.7	11.4	13.1	-3.6	1.7	-0.3	63.9	-	Sa	-
-	-	-	116174	ⅢbL	略完形	78.0	16.1	30.6	-0.7	13.9	-2.8	2.5	0.5	51.2	-	Mud.	-
-	-	-	116171	ⅢbL	完形	81.6	19.7	24.7	-6.6	22.3	5.6	3.3	1.3	71.6	-	Sa	-
-	-	-	116158	ⅢbL	完形	84.0	22.1	29.2	-2.1	14.5	-2.2	2.9	0.8	56.3	-	Sa	-
-	ⅢS1215	-	116162	ⅢbL	完形	92.5	30.6	37.7	6.4	19.6	2.9	2.5	0.4	108.7	-	Sa	標2点
平均						61.9		31.3		16.7		2.03		44.7			
						総点数 54点 窠完形 22点											

表Ⅲ-97 ⅢSB-62属性表

神田 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	116571	ⅢbL	完形	48.7	-19.3	25.5	15.1	15.6	-5.6	1.9	-0.3	26.1	-	Sa	-
-	-	-	116388	ⅢbL	完形	53.5	-14.5	27.6	19.9	16.7	-4.5	1.9	-0.3	38.6	-	Sa	-
-	-	-	116556	ⅢbL	完形	56.1	-11.9	25.0	22.5	13.8	-7.4	2.2	0.0	26.2	-	Sa	-
-	-	-	116578	ⅢbL	略完形	55.0	-13.0	31.5	21.4	13.8	-7.4	1.7	-0.5	26.6	-	Sa	-
-	-	-	116482	ⅢbL	完形	56.2	-11.8	26.4	22.6	18.4	-2.8	2.1	-0.1	32.4	-	Mud.	-
-	-	-	116564	ⅢbL	完形	57.2	-10.8	28.5	23.6	18.7	-2.5	2.0	-0.2	45.4	-	Sa	-
-	-	-	116362	ⅢbL	完形	57.8	-10.2	29.9	24.2	17.1	-4.1	1.9	-0.3	42.9	-	Sa	-
-	ⅢS1224	-	116391	ⅢbL	完形	56.7	-11.3	28.1	23.1	21.9	0.7	2.0	-0.2	56.9	-	Sa	標1点
-	-	-	116517	ⅢbL	完形	52.8	-15.2	42.0	19.2	21.8	0.6	1.3	-0.9	88.8	-	Sa	-
-	-	-	116490	ⅢbL	完形	55.0	-13.0	32.3	21.4	25.8	4.6	1.7	-0.5	97.6	-	Sa	-
-	-	-	116404	ⅢbL	完形	59.5	-8.5	33.5	25.9	16.4	-4.8	1.8	-0.4	45.4	-	Sa	-
-	-	-	116565	ⅢbL	略完形	59.3	-8.7	23.5	25.7	20.7	-0.5	2.5	0.3	32.1	-	Sa	-
-	-	-	116357	ⅢbL	完形	60.5	-7.5	37.5	26.9	16.2	-5.0	1.6	-0.6	42.1	-	Sa	-
-	-	-	116523	ⅢbL	完形	59.3	-8.7	30.9	25.7	20.4	-0.8	1.9	-0.3	58.8	-	Sa	-
-	-	-	116487	ⅢbL	完形	60.5	-7.5	24.8	26.9	17.7	-3.5	2.4	0.2	35.1	-	Sa	-
-	ⅢS1213	-	116430	ⅢbL	完形	61.1	-6.9	29.7	27.5	13.6	-7.6	2.1	-0.1	36.4	-	Sa	標1点
-	-	-	116531	ⅢbL	完形	61.2	-6.8	31.5	27.6	21.7	0.5	1.9	-0.3	53.8	-	Sa	-
-	-	-	116540	ⅢbL	略完形	62.5	-5.5	31.6	28.9	17.5	-3.7	2.0	-0.2	42.4	-	Sa	-
-	125-12	-	116414	ⅢbL	完形	64.4	-3.6	25.6	30.8	17.2	-4.0	2.5	0.3	45.3	-	Sa	-
-	-	-	116524	ⅢbL	完形	63.0	-5.0	45.6	29.4	21.0	-0.2	1.4	-0.8	66.6	-	Sa	-
-	-	-	116446	ⅢbL	完形	65.1	-2.9	32.6	31.5	8.5	-12.7	2.0	-0.2	29.0	-	Sa	-
-	-	-	16527	ⅢbL	完形	62.6	-5.4	30.9	29.0	19.6	-1.6	2.0	-0.2	42.7	-	Sa	-
-	-	-	116366	ⅢbL	完形	65.2	-2.8	21.1	31.6	19.8	-1.4	3.1	0.9	40.3	-	Sa	-
-	-	-	116455	ⅢbL	完形	62.7	-5.3	22.9	29.1	18.9	-2.3	2.7	0.5	53.8	-	Sa	-
-	-	-	116498	ⅢbL	完形	63.8	-4.2	34.5	30.2	22.2	1.0	1.8	-0.4	62.6	-	Sa	-
-	-	-	116432	ⅢbL	完形	66.5	-1.5	29.6	32.9	21.2	0.0	2.2	0.0	54.9	-	Sa	-
-	-	-	116401	ⅢbL	完形	68.1	0.1	35.7	34.5	16.7	-4.5	1.9	-0.3	53.0	-	Sa	-
-	-	-	116441	ⅢbL	略完形	67.4	-0.6	24.1	33.8	22.0	0.8	2.8	0.6	54.6	-	Sa	-
-	-	-	116514	ⅢbL	完形	65.9	-2.1	27.7	32.3	13.4	-7.8	2.4	0.2	36.7	-	Sa	-
-	-	-	116409	ⅢbL	完形	65.7	-2.3	26.7	32.1	19.1	-2.1	2.5	0.3	55.4	-	Sa	-
-	ⅢS1222	-	116410	ⅢbL	完形	64.1	-3.9	24.0	30.5	17.2	-4.0	2.7	0.5	32.9	-	Sa	標1点
-	-	-	116483	ⅢbL	完形	66.4	-1.6	22.3	32.8	24.2	3.0	3.0	0.8	45.5	-	Sa	-
-	-	-	116519	ⅢbL	完形	65.7	-2.3	25.2	32.1	17.9	-3.3	2.6	0.4	39.2	-	Sa	-
-	-	-	116479	ⅢbL	完形	65.2	-2.8	33.4	31.6	28.3	7.1	2.0	-0.2	75.0	-	Sa	-
-	ⅢS1225	-	116431	ⅢbL	完形	67.6	-0.4	23.0	34.0	15.6	-5.6	2.9	0.7	39.7	-	Mud.	標1点
-	-	-	116460	ⅢbL	完形	66.5	-1.5	40.3	32.9	20.4	-0.8	1.7	-0.5	78.7	-	Sa	-
-	-	-	116498	ⅢbL	完形	68.2	0.2	27.0	34.6	16.9	-4.3	2.5	0.3	44.2	-	Sa	-

表Ⅲ-97 ⅢSB-62属性表(続き)

神宮 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差
-	-	-	116508	ⅢbL	完形	68.0	0.0	39.2	34.4	14.1	-7.1	1.7	-0.5	56.5	-	Sa.
-	-	-	116396	ⅢbL	完形	68.5	0.5	34.2	34.9	15.0	-6.2	2.0	-0.2	51.8	-	Sa.
-	-	-	116462	ⅢbL	完形	68.6	0.6	36.0	35.0	18.1	-3.1	1.9	-0.3	56.4	-	Sa.
-	-	ⅢS1217	116572	ⅢbL	完形	70.1	2.1	31.8	36.5	11.0	-10.2	2.2	0.0	37.2	-	Sa. 軸1点
-	-	-	116413	ⅢbL	完形	69.7	1.7	34.2	36.1	19.8	-1.4	2.0	-0.2	63.9	-	Sa.
-	-	-	116386	ⅢbL	完形	69.1	1.1	35.3	35.5	22.6	1.4	2.0	-0.2	69.1	-	Sa.
-	-	-	116481	ⅢbL	完形	72.5	4.5	38.6	38.9	17.5	-3.7	1.9	-0.3	65.2	-	Sa.
-	-	-	116403	ⅢbL	完形	73.0	5.0	24.6	39.4	23.9	2.7	3.0	0.8	63.8	-	Sa.
-	-	-	116530	ⅢbL	完形	69.5	1.5	43.8	35.9	19.3	-1.9	1.6	-0.6	79.3	-	Sa.
-	-	-	116477	ⅢbL	完形	72.2	4.2	25.5	38.6	21.9	0.7	2.8	0.6	54.3	-	Sa.
-	-	-	116411	ⅢbL	完形	71.2	3.2	29.8	37.6	18.4	-2.8	2.4	0.2	53.9	-	Mud.
-	-	-	116467	ⅢbL	略完形	71.3	3.3	36.5	37.7	31.7	10.5	2.0	-0.2	105.9	-	Sa.
-	-	-	116557	ⅢbL	完形	71.5	3.5	34.9	37.9	28.4	7.2	2.0	-0.2	103.2	-	Sa.
-	-	-	116457	ⅢbL	完形	72.3	4.3	42.5	38.7	17.7	-3.5	1.7	-0.5	77.7	-	Sa.
-	-	ⅢS1220	116577	ⅢbL	略完形	73.9	5.9	36.6	40.3	20.1	-1.1	2.0	-0.2	80.8	-	Sa. 軸1点
-	-	-	116466	ⅢbL	完形	74.7	6.7	34.2	41.1	19.2	-2.0	2.2	0.0	63.6	-	Sa.
-	-	-	116552	ⅢbL	完形	75.2	7.2	32.7	41.6	27.2	6.0	2.3	0.1	105.3	-	Sa.
-	-	-	116402	ⅢbL	完形	74.1	6.1	24.9	40.5	18.9	-2.3	3.0	0.8	48.4	-	Sa.
-	-	-	116507	ⅢbL	完形	75.1	7.1	37.9	41.5	26.8	5.6	2.0	-0.2	94.9	-	Sa.
-	-	-	116492	ⅢbL	完形	76.8	8.8	31.4	43.2	16.3	-4.9	2.4	0.2	56.7	-	Sa.
-	-	-	116555	ⅢbL	略完形	78.1	10.1	34.1	44.5	23.1	1.9	2.3	0.1	78.0	-	Sa.
-	-	-	116445	ⅢbL	完形	79.5	11.5	39.6	45.9	16.1	-5.1	2.0	-0.2	71.5	-	Sa.
-	-	-	116532	ⅢbL	完形	75.9	7.9	25.5	42.3	22.2	1.0	3.0	0.8	62.1	-	Sa.
-	-	-	116522	ⅢbL	完形	80.3	12.3	41.5	46.7	24.4	3.2	1.9	-0.3	111.6	-	Sa.
-	-	-	116551	ⅢbL	完形	80.7	12.7	33.7	47.1	16.5	-4.7	2.4	0.2	78.0	-	Sa.
-	-	-	116523	ⅢbL	完形	81.2	13.2	39.1	47.6	19.6	-1.6	2.1	-0.1	99.9	-	Sa.
-	-	-	116500	ⅢbL	完形	82.3	14.3	38.8	48.7	21.8	0.6	2.1	-0.1	88.5	-	Sa.
-	-	-	116581	ⅢbL	完形	79.0	11.0	25.2	45.4	17.6	-3.6	3.1	0.9	52.7	-	Mud.
-	124-12	-	116529	ⅢbL	完形	78.3	10.3	44.7	44.7	19.7	-1.5	1.8	-0.4	127.5	-	Sa.
-	-	ⅢS1219	116461	ⅢbL	完形	81.8	13.8	36.9	48.2	25.0	3.8	2.2	0.0	107.1	-	Sa. 軸1点
-	-	-	116493	ⅢbL	完形	81.5	13.5	30.0	47.9	14.7	-6.5	2.7	0.5	75.4	-	Sa.
-	-	-	116447	ⅢbL	完形	83.0	15.0	30.1	49.4	20.8	-0.4	2.8	0.6	73.2	-	Sa.
-	-	-	116509	ⅢbL	完形	82.4	14.4	38.9	48.8	18.5	-2.7	2.1	-0.1	93.0	-	Sa.
-	-	-	116478	ⅢbL	完形	83.3	15.3	40.8	49.7	27.6	6.4	2.0	-0.2	110.4	-	Sa.
-	-	-	116464	ⅢbL	完形	85.1	17.1	35.5	51.5	14.5	-6.7	2.4	0.2	60.9	-	Sa.
-	-	-	116454	ⅢbL	略完形	85.4	17.4	34.1	51.8	23.1	1.9	2.5	0.3	95.6	-	Sa.
-	-	-	116510	ⅢbL	完形	86.1	18.1	30.8	52.5	23.9	2.7	2.8	0.6	97.0	-	Sa.
-	-	-	116458	ⅢbL	完形	86.0	18.0	27.0	52.4	29.5	8.3	3.2	1.0	89.1	-	Sa.
-	-	ⅢS1216	116554	ⅢbL	完形	93.6	25.6	37.8	60.0	21.9	0.7	2.5	0.3	82.7	-	Sa.
-	-	-	116546	ⅢbL	完形	102.2	34.2	46.2	68.6	17.4	-3.8	2.2	0.0	105.2	-	Sa.
-	-	-	116558	ⅢbL	完形	107.2	39.2	36.0	73.6	27.1	5.9	3.0	0.8	134.6	-	Mud.
-	-	-	116368	ⅢbL	完形	155.0	87.0	152.0	121.4	53.7	32.5	1.0	-1.2	2410.0	-	Sa.
-	-	-	116369	ⅢbL	完形	246.0	178.0	100.0	212.4	44.2	23.0	2.5	0.3	1970.0	-	Sa.
-	-	-	116382	ⅢbL	完形	213.0	145.0	160.0	179.4	32.4	11.2	1.3	-0.9	1915.0	-	Sa.
-	-	-	116452	ⅢbL	完形	58.2	-9.8	32.5	24.6	27.5	6.3	1.8	-0.4	546.0	-	Sa.
-	-	-	116443	ⅢbL	完形	62.0	-6.0	23.3	28.4	23.1	1.9	2.7	0.5	60.0	-	Sa.
-	-	-	116423	ⅢbL	完形	66.2	-1.8	31.5	32.6	19.4	-1.8	2.1	-0.1	47.3	-	Sa.
-	-	-	116427	ⅢbL	完形	66.3	-1.7	35.5	32.7	29.9	8.7	1.9	-0.3	86.8	-	Sa.
-	-	-	116544	ⅢbL	略完形	68.4	0.4	28.0	34.8	24.4	3.2	2.4	0.2	51.9	-	Sa.
-	-	-	116550	ⅢbL	完形	71.9	3.9	39.3	38.3	18.0	-3.2	1.8	-0.4	62.0	-	Sa.
-	-	-	116580	ⅢbL	完形	70.3	2.3	57.8	36.7	15.7	-5.5	1.2	-1.0	108.0	-	Gin.
-	-	-	116405	ⅢbL	完形	73.7	5.7	31.9	40.1	22.0	0.8	2.3	0.1	54.8	-	Sa.
-	-	-	116583	ⅢbL	完形	73.4	5.4	53.5	39.8	22.0	0.8	1.4	-0.8	140.2	-	Gin.
-	-	-	116585	ⅢbL	完形	75.9	7.8	67.7	42.3	23.5	2.3	1.1	-1.1	183.1	-	Gin.
-	-	-	116543	ⅢbL	完形	79.1	11.1	43.2	45.5	19.6	-1.6	1.8	-0.4	84.6	-	Sa.
-	-	-	116584	ⅢbL	完形	97.3	29.3	64.6	63.7	24.3	3.1	1.5	-0.7	250.0	-	Gin.
-	-	-	116168	ⅢbL	欠損	143.7	75.7	86.4	110.1	52.8	31.6	1.7	-0.5	925.0	-	Sa.
平均						76.4		38.0		21.4		2.2		150.0		
													軸点数	271点	素完形	93点

礫の1面が使用された台石である。8は小刀様の製品だが、刃は形成されていない。茎にあたる部分には錆化しているが帯金具状の痕跡が認められる。半製品、もしくは鑿状の工具かもしれない。9は鎖型の製品で、1つ1つの輪は断面円形で太さ4mmの鉄線で作られ、ねじれが加えられている。連結は各輪を直接絡めて繋げており、II-31-4に図示したアイヌ文化期の例とは連結方法が異なる。類例は平取町二風谷遺跡(三浦他1986)で出土しており、採文文化期の遺物として報告されている。

集中区44 (図III-64~70 図版45)

位置：0・P-41・42区 規模：900×600cm

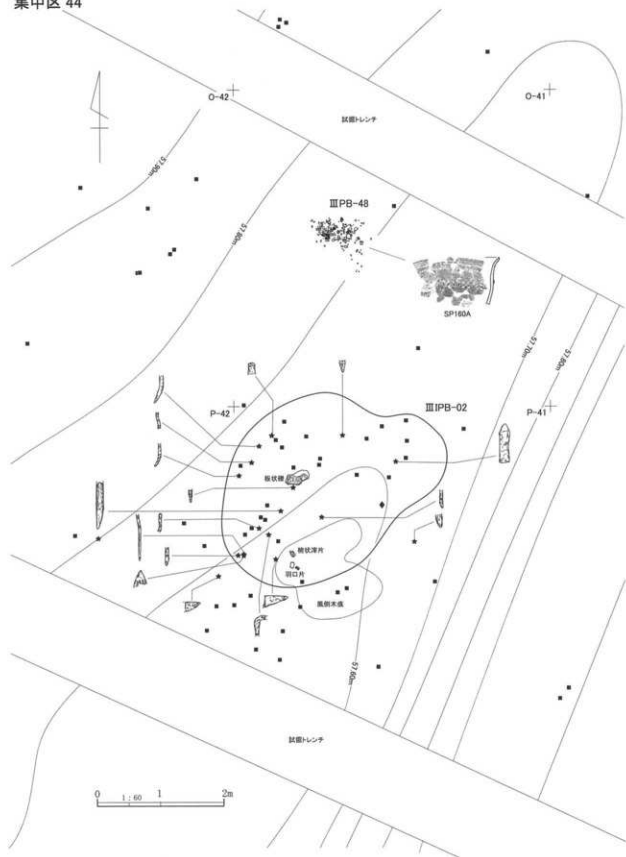
関連遺構：鉄器生産関連遺物集中 IIIIPB-02 土器集中 IIIPB-48

確認・調査：T₁の0・P-41・42区においてIII層上面清掃中、部分的に溶融した粘土塊を確認した。羽口片の可能性を想定したため、周囲のIIIa層掘削を慎重に行ったところ、同様の粘土塊と微細な剥片状の金属質遺物が多数出土した。鍛冶に関する遺構の存在を想定し、IIIIPB-02として設定した。調査の結果、鉄器生産関連遺物を風倒木の窪みに投棄した場として判断したが、以下にその過程について記載していく。IIIIPB-02の調査は、IIIb層掘削に入る段階で25cm四方の小グリッドを設定し、土壌サンプルを回収しながら行った。遺物取り上げは1cm以上のもののみをトータルステーションによる位置記録の対象とし、微細な資料に関しては土壌ごと回収し、水洗選別して抽出を行った。掘削中、遺物分布密度が高いP-41区北西において大型の板状礫の表面を確認し、その南東側でIIIb層が落ち込んだ長楕円形の窪みを検出した。金床石と鍛冶炉の窪みの可能性を想定し、窪みに対してトレンチを設定し、堆積状態の観察を行ったところ、基本層IV層が落込み、V層が上がっている状態が観察できた。この堆積状態より、窪みは人為的なものではなく、III層中に形成された風倒木痕と判断した。出土遺物に関しては、板状礫がIIIbL面に位置する遺物であることを確認し、また礫と同一面において大型の羽口片と粘土状物質が出土したことから、出土状態の図面を作成した上で取り上げを行った。またIIIIPB-02の北側約260cmの位置で土器集中を1カ所(IIIIB-48)検出したため、デジタル写真実測を委託した上で取り上げを行っている。

鉄器生産関連遺物集中(図III-65)：羽口片等の集中を鉄器生産関連遺物集中とし、IIIIPB-02の遺構名を設定した。IIIIPB-02は風倒木痕の窪み内に鉄器生産関連遺物を投棄した場であり、実際に鉄器の生産が行われた場所はどこか別にあったと考えられる。この場所で出土した遺物の総重量は、板状礫を除くと1,525gで、その大半が風倒木痕の形成されたP-41区で出土している。層位ごとの分布をみると、IIIa~IIIbMで取上げた資料は広範囲に分布しているが、IIIbLにおいては板状礫北側と風倒木窪み付近に分布範囲を狭めている。また出土遺物の接合状況を見ると、接合できた資料は近接した位置で出土した破片同士によるものがほとんどであった。今回接合できた資料はいずれも比較的大きく重量の重い破片間によるものであったことから、もともと風倒木窪み内の狭い範囲にまとまっていた遺物が、軽いものから時間の経過と共に移動し、散逸していったと考えられる。実際調査中にも不慮の大雨に遭遇し、本遺構周辺が水没した際、軽い遺物が流されて移動したことがあった。過去においても同様の事が起きたであろう点は想像に難くない。なお本集中において遺物と共に出土した炭化材に対しAMS年代測定を行っており、第七章第1節で報告を行っている。

出土遺物(図III-66~68)：1は風倒木痕の北側で出土した被熱板状礫である。表面は焼け弾けによる礫面の剥がれが認められるが、敲打痕は形成されていない。被熱範囲は裏面にまで及び、側縁は

集中区 44



図Ⅲ-64 集中区 44 平面図

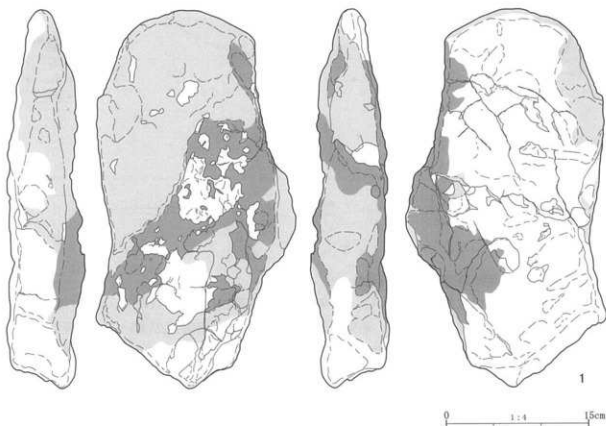


図Ⅲ-65 鉄器生産関連遺物集中(ⅢIPB-02)

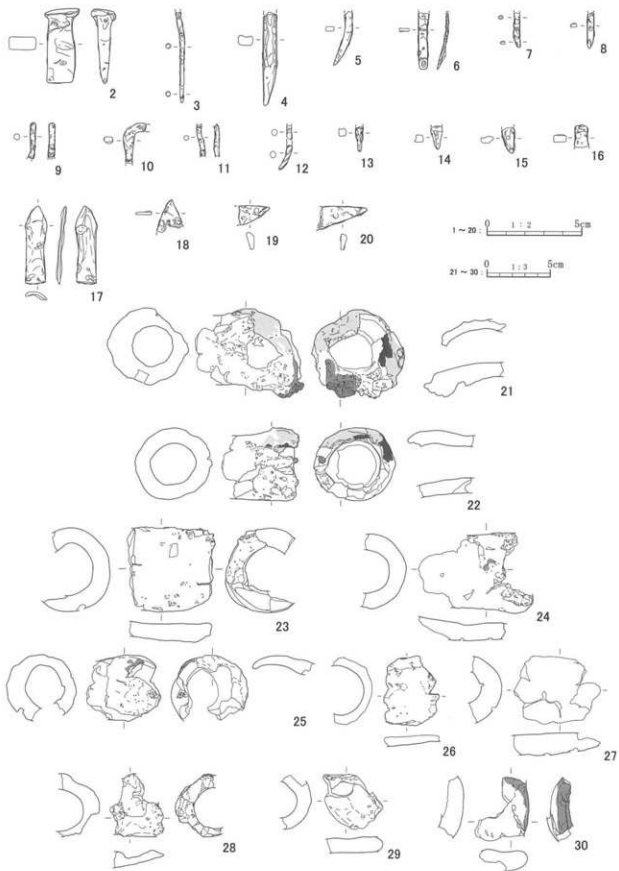
一方のみ強い被熱を受けていることから、金床石として使用されたのではなく、焼土の脇に礫左側面を下に向けた状態で立てて設置し、炉壁として使用されていた可能性が高い。2は鑿で、上面に潰れが認められる。本遺構で出土した鉄器の中で唯一製品としての形状を成す資料である。3~16は棒状の鉄片で、3~8・12~15は端部が尖る。4は遺跡内で出土する鉤状製品と同様に断面が溝状に変形している。12ではねじれが認められた。17~20は板状の鉄片である。17・18は断面が薄く、端部が尖る。19・20は厚みもち、端部が刀子の切先状に尖っている。21~30は羽口片である。本遺構で出土した羽口片は細片化が著しく、さらに多くの個体があったと思われるが、接合し得たもの

は図示した 10 個体のみである。いずれも被熱により変色した羽口先端部付近の破片である。形状は先端部に向けてやや広がりをもせる筒型のものが多く、内径はいずれも 3~4 cm の範疇に収まり、比較的画一的な形状を呈する。焼成は全体的に甘く、水に浸けると少しずつ溶け出す程軟質な状態である。胎土はいずれも均質な粘土で、砂粒の混入は認められず、スサを混入した痕跡も確認できない。21 では羽口先端部下面側に、以下に記載する椀状滓と同じ砂粒の付着が認められた。31~43 は粘土状物質でこの内 31~33 は椀状滓に分類した資料である。椀のように凹面、凸面をもつ形状が特徴で、凹面は一度溶融した粘土が固まった状態を呈し、表面の起伏が大きく、部分的に陶器の釉に似た黒色の光沢面が形成されている。一方凸面は全体に砂粒が付着し、表面は均質な曲面を形成している。内外面共に炭化物の混入は認められなかった。また今回椀状滓に分類した資料中に磁性をもつものはなかった。こうした形態的特徴は、青森市野木遺跡の P-5 で出土した羽口先端部付着の粘土状物質に類似している(中島他 2000)。34~36 は鉄滓に分類した資料で、粘土状物質の中でも比重が大きく、磁着するものが多い。37~40 は塊状滓で、粘土が発砲した状態で不整形に固結したものだと思われ、非常に軽く磁着しない。41~43 は粒状滓に分類したもので、小さい球形のもので磁着しない。44・45 は剥片状物質の内、剥片状鉄塊としたもので、厚さ 1 mm 以上ある板状の塊であり、色調はやや青味がかり磁着する。

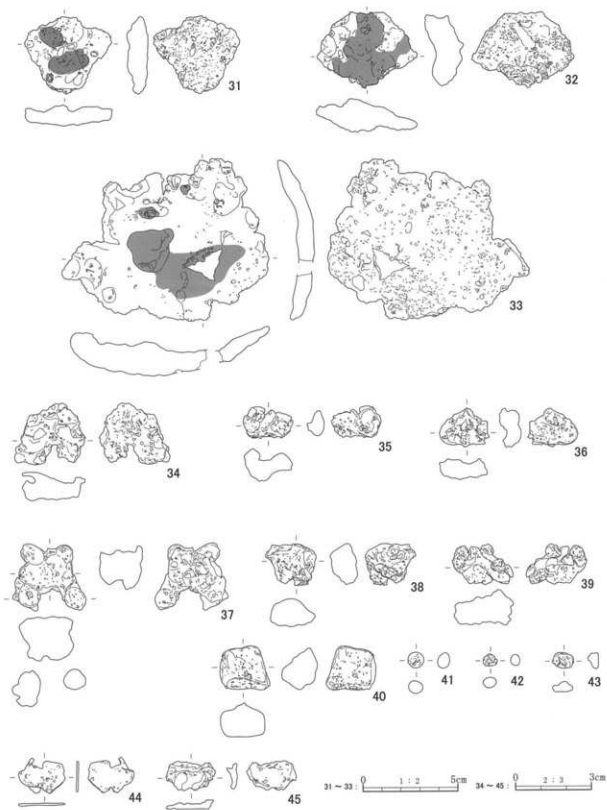
遺物分布(図Ⅲ-69): 遺構内における重量を指標とした分布をみると、羽口片、椀状滓、鉄滓といった重いものは風倒木痕周辺に集中するのに対し、塊状滓、粒状滓、剥片状鉄滓といった軽いものは風倒木痕南東側でも密度が高くなっている。こうした分布状態は、上記の層位ごとの分布範囲と



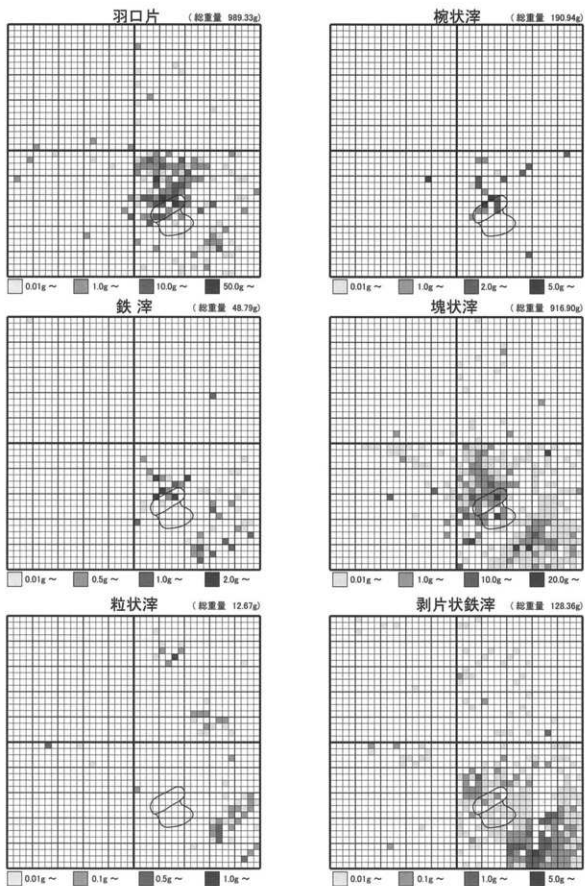
図Ⅲ-66 集中区 44 出土遺物(1)



図Ⅲ-67 集中区 44 出土遺物(2)



図Ⅲ-68 集中区 44 出土遺物 (3)



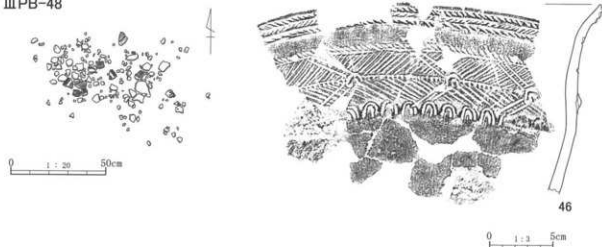
図Ⅲ-69 ⅢIPB-02 種別毎重量分布図

表Ⅲ-98 ⅢIPB-02出土遺物属性表

種目 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-66-1	126-1	—	77631	被熱板状鏝	—	ⅢbL	ⅢIPB-02	P-41	395.6	205.6	84.8	4160.0	Sa.	
Ⅲ-67-2	126-2	—	73676	鏝	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	4.0	18.0	7.5	20.5	Irn.	
Ⅲ-67-3	126-3	—	72807	棒状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-42	(48.0)	5.0	3.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-4	126-4	—	76691	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(49.0)	8.0	6.0	7.1	Irn.	
Ⅲ-67-5	126-5	—	76541	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(29.0)	10.0	3.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-6	126-6	—	82431	棒状鉄片	—	ⅢbL	ⅢIPB-02	P-41	(30.0)	6.0	2.0	1.2	Irn.	
Ⅲ-67-7	126-7	—	76729	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(18.5)	4.0	2.5	0.3	Irn.	
Ⅲ-67-8	126-8	—	76549	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(19.0)	4.5	2.5	0.4	Irn.	
Ⅲ-67-9	126-9	—	76563	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(19.0)	4.0	3.0	0.5	Irn.	
Ⅲ-67-10	126-10	—	76592	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(21.0)	(12.0)	4.0	1.1	Irn.	
Ⅲ-67-11	126-11	—	76099	棒状鉄片	—	ⅢbL	ⅢIPB-02	P-41	(17.0)	5.0	2.5	0.3	Irn.	
Ⅲ-67-12	126-12	—	72813	棒状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	(23.0)	7.0	3.5	0.4	Irn.	
Ⅲ-67-13	126-13	—	77573	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(14.0)	4.5	3.5	0.3	Irn.	
Ⅲ-67-14	126-14	—	72868	棒状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	(12.0)	6.0	4.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-15	126-15	—	74437	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(14.0)	7.5	4.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-16	126-16	—	72849	棒状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	(12.5)	8.0	4.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-17	126-17	—	74452	板状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	41.5	12.0	4.0	3.1	Irn.	鏝片?
Ⅲ-67-18	126-18	—	72795	板状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	(18.0)	18.5	2.0	0.6	Irn.	鏝片?
Ⅲ-67-19	126-19	—	72793	板状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-42	(17.0)	10.5	3.5	1.5	Irn.	
Ⅲ-67-20	126-20	—	77499	板状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(26.5)	13.0	4.0	1.3	Irn.	
Ⅲ-67-21	126-21	ICP04	72820他	羽口	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	8.6	7.0	7.4	139.6	Cray	
Ⅲ-67-22	126-22	ICP01	76936他	羽口	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	6.0	5.8	6.5	98.5	Cray	
Ⅲ-67-23	126-23	ICP08	76940他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	6.9	6.7	5.4	117.2	Cray	
Ⅲ-67-24	126-24	ICP05	72869他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	9.0	6.3	4.0	77.7	Cray	
Ⅲ-67-25	127-25	ICP03	76987他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	5.9	5.3	6.0	68.9	Cray	
Ⅲ-67-26	127-26	ICP07	72974他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	4.4	5.5	3.5	25.2	Cray	
Ⅲ-67-27	127-27	ICP06	76944他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	6.9	5.4	2.6	51.7	Cray	
Ⅲ-67-28	127-28	ICP02	72760他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	5.0	4.3	3.6	18.8	Cray	
Ⅲ-67-29	127-29	ICP10	76514他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	4.8	4.4	2.6	25.1	Cray	
Ⅲ-68-30	—	ICP09	76982他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	5.0	4.2	2.0	20.7	Cray	
Ⅲ-68-31	127-31	—	76501	碗状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	4.6	4.2	1.1	10.3	Cray	
Ⅲ-68-32	127-32	—	72976	碗状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	5.3	4.1	2.0	23.5	Cray	
Ⅲ-68-33	127-30	—	77634	碗状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	10.9	8.6	2.3	93.2	Cray	
Ⅲ-68-34	127-33	—	72955	鉄滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.8	2.4	1.2	5.5	Cray	磁性有
Ⅲ-68-35	127-34	—	72755	鉄滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.3	0.7	2.5	Cray	磁性有
Ⅲ-68-36	127-35	—	72762	鉄滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.6	0.9	1.3	Cray	
Ⅲ-68-37	127-36	—	76724	塊状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.9	2.7	1.7	7.1	Cray	
Ⅲ-68-38	127-37	—	76722	塊状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.7	1.1	2.6	Cray	
Ⅲ-68-39	127-38	—	74427	塊状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.4	1.6	1.4	2.0	Cray	
Ⅲ-68-40	127-39	—	77532	塊状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.8	1.4	1.7	Cray	
Ⅲ-68-41	127-42	—	76663	粒状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	0.6	0.6	0.5	0.4	Cray	
Ⅲ-68-42	127-43	—	76666	粒状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	0.6	0.5	0.4	0.0	Cray	
Ⅲ-68-43	127-44	—	76669	粒状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	0.9	0.7	0.4	0.0	Cray	
Ⅲ-68-44	127-40	—	76078	剥片状鉄塊	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	1.8	1.4	0.1	0.7	Irn.	磁性有
Ⅲ-68-45	127-41	—	74463	剥片状鉄塊	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.2	0.4	1.7	Irn.	磁性有

同様、重量の違いによる遺物の移動を示すものと考えられる。また同じ分類に属するものは同じ範囲に集中する傾向が強いため、長期に渡る投棄の累積によって形成された遺構ではなく、比較的短期間で形成されたものが個々の重量の差によって散逸した可能性が高い。

ⅢPB-48



図Ⅲ-70 集中区 44 出土遺物(4)

表Ⅲ-99 集中区44出土土器属性表

採回 番号	図取 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備 考
										内側	外側		
Ⅲ-70-46	128-46	SP160A	VIII3C	79477,81015,81207他	ⅢbL	ⅢPB-48	O-41	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	27	

土器集中(図Ⅲ-70)：ⅢPB-48 はⅢPB-02 の北側 260 cm の位置で検出した。100×50 cm の範囲で 240 点の土器片が出土した。土器集中の形成されている層位はⅢbL で、Ⅲc 上面が近いため褐色味が強くなった面であり、ⅢPB-02 の板状礫検出面と同じであった。出土した土器は 46 に図示した VIII3c の甕で、斜位の深く明瞭な沈線で胴部の文様を施文し、文様帯下縁の貼付帯と文様帯中央にも等間隔に馬蹄形瓦痕文を挿入している。貼付帯の剥がれた位置には、貼付前の位置決めと思われる横位の沈線が廻らされている。

集中区の時期：本集中区の主体となるⅢPB-02 では、直接時期を判別する遺物を伴わず、Ⅲa からⅢbL までの各層順で遺物の出土が認められた。しかし 1) 遺物の垂直・水平分布において、ⅢbL で出土した資料が本来の集中位置に近いことが想定された。2) 板状礫の検出面とⅢPB-48 検出面とが同じである。3) 羽口の観察では、胎土にスサを混入しない点が、道内の擦文文化期の羽口と共通する要素である。4) 第Ⅶ章第 1 節で報告している AMS 年代測定により 10 世紀後半～11 世紀前半とする結果を得ている。以上の点により、本集中区の遺物は擦文文化期に属するものと判断した。

集中区の性格：ⅢPB-02 は風倒木痕の窪みに投棄された鉄器生産関連遺物の集中であり、鉄器生産を行った場ではないと考えられる。ただしこうした資料が出土したことで、擦文文化期において遺跡内で鉄器生産が行われていたことは確実といえる。遺跡内で擦文文化期の主な活動の場となっていた T₂ においては既刊報告書に記載した集中区 16 で同時期の羽口片が出土し、今回報告している中でも集中区 31・37 の焼土土壌サンプル中より同時期の剥片状鉄滓が少量得られている。しかしいずれも本集中区で出土した資料数に対応する程の規模ではなく極小規模な活動の痕跡と想定される。また先述のように、遺物出土状態からも本遺構が短期間で形成されたものと推定した。以上より、本集中区は本州、あるいは道南等他地域から一時的にやって来た鉄器生産技術をもつ人間による活動の痕跡である可能性が高い。

第4節 土坑 (図Ⅲ-71・図版46)

今回報告対象となる遺構の内、集中区に属さない土坑は1基のみである。

ⅢP-24 (図Ⅲ-71 図版46-1・2)

位置：Z-25区 規模：76×66×52cm 平面形：円形

確認・調査：Z-25区のⅢc層上面を柱穴確認のためジョレン精査した際、Ⅲb層の円形の落込みを検出した。半載し、堆積状態を視察した結果、基本土層を掘り込んでいると判断したため土坑と考え、ⅢP-24として設定した。平面形が円形で、壁面が垂直気味に立ち上がる土坑は、平成17年度の調査でも検出しており、坑底直上の堆積土中に花粉化石が多く含まれていることを把握していたため、本土坑についても同様の分析委託を計画し、堆積状態の記録後に一度調査を中断した。分析委託を北海道開拓記念館の山田悟郎氏に依頼することが決定したため、氏の到着を待ち、調査を再開した。調査は5層下位付近まで掘削した段階で止め、山田氏にサンプルを採取していただいた。サンプルは堆積土5層下位と7層から採取した。採取後土坑の完掘を行い、平面形の記録を作成し調査を終了した。

形態：平面形は南北にやや広い円形を呈する。底面はほぼ水平で、壁面は坑底から中程までほぼ垂直に立上がった後、開口部に向けて開く形状を呈する。

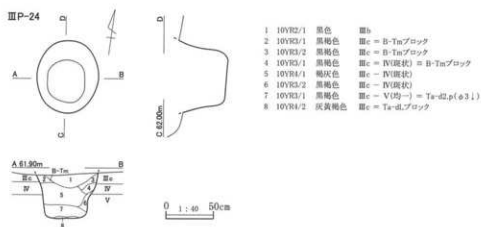
堆積状態：土坑内の堆積土は、7・8層がV層やTa-dLを多く含むため埋め戻しによる土。2～6層はⅢc層、及びIV層主体土であるため壁面の崩落土と考えられ、1層は埋没後の窪みに堆積した自然堆積のⅢb層と判断した。

上幌内モイ遺跡検出土坑の概観

ここで遺跡内で検出した擦文文化期の土坑の概観について触れておく。上幌内モイ遺跡では既刊報告書記載も含め、計44基の土坑を検出したが、これらは大きく3つのタイプに分けられる。1つは焼土に隣接、もしくは焼土と重複する状態で形成されるもので、平面形は不整形で浅いものが多く、堆積土に焼土起源の焼骨片を多く含む埋め戻しの土が認められることが特徴である。2つ目は焼土と共に同じ集中区を形成していても焼土からはやや離れた位置に構築され、平面形は円形に近く、掘り込みも深く垂直気味に立ち上がる壁面が形成されたものである。堆積土は坑底面直上に壁面の崩落による土が堆積し、自然埋没している例が多い。3つ目は上記のⅢP-24のように、他の遺構との関連をもたず単独で検出される例である。それぞれの性格については、1つ目は焼土と密接に関わる点から、焼土使用時の燃焼面更新に伴う灰の埋め戻しが考えられる。2つ目は焼土と集中区としての関連をもちつつも距離を置いて構築している点や、使用時に「穴」の状態であったことを考慮すると貯蔵穴等の目的で形成された土坑の可能性が想定される。3つ目のタイプは2つ目のタイプと形態的に類似するが坑底面直上に埋め戻し土が若干堆積する例が多いため、性格は異なると考えられる。

表Ⅲ-100 擦文文化期土坑属性表

神図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		長さ (cm)	長軸方向 備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸		
Ⅲ-71	46-1・2	ⅢP-24	Z-25	Ⅲc	円形/円形	76	66	46	40	52	N-22°W



図Ⅲ-71 擦文文化期土坑

第5節 焼土 (図Ⅲ-72~74 図版46-47)

IIIb層下位~IIIc層上面において検出し、他の遺構と有意な関連性を想定できなかった焼土は、合計14カ所確認した。以下個別に記載した上で、既刊報告書掲載分も合わせた焼土の概観について報告する。

III F-187-199 (図Ⅲ-72 図版46-4~6)

S-34・35区で検出した。当初III F-187の1カ所のみと考えていたが、調査を進めた際、南東側に隣接する別の焼土を検出したことから、III F-199として設定し、合わせて調査を行った。III F-187は長さ約110cm、焼土層の厚さ13cmの規模を測る不整形長方形の焼土である。III F-199は長さ約60cm、焼土層の厚さ5cmの規模を測る不整形の焼土である。共に焼骨片が上位に堆積する。周囲は耕作による攪乱でIII層が削平されており、焼土検出位置付近のみが島状に残存していた。土壌サンプル中からは共にウグイ、サケ属、哺乳綱の骨が得られ、炭化種子はIII F-187でムギ類を得ている。また図示していないが中柄と思われる骨角器先端部片もIII F-187サンプル中から得ている。なお周辺のIIIc~IV層上面において円形の黒色土落込みを確認したため半載したところ、いずれも杭跡であると判断した。しかし全て堆積土中にIIIbを多く含んでいたことから、アイヌ文化期に属する杭跡と判断し、本焼土に伴うものではないと考えた。

III F-163-164 (図Ⅲ-73 図版46-3)

X-18区で2カ所が並ぶ配置で検出した。周囲のIII層は攪乱により削平が著しく、その間に島状に残る状態であった。III F-163は長さ60cm以上、焼土層の厚さ6cm。III F-164は長さ42cm以上で焼土層の厚さ5cmを測る。共に焼骨片を伴っている。土壌サンプルからはIII F-163で魚骨が、III F-164ではヒエの炭化種子を得ている。

III F-174 (図Ⅲ-73)

AB-24区で検出した。根により攪乱され、焼土層は原形を留めていないが、長さ44cm程の規模であったと考えられる。攪乱により動いた土に焼骨片が混入していたため、骨片を伴う焼土であったと考えられる。土壌サンプルから特筆すべき資料は得ていない。

III F-175 (図Ⅲ-73)

T-22区で検出した。長さ18cm、厚さ2cmの規模を測り、堆積状態の観察により、下底面がレンズ

状でなく、焼土中に焼骨片を含んでいたことから、投棄された焼土と判断した。土壤サンプルからは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-197 (図Ⅲ-73)

T₂-33 区で検出した。検出面はⅢc 上面で、擦文文化期の中でもやや古い時期に形成された可能性が高い。長さ 144cm、焼土層の厚さ 7cm の規模の大きい焼土である。上位に焼骨片を伴い、土壤サンプルからはウグイ、サケ属といった魚骨を得ている。

ⅢF-201 (図Ⅲ-73)

T₂-30 区で検出した。攪乱で上位が削平されているが、残存部分のみで長さ 18cm、焼土層の厚さ 2cm を測る。土壤サンプルから哺乳綱の骨を少量得ている。

ⅢF-206 (図Ⅲ-73 図版 47-1・2)

T₂-31 区で検出した。北西側が根による攪乱を受けて壊されている。長さ 20cm 以上、厚さ 2cm を測り、焼骨片を伴う。

ⅢF-208 (図Ⅲ-73)

T₁ の R-42 区で検出した。長さ 33cm、焼土層の厚さ 2cm の規模で、焼骨片を伴う。

ⅢF-232 (図Ⅲ-73 図版 47-3・4)

T₁ の D-36 区で検出した。長さ 84cm、焼土層の厚さ 8 cm の規模を測る。燃焼面中央が窪み、窪みに灰が堆積していた。土壤サンプルからは哺乳綱の骨を得ている。また焼土周囲からはⅢ-73-1 に図示した擦文土器片が出土した。ⅧB3 の甕口縁部片で、口縁部文様帯下縁に馬蹄形圧痕文が廻らされている。

ⅢF-233 (図Ⅲ-74 図版 47-5・6)

T₁ の I-35 区で検出した。根により攪乱されているが、長さ 40cm 前後、厚さ 4cm の規模を測る。焼骨片の堆積は確認できず、土壤サンプルからはクルミ属の炭化種子を得ている。

ⅢF-234 (図Ⅲ-74 図版 47-7・8)

T₁ の F-38 区で検出した。長さ 56cm、焼土層の厚さ 6cm の規模で、上位にやや広い範囲で焼骨片の分布が認められた。この焼骨片については当初ⅢBB-49 として扱っていたが、報告段階でⅢF-234 に統合している。土壤サンプルからは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-235 (図Ⅲ-74)

T₁ の D-48 区で検出した。長さ 20cm、焼土層の厚さ 4cm の小規模な焼土である。焼骨片が僅かに認められたが、土壤サンプルからは同定可能な骨を得ることはできなかった。

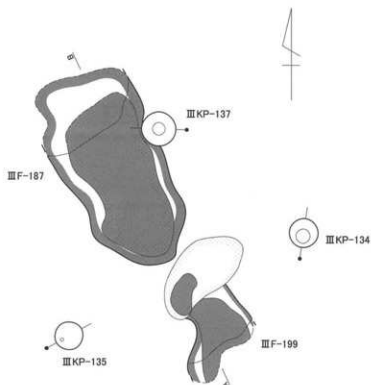
上幌内モイ遺跡検出擦文文化期焼土の概観

既刊報告書では、T₂ 北半部で検出した擦文文化期の焼土(以下 北半部焼土群)について報告を行った。その際、a. 灰層を伴わないこと、b. 付帯黒色層が不明瞭なこと、c. 燃焼面は大半が平坦であること、の 3 点の特徴をあげた。そして a、b の特徴を経年の要素と考え、c については、灰の掻き出し行為の有無と関係し、擦文文化期においては灰の掻き出しを行う例が少ないと考えた。今回報告対象としたものは、主として T₂ 南半部で検出した焼土(以下 南半部焼土群)である。これらを見ると前節の土坑の項でも触れたように、焼土に重なる土坑が形成され、焼土起源の灰を埋め戻すという行為が認められる。また焼土燃焼面が窪む例も南半部焼土群では 57 例中 22 例であり、北半部

ⅢF-187・199



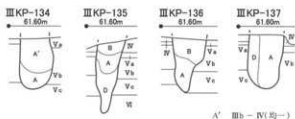
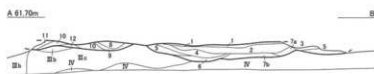
Ⅲ KP-136



※ⅢKP-134～137はアイヌ文化期のもの



T-34

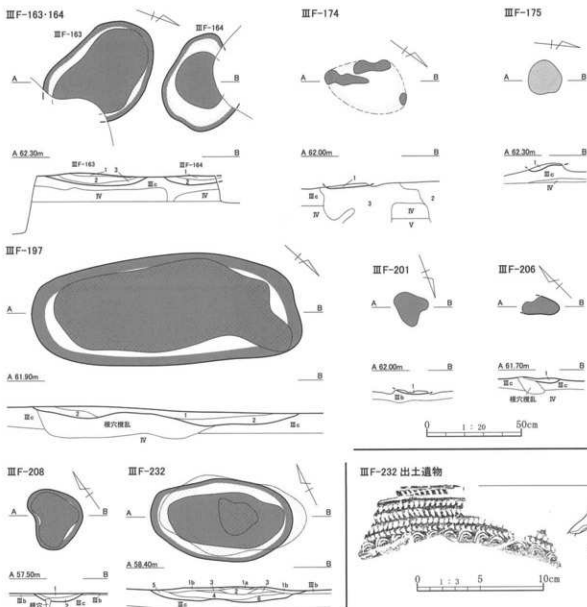


A' Ⅲb - IV(均一)

ⅢF-187・199

- | | | | |
|----|----------|--------|--|
| 1 | 7.5V95/4 | にぶい褐色 | 焼土粒 - 焼骨片 = Ⅲb(均状) |
| 2 | 5YR5/6 | 明赤褐色 | = 炭化物 粘性や中強 |
| 3 | 5YR4/6 | 赤褐色 | 焼土(Ⅲc)焼山(焼熱層) 粘性なし |
| 4 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | 焼土(Ⅲb)・Ⅲc(焼山(焼熱層)) |
| 5 | 10YR2/1 | 付着黒色層 | |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲe = 焼土粒(均状) |
| 7a | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅲe = 焼土(均一) |
| 7b | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | IV = 焼土粒(均状) |
| 8 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | 焼土(Ⅲc)焼山(焼熱層) - 焼骨片 = Ⅲb(均状) = 炭化物 粘性有 |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲe - IV(均状) = 焼骨 |
| 10 | 7.5Y95/4 | にぶい褐色 | 焼土(Ⅲc)焼山(焼熱層) |
| 11 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲb = 焼土粒(均状) = 焼骨片 |
| 12 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 焼土(Ⅲc)焼山(焼熱層) |

図Ⅲ-72 擦文文化期焼土(1)



III F-163

- 1 7.5YR2/2 黒褐色 器b = 焼骨片(現状)
 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土(器bL~器c地山被熱層)
 3 10YR3/2 黒褐色 付着黒色層

III F-164

- 1 7.5YR5/4 に近い褐色 焼土(器bL~器c地山被熱層)
 2 10YR3/2 黒褐色 付着黒色層

III F-174

- 1 7.5YR5/4 に近い褐色 焼土(器b上座土の被熱層) = 焼骨片
 2 7.5YR2/2 黒褐色 器bの横穴落ち込み
 3 10YR2/2 黒褐色 器cの横穴落ち込み

III F-175

- 1 7.5YR4/6 褐色 器b = 焼土粒(現状) = 焼骨片

III F-197

- 1 5YR5/6 明赤褐色 焼土(器c地山被熱層)
 2 5YR2/1 黒褐色 付着黒色層

III F-206

- 1 7.5YR6/6 褐色 焼土(器c地山被熱層) = 焼骨片(現状)
 付着黒色層が器F-198と似る

III F-201

- 1 10YR5/4 に近い黄褐色 器b = 焼土(現状) = 焼骨片(均一)
 投棄された焼土と短期間使用の焼土

III F-208

- 1 7.5YR4/6 褐色 焼土(器c地山被熱層)
 2 10YR2/3 黒褐色 付着黒色層

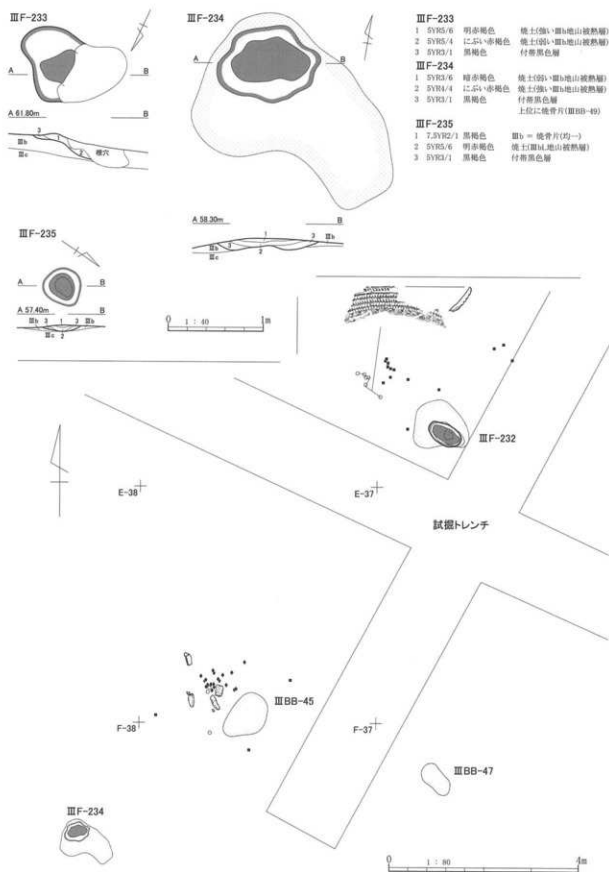
III F-232

- 1a 5YR4/1 粉灰色 器b = 焼骨片(均一)
 1b 5YR5/3 に近い赤褐色 器b = 焼骨片(均一) = 灰(現状)
 2 10YR7/1 灰白色 灰 = 焼骨片(均一)
 3 5YR5/6 明赤褐色 焼土(器b・器c地山被熱層)
 4 2.5Y4/4 に近い赤褐色 焼土(器b・器c地山被熱層)
 5 5YR4/1 粉灰色 付着黒色層
 6 5YR3/1 黒褐色 付着黒色層

III F-233

- 1 5YR5/6 明赤褐色 焼土(器b・器c地山被熱層)
 2 5YR5/4 に近い赤褐色 焼土(器b・器c地山被熱層)
 3 5YR3/1 黒褐色 付着黒色層

図Ⅲ-73 擦文文化期焼土(2)及び出土遺物



図Ⅲ-74 擦文文化期焼土(3)及びT_i検出焼土配置図

表Ⅲ-101 標文文化期焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-73	46-3	ⅢF-163	X-18	ⅢbL	長楕円形	(60)	44	6	骨	
Ⅲ-73	46-3	ⅢF-164	X-18	ⅢbL	楕円形	(42)	41	5	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-174	AB-27	ⅢbL	長楕円形	44	29	2	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-175	T-22	ⅢbL	楕円形	18	19	2	-	焼土粒
Ⅲ-72	46-4~6	ⅢF-187	S-34	ⅢbL	不整形	(108)	58	13	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-197	Z-33	ⅢcU	長楕円形	144	58	7	骨	
Ⅲ-72	46-4~6	ⅢF-199	S-34	ⅢbL	不整形	(60)	44	5	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-201	T-30	ⅢbL	不整形	18	16	2	-	
Ⅲ-73	47-1+2	ⅢF-206	T-31	ⅢbL	-	(20)	11	2	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-208	R-42	ⅢbL	不整形	33	28	2	骨	
Ⅲ-73	47-3+4	ⅢF-232	D-36	ⅢbL	長楕円形	84	43	8	骨・灰	
Ⅲ-74	47-5+6	ⅢF-233	F-35	ⅢbL	-	(34)	40	4	-	
Ⅲ-74	47-7+8	ⅢF-234	F-38	ⅢbL	不整形	56	40	6	骨	
Ⅲ-74	-	ⅢF-235	D-48	ⅢbL	楕円形	21	20	4	骨	

表Ⅲ-102 標文文化期焼土出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-73-1	129-1-1	SP163A	ⅢB3	115643,115647,115648	ⅢbL	ⅢF-232	D-36	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	6	

焼土群では94例中22例であったことからみるとやや多い傾向にあるため、cの特徴が当てはまらなくなっている。また焼骨片を伴う例でみると、南半部焼土群では57例中47例と高い確率で焼骨片を伴っていたのに対し、北半部焼土群では94例中41例と骨片を伴う例は半数以下であった。さらに焼土層の厚さも南半部焼土群では厚さ5cm以上の良好な焼土層を形成する例が多く焼土層の規模にも違いが認められた。このように同じT₂に形成された焼土でも、北半と南半とで様相が異なっており、その場で営まれた行為の違いを反映していると考えられる。この内、北半部焼土群の性格については、既刊報告書掲載の集中区1・2のように儀礼の様相を呈する例や、焼土規模の小さいものが多いことから、儀礼の場や短期的なキャンプサイトとして形成された可能性が高い。一方南半部焼土群については、規模が大きく焼骨片を含む例が多いことから、日常的な生業活動の中で形成された焼土としての性格が想定される。

第6節 集中遺物

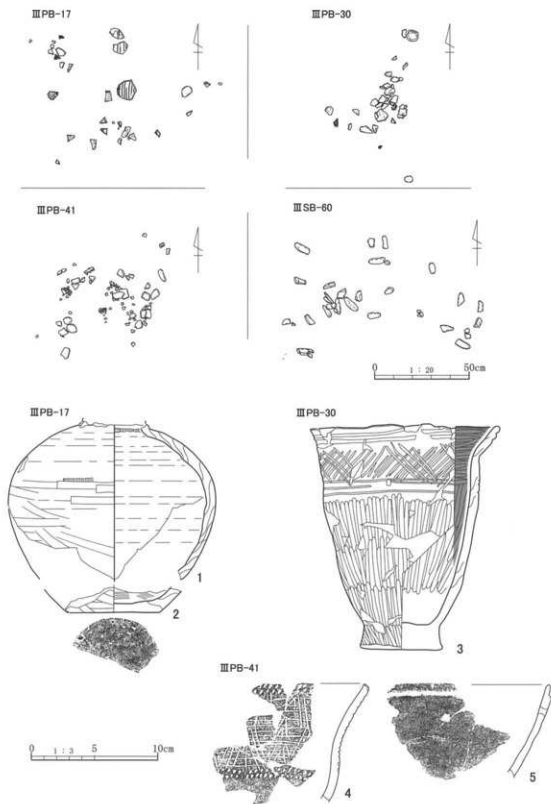
集中区を構成しない単独の集中遺物は、土器集中がⅢPB-17・30・41の3カ所、礫集中がⅢSB-60の1カ所である。以下で個別に記載する。

ⅢPB-17 (図Ⅲ-75 図版 48-1・2)

AC-22区で検出した。80×65cmの範囲に34点の土器片が出土した。構成している土器は1・2の須恵器である。破断面で観察できる色調は赤く、内面もやや赤味を帯びている。第Ⅶ章第7節で報告している胎土分析の結果では、五所川原産とする報告を得ている。なおこの土器集中の下位からは統縄文時代の土器集中ⅢPB-18が出土しているが、両者の間にはⅢc層上位の土が堆積しており、明瞭な層位的違いをもって出土していた。

ⅢPB-30 (図Ⅲ-75 図版 48-3)

Z-29区で検出した。52×30cmの範囲で50点の土器片が出土した。出土した土器は3のⅦB3cに分類した甕である。整形は粗雑で器表面の凹凸が著しいが、内外面ともにミガキ調整を行っている。



図III-75 集中遺物平面図及び出土遺物

表Ⅲ-103 濠文文化期土器集中属性表

種図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-75-1	129-2-1	SP904A	ⅣE2	56510.56600.56614他	ⅢbM	ⅢPB-17	AC-22	壺	胴部	ロクロナデ ヘラナデ	ロクロナデ ケズリ	22	
Ⅲ-75-2	129-2-2	SP904B	ⅣE2	30559	ⅢbL	ⅢPB-17	AC-22	壺	底部	ヘラナデ	ケズリ	1	
Ⅲ-75-3	129-2-3	SP126A	ⅣB3c	63477.63513.63549他	ⅢbL	ⅢPB-30	Z-029	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	25	
				74722	ⅢbL	—	V-35					1	
				63579	ⅢbL	—	X-29					1	
				69650	ⅢcL	—	Z-29					1	
Ⅲ-75-4	129-2-4	SP097C	ⅣE2a	70244.70255.70257他	ⅢbL	ⅢPB-41	AA-28	壺	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	6	
Ⅲ-75-5	129-2-5	SP557A	ⅣC	70240.70242.70243他	ⅢbL	ⅢPB-41	AA-28	坏	口縁～ 体部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ミガキ	4	

表Ⅲ-104 ⅢSB-60属性表

種図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差							
—	—	—	116105	ⅢbL	完形	60.5	19.3	36.8	6.4	14.5	-4.3	1.6	-0.5	42.4	—	Sa.		
—	—	—	116106	ⅢbL	完形	70.1	19.3	37.1	6.4	19.7	0.9	1.9	-0.3	64.5	—	Sa.		
—	—	—	116122	ⅢbL	完形	70.5	19.3	29.0	6.4	14.9	-3.9	2.4	0.3	44.0	—	Sa.		
—	—	ⅢSI425	116107	ⅢbL	完形	71.5	19.3	35.1	6.4	13.8	-5.0	2.0	-0.1	49.1	—	Sa.	他1点	
—	—	—	116113	ⅢbL	完形	72.3	19.3	29.2	6.4	25.5	6.7	2.5	0.3	69.2	—	Sa.		
—	129-3	—	116102	ⅢbL	完形	78.5	19.3	39.1	6.4	17.6	-1.2	2.0	-0.2	66.3	—	Sa.		
—	—	—	116103	ⅢbL	完形	82.6	19.3	38.5	6.4	21.7	2.9	2.1	0.0	86.1	—	Sa.		
—	—	—	116112	ⅢbL	完形	85.2	19.3	39.0	6.4	18.7	-0.1	2.2	0.0	63.4	—	Sa.		
—	—	—	116121	ⅢbL	完形	85.9	19.3	36.9	6.4	20.2	1.4	2.3	0.2	84.2	—	Sa.		
—	—	—	116112	ⅢbL	完形	88.4	19.3	38.9	6.4	20.9	2.1	2.3	0.1	86.4	—	Sa.		
—	—	—	116119	ⅢbL	完形	97.8	19.3	43.0	6.4	18.9	0.1	2.3	0.1	103.4	—	Sa.		
平均						78.5		36.6		18.8		2.16		69.0				
												総点数	30点	※完形	11点			

文様は太く深い斜位の沈線を重ねているが、口縁部の横位の沈線はさらに太くて浅い沈線が引かれており、異なる工具で施文したと考えられる。

ⅢPB-41 (図Ⅲ-75 図版48-4・5)

AA-28 区で検出した。56×40cm の範囲で 125 点の土器片が出土している。構成する土器片には SP097 と SP557 の 2 個体分が含まれていた。4 は SP097 個体の甕片で、ⅣB2a に分類した。浅いが明瞭な沈線で施文され、内外面共にミガキ調整が行われている。内面には黒色処理も施されていた。5 は SP557 個体の坏口縁～体部片である。内外面共ミガキ調整が行われ、内面は黒色処理が施されている。口縁部には段状沈線が廻っている。

ⅢSB-60 (図Ⅲ-75 図版48-4・5)

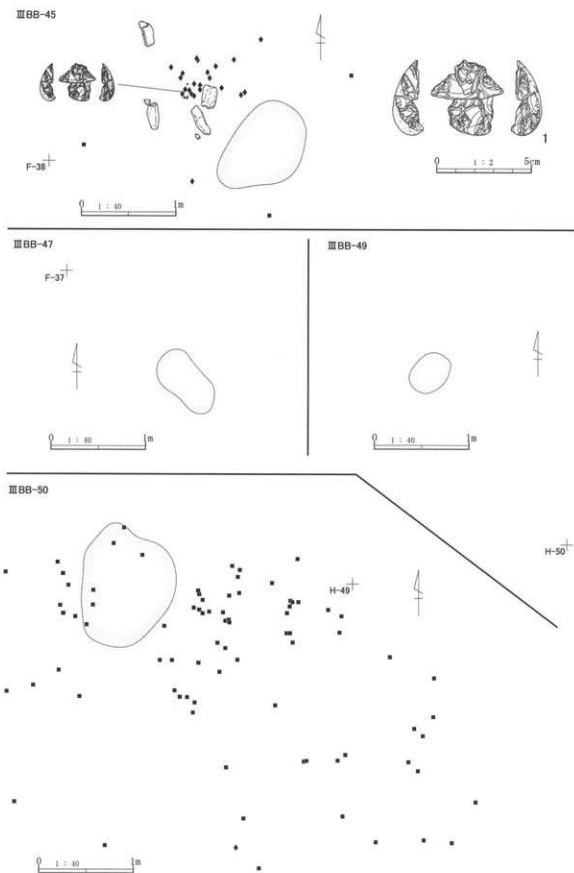
集中区 42 の南東方向にあたる H・I-46 区で検出した。108×72cm の範囲で 30 点の礫がやや散漫な状態で出土した。比較的大型の棒状礫を中心に構成された礫集中で、完形個体は 11 点あり、欠損率は平均的である。

第7節 焼骨片集中

焼土を伴わない焼骨片のみの集中の内、他の遺構との関連性が低い例をここで記載する。全て T₁ で検出した焼骨片集中である。

ⅢBB-45 (図Ⅲ-76)

T₁-T₂ 段丘崖裾にあたる E-37 区で検出した。108×76cm の範囲で広がる焼骨片の集中で、周囲が



図Ⅲ-76 擦文文化期焼骨片集中

表Ⅲ-105 擦文文化期焼骨片集中属性表

神図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の有無	関連 遺構	備考
						長軸	短軸				
Ⅲ-76	—	ⅢBB-45	E・F-37	ⅢbL	楕円形	108	76	—	被熱	—	
Ⅲ-76	—	ⅢBB-47	F-36	ⅢbL	長楕円形	60	40	—	被熱	—	
Ⅲ-76	—	ⅢBB-49	G-50	ⅢbL	楕円形	46	36	—	被熱	—	
Ⅲ-76	—	ⅢBB-50	G・H-49	ⅢbL	楕円形	128	99	—	被熱	—	

表Ⅲ-106 ⅢBB-45出土遺物属性表

神図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-76-1	—	—	115612	RF・UF	B2	ⅢbL	ⅢBB-45	E-37	40.1	36.3	16.2	未計測	Obs.	

ら長さ30cmの規模の礫が4点と、黒曜石のフレイクが多数出土した。1はフレイクと共に出土したRF・UFに分類される石器で、転礫を素材としている。

ⅢBB-47 (図Ⅲ-76)

T₁-T₂段丘崖裾にあたるF-36区で検出した。60×40cmの範囲で広がる焼骨片集中である。

ⅢBB-49 (図Ⅲ-76)

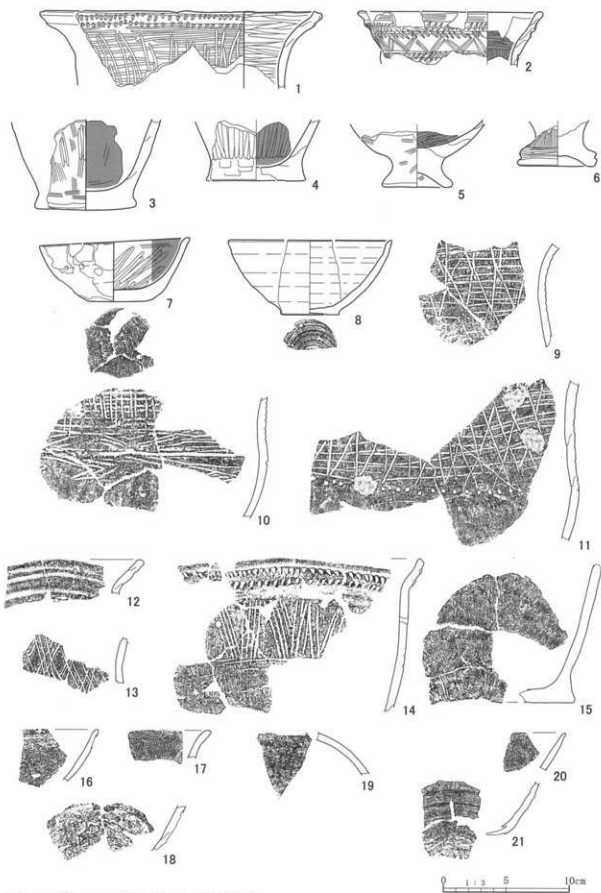
集中区42の南西側にあたるT₁のG-50区で検出した。46×36cmの範囲で広がる小規模な焼骨片集中である。

ⅢBB-49 (図Ⅲ-76)

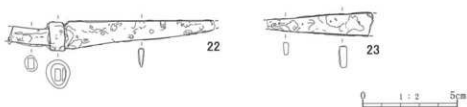
集中区42の南西側にあたるT₁のG・H-49区で検出した。128×99cmの範囲で広がる小規模な焼骨片集中で、周囲からは棒状を中心とする礫が多く出土していた。

第8節 擦文文化期包含層出土遺物〔図Ⅲ-77・78 図版130〕

1・9～11はⅦB2aとⅦB3aの甕、2・12～14はⅦB3cの甕である。1は9～11と比べ深い沈線で施文されている。10は文様帯が2段に分かれる。10・11は内面黒色処理が施されている。2は甕の口縁部片で、3段の刻みを廻らせた間に2条一対の鋸歯状沈線を施文している。口縁部文様帯への沈線の施文は遺跡内では他に例がなく、異質な印象を受ける土器である。14は粗雑な器面調整により器表面の凹凸が著しい。胎土中には粒径1mm程の砂粒が多く認められる。5・6・16～18は坏の破片で、5・6はⅦC4の台部片である。5の内面は黒色処理され、外面はハケメ調整の痕が残る。19は須恵器壺の破片で、遺跡内で出土した他の壺とは破断面の色調が異なり、暗赤褐色を呈している。出土位置は平成17年度調査範囲のL-22区で、接合資料が出土する可能性が想定されたため既刊報告書への掲載を見合わせていた。しかしその後も同一個体片の出土はなく、破片が1点のみであった。第Ⅶ章第7節胎土分析試料の候補としていたが、1点のみの破片であったため破壊することができず、分析からは除外した。7・8・20・21はロクロ製作の坏で、内20・21は同一個体である。7・20・21は軟質の製品で、7は内面にミガキ調整が加えられた後、黒色処理が行われている。20・21は器表面の色調が赤味を帯び、胎土に粒径1mm以下の砂粒が多く含まれている。8は須恵器と同様の硬質なつくりだが、器面の色調は赤く酸化炎焼成によりつくられた坏である。胎土は7・20・21に比べよく精製されており、均質な粘土が使用されている。22は小刀で、茎部に帯金具が組み合わさっている。茎は錆化が著しく本来の形状は定かでない。23は断面方形の刀子茎である。



図Ⅲ-77 擦文文化期包含層出土遺物(1)



図Ⅲ-78 擦文文化期包含層出土遺物(2)

表Ⅲ-107 擦文文化期包含層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考	
										内側	外側			
Ⅲ-77-1	130-1	SP106A	ⅣB2a	76185	ⅢbL	-	W-36	甕	口縁	ハクメ ミガキ	ハクメ ナデ	1		
				76264	ⅢbU		X-37						2	
Ⅲ-77-2	130-8	SP150A	ⅣB3f	56487.56973.55102地	ⅢbL	-	AG-15	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ナデ	9		
Ⅲ-77-3	130-9	SP124A	ⅣB	60580.60581	ⅢbL	-	V-22	甕	底部	ナデ 黒色処理	ハクメ ミガキ	2		
Ⅲ-77-4	130-10	SP088B	ⅣB	62556.63558	ⅢbL	-	W-28	甕	底部	ミガキ 黒色処理	ケズリ ミガキ	2		
				72958	ⅢbL		O-40						1	
Ⅲ-77-5	130-15	SP537B	ⅣC4	29912.29913	ⅢbL	-	R-35	坏	体部へ 台部	ミガキ 黒色処理	ハクメ ナデ	2		
				74725.74726	ⅢbL		V-35						2	
Ⅲ-77-6	130-16	SP555A	ⅣC4	58728	ⅢbL	-	V-23	坏	台部	ナデ	ハクメ ミガキ	1		
Ⅲ-77-7	130-17	SP906A	ⅣE4b	64144.68709.78897地	ⅢbL	-	Z-35	坏	口縁へ 体部	(ロクロナデ) ミガキ 黒色処理	ロクロナデ	12		
Ⅲ-77-8	130-20	SP909A	ⅣE3C	66604	ⅢbL	-	W-32	坏	口縁へ 台部	ロクロナデ	ロクロナデ	1		
Ⅲ-77-9	130-2	SP118A	ⅣB2a	76023.76026.76028	ⅢbL	-	V-41	甕	胴部	ハクメ ミガキ	ハクメ ナデ	3		
Ⅲ-77-10	130-3	SP107A	ⅣB3a	76261.76262.85511地	ⅢbL	-	X-37	甕	胴部	ミガキ 黒色処理	ナデ	4		
Ⅲ-77-11	130-4	SP138A	ⅣB2a	161380	表採	-	-	甕	胴部	ハクメ ミガキ 黒色処理	ハクメ	2		
				32190	ⅢbL		R-26						1	
Ⅲ-77-12	130-5	SP088A	ⅣB	60397	ⅢbL	-	S-26	甕	口縁	(ハクメ) ミガキ 黒色処理	ナデ	1		
				59503	ⅢbL		S-27						1	
				81498	ⅢbL		U-36						1	
Ⅲ-77-13	130-6	SP116A	ⅣB2b	73896	ⅢbL	-	V-36	甕	胴部	ハクメ ミガキ	ハクメ	1		
				57869.57873.57876地	ⅢbL	ⅢSB-28	AF-18	甕	口縁へ 胴部	ミガキ 黒色処理	ハクメ ミガキ	6		
Ⅲ-77-15	130-11	SP151A	ⅣB	63834.63840.63841地	ⅢbL	-	AA-31	甕	胴部へ 底部	ハクメ 黒色処理	ハクメ	4		
Ⅲ-77-16	130-12	SP552A	ⅣC	76388	ⅢbL	-	X-38	坏	口縁	ハクメ ミガキ	ナデ	1		
Ⅲ-77-17	130-13	SP562D	ⅣC	65834	ⅢbL	-	X-30	坏	口縁	ハクメ ミガキ	ハクメ	1		
Ⅲ-77-18	130-14	SP550A	ⅣC	58780.58781	ⅢbL	-	V-23	坏	体部	ハクメ ミガキ	ハクメ ミガキ	2		
Ⅲ-77-19	130-21	SP903A	ⅣE2	31259	ⅢbL	-	L-22	甕	胴部	ロクロナデ	ロクロナデ	1		
Ⅲ-77-20	130-18	SP908B	ⅣE4a	64383	ⅢbL	-	U-31	-	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	1		
				73871	ⅢbL	-	W-39	-	体部へ 底部	ロクロナデ	ロクロナデ	1		
Ⅲ-77-21	130-19	SP908A	ⅣE4a	78410.78411.78412	ⅢbL	-	X-39	-	ロクロナデ	ロクロナデ	3			

表Ⅲ-108 擦文文化期包含層出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考	
								長軸	短軸	厚さ				
Ⅲ-78-22	130-22	-	55005	刀子	-	ⅢbL	-	V-34	108.1	14.5	12.0	16.8	Iron	
Ⅲ-78-23	130-23	-	73566	刀子茎	-	ⅢbL	-	P-43	(56.5)	13.0	5.0	5.6	Iron	